

令和 6 年度 保育園サービス第三者評価事業 報告書

令和 7 年 3 月

杉並区

はじめに

保育園サービス第三者評価は、第三者からみた保育園サービスの評価結果を幅広く利用者や保育園に情報提供することにより、サービス内容を利用者に明らかにし、保育園におけるサービスの質の向上に向けた取り組みを促し、利用者本位のサービスシステムの構築を行う事を目的とするものである。

◎評価対象 杉並区立の次の 8 園を対象としている。

保育園名	利用者			備考
	世帯数	回答数	回答率	
1.永福南保育園	84	51	60.7%	8・延
2.和泉保育園	50	32	64.0%	1・延
3.上荻保育園	92	51	55.4%	8・延
4.荻窪南保育園	64	34	53.1%	1・延
5.高井戸東保育園	73	55	75.3%	8・延
6.松ノ木保育園	56	38	67.9%	1・延
7.阿佐谷北保育園	80	54	67.5%	8・延
8.今川保育園	76	51	67.1%	8・延
合計	575	366	63.7%	
	※世帯数は 2024 年 8 月 5 日時点			

※備考欄 8…8 か月以上の園、1…1 歳以上の園、延…延長保育実施園

◎評価機関 株式会社ほんの福祉ネット

(東京都福祉サービス第三者評価機関 認証番号：機構 06-168)

◎評価者 担当した評価者の評価者養成講習修了番号は以下のとおりである。

H0802010、H2101100、H2201084、H2201085、H2301094、H2301066

◎評価の流れ

1.関係者説明会	令和 6 年 8 月
2.利用者調査配布（利用者調査）	令和 6 年 9 月
3.経営層事故評価票作成（事業評価	令和 6 年 9 月
4.職員自己評価票作成	令和 6 年 9 月
5.訪問調査利用者調査・事業評価結果報告	令和 6 年 10 月から 12 月
6.評価結果のフィードバック	令和 6 年 11 月から令和 7 年 1 月

目次

第1部 利用者調査

1.利用者調査の概要

- (1) 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 調査の対象者・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (3) 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (4) 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (5) 利用者調査票の配布・回収状況・・・・・・・・・・1

2.全体の調査結果

- (1) 回答者属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- (2) 総合的な満足度に関するクロス集計結果・・・・・・・・・・4
- (3) 自由記入の分類・整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- (4) 利用者調査設問への回答集計・・・・・・・・・・・・・・・・8

3.満足度構造分析

- (1) 分析方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- (2) 分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- (3) 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

4.各園の利用者調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第2部 事業評価

1.評価の概要

- (1) 評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
- (2) 評点のつけ方・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
- (3) 訪問調査とフィードバック・・・・・・・・・・・・・・・・50

2.各保育園の評価結果報告書

巻末 付属資料

第 1 部 利用者調査

1. 利用者調査の概要

(1) 調査の目的

杉並区立保育園を利用されている保護者の方々が、日常の保育サービスに対して感じていること、また、意見や要望について把握することを目的とする。

(2) 調査の対象者

8 保育園の利用者（保護者）を対象とした。複数のお子さんを預けている場合は、一番年齢の低いお子様のことについて回答していただいた。

(3) 調査方法

無記名のアンケート方式で実施した。園より保護者全員にオンラインを活用した WEB 入力方式のアンケートの案内を行った。

(4) 調査期間

令和 6 年 8 月 5 日から 10 月 3 日（オンライン入力）

(5) 利用者調査票の回答状況

全世帯に案内し、8 園の回答率は 53.1%から 75.3%、平均回答率は 63.7%である。本調査はオンライン入力のため、参考までに園別の回答者平均年齢を試算した。結果として園別での平均年齢にあまり差がみられていない。

保育園名	利用者			予想平均年齢 (ご参考：歳)
	世帯数	回答数	回答率	
1.永福南保育園	84	51	60.7%	38.9
2.和泉保育園	50	32	64.0%	38.7
3.上荻保育園	92	51	55.4%	38.0
4.荻窪南保育園	64	34	53.1%	37.1
5.高井戸東保育園	73	55	75.3%	37.6
6.松ノ木保育園	56	38	67.9%	38.1
7.阿佐谷北保育園	80	54	67.5%	40.7
8.今川保育園	76	51	67.1%	39.4
合計	575	366	63.7%	38.6

※世帯数は 2024 年 8 月 5 日時点

※各園の予想平均年齢は、回答年齢幅の中間値を加重平均した。

(例：回答者の年齢が「30 から 35 歳未満」の場合、中間値の 32.5 歳とした)

2. 全体の調査結果

(1) 回答者属性

調査票のオンラインでの回答者 366 名のうち 73.8%が母親である。

回答者の年齢構成をみると、35～40 歳未満が 33.1%、30～35 歳未満が 22.7%と 30 歳代が合計 55.8%と過半数を占めている。また 35～40 歳未満が 33.1%であり、20 歳台（25～30 歳未満 3.8%、20～25 歳未満 0.3%）は合計 4.1%と少ない。

勤務形態では、父親の 84.4%、母親の 70.8%がフルタイム（常勤）である。なお、父親の 6.6%は自営業、母親の 11.5%はパート・アルバイトである。

調査の回答者属性

保護者属性（全回答者）	回答数	比率
父	42	11.5%
母	270	73.8%
父母一緒に	25	6.8%
その他	1	0.3%
無回答	28	7.7%
合計	366	100.0%

回答者の年齢

全回答者年齢	回答数	比率
20～25歳未満	1	0.3%
25～30歳未満	14	3.8%
30～35歳未満	83	22.7%
35～40歳未満	121	33.1%
40～50歳未満	119	32.5%
無回答	28	7.7%
合計	366	100.0%

保護者の勤務形態

保護者（父）	回答数	比率
常勤	309	84.4%
パート、アルバイト	4	1.1%
自営業	24	6.6%
その他	3	0.8%
無職	0	0.0%
無回答	26	7.1%
合計	366	100.0%

保護者（母）	回答数	比率
常勤	259	70.8%
パート、アルバイト	42	11.5%
自営業	12	3.3%
その他	25	6.8%
無職	2	0.5%
無回答	26	7.1%
合計	366	100.0%

保護者（その他）	回答数	比率
常勤	108	29.5%
パート、アルバイト	24	6.6%
自営業	17	4.6%
その他	21	5.7%
無職	12	3.3%
無回答	184	50.3%
合計	366	100.0%

(2) 総合的な満足度に関するクロス集計結果

総合的な満足度は、調査回答者別では「満足」「まあまあ満足」と回答した方々が、父親のみの場合は97.6%、母親のみの場合は97.1%で、保育サービス全般に関してはおおむね高い満足を得ている。一方で、「やや不満」「不満」と回答した方は、父親のみの場合は2.4%、母親のみの場合は1.1%みられる。

調査回答者の年齢別では、おおむね「満足」「まあまあ満足」と高い評価を得ており、年齢別での満足度に明確な差異はみられない。

勤務形態別でも、父親、母親、その他のお迎えに行く方を通して、おおむね「満足」「まあまあ満足」の高い評価を得ており、勤務形態別での満足度に明確な差異はみられない。

① 調査回答者属性別での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
父	回答者数(人)	42	29	12	0	0	1	0
	回答率	100.0%	69.0%	28.6%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
母	回答者数(人)	270	221	41	4	3	0	1
	回答率	100.0%	81.9%	15.2%	1.5%	1.1%	0.0%	0.4%
父母一緒に	回答者数(人)	25	13	11	1	0	0	0
	回答率	100.0%	52.0%	44.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	回答者数(人)	1	0	0	1	0	0	0
	回答率	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数(人)	28	7	9	2	0	0	10
	回答率	100.0%	25.0%	32.1%	7.1%	0.0%	0.0%	35.7%
全体	回答者数(人)	366	270	73	8	3	1	11
	回答率	100.0%	73.8%	19.9%	2.2%	0.8%	0.3%	3.0%

② 調査回答者年齢別での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
20～25歳未満	回答者数（人）	1	1	0	0	0	0	0
	回答率	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25～30歳未満	回答者数（人）	14	12	2	0	0	0	0
	回答率	100.0%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30～35歳未満	回答者数（人）	83	71	11	1	0	0	0
	回答率	100.0%	85.5%	13.3%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
35～40歳未満	回答者数（人）	121	83	29	5	2	1	1
	回答率	100.0%	68.6%	24.0%	4.1%	1.7%	0.8%	0.8%
40～50歳未満	回答者数（人）	119	94	23	1	1	0	0
	回答率	100.0%	79.0%	19.3%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	28	9	8	1	0	0	10
	回答率	100.0%	32.1%	28.6%	3.6%	0.0%	0.0%	35.7%
全体	回答者数（人）	366	270	73	8	3	1	11
	回答率	100.0%	73.8%	19.9%	2.2%	0.8%	0.3%	3.0%

③-1 勤務形態別（父）での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
常勤	回答者数（人）	309	240	59	5	3	1	1
	回答率	100.0%	77.7%	19.1%	1.6%	1.0%	0.3%	0.3%
パート・アルバイト	回答者数（人）	4	2	2	0	0	0	0
	回答率	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自営業	回答者数（人）	24	18	6	0	0	0	0
	回答率	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職	回答者数（人）	0	0	0	0	0	0	0
	回答率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	26	8	6	2	0	0	10
	回答率	100.0%	30.8%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	38.5%
その他	回答者数（人）	3	2	0	1	0	0	0
	回答率	100.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	回答者数（人）	366	270	73	8	3	1	11
	回答率	100.0%	73.8%	19.9%	2.2%	0.8%	0.3%	3.0%

③-2 勤務形態別（母）での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
常勤	回答者数（人）	259	201	51	3	3	0	1
	回答率	100.0%	77.6%	19.7%	1.2%	1.2%	0.0%	0.4%
パート・アルバイト	回答者数（人）	42	31	9	2	0	0	0
	回答率	100.0%	73.8%	21.4%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
自営業	回答者数（人）	12	10	2	0	0	0	0
	回答率	100.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職	回答者数（人）	2	1	0	0	0	1	0
	回答率	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	26	7	7	2	0	0	10
	回答率	100.0%	26.9%	26.9%	7.7%	0.0%	0.0%	38.5%
その他	回答者数（人）	25	20	4	1	0	0	0
	回答率	100.0%	80.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	回答者数（人）	366	270	73	8	3	1	11
	回答率	100.0%	73.8%	19.9%	2.2%	0.8%	0.3%	3.0%

③ -3 勤務形態別（その他）での保育園の総合満足度

		合計	満足	まあまあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
常勤	回答者数（人）	108	79	25	2	1	0	1
	回答率	100.0%	73.1%	23.1%	1.9%	0.9%	0.0%	0.9%
パート・アルバイト	回答者数（人）	24	17	6	1	0	0	0
	回答率	100.0%	70.8%	25.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
自営業	回答者数（人）	17	14	2	1	0	0	0
	回答率	100.0%	82.4%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無職	回答者数（人）	12	8	3	0	1	0	0
	回答率	100.0%	66.7%	25.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
無回答	回答者数（人）	184	138	33	3	0	0	10
	回答率	100.0%	75.0%	17.9%	1.6%	0.0%	0.0%	5.4%
その他	回答者数（人）	21	14	4	1	1	1	0
	回答率	100.0%	66.7%	19.0%	4.8%	4.8%	4.8%	0.0%
全体	回答者数（人）	366	270	73	8	3	1	11
	回答率	100.0%	73.8%	19.9%	2.2%	0.8%	0.3%	3.0%

(3) 自由記入の分類・整理

調査票の質問別記載欄に寄せられた意見を、内容によって分類すると、最も多く自由意見を頂いたのは、「Q1：心身の発達に役立つ活動」(64件)である。「はい」と回答した方から最も多くの自由意見(60件)を頂いたのも、同様にQ1である。また、「どちらともいえない」と回答した方から最も多くの自由意見(25件)を頂いたのは、「Q7：保護者に配慮した行事日程の設定」である。そして、「いいえ」と回答した方から最も多くの自由意見(5件)を頂いたのは、「Q6：安全対策」「Q7：保護者に配慮した行事日程の設定」の2つの質問においてである。

	自由意見 記入件数	自由意見記入者の設問回答内訳			
		はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当
Q1:心身の発達に役立つ活動	64	60	2	1	1
Q2:興味や関心を持って行える活動	50	46	3	1	0
Q3:提供する食事・おやつの配慮	52	39	11	2	0
Q4:自然や社会と関わる機会の確保	58	53	4	1	0
Q5:利用時間の変更への柔軟な対応	36	23	8	2	3
Q6:安全対策	28	13	10	5	0
Q7:保護者に配慮した行事日程の設定	43	10	25	5	3
Q8:保護者と園との信頼関係	47	29	14	2	2
Q9:園内の清潔、整理整頓	34	21	10	3	0
Q10:職員の接遇・態度	25	16	9	0	0
Q11:保健・衛生(病気・けが・対応)	31	20	8	1	2
Q12:子ども同士のトラブル対応	46	45	0	1	0
Q13:子供の気持ちの尊重	31	22	8	0	1
Q14:プライバシーの保護	13	5	5	1	2
Q15:保育内容の説明の判りやすさ	27	14	12	1	0
Q16:不満や要望への対応	20	4	8	1	7
Q17:外部の苦情相談窓口の周知	19	1	10	4	4

(4) 利用者調査設問への回答集計

今回の調査対象 8 園の回答数を合計し、全回答 366 件について、Q1~Q17 までの設問に対する回答の構成比率と、総合的な満足度への回答件数、構成比率を算出した。Q1~Q17 の回答では、「はい」の比率が最も高いのは、「Q1：園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている」の 96.4%、「どちらともいえない」の比率が最も高いのは、「Q17: 困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた」の 24.0%であった。

「いいえ」の比率が最も高いのは、同じく「Q17: 困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた」の 9.8%であった。次が「Q7：行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている」の 2.2%であった。Q7 は「どちらともいえない」の回答欄でも Q17 の次点 (23.8%) であった。総合的な満足度では、「満足」が 73.8%、「まあまあ満足」が 19.9%の構成比率であった。

<サービスの提供>

設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	96.4%	2.7%	0.5%	0.3%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	91.3%	4.6%	0.8%	0.3%	3.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	88.3%	8.2%	0.5%	0.3%	2.7%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	82.8%	13.1%	0.5%	0.8%	2.7%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	75.1%	8.2%	1.4%	12.6%	2.7%
Q6	安全対策が十分取られている	85.5%	10.1%	1.6%	0.0%	2.7%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	66.7%	23.8%	2.2%	4.6%	2.7%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	85.8%	9.6%	1.1%	0.8%	2.7%

<安心・快適性>

設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	88.8%	7.7%	0.8%	0.0%	2.7%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	90.2%	6.0%	0.8%	0.3%	2.7%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	89.1%	5.7%	1.1%	1.4%	2.7%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	69.4%	16.1%	1.6%	10.1%	2.7%

<利用者個人の尊重>

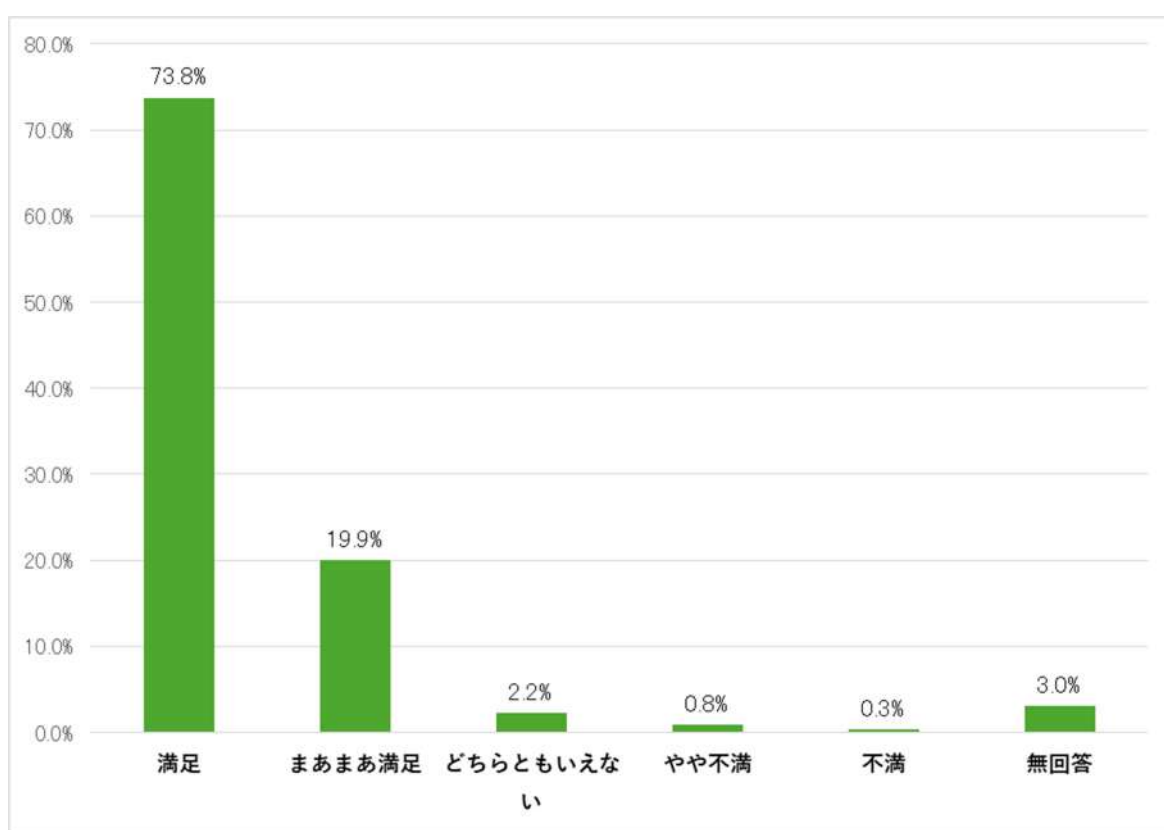
設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	87.7%	8.2%	0.5%	0.5%	3.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られた くない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	81.7%	4.9%	1.1%	9.6%	2.7%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	83.6%	12.0%	0.5%	0.8%	3.0%

<不満・要望への対応>

設問NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きち んと対応してくれている	71.3%	10.1%	1.4%	14.5%	2.7%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できるこ とを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説 明など）	52.7%	24.0%	9.8%	10.7%	2.7%

<総合的な満足度>

	満足	まあまあ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
回答数	270	73	8	3	1	11	366
回答率	73.8%	19.9%	2.2%	0.8%	0.3%	3.0%	100.0%



3. 満足度構造分析

(1) 分析方法

利用者調査項目の全17項目の中で、特に「総合的な感想（満足度）」に影響を与えている項目は何かを明らかにするために、重回帰分析の手法を使用して分析を行った。分析に当たっては以下のような手続きを行った。

目的変数（被説明変数）

目的変数は「総合的な感想（満足度）」である。総合的な感想では下記変数処理を行った。「満足」=5、「まあまあ満足」=4、「どちらともいえない」=3、「やや不満」=2、「不満」=1。無記入は欠損値とした。

説明変数

説明変数はQ1~Q17の各設問である。Q1~Q17の各設問では、下記変数処理を行った。「はい」=3、「どちらともいえない」=2、「いいえ」=1、それ以外の「非該当」や無記入は欠損値とした。

(2) 分析結果

設問		標準化係数	有意確率（p値）
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	1.300	0.000
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	0.777	0.001
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	0.752	0.011
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	0.715	0.009
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	0.677	0.008

(3) 考察

統計的に有意であった項目のうち、総合的な感想（満足度）に影響を与えている項目は、「Q1：園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている」「Q2：園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている」「Q10：職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である」「Q9：園内は清潔で整理された空間になっている」「Q3：園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている」であった。

その中でも、総合的な満足度への影響が特に高い設問は Q1 であった。その後は、Q2、Q10、Q9、Q3 と続いた。

Q1 は全体的に「はい」と高く評価されていた項目であった。それ以外の設問は、「どちらともいえない」「いいえ」の回答を比較的多くいただいていた項目であり、それらの回答や意見を踏まえ、日々の保育の中で注力して取り組むと、保護者の満足度の向上につながる可能性が比較的高いと考察される。

4. 園ごとの満足度構造分析

園ごとの利用者調査結果は、それぞれ次の通りである。

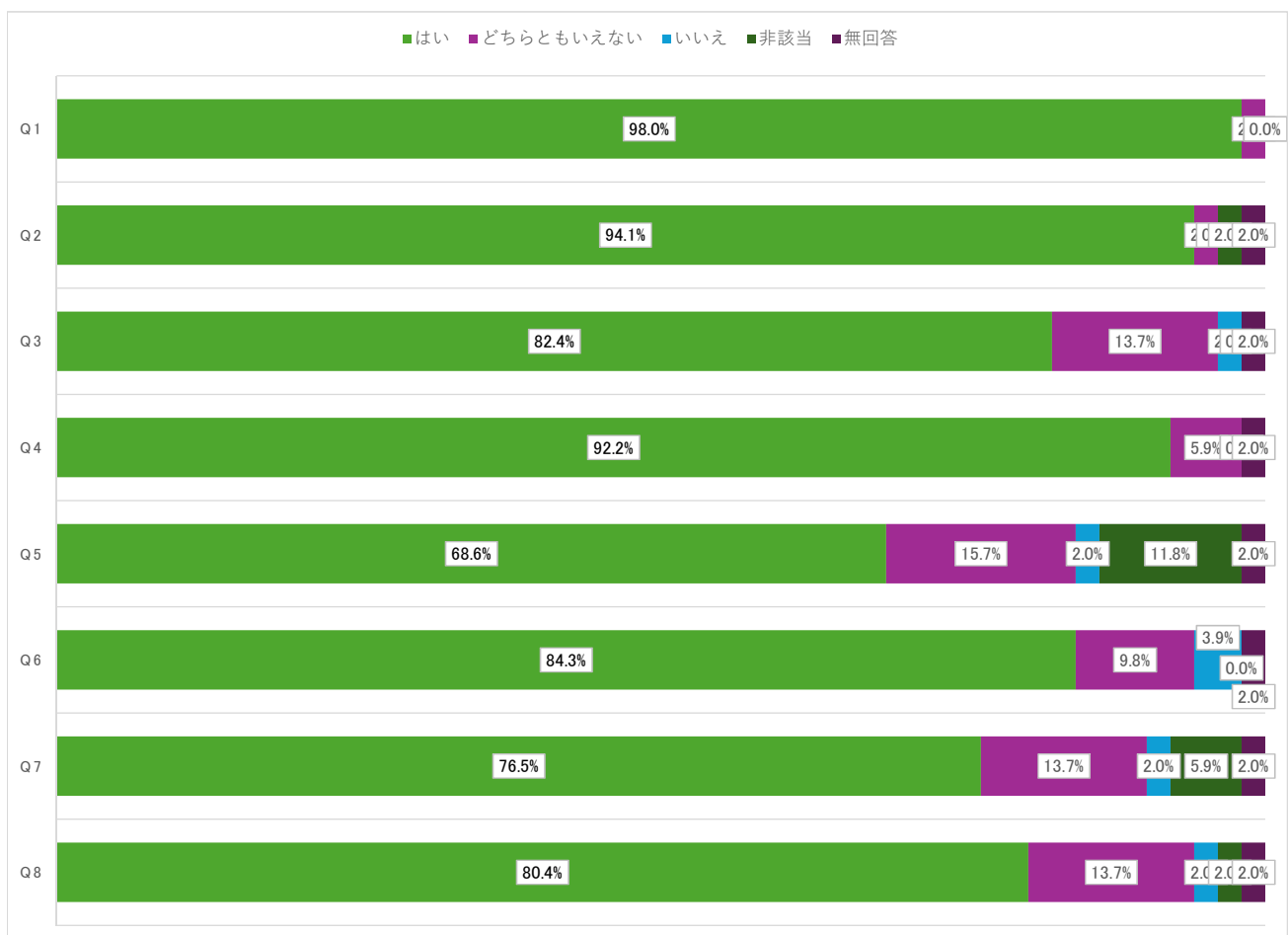
1. 永福南保育園	15
2. 和泉保育園	19
3. 上荻保育園	23
4. 荻窪南保育園	27
5. 高井戸東保育園	31
6. 松ノ木保育園	35
7. 阿佐谷北保育園	39
8. 今川保育園	43

1. 永福南保育園

1. 永福南保育園

<サービスの提供>

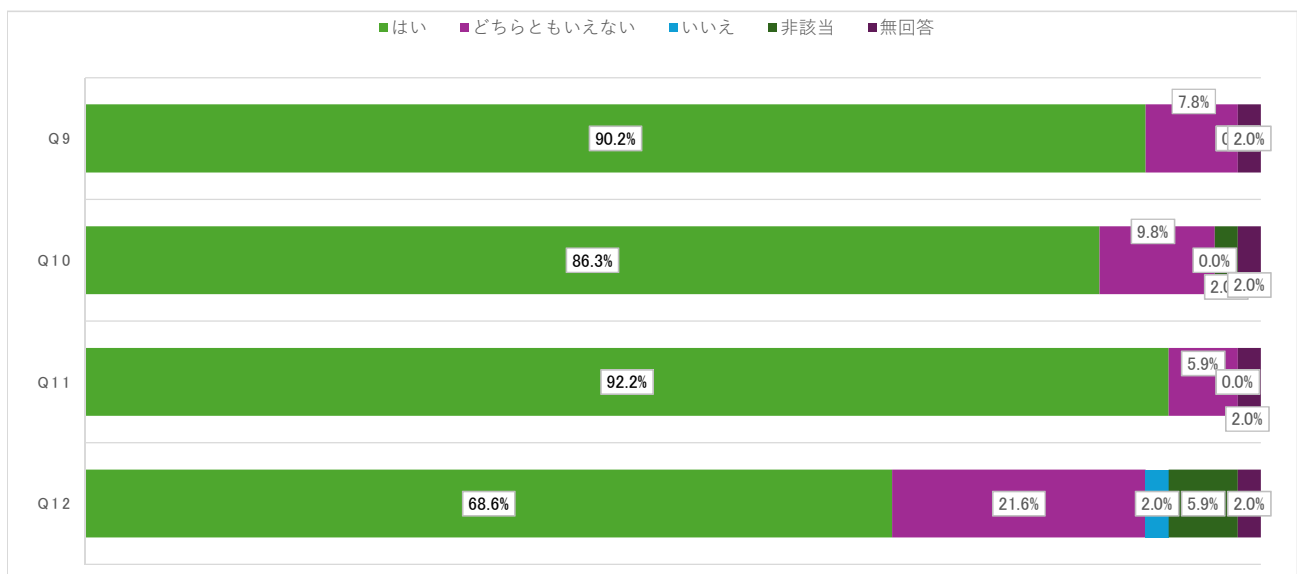
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	98.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	94.1%	2.0%	0.0%	2.0%	2.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	82.4%	13.7%	2.0%	0.0%	2.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	92.2%	5.9%	0.0%	0.0%	2.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	68.6%	15.7%	2.0%	11.8%	2.0%
Q6	安全対策が十分取られている	84.3%	9.8%	3.9%	0.0%	2.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	76.5%	13.7%	2.0%	5.9%	2.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	80.4%	13.7%	2.0%	2.0%	2.0%



1. 永福南保育園

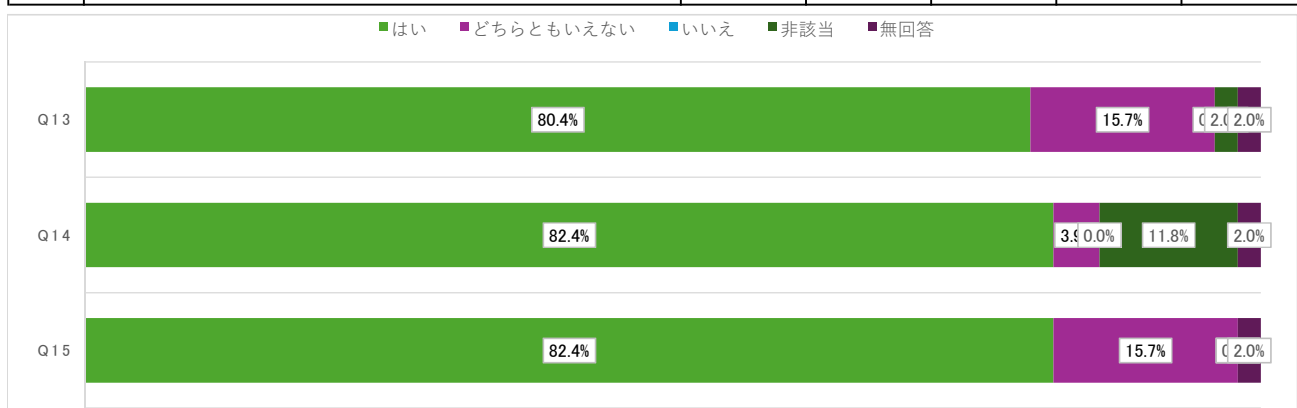
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	90.2%	7.8%	0.0%	0.0%	2.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	86.3%	9.8%	0.0%	2.0%	2.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	92.2%	5.9%	0.0%	0.0%	2.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	68.6%	21.6%	2.0%	5.9%	2.0%



<利用者個人の尊重>

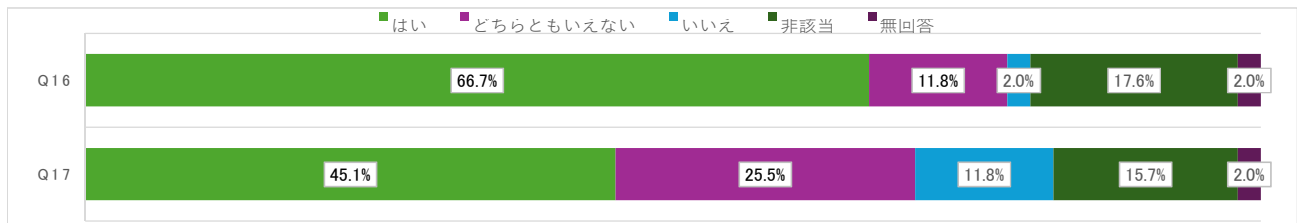
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	80.4%	15.7%	0.0%	2.0%	2.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	82.4%	3.9%	0.0%	11.8%	2.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	82.4%	15.7%	0.0%	0.0%	2.0%



1. 永福南保育園

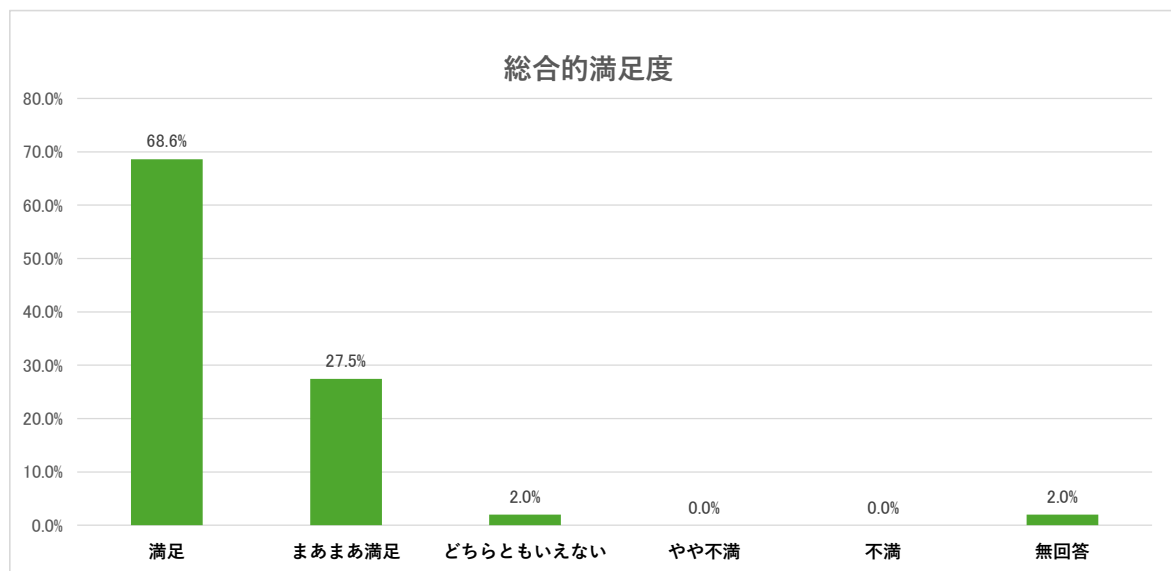
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	66.7%	11.8%	2.0%	17.6%	2.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	45.1%	25.5%	11.8%	15.7%	2.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	35	68.6%
まあまあ満足	14	27.5%
どちらともいえない	1	2.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	1	2.0%
合 計	51	100.0%

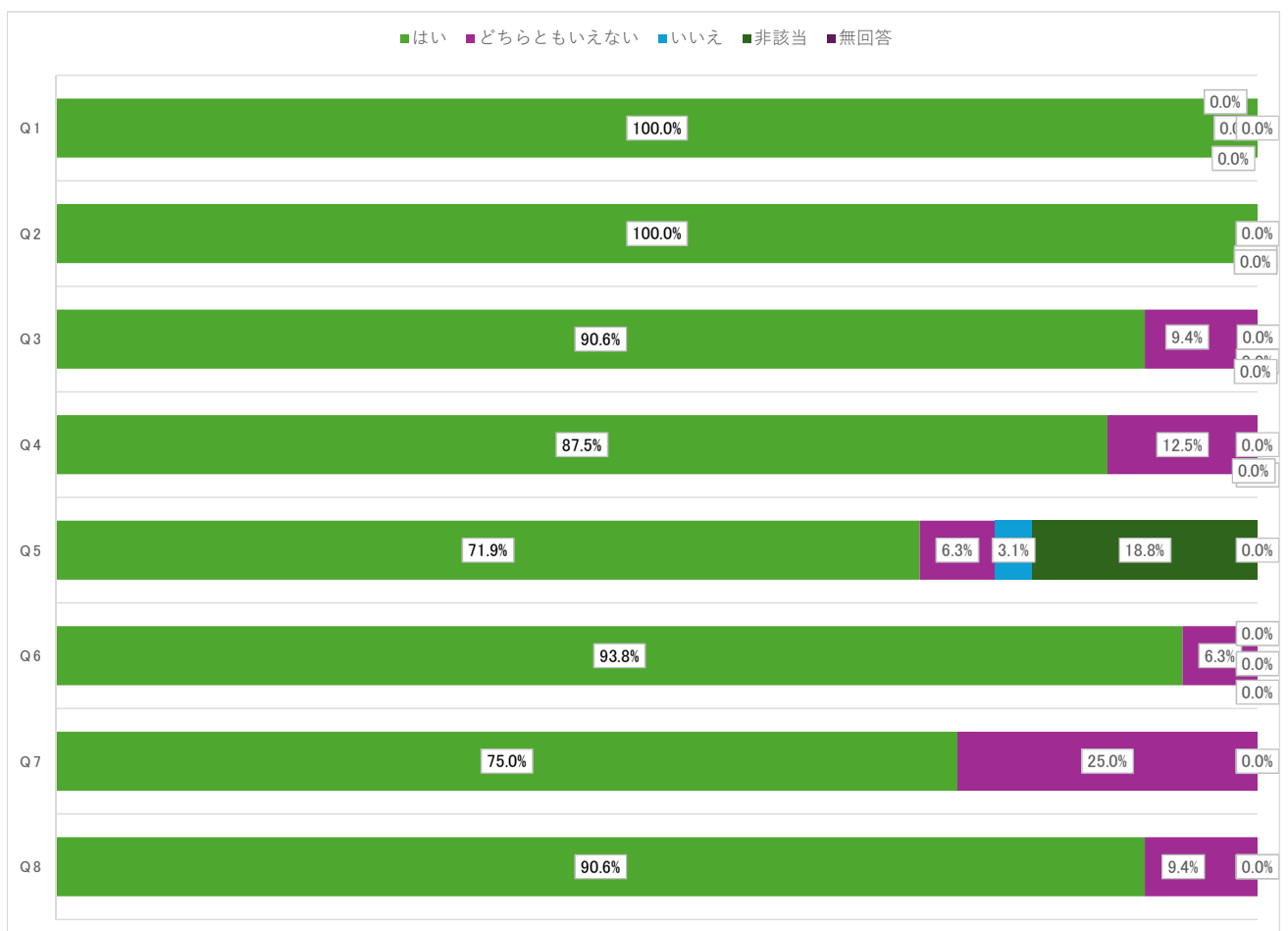


2. 和泉保育園

2. 和泉保育園

<サービスの提供>

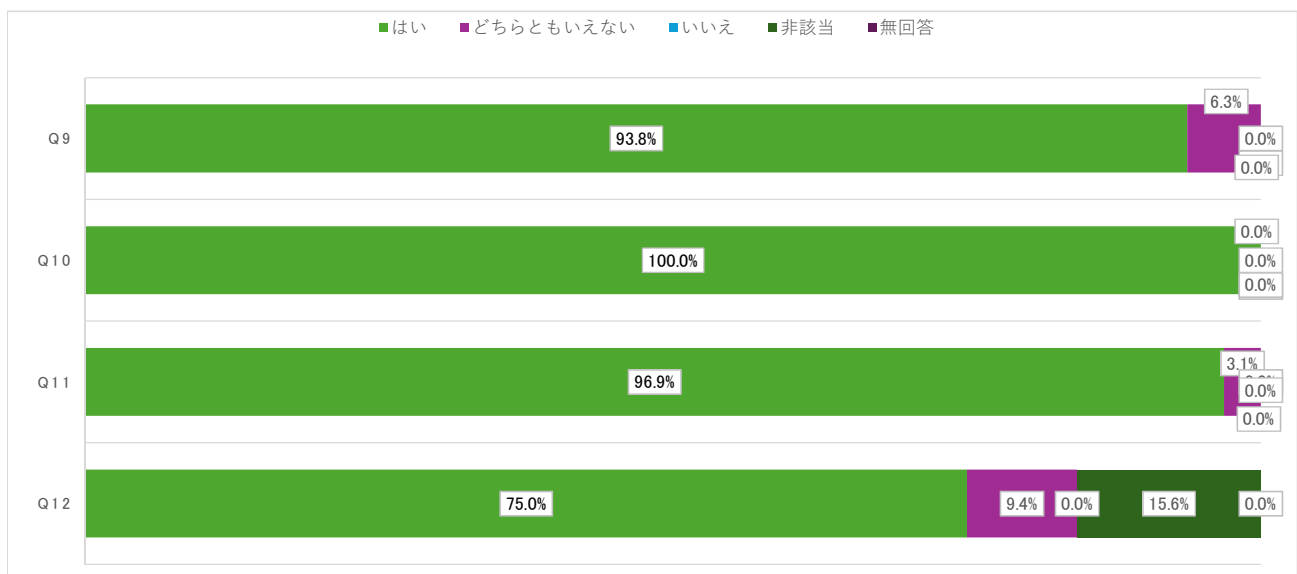
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	90.6%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	71.9%	6.3%	3.1%	18.8%	0.0%
Q6	安全対策が十分取られている	93.8%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	90.6%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%



2. 和泉保育園

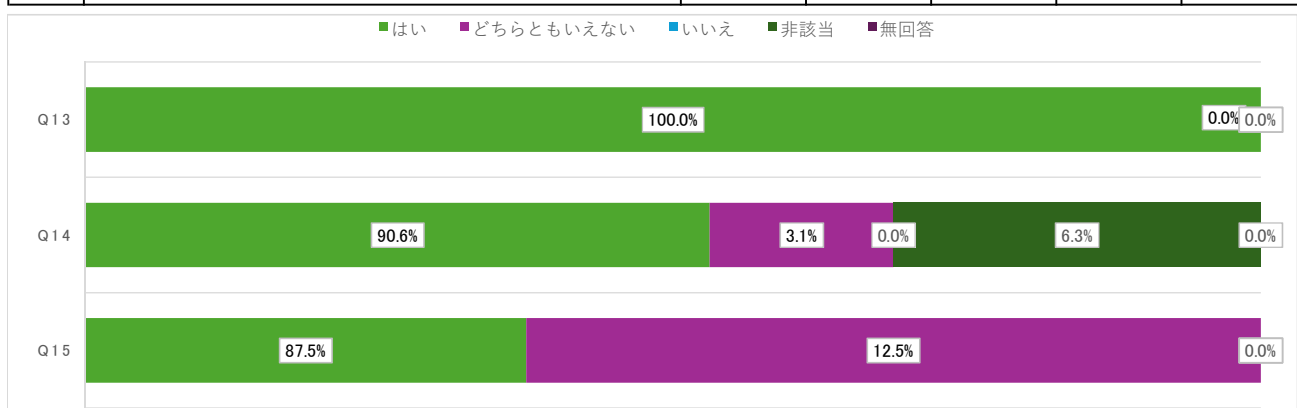
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	93.8%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	96.9%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	75.0%	9.4%	0.0%	15.6%	0.0%



<利用者個人の尊重>

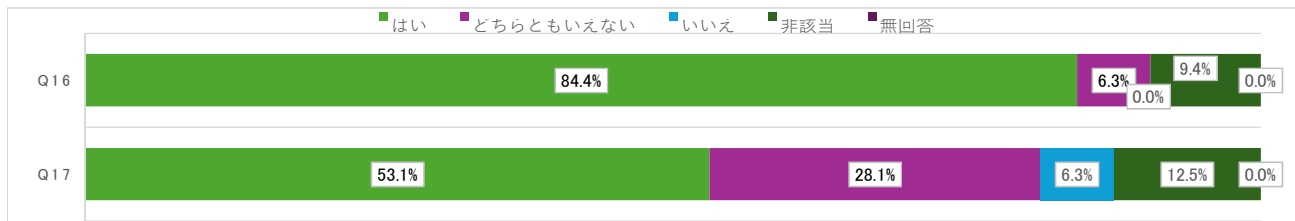
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られた くない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	90.6%	3.1%	0.0%	6.3%	0.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%



2. 和泉保育園

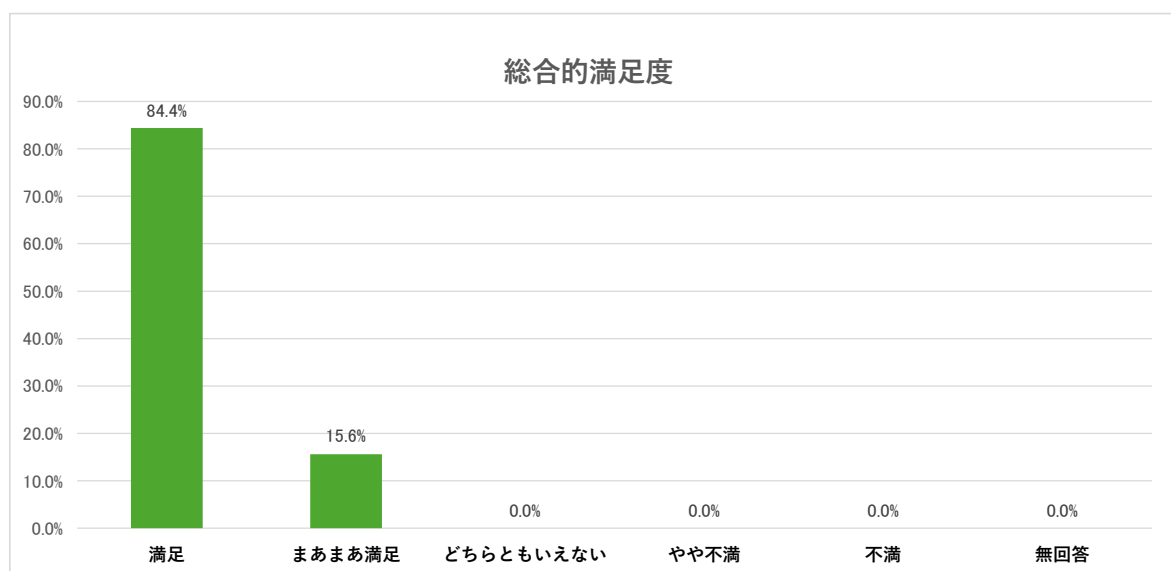
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	84.4%	6.3%	0.0%	9.4%	0.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	53.1%	28.1%	6.3%	12.5%	0.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	27	84.4%
まあまあ満足	5	15.6%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合 計	32	100.0%

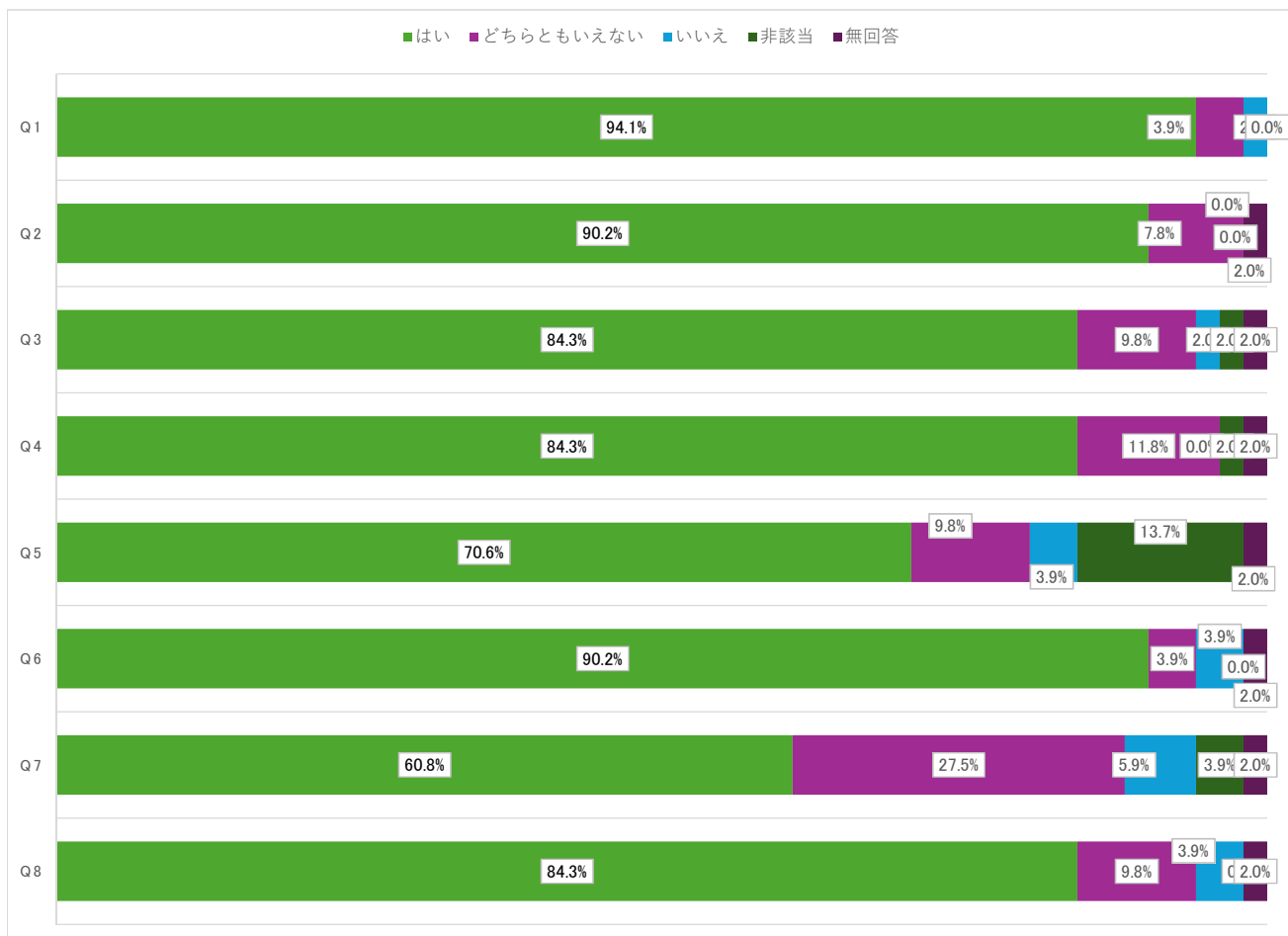


3. 上荻保育園

3. 上荻保育園

<サービスの提供>

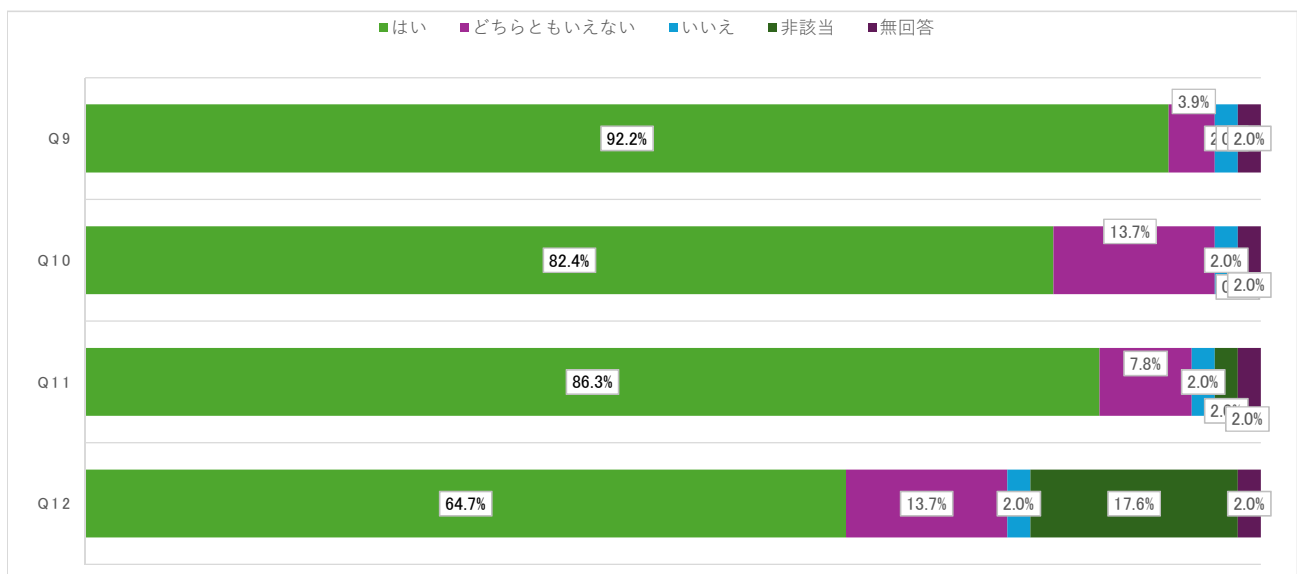
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	94.1%	3.9%	2.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	90.2%	7.8%	0.0%	0.0%	2.0%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	84.3%	9.8%	2.0%	2.0%	2.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	84.3%	11.8%	0.0%	2.0%	2.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	70.6%	9.8%	3.9%	13.7%	2.0%
Q6	安全対策が十分取られている	90.2%	3.9%	3.9%	0.0%	2.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	60.8%	27.5%	5.9%	3.9%	2.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	84.3%	9.8%	3.9%	0.0%	2.0%



3. 上荻保育園

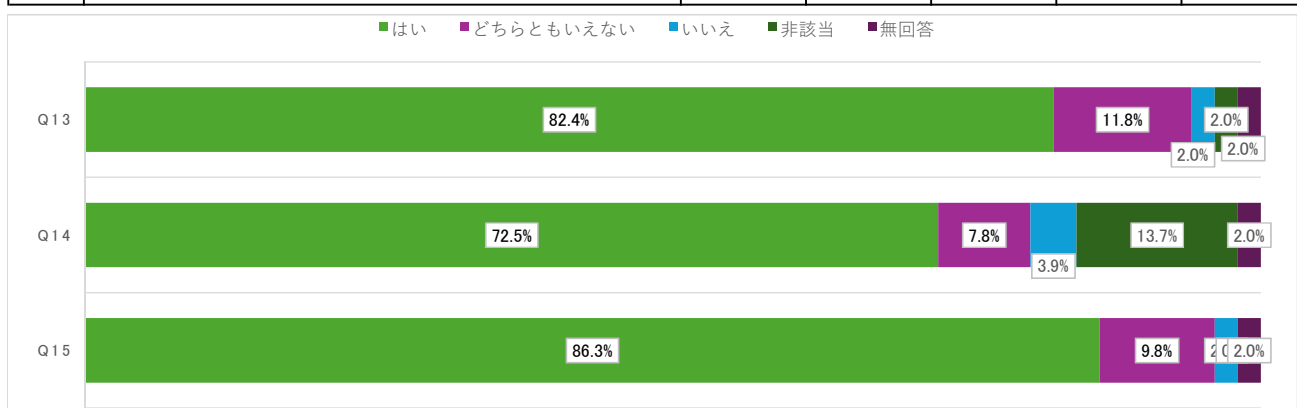
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	92.2%	3.9%	2.0%	0.0%	2.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	82.4%	13.7%	2.0%	0.0%	2.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	86.3%	7.8%	2.0%	2.0%	2.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	64.7%	13.7%	2.0%	17.6%	2.0%



<利用者個人の尊重>

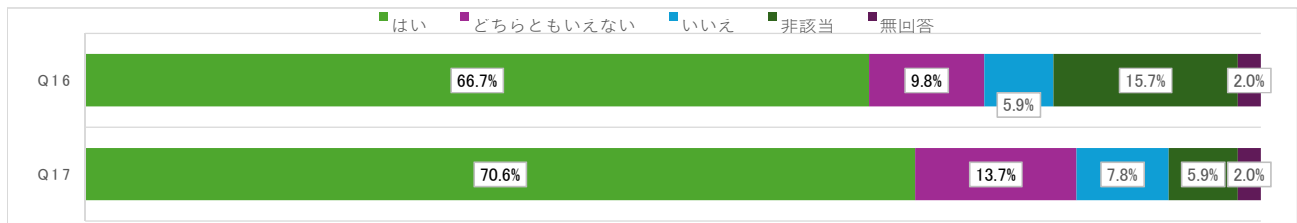
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	82.4%	11.8%	2.0%	2.0%	2.0%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	72.5%	7.8%	3.9%	13.7%	2.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	86.3%	9.8%	2.0%	0.0%	2.0%



3. 上荻保育園

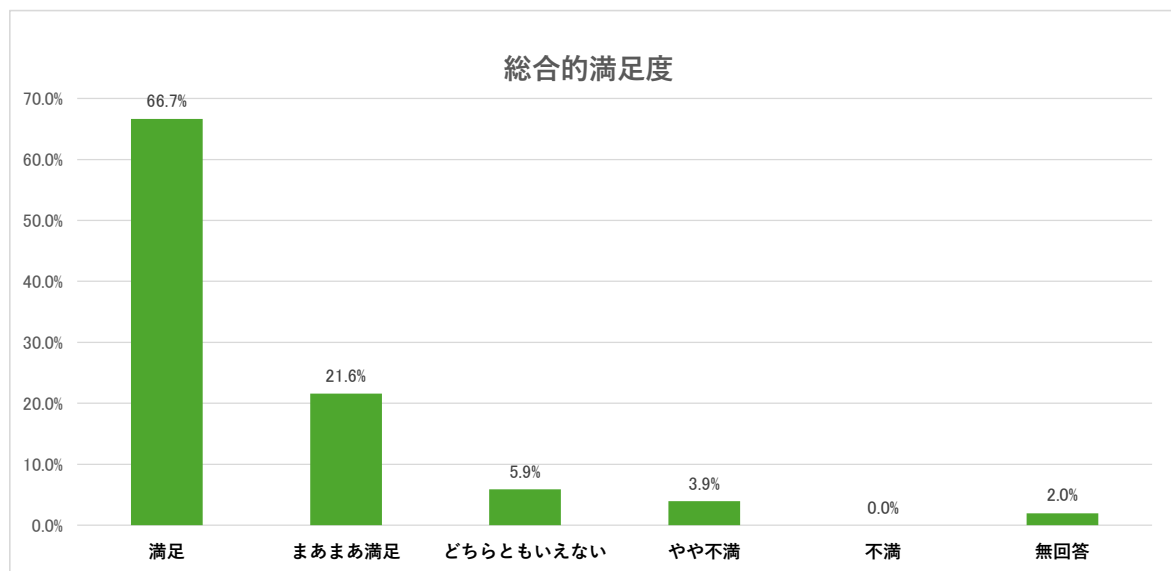
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	66.7%	9.8%	5.9%	15.7%	2.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	70.6%	13.7%	7.8%	5.9%	2.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	34	66.7%
まあまあ満足	11	21.6%
どちらともいえない	3	5.9%
やや不満	2	3.9%
不満	0	0.0%
無回答	1	2.0%
合 計	51	100.0%



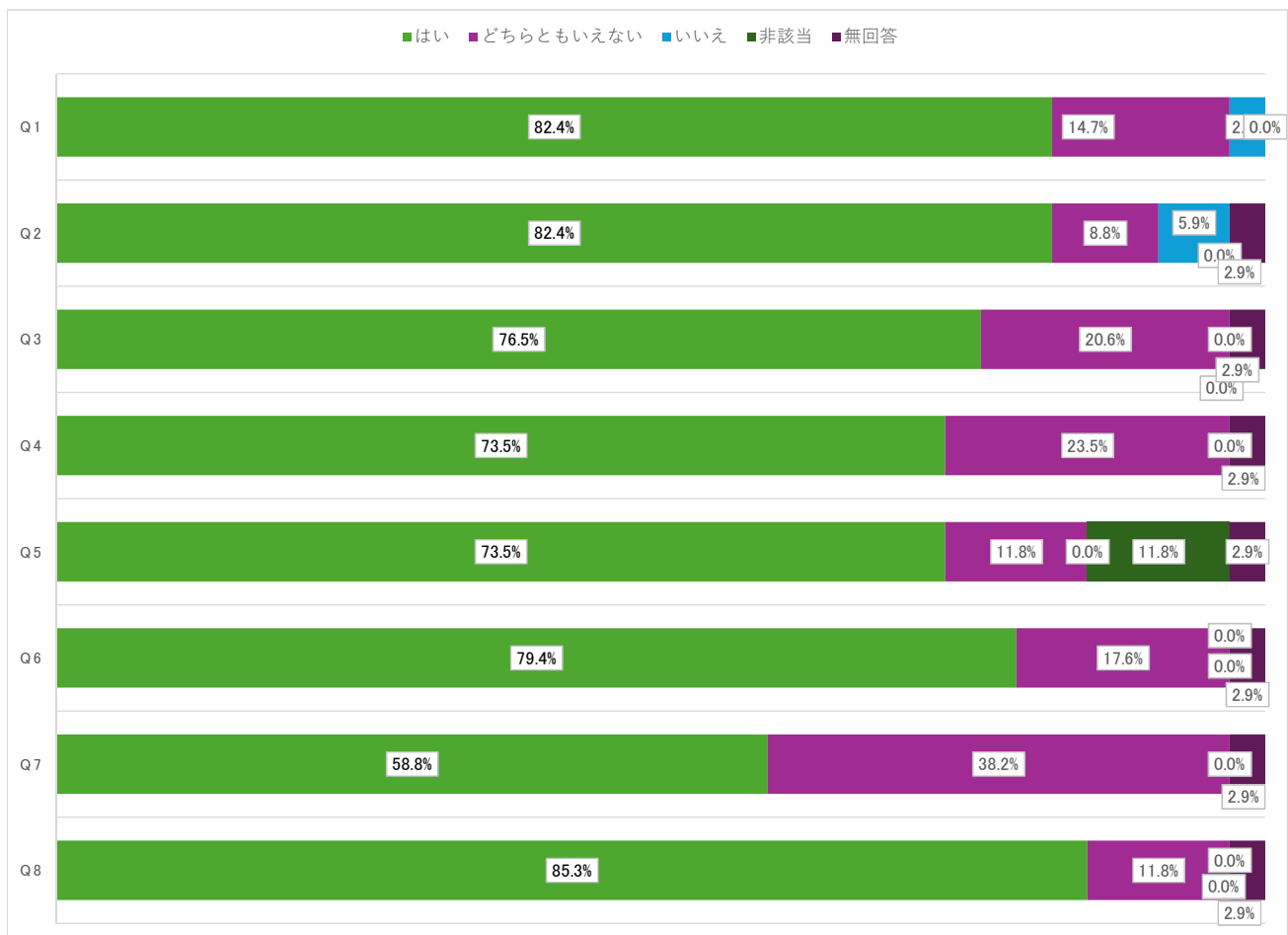
4. 荻窪南保育園

荻
窪
南

4. 荻窪南保育園

<サービスの提供>

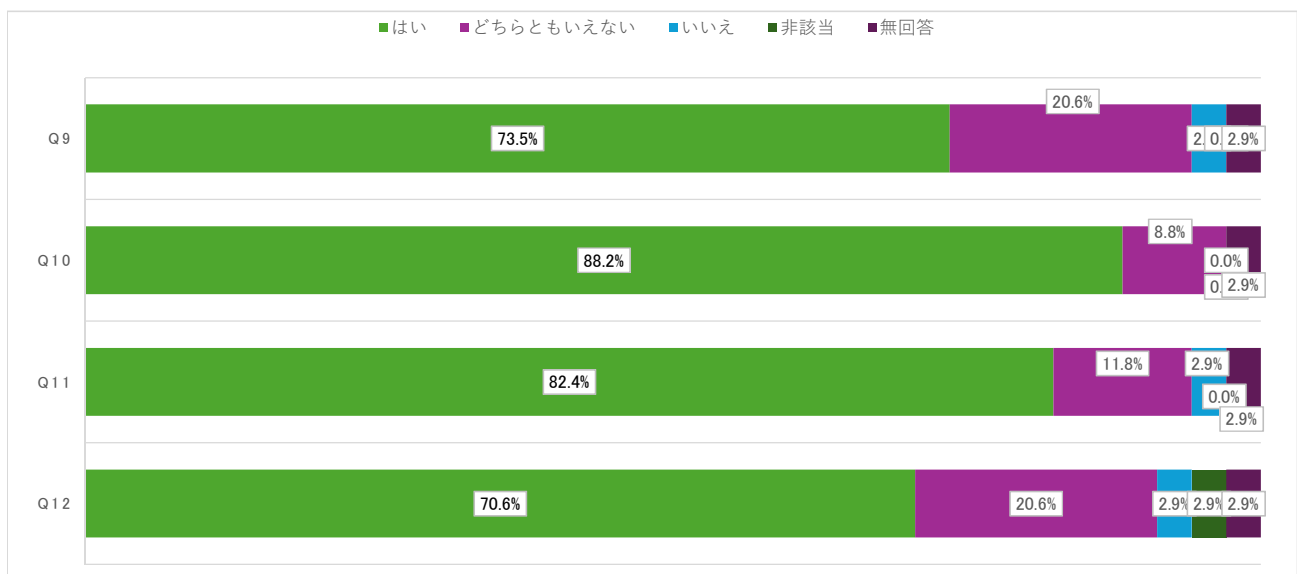
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	82.4%	14.7%	2.9%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	82.4%	8.8%	5.9%	0.0%	2.9%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	76.5%	20.6%	0.0%	0.0%	2.9%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	73.5%	23.5%	0.0%	0.0%	2.9%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	73.5%	11.8%	0.0%	11.8%	2.9%
Q6	安全対策が十分取られている	79.4%	17.6%	0.0%	0.0%	2.9%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	58.8%	38.2%	0.0%	0.0%	2.9%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	85.3%	11.8%	0.0%	0.0%	2.9%



4. 荻窪南保育園

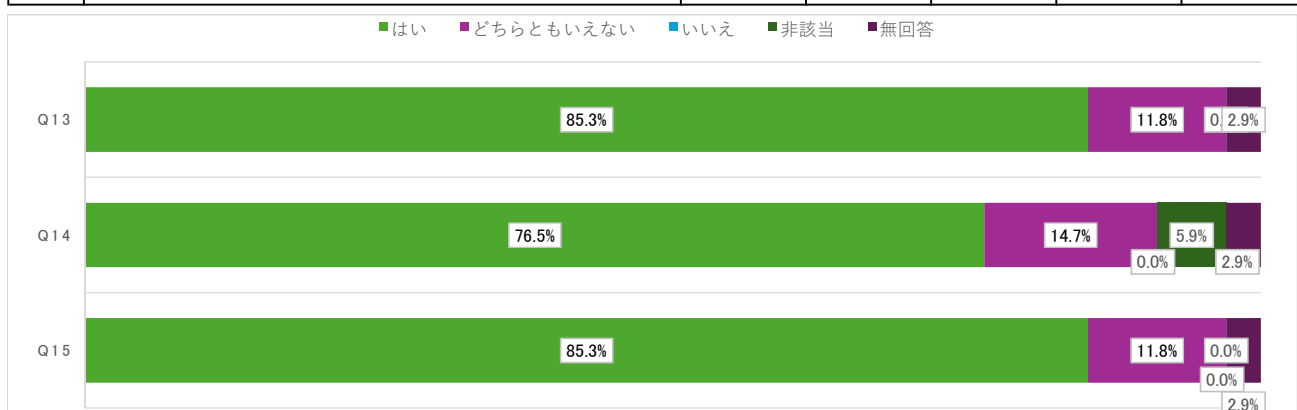
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	73.5%	20.6%	2.9%	0.0%	2.9%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	88.2%	8.8%	0.0%	0.0%	2.9%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	82.4%	11.8%	2.9%	0.0%	2.9%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	70.6%	20.6%	2.9%	2.9%	2.9%



<利用者個人の尊重>

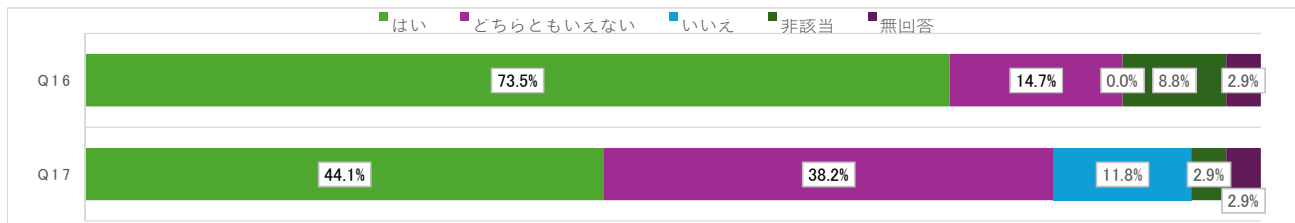
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	85.3%	11.8%	0.0%	0.0%	2.9%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られた くない、聞かれない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	76.5%	14.7%	0.0%	5.9%	2.9%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	85.3%	11.8%	0.0%	0.0%	2.9%



4. 荻窪南保育園

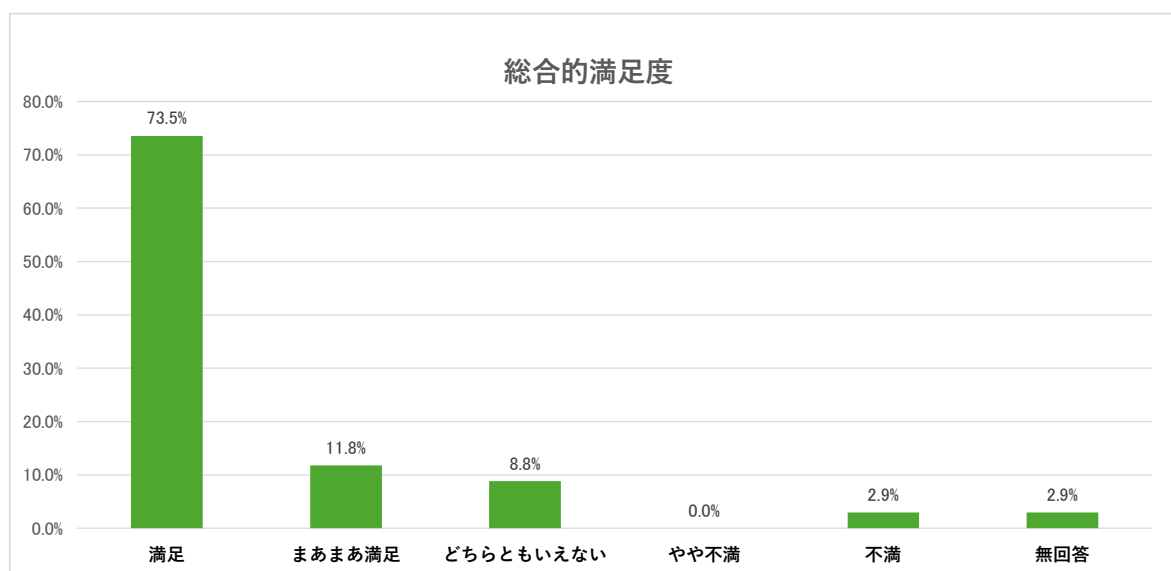
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	73.5%	14.7%	0.0%	8.8%	2.9%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	44.1%	38.2%	11.8%	2.9%	2.9%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	25	73.5%
まあまあ満足	4	11.8%
どちらともいえない	3	8.8%
やや不満	0	0.0%
不満	1	2.9%
無回答	1	2.9%
合 計	34	100.0%



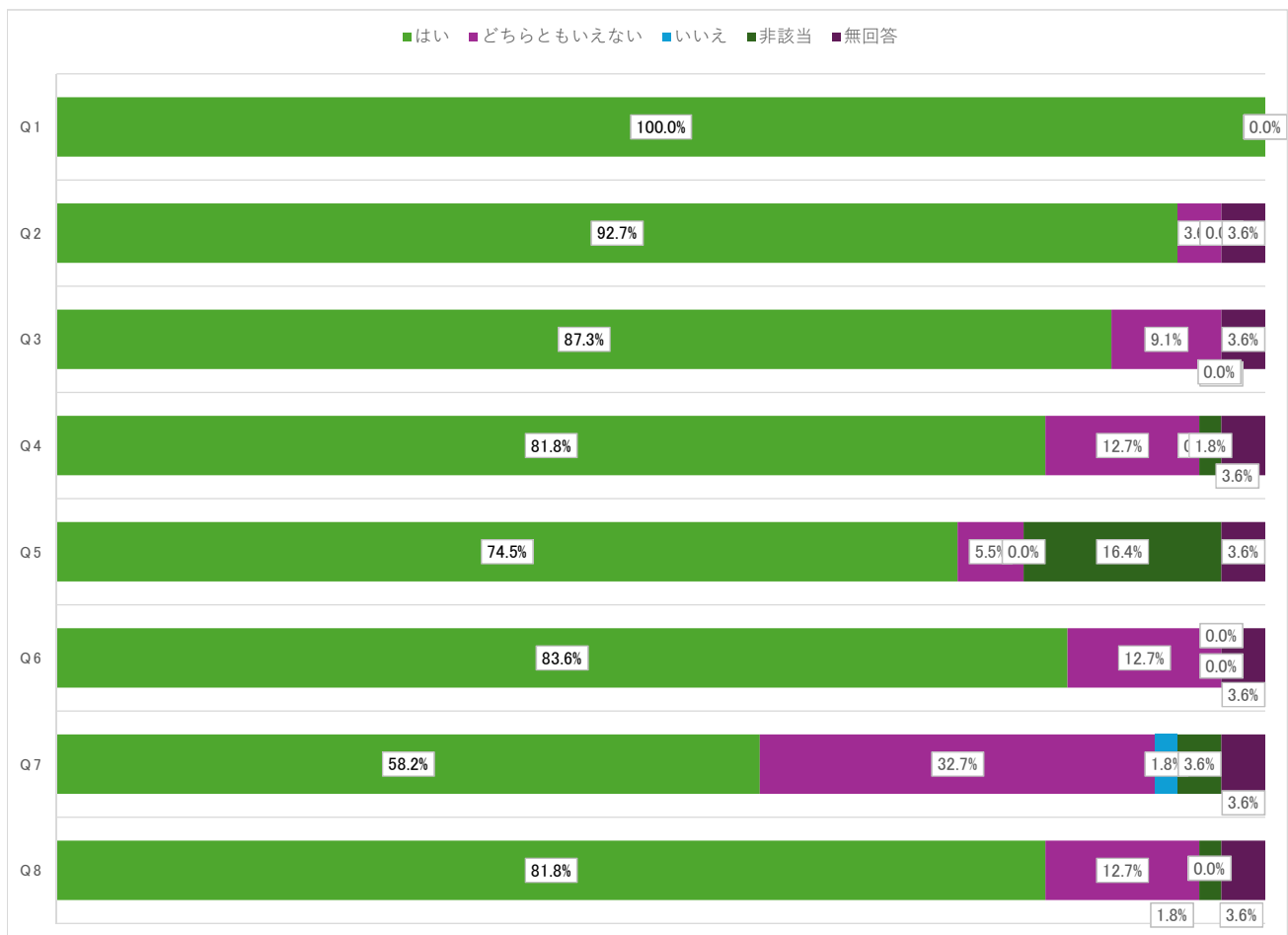
5. 高井戸東保育園

高
井
戸
東

5. 高井戸東保育園

<サービスの提供>

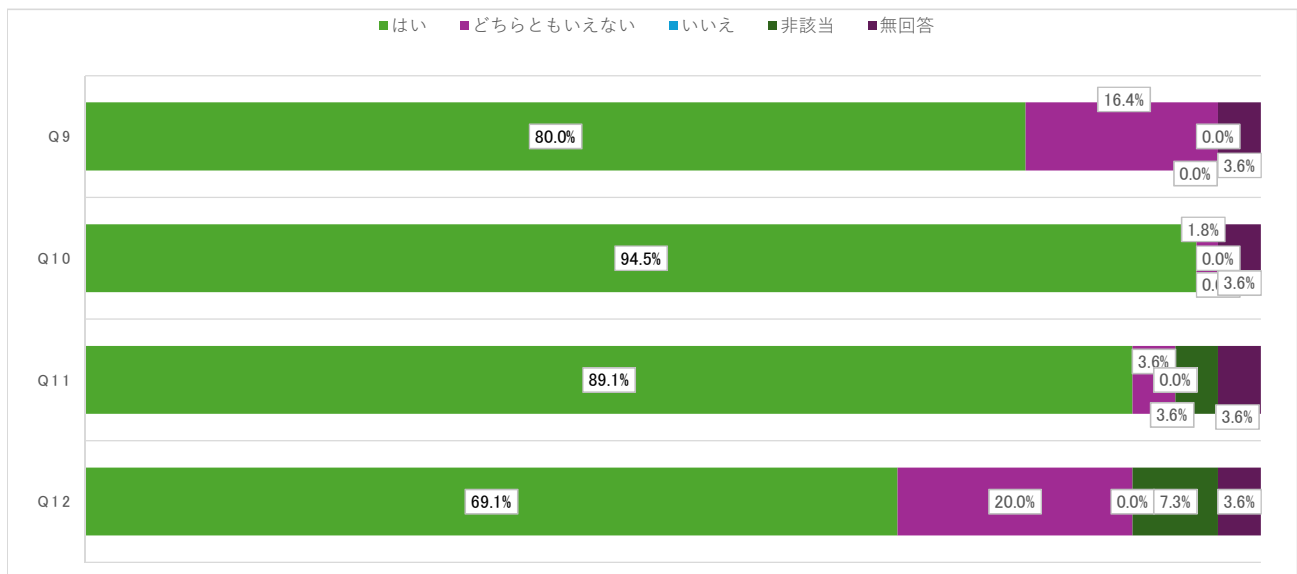
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	92.7%	3.6%	0.0%	0.0%	3.6%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	87.3%	9.1%	0.0%	0.0%	3.6%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	81.8%	12.7%	0.0%	1.8%	3.6%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	74.5%	5.5%	0.0%	16.4%	3.6%
Q6	安全対策が十分取られている	83.6%	12.7%	0.0%	0.0%	3.6%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	58.2%	32.7%	1.8%	3.6%	3.6%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	81.8%	12.7%	0.0%	1.8%	3.6%



5. 高井戸東保育園

<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	80.0%	16.4%	0.0%	0.0%	3.6%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	94.5%	1.8%	0.0%	0.0%	3.6%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	89.1%	3.6%	0.0%	3.6%	3.6%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	69.1%	20.0%	0.0%	7.3%	3.6%



<利用者個人の尊重>

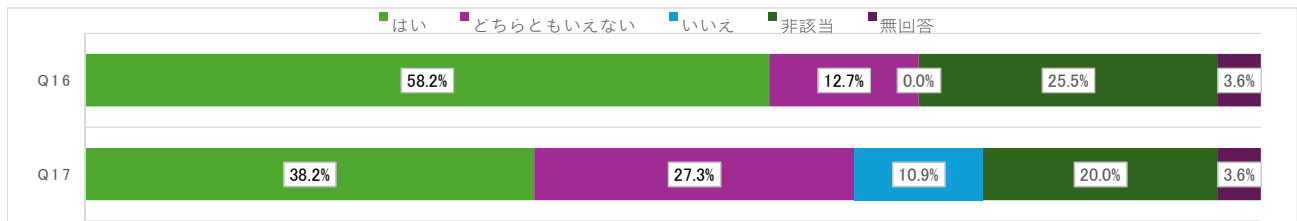
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	87.3%	9.1%	0.0%	0.0%	3.6%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られた くない、聞かれない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	87.3%	1.8%	0.0%	7.3%	3.6%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	81.8%	14.5%	0.0%	0.0%	3.6%



5. 高井戸東保育園

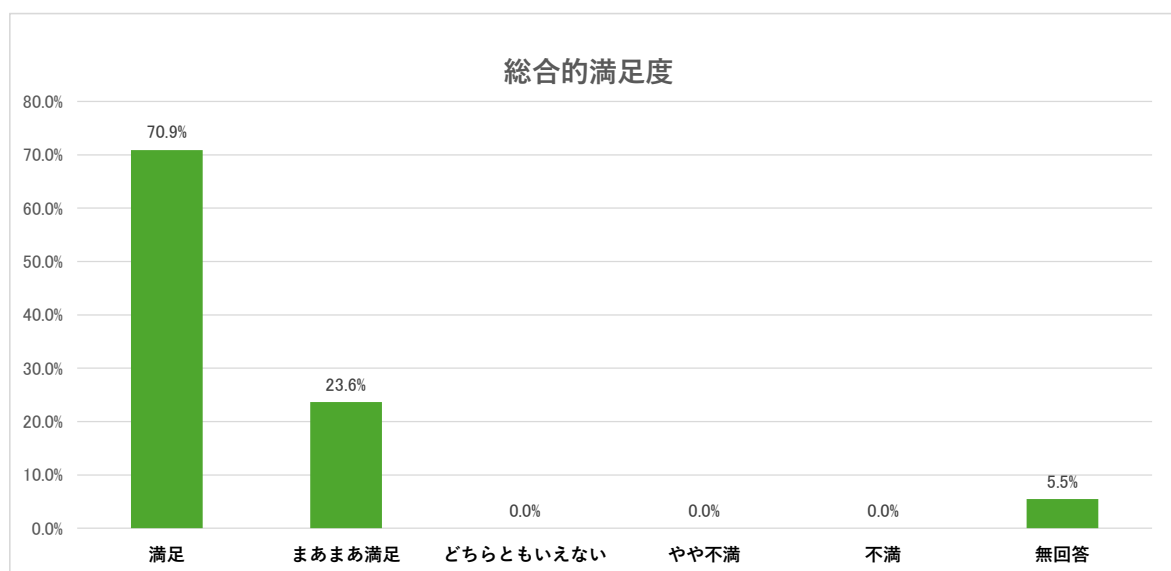
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	58.2%	12.7%	0.0%	25.5%	3.6%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	38.2%	27.3%	10.9%	20.0%	3.6%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	39	70.9%
まあまあ満足	13	23.6%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	3	5.5%
合 計	55	100.0%



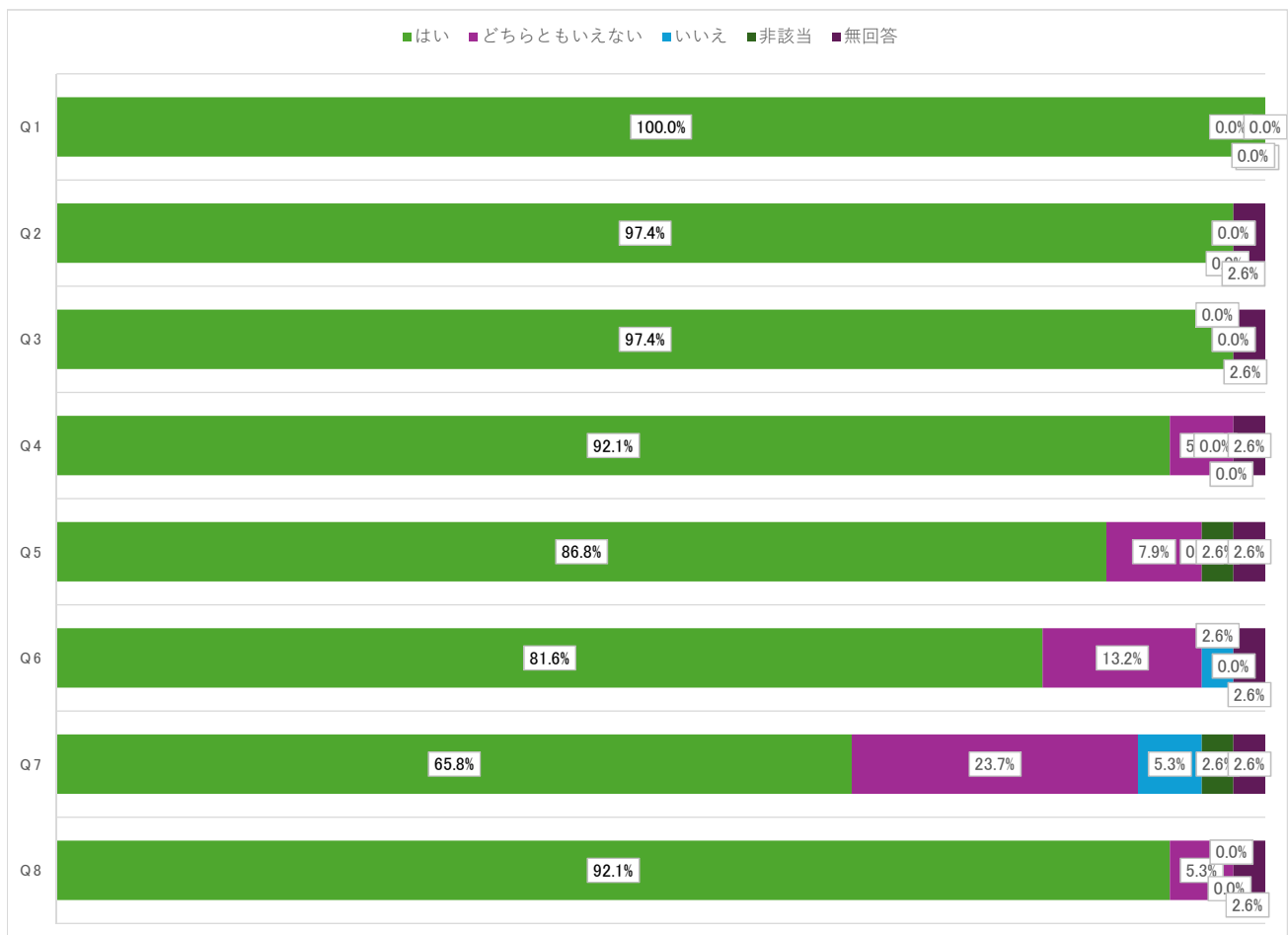
6. 松ノ木保育園

松
ノ
木

6. 松ノ木保育園

<サービスの提供>

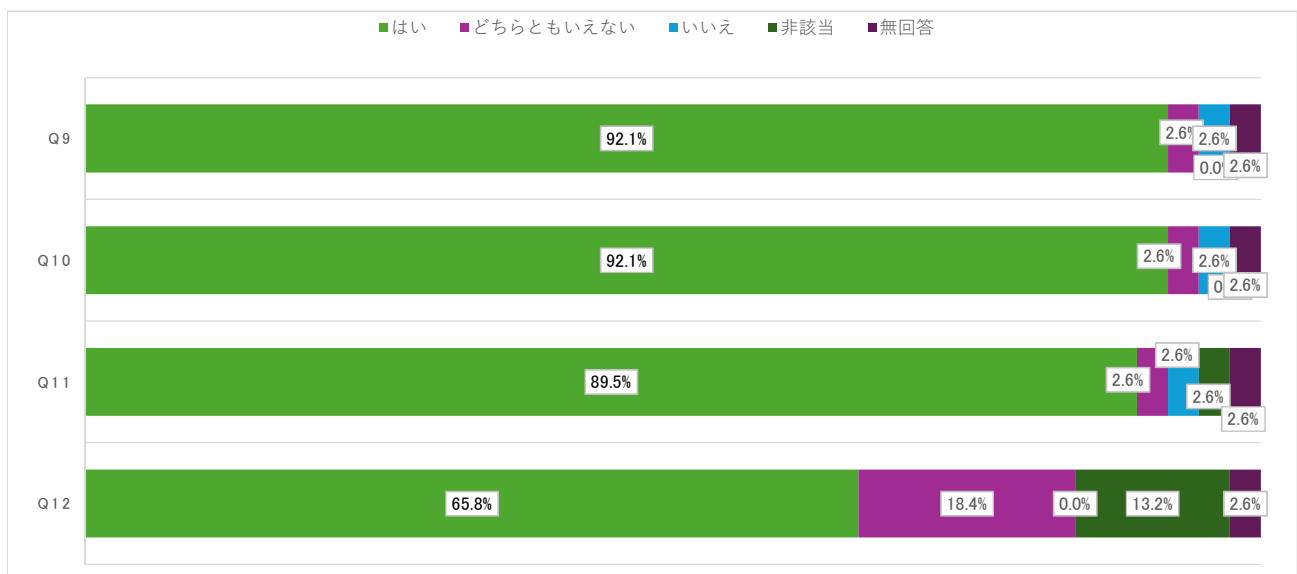
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	97.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	97.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	92.1%	5.3%	0.0%	0.0%	2.6%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	86.8%	7.9%	0.0%	2.6%	2.6%
Q6	安全対策が十分取られている	81.6%	13.2%	2.6%	0.0%	2.6%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	65.8%	23.7%	5.3%	2.6%	2.6%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	92.1%	5.3%	0.0%	0.0%	2.6%



6. 松ノ木保育園

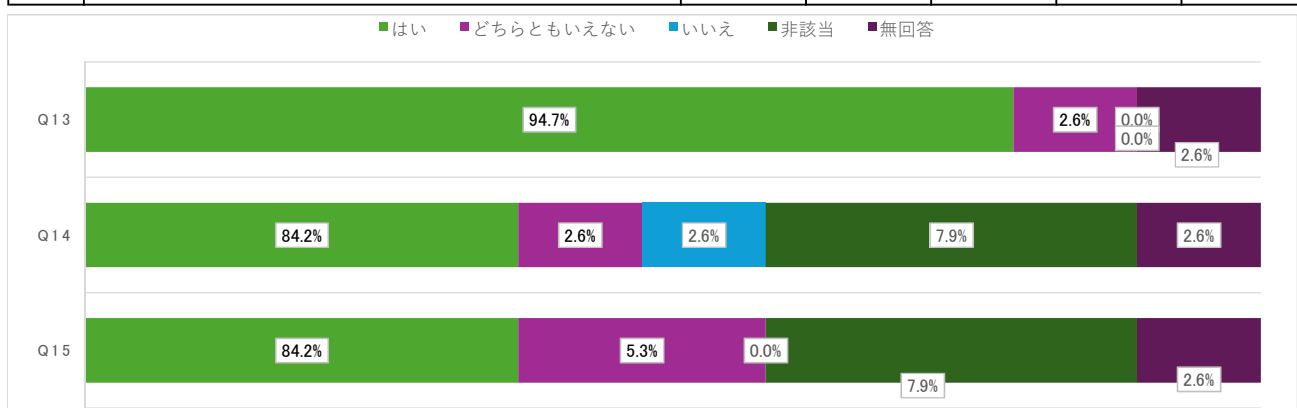
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	92.1%	2.6%	2.6%	0.0%	2.6%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	92.1%	2.6%	2.6%	0.0%	2.6%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	89.5%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	65.8%	18.4%	0.0%	13.2%	2.6%



<利用者個人の尊重>

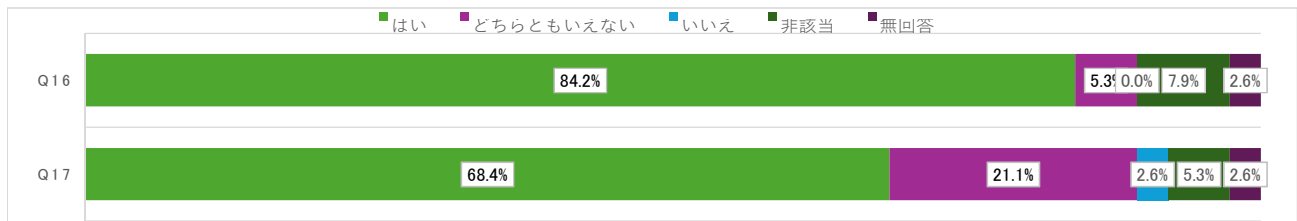
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してく れている	94.7%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られた くない、聞かれたくない、知られたくないと思うこ と）を職員は守ってくれている	84.2%	2.6%	2.6%	7.9%	2.6%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	84.2%	5.3%	0.0%	7.9%	2.6%



6. 松ノ木保育園

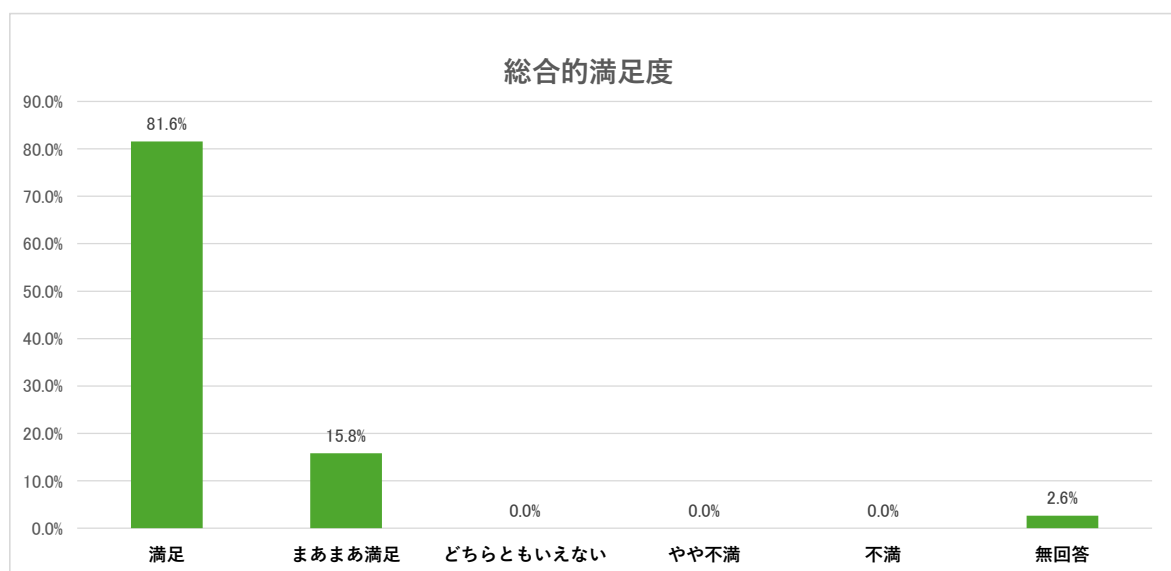
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	84.2%	5.3%	0.0%	7.9%	2.6%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	68.4%	21.1%	2.6%	5.3%	2.6%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	31	81.6%
まあまあ満足	6	15.8%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	1	2.6%
合 計	38	100.0%



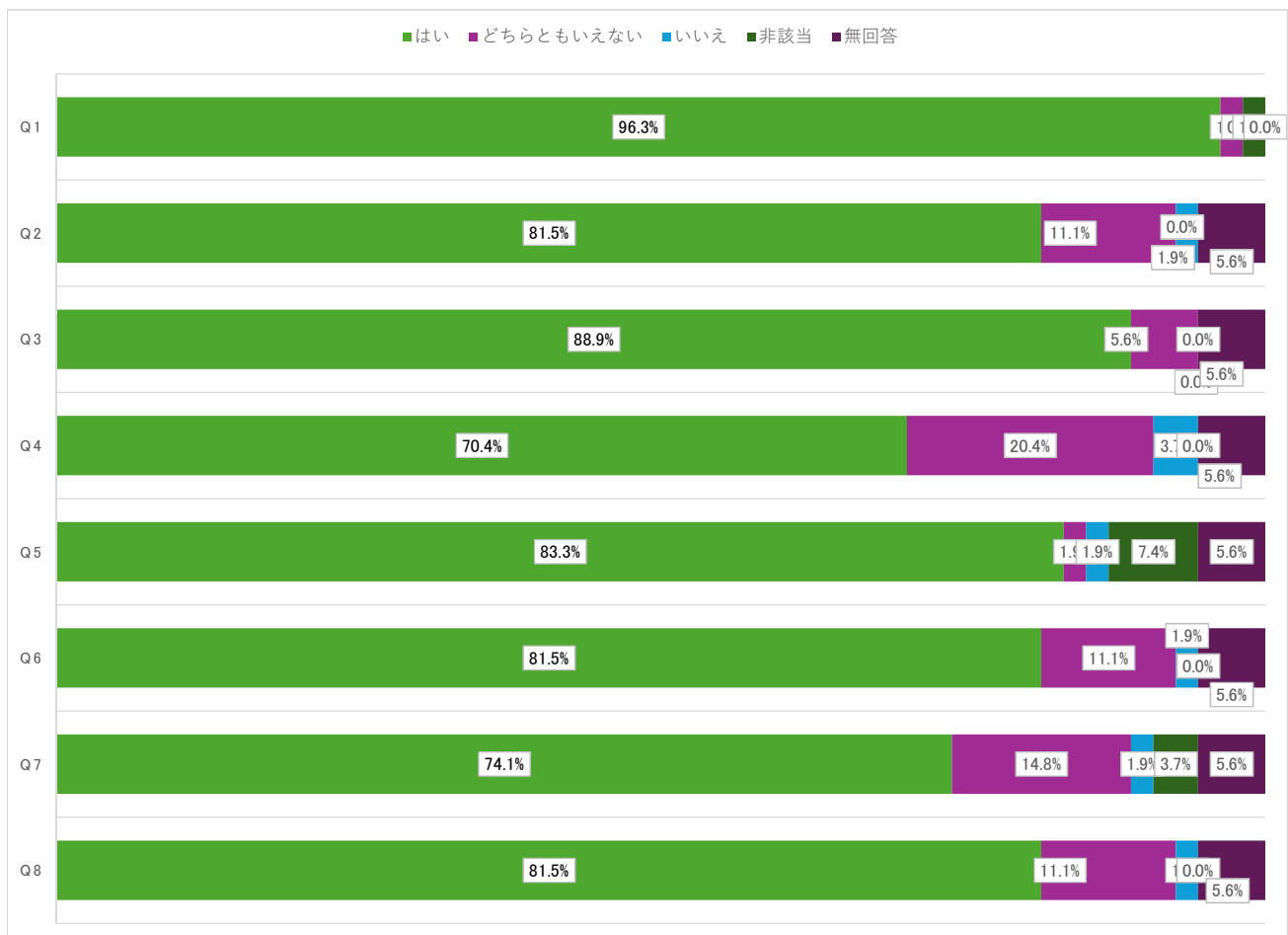
7. 阿佐谷北保育園

阿
佐
谷
北

7. 阿佐谷北保育園

<サービスの提供>

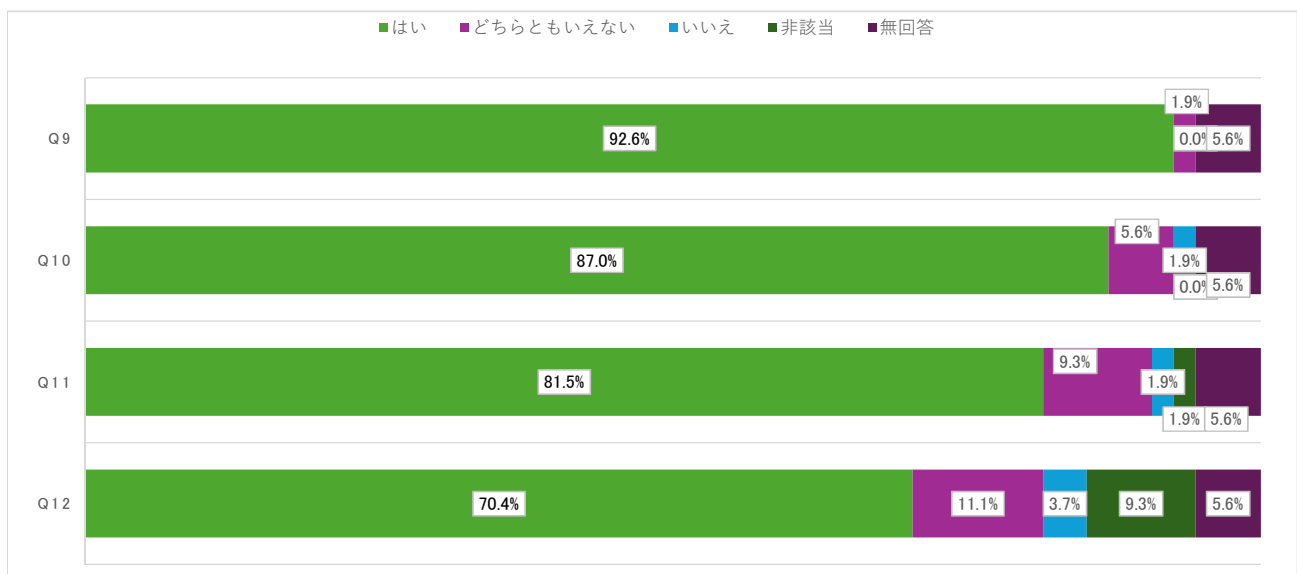
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	96.3%	1.9%	0.0%	1.9%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	81.5%	11.1%	1.9%	0.0%	5.6%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	88.9%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	70.4%	20.4%	3.7%	0.0%	5.6%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	83.3%	1.9%	1.9%	7.4%	5.6%
Q6	安全対策が十分取られている	81.5%	11.1%	1.9%	0.0%	5.6%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	74.1%	14.8%	1.9%	3.7%	5.6%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	81.5%	11.1%	1.9%	0.0%	5.6%



7. 阿佐谷北保育園

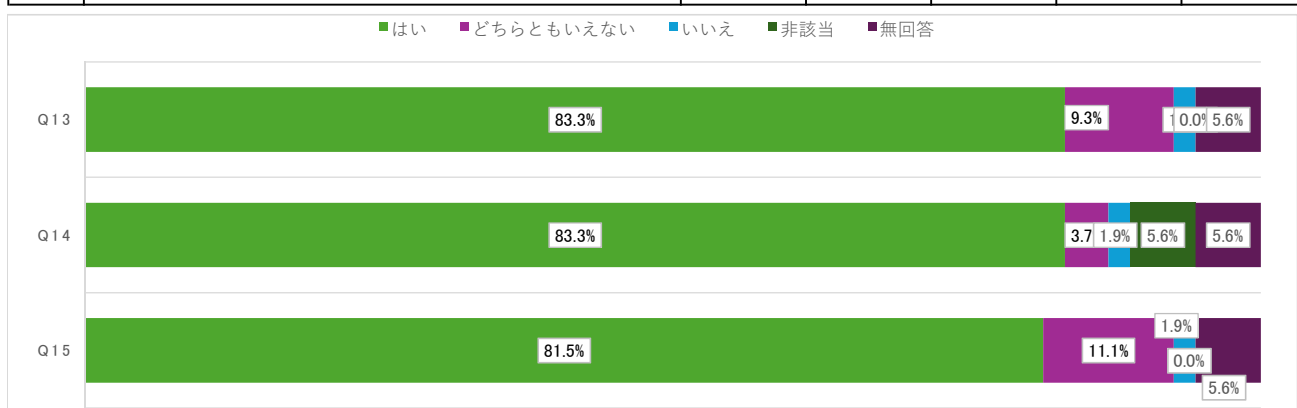
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	92.6%	1.9%	0.0%	0.0%	5.6%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	87.0%	5.6%	1.9%	0.0%	5.6%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	81.5%	9.3%	1.9%	1.9%	5.6%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	70.4%	11.1%	3.7%	9.3%	5.6%



<利用者個人の尊重>

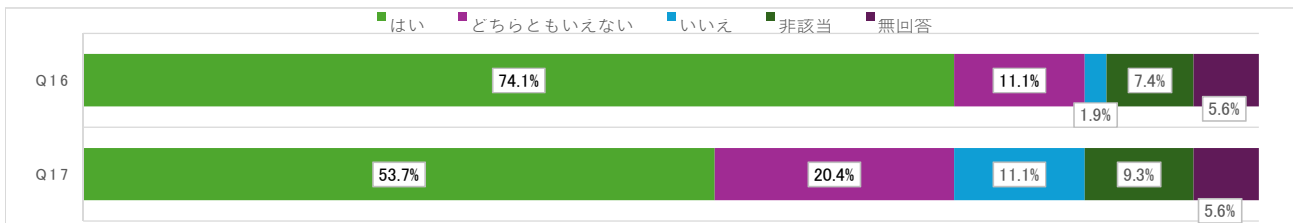
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	83.3%	9.3%	1.9%	0.0%	5.6%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	83.3%	3.7%	1.9%	5.6%	5.6%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	81.5%	11.1%	1.9%	0.0%	5.6%



7. 阿佐谷北保育園

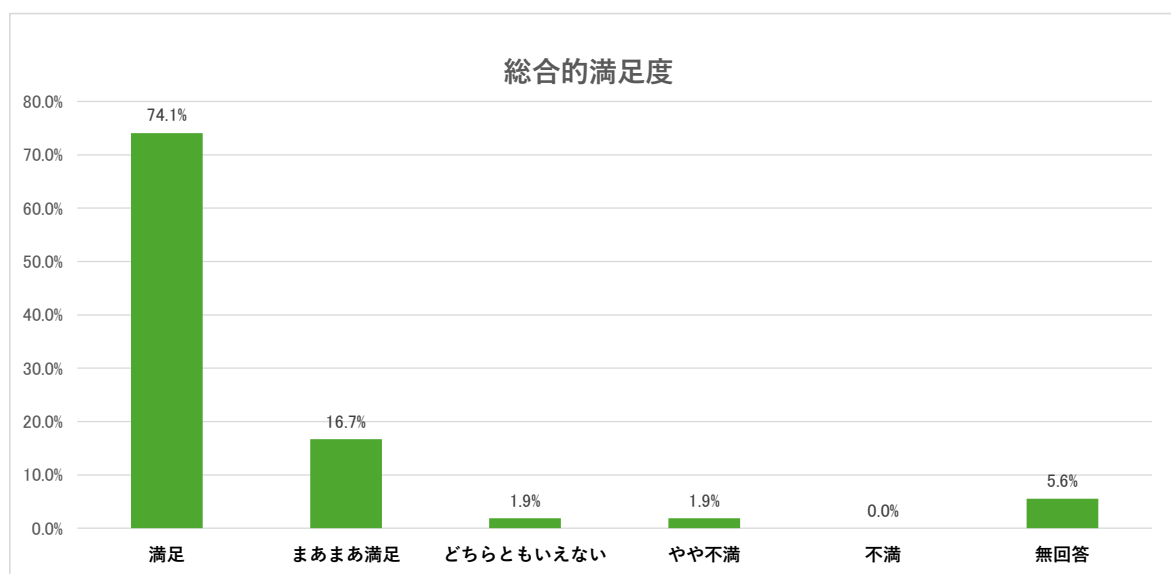
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	74.1%	11.1%	1.9%	7.4%	5.6%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	53.7%	20.4%	11.1%	9.3%	5.6%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	40	74.1%
まあまあ満足	9	16.7%
どちらともいえない	1	1.9%
やや不満	1	1.9%
不満	0	0.0%
無回答	3	5.6%
合 計	54	100.0%



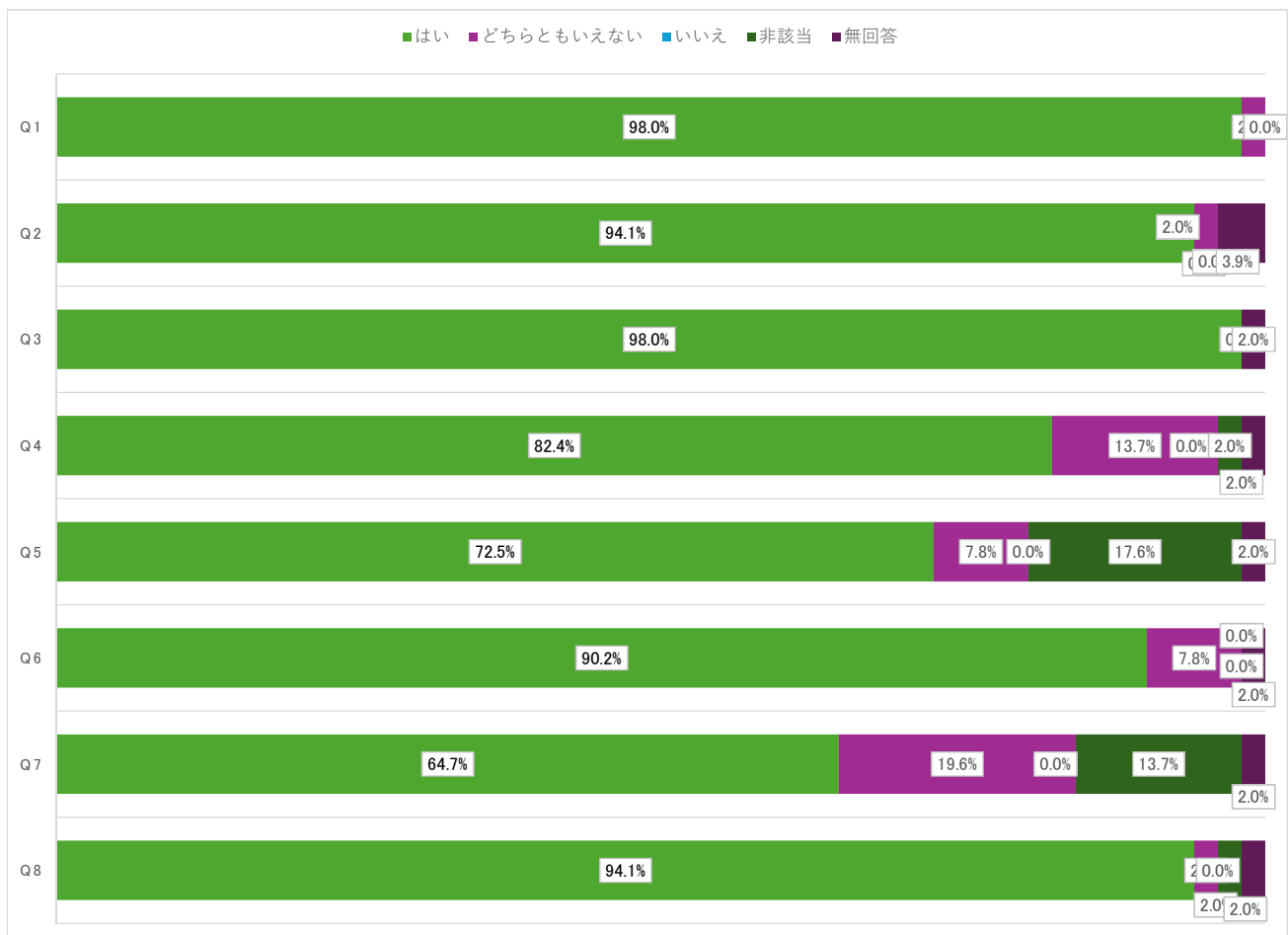
8. 今川保育園

今
川

8. 今川保育園

<サービスの提供>

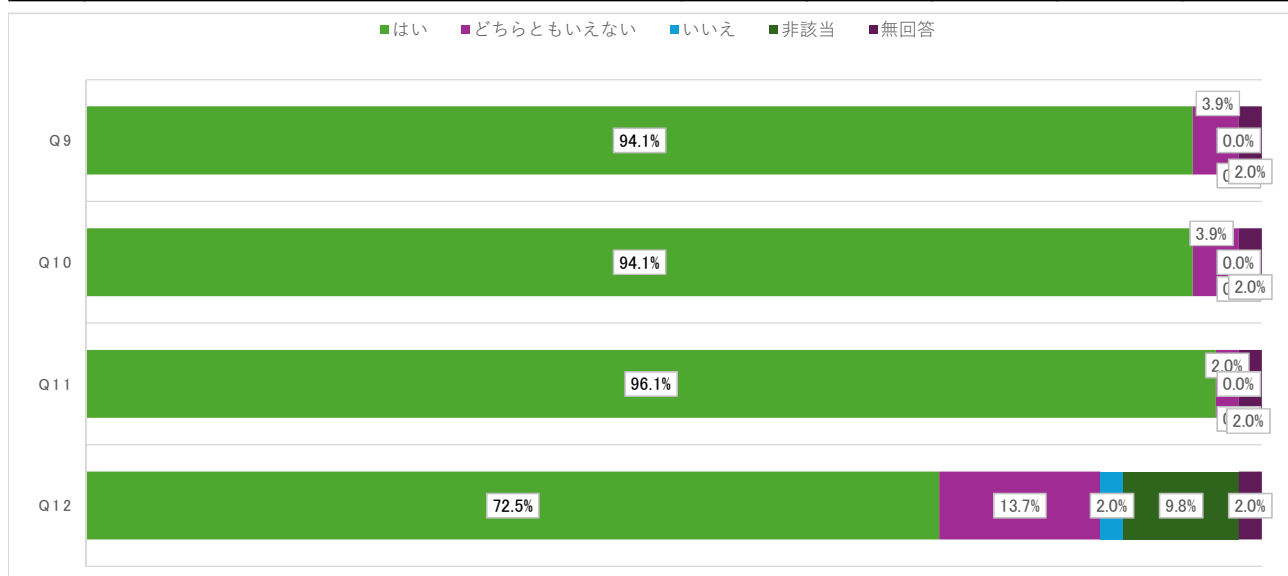
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている	98.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている	94.1%	2.0%	0.0%	0.0%	3.9%
Q3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている	98.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
Q4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている	82.4%	13.7%	0.0%	2.0%	2.0%
Q5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている	72.5%	7.8%	0.0%	17.6%	2.0%
Q6	安全対策が十分取られている	90.2%	7.8%	0.0%	0.0%	2.0%
Q7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている	64.7%	19.6%	0.0%	13.7%	2.0%
Q8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある	94.1%	2.0%	0.0%	2.0%	2.0%



8. 今川保育園

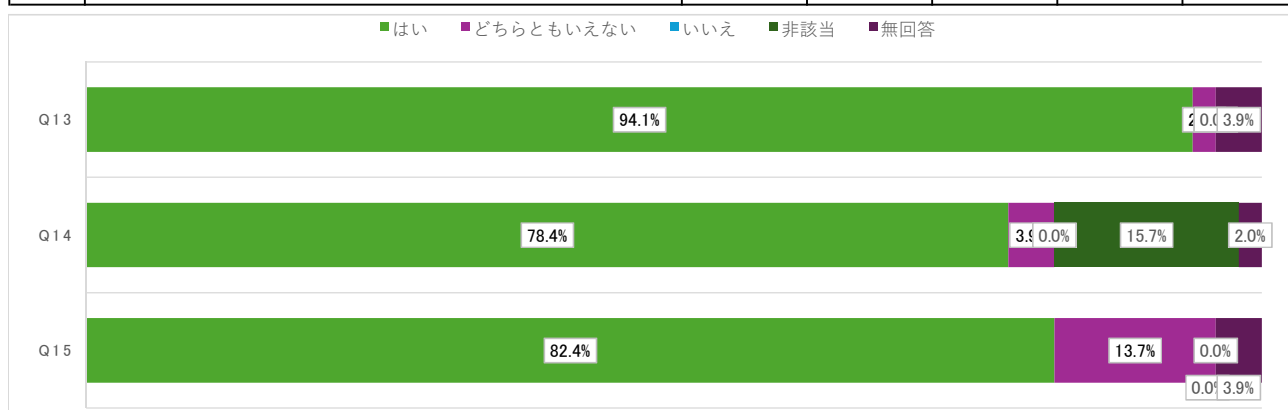
<安心・快適性>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q9	園内は清潔で整理された空間になっている	94.1%	3.9%	0.0%	0.0%	2.0%
Q10	職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である	94.1%	3.9%	0.0%	0.0%	2.0%
Q11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、 職員の対応は信頼できる	96.1%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%
Q12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の 対応は信頼できる	72.5%	13.7%	2.0%	9.8%	2.0%



<利用者個人の尊重>

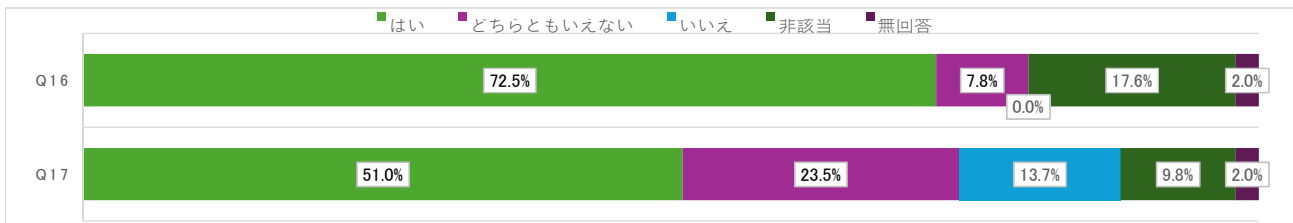
設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q13	職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている	94.1%	2.0%	0.0%	0.0%	3.9%
Q14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている	78.4%	3.9%	0.0%	15.7%	2.0%
Q15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい	82.4%	13.7%	0.0%	0.0%	3.9%



8. 今川保育園

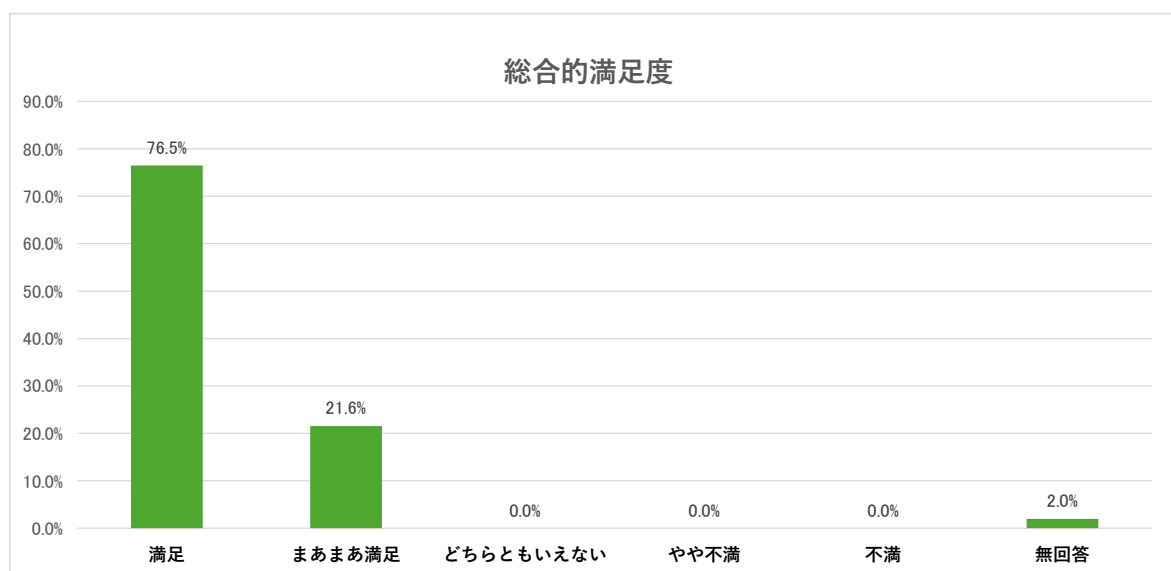
<不満・要望への対応>

設問 NO	設問内容	はい	どちらとも いえない	いいえ	非該当	無回答
Q16	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている	72.5%	7.8%	0.0%	17.6%	2.0%
Q17	困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）	51.0%	23.5%	13.7%	9.8%	2.0%



<当園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか（総合満足度）>

総合満足度	回答数	回答率
満足	39	76.5%
まあまあ満足	11	21.6%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
無回答	1	2.0%
合 計	51	100.0%



第 2 部 事業評価

1. 評価の概要

(1) 評価の目的

組織としてのマネジメント力がどのような状況にあるのか、また、現在提供されているサービスの質がどのような状況にあるのかについて、第三者評価機関が経営層及び職員の自己評価を事前に分析し、訪問調査を実施した上で、合議により評価を行った。

評価で用いるカテゴリーは、以下の通りである。

カテゴリー 1：リーダーシップと意思決定

カテゴリー 2：事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

カテゴリー 3：経営における社会的責任

カテゴリー 4：リスクマネジメント

カテゴリー 5：職員と組織の能力向上

カテゴリー 6：サービス提供のプロセス

カテゴリー 7：事業所の重要課題に対する組織的な活動

(2) 評点のつけ方

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価する。

評点基準 <カテゴリー 1～6>
評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとに付ける。 1 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す 2 ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。 3 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く
評点基準<カテゴリー 7>
「目標の設定と取り組み」「取り組みと検証」「検証結果の反映」については、確認できた内容（それぞれ一つ）が●で表される。 ○確認方法：事業者がそれぞれの重要課題について前年度に具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証した上で、今年度以降の目標設定や取り組みに反映しているかどうかの確認とする。

目標の設定と取り組み	○具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○具体的な目標が設定されていなかった
取り組みと検証	○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない場合を含む ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
標準項目	
○定義：東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。 ○確認方法：標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること	

（３） 訪問調査とフィードバック

評価者による訪問調査及び評価結果のフィードバックは、以下の日程で行った。

保育園名	訪問調査日	フィードバック訪問日
1.永福南保育園	令和6年10月	令和7年1月
2.和泉保育園	令和6年11月	令和7年1月
3.上荻保育園	令和6年10月	令和7年1月
4.荻窪南保育園	令和6年10月	令和7年1月
5.高井戸東保育園	令和6年10月	令和7年1月
6.松ノ木保育園	令和6年10月	令和7年1月
7.阿佐谷北保育園	令和6年10月	令和7年2月
8.今川保育園	令和6年10月	令和7年1月

2. 園ごとの評価結果報告書

園ごとの評価結果報告書は、それぞれ次の通りである。

1. 永福南保育園	53
2. 和泉保育園	83
3. 上荻保育園	113
4. 荻窪南保育園	143
5. 高井戸東保育園	173
6. 松ノ木保育園	203
7. 阿佐谷北保育園	233
8. 今川保育園	263

1. 永福南保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				福祉、経営	H2301066
	②				福祉、経営	H2201085
	③				福祉、経営	H2201084
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	永福南保育園					
事業所連絡先	〒	168-0064				
	所在地	東京都杉並区永福2丁目6番12号				
	Tel	03- 3323- 4151				
事業所代表者氏名	小川 望					
契約日	2024 年 6 月 19 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 26 日					
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 17 日					
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 26 日					
自己評価結果報告日	2024 年 10 月 7 日					
訪問調査日	2024 年 10 月 24 日					
評価合議日	2024 年 12 月 26 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 小川 望

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 理念 ○子どもがその子らしく健康に過ごせる保育園 ○恵まれた環境の中で、豊かな経験を通して生きる力を育む保育園 ○保護者や地域の子育てを支援する保育園 方針 ○一人ひとりの発達段階にあった適切な援助を行う ○四季折々の自然を五感で感じ、実体験を大切にした保育を行う ○保護者と協力して「共育て」を推進する ○遊びを学びのちからにつなげる保育を行う ○地域とのつながりの中で共に育ち合う経験をする 保育目標 ○愛され認められている喜びを感じ自分を大切にできる子 ○健康な心と体を持った子 ○自然に親しみ豊かな感性・感動する心 ○自分で考え行動できる子
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子どもの最善の利益を最優先に考え園運営をしている ・子どもの育ちを理解した職員＝日々の保育の中で保育の向上を常に考え、子どもの育ちを捉える力を持つ人材。 ・子ども一人ひとりの発達を捉え、愛され認められる関わりを通し、自己肯定感を育む保育実践ができる人材。 ・子ども一人ひとりの発達・個性に応じた適切な援助ができる人材。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・自園の保育の質向上の為に保育の振り返り、課題を抽出し対応していくスキルを高め、実践に活かせる職員。 ・保育活動の中で子ども達の学びや発見をキャッチし、援助できる職員。 ・様々な背景を持つ家庭や個性を理解し保護者に寄り添うことができる職員。 ・常に安心安全な保育を基本に危機管理意識を高めあえる職員（報告・連絡・相談） ・円滑で効率の良い事務分担の中で責務を果たせる職員。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

97

利用者家族総数(世帯)

84

共通評価項目による調査対象者数

84

共通評価項目による調査の有効回答者数

51

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

60.7

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」 70%、「まあまあ満足」 28%、計98%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてののみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	50	1	0	0
回答者の98%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	48	1	0	2
回答者の94%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	42	7	1	1
回答者の82%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	47	3	0	1
回答者の92%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	35	8	1	7
回答者の69%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	43	5	2	1
回答者の84%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	39	7	1	4
回答者の76%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	7	1	2
回答者の80%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	46	4	0	1
回答者の90%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	44	5	0	2
回答者の86%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	47	3	0	1
回答者の92%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	35	11	1	4
回答者の69%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	8	0	2
回答者の80%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	2	0	7
回答者の82%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	42	8	0	1
回答者の82%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	34	6	1	10
回答者の67%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	23	13	6	9
回答者の45%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知している 年間の目標を立案するにあたり、各クラスが園目標などの確認をして話し合う機会を設け、年度の最初に児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を全職員で確認している。年間の各クラスの重点項目を発表する場を設け、日常保育で大切にすべきことを共有している。理念や目標などは園内に常時掲示しており、すぐに目に触れることにより職員も基本に立ち返ることができる。年間指導計画を作成するにあたっては全体的な計画を基本としている。新入園児説明会や各クラスの保護者会でも保育目標や理念などについて保護者に説明している。		
	職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づいて園長自身も具体的な年間計画を作成し要所において役割を共有し展開している。自らの役割と責任を職員に伝え、職員の意見を集約して方向性を示し、リーダーシップを発揮し目標実現のために園運営をリードしている。保育の質の向上に向けて園長・主査・向上リーダーの4本柱で定期的に話し合い課題の洗い出しを行い、課題解決につながる学びを得ることを目指した園内研修を計画・実施している。		
	決められた手順に則り必要な情報が必要な人に届くように最適な方法で周知に努めている 重要な案件については、事前に職員全体にその経緯を説明し、資料の提示を行い周知している。案件によっては職員会議で討議をし検討後に決定する。毎日ミーティングを行い日々の連絡や確認事項など漏れのないように確認し、内容に応じて、できるだけ迅速に周知するように努めている。会計年度任用職員に対しては、ミーティングやヒアリングを行い、必要な情報を伝えるなど個別に対応している。保護者には、園での決定事項や情報について園だより、すぐメール、園内掲示などを活用し伝えている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確証し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリー2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 園では、登降園時の会話や連絡帳等から保護者の要望・希望の把握に努めている。保護者会や個人面談でも、園への要望を聞く機会を設けているほか、「ハートキャッチボックス」も設置している。職員とのヒアリングを行い意向を把握し、園の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。また、地域子育てネットワーク会議や地域懇談会、職員交流などの中核園事業、近隣の大塚ろう学校との交流を通して地域の福祉の現状についての情報を収集しニーズを把握し園運営に反映している。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。中核園事業では、恵まれた環境を活かし地域住民や近隣施設に園庭を利用してもらうなど積極的に取り組みに関わりながら地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングでできるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参加して、情報交換を行い顔の見える付き合いが継続できている。 目標の達成に向け見直しを行いながら計画の実行に取り組んでいる 年度末反省をもとに、係の目標シートを職員と共に作成して園内での取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。園運営については、中間反省を行い課題を明らかにし後半へ向けて、プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。保育についてクラスで話す時間が取れるよう、毎週行われていた定例会議を月2回に変更した。それにより職員もより目的意識を持ち、会議をより有意義な時間にして成果を上げるために議題の選択や進捗を考え、各々が事前に準備をして意見をまとめ、会議に臨んでいる。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 全職員に向けて、社会人としてまた福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を周知するために保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設け、公務員倫理や規範について繰り返し伝えている。年度当初に会計年度任用職員とヒアリングを行い、誓約書の読み合わせを行っている。子どもに対する行動や言葉の選択など事例から学ぶ機会を作り、適切な保育についての振り返りや守秘義務などを確認をしている。虐待が疑われるような情報を聞き伝えた際は速やかに園長に報告し、必要に応じ関係機関に報告し連携を取り迅速に対応できる体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている 保育園入口に「永福南保育園へようこそ」の掲示をしており、いつでも来園できることや園庭開放など園の子育て支援の取り組みを見える化している。園見学時には、活動の様子を話すだけでなく、実際に子どもの姿を見てもらいながら、保育者の関わり方や他の職員と触れ合う様子、自然豊かな園庭での活動など、普段の園生活を見てもらう機会を設けて情報を開示している。また、利用者の意向に対して、園長は苦情受付・解決責任者としていつでも相談対応できる体制を備えていることを「重要なお知らせ」に記載し、入園説明会でも伝えている。 園が様々なネットワークに参画して地域の一員としての役割を果たしている 中核園事業の中で地域の課題を検討しながら、担当年齢別の担任交流や園児の交流を行っている。地域の子育て世帯や園庭のない保育園、小規模保育施設などに、園庭開放や子育て相談・身体測定の実施など身近な相談窓口として関わり、地域のニーズに向けた取り組みを行っている。また、地域で行われているネットワーク会議や講演会等に参加し、看護師や栄養士などの専門性を活かした内容を盛り込んだ交流会を行っている。永福小学校地域子育てネットワーク事業「にこパラまつり」に参加し、地域子育てネットワークとしての関係を作った。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定しており職員にも周知している。リスクに対する園内対応を、常に話し合い具体的な行動については職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して役割分担をし、リスク管理をしている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、洪水、不審者対応等、様々な想定で非常時に備え訓練を実施している。訓練には消防や2階の学童クラブにも協力を得ている。訓練後は実施した内容や反省、課題の抽出を行っている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりで伝えている。入園の際には、保育園のしおりや、「大地震発生！保育園はどうなるの？」を配付して災害時の園の対応を知らせている。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めた怪我などについては、原因の分析、振り返り、対応策を検討し職員全体で情報を共有して再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権等の設定をしている。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努め、個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、職員のダブルチェックを徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認者は機器類の数の確認を行い戸締りチェック表に記入している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園と連携を取りながら人材確保を行っている。採用後にはOJTによる配置園での計画的な指導のほか、専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらスキルとキャリアを積み上げている。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組む意欲につながるように周知している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 保育課実務研修の受講計画や園内研修の計画、ライフプランや業務改善計画の立案を行い、中・長期を見据えた人材育成計画を策定している。それにより、区の目標申告シートを活用してヒアリングを行い、職員の状況を踏まえ、職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など、勤務形態に関わらずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には長期的人材育成計画に基づいて育成を行っている。育成担当が適切な指導ができるよう、担当者研修などの仕組みを整えている。育成は、担当職員だけではなく園全体で行っていく方針・姿勢を実践している。 チームワークを活かし、保育の実現を目指す取り組みが組織力の向上につながっている ワーク・ライフ・バランスを意識し、時間外勤務軽減に向けて体制を組んでいる。休暇取得については全体のバランスを見ながら希望を受け入れている。また、職員の特性や特技を活かし保育のリーダーを任せたり、プロジェクトなどで役割を担わせ、職員のモチベーション向上につなげている。定期的に園内研修を実施し、園の課題や保育について少人数グループで一人ひとりの意見を出し合えるようにしながら園の目指す保育について連携している。クラスを超えて子どもの成長のエピソードなど共有できる職員間の良い雰囲気が保たれている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
		サブカテゴリー1(7-1)	
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
		評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 豊かな環境を通して遊びから学ぶもの・学ぶ事を通じ、子どもへの具体的な対応を検討し、保育の質の向上を目指したいと考えた。広さのある園庭では、子どもがすぐに触れられる自然物も多く、四季折々の自然を五感で感じる恵まれた環境を活かしながら、実体験を大切にしながら保育を進めてきた。その中で、子どもが主体的に遊ぶ環境づくりをさらに具体化し、落ち葉プールや築山をつくり、実際に手で触れ、見て感じる事ができる経験を大切に実践を重ねてきた。	
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
		評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 遊びの実践を通して子どもが生きる力を育むためには、実体験を大切にしながら豊かな経験ができることが大事であると改めて学ぶことができた。保育方針や保育目標とのつながりを意識し、実際に体験できる保育の活動を展開するように職員の考え方も定着してきている。実際の遊びの中から理解を深め、子どもの様々な体験活動を見守り、援助していく保育につなげている。これまでの取り組みの振り返りを行うことで、園の環境を活かした、今後の保育のさらなる質の向上を目指したいという、職員の思いを強くしたことが組織全体の向上にも結びついている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

豊かな環境を通して遊びから学ぶもの・学ぶ事を通じ、子どもへの具体的な対応を検討し保育の質の向上を目指したいと考えた。園庭開放や身体測定、ふれあい保育の受け入れをスタートし、地域の子育て支援活動を広げた。中核園事業では、職員交流や子どもの交流を実施し、地域の保育施設と共に学び合い保育の質の向上につなげた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みを通じて、地域における区立保育園の役割を職員が理解し受け入れ、地域の子育て支援の役割を担う事ができた。中核園事業では、職員交流や子どもの交流を通して近隣保育施設への理解と共に、区立保育園の役割の理解にもつながっている。今後さらに区立保育園が、地域子育て支援や中核園事業に積極的に関わりながら、様々な課題に引き続き取り組むことが明確になった。それは、より良い保育の実現を目指し、様々な課題に取り組み、園内研修などで学びを継続していく考えであり、園全体の保育を深め、より良くしようとする意欲が見て取れる。

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評価 標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」や保育施設ガイドなどで園の情報を発信している。ホームページには園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標など記載されている。地図も掲載して、駅から園へのアクセスルートや周辺情報のイメージがしやすいようになっている。掲載している画像は、園庭の様子や畑エリアの環境を入れて園の特徴が伝わりやすいものにしている。外国籍の方への情報提供は、ふりがなやカタカナ表記などそれぞれ選択できるように備え、わかりやすい方法で援助できるように対応している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課には中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについての報告や必要なやり取りを常に行い園の現況を発信して共有に努めている。地域の懇談会等に参加して情報交換すると共に研修や行事など取り組みへの参加を通じ、地域とのつながりと連携を図っている。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 園内見学は個々の要望に応じて日程を調節し、当日は30分～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。個別に希望があった場合、対応できる範囲で日程の調整に応じている。園内環境を見てもらいながら、例えば入園時に準備が必要な持ち物や、保護者参加の行事や園として取り組んでいること、大切にしている点などを伝え、理解を図っている。地域に向けての取り組みがわかる「永福南保育園にようこそ」を手渡し、身体測定や園庭開放、ふれあい保育など気軽に参加できるように誘っている。電話による子育て相談の体制も備えている。		

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活に安心できるようにしている 新入園児は保育開始前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別に保護者と面談を行い子育ての意向などを聞いている。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態等、保育に必要な子どもに関する情報を把握して記録している。「永福南保育園のしおり」「重要なお知らせ」などを配付して、基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し同意を得ている。途中入園児には、その都度同様の説明を行っている。形態食や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 園長は、家庭連絡票をもとに保護者と就労状況や意向を相談して、入園当初は短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育は、子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらい、保護者の不安を軽減し子どもが園の環境に慣れて過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように次の生活へ向け声をかけいつでも相談できることを伝えている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行への支援のため、子どもの情報提供ができるように体制を備えている。就学に向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。保育所児童保育要録に記載の内容は個人面談で保護者と共有し、提出して育ちの連続性を保障している。担任が記入した保育所児童保育要録を他職員も読み込み意見を出してもらい、多くの視点からとらえた子どもの姿を就学先に引き継いでいる。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊び等、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項は、朝夕保育表に記載し、必要に応じてミーティングで伝達し、園日誌に記載して園長や担任間で共有している。毎月の指導計画で前月の姿を振り返り、良い点や改善点など気づきや意向などを記録し次月の計画策定に活かしている。 「全体的な計画」を基に、各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 園では全体的な計画を基に、年齢別に年間指導計画、月間指導計画を作成している。年間指導計画は養護・教育の領域を考慮し、週案では具体的な活動を計画して随時保護者にも知らせている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては個別に指導計画を作成している。日々の記録は保育日誌・連絡帳・開示日誌に記載している。子どもの成長の過程は、指導計画、個人記録のほか、年齢ごとに定められた期間に児童票に記載している。各指導計画は月ごとに前月の姿を振り返り、クラスや園全体で意見を交わし見直しを行っている。 子どもの状況など職員間での共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 新年度最初の保護者会では、園の全体的な計画や各クラスの保育について各年齢の発達や保育についてわかりやすく作成して配付し、説明を行っている。全クラスが出入りする玄関に、その月の保育のねらいと対応について掲示している。クラスだよりも掲示し、子どもの現在の姿を伝えながら保育のねらいを踏まえた対応を記載し、保護者との共有に努めている。日々の子どもの様子は朝夕保育表や保育日誌に記録し、毎日のミーティングで保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、怪我の報告など連絡事項を確認し確実に情報共有している。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いについても説明している。留意事項などについては区担当部署からの説明書類も提示している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の同意を確認して対応している。保護者に説明する内容量が多いため、説明内容を確認しやすいように園のしおりは毎年見直し、改善してよりわかりやすくするために検討している。職員の意識を高め、個人情報の取り扱いに留意して保育が提供できるようにしている。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 着替えの時にはカーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい着替えを指導し、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。4、5歳児クラスのシャワーはシートで仕切りを作り個別のブースを作って行っている。2歳児クラスのトイレには、便座横に衝立を置き、幼児トイレには、ズボンなどの着脱用に衝立を設置している。看護師は健康教育でプライベートゾーンについて話し、子ども自身が意識できるよう支援している。子どものプライバシー保護は職員間で共有されており、適切な対応が守られている。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 子どもの人権に配慮した保育や適切な保育について、園内研修を行い職員全体で考えたり、研修報告で職員周知し保育に反映させたりしている。また、保護者の意見に耳を傾け、様々な国や家庭の価値観に配慮した個別の対応を行い保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守るための課題について区関係機関が実施する研修への参加を促している。必要な研修を受講しそこで得た内容や知識を話し伝え、会議の中で学びを共有し倫理意識を高め、会計年度任用職員も含め全職員が理解を深めている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きが備えられている。保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園独自の業務マニュアルを作成し年度末には全職員で見直しを行っている。緊急時に必要なマニュアルは抜粋して園日誌、土曜日保育日誌、延長日誌に綴り誰でも確認できるようにしている。わからないことがあれば各自すぐに確認ができるようわかりやすい所定の場所に備え活用している。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人配付している。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 区立保育園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して見直している。園独自の「園マニュアル」は年度末に反省を行い、項目ごとに確認見直しをして更新している。人の入れ替わりや子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時など、必要な見直しは時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要なことを周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる 園マニュアルを作成し、サービスの提供について職員間で統一した対応を行うよう注意している。子どもの姿を反映した保育ができるよう指導計画を立て、保護者から寄せられた意見についてはその都度検討し、丁寧に対応している。医療的ケア児の受け入れマニュアルの内容や医療的ケア児の対応について問題が生じた時には関係医療機関へ連絡確認し、保育課と連携した検討結果を会議で伝えて全体周知している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 年齢や発達に合わせて玩具や教材などを用意し、安全面へ配慮しながら子どもが主体的に興味を持って「自分で考えて行動できる」環境を整え、定期的に環境改善に取り組んでいる。積み木遊びなどは翌日も続きができるように園全体で協力して取り組んでいる。子どもが手に取り使いやすいように遊具を配置し、室内環境も子どもの興味関心を広げるよう工夫をしている。日常の保育で幼児クラスが異年齢交流保育の機会を設け関わりを深めている。発達に応じ設定を変えたり、乳児クラスも園庭などで他クラスとの関わりが自然に持てるようにしている。 配慮を要する子どもに対し、職員が共通認識を持ち必要な対応ができるようにしている 個々の子どもの特性を理解し、個別配慮をしながらクラス内でお互いが充実した時間が持てるように体制を確保し援助している。巡回相談や巡回指導、医療的ケア研修を通して職員が障害児や要配慮児についての捉え方を学び理解を深めている。関係機関より、園での支援について考え方や実際の対応などアドバイスを受け、保育に活かしている。安全面に十分な配慮を行いながら、障害を持つ子どもと他の子どもが同じクラスの仲間として一緒に過ごしている。園として全ての職員が配慮を要する子どもに共通認識を持って対応できるよう取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を考え、より良い援助ができるよう努めている トラブルの際には、まず子どもの思いに寄り添い、それぞれの気持ちを聞き取り仲立ちをしている。4、5歳児には、子ども同士で解決策を探れるような言葉がけをし、危険のないように注意して状況を見極めながら必ず見守り、子どもの気持ちを尊重した対応をしている。保護者にも子どもの心を伝えることを意識し保護者の視点に立ち状況を説明するよう努めている。また、保護者会で近隣小学校の校長より話をしてもらったり、幼保小連携事業で5歳児が小学校の行事に参加したりする機会があり、円滑な接続につながっている。	

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当		
評価	標準項目																	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当																
	評価項目2の講評																	
	基本的な生活習慣の確立の大切さを保護者に知らせ理解を得るように努めている 朝の登園時には挨拶を交わし、視診を行い毎朝保護者に体調・機嫌などについての聞き取りをし、朝夕保育表に記載している。乳児クラスは連絡帳を活用し、幼児クラスは口頭で子どもの様子などを聴き取り、連絡や引継ぎ事項を確かめ、確実に伝えている。園では、指導計画をもとに基本的な生活習慣の確立に向け、子ども一人ひとりの身体機能の発達に合わせた取り組みを行っている。家庭と連携して同じ対応ができるように保護者会資料や保健だより・クラスだよりなどで情報発信して生活習慣の大切さを知らせている。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息が取れるようにしている 長時間保育で過ごす子どもの生活に必要な休息時間を保障できる環境を整えた上で、午睡時間は個々の状況に配慮している。0歳児などはまだ生活リズムが定まっていないため、連絡帳や保護者の伝言を参考にして、午前睡や午睡など時間を配慮し個別対応をしている。なかなか寝付けられない場合には少し横になり体を休ませ休息を取り、早く目覚めた場合には、起きて静かに過ごせるようにし、別室で遊ぶなど対応している。年長児は、クラスの状況や個々の子どもの様子に応じ配慮しながら、就学前に少しずつ午睡時間を減らしていくようにしている。 降園時にはその日の保育の様子やエピソードなどを保護者に伝えている 園日誌、延長保育日誌には子どもの既往症やアレルギー状況、配慮事項をファイリングし、万一の場合すぐに職員が対応できるようにしている。乳児クラスは、個別の連絡帳を活用し保護者からの家庭での様子に返事をするとともに、園での日中の様子を記し、伝えている。幼児クラスは、開示日誌を活用してその日の子どもの状況がわかるようにしている。降園時にはできるだけ子どもの様子をひと言でも口答で伝えるよう心がけている。場合によっては、担任や園長が直接対応している。																	

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		
	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付く、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		
評価項目3の講評				
子どもが遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 乳児クラスは、それぞれ室内のレイアウトを工夫し、子どもが遊び込めるコーナーづくりなど環境設定を工夫している。特別室を活用して少人数で落ち着いて遊べる空間を確保している。幼児は戸外遊びの時間を十分取り、遊びを自発的に見つけ子ども自身が展開する時間を確保している。活動を計画的に進め、楽しさを知らせながら興味を持った子どもから始め、徐々に自分から関わるができるようにしている。また、対話的保育を心がけ、子どもの言葉や思いをくみ取り環境を整え、全体の活動に広げて集団活動に参加して楽しめるようにしている。 素材や自然物に実際に触れ合い体験的に楽しめる園内環境を工夫した遊びの機会がある 環境プロジェクトが中心となり、子どものやってみたいが実現できるような環境や遊具を整えている。子どもの発想を大切に保育を展開し、見守りながら安全管理を行っている。自由に表現したり製作できるような空き箱や紙などの素材やごっこ遊びに使えそうな材料を準備したり、子どもが楽しめる環境を整えている。リズム遊びでは、音楽に合わせて自分の身体を使って感じた動きの表現を体験している。戸外では、豊かな園の自然環境を活かし、築山や落ち葉プールを整えたり、ロープワークや縄ブランコなどを設定し子どもが体験できるようにしている。 子どもがきまりの大切さについて考え、自分の気持ちを調整できるよう援助している 生活や遊びの場面を通じて、年齢に合わせてルールやきまりの大切さを知らせている。気持ちの切り替えが難しい時には、年齢や時期による成長発達の特徴のひとつと受け止め、子どもが選べるような選択肢を提案したり、落ち着くまで気持ちに寄り添ったりしている。手洗いや片づけなど、遊びや生活の習慣から守るべききまりの必要性を知らせ、子どもがきまりの大切さに気付いて、自分の気持ちを調整する力を育めるように働きかけている。子どもが安心して関われるように保育者は見守り、子どもの思いに応えるよう援助している。				
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		
	評価項目4の講評			
	行事は楽しく取り組める内容となるよう子どものアイデアを取り入れ工夫している 子どもの姿や発達を捉え、子どもが興味・関心を持っていることを取り入れながら、子どもの声が行事につながるような働きかけをしている。行事へ取り組む過程では、子ども自身が見通しを持ち、達成感につながる活動となるよう子どもと相談しながら進めている。どうすれば楽しいことを実現できるか、子どもも保育者も楽しみながら行事を作り上げ、取り組みのプロセスを大事にしている。また、保護者や地域との協力を得られる関わりがあり、七夕では近隣の方から笹を頂き願い事が叶うよう笹送しも経験した。保護者にも行事の様子を伝えて共有している。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 行事に取り組む際には、プロジェクトを立ち上げて係を中心に話し合いを重ね、ねらいや経験させたいことを職員間で確認しながら進めている。「うんどう会」では子どもがイメージを共有して表現を楽しみ、力を合わせひとつのものを作りあげる経験ができた。夏まつりは、5歳児が計画してお店屋さんを出し、他クラスを楽しませる活動や神輿を作成して練り歩きを行った。また、子どもの発案から話し合いを行い、やりたいことや目標を決め、みんなで協力し達成感が味わえるような行事を実施している。 行事の様子は、保護者にも伝えて取り組み全体を共有し理解を得ている 行事の持ち方について、現在関わっている子どもの興味・関心や発達段階に合っているか、何を経験させたいのか、ねらいについても話し合い職員間で共有している。行事に向けての取り組みの様子を、園だよりやクラスだより、開示日誌で保護者に伝えている。保護者会では、年間の行事の取り組みの予定について説明し、ねらいや見通しを伝えて理解や協力を得るようにしている。保護者に対して、自分の子どもだけに目を向けるだけでなく、他の子どもや他クラスにも関心を持てるように今後も積極的に発信して園の保育の理解につなげたい。			

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている ☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている ☐ 非該当		
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが、落ち着いて過ごせるように配慮し、少人数でゆったりと過ごす時間を持てるように、特別室(しろくまルーム)やホールを活用してグループに分かれて保育を行うなど工夫している。特に0、1、2歳クラスは遊び布団を活用し、室内にゆったりとくつろげるコーナー設定をしている。朝夕保育補助に就く会計年度任用職員はクラスごとに固定し、クラスリーダーがそれぞれのクラスの特性や子どもとの関わりで大切にしたいことなどを話し合い確認する時間を持ち、個々の子どもに合わせた個別配慮ができるようにしている。 子どもの部屋移動を少なくして、落ち着いて過ごせるような工夫をしている 夕方の保育ではできるだけ自分のクラスで過ごすようにし、合流の時間は子どもの年齢、人数や状況に合わせて、年度ごとに確認し体制を決めている。年度途中であっても状況の変化に合わせて随時確認・検討し、子どもにとって負担が少なく、ゆったり過ごせるように体制を考えている。延長保育の利用者は少なくなっているが、保育時間の長い子どもが寂しい気持ちで迎えを待つ時間とならないよう工夫し、朝夕保育の時間帯用の遊具を用意して提供するなど対応している。個々の姿に配慮し、くつろげる環境を提供し、どの子どもも安心して過ごせるように工夫している。 朝夕の保育は異年齢児がゆったり関わり自然な形で子ども同士の良い関係ができています 日々同じような顔ぶれで、朝夕の時間を過ごしている子ども同士が、日中の保育の中でも自然な形で触れ合う姿が見られる。保育時間の長い子どもは自然な形で異年齢児保育を体験し、日中も互いの存在を気にかけて挨拶や声をかけたり、姿を見つければ嬉しそうな表情を交わしたり兄弟姉妹のようなつながりができている。幼児は、戸外遊びと室内遊びのバランスを取りながら、メリハリのある保育を行っている。午後のおやつ後も庭で遊ぶことが多い。夕保育用に玩具や制作素材を用意し、子どもの興味や意欲を引き出す保育を心がけている。			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している ☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている ☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している ☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている ☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている ☐ 非該当	
評価項目6の講評			
落ち着いた食事環境の中子どもが楽しく食べられるよう工夫している 給食は、栄養バランスを考え、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理し提供している。子どもの成長に合わせて調整したテーブルと椅子を使い、決まった場所で安心して食事ができるようにしている。必要に応じて食形態の進捗会議を行い、子どもの発達に合わせた形態の食事を提供している。食事量は、子どもの様子や意欲を見ながら決め、無理なく進めている。特に乳児期は味覚が過敏であるため、家庭の形態と給食の形態に差がないように注意して、保護者との連携しながら進めている。 アレルギーや体調に応じた食事については誤食のないよう細心の注意を払い提供している アレルギー児はアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いなどにより食事提供について対応が必要な場合は、食物除去申込書を保護者から提出してもらいマニュアルに則り、除去または代替食で対応している。前月に保護者と献立表および成分表のチェック項目を確認し、食材の確認をしている。アレルギー児などの給食は、前日に全体のミーティングで除去食について確認し個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員で原因食材の除去食または代替食を目視、口頭で確認してから配膳している。必要な手順や対応は、全職員が共通理解して対応している。 野菜の栽培や調理体験など食育の取り組みを通じ食への興味・関心を深めている 給食日よりでは季節に応じた食材やメニューの紹介、食にまつわるトピックスを保護者向けに発信し、給食の簡単なレシピも紹介している。年齢や子どもの様子に応じ、ランチプレートで提供したり、行事に合わせて会食を行ったり、ラップおにぎり作りやセレクトおやつ、栄養士による食育を定期的に行い、楽しく食べられるよう取り組んでいる。また、食の知識や食材の変化を伝え、収穫物を調理して食べる経験も行っている。特に給食の残量が多いクラスに向けては、野菜の栽培を通して食材への興味を持てるよう働きかけを引き続き工夫したい。			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当						
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当																	
	評価項目7の講評 子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守れるように働きかけている 「健康な心をもった子」を園目標に掲げ、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守ることや、病気や怪我に対する意識を高められるよう年齢に合わせた計画に盛り込み実践している。子どもがわかる言葉で、生活やあそびの場面での体験を通じ、わかりやすく伝えることを心がけ、様々な健診を通してクラスごとに話している。事務室には、緊急対応や嘔吐処理法などのマニュアルを手に取りやすい場所に用意して職員が速やかに対応できるよう備えている。 専門機関との連携のもと、適切な対応ができる体制を整えている 区立保育園における医療的ケア実施ガイドラインに基づき、医療的ケアが必要な子どもや、障害児指定園として在籍する支援の必要な子どもへの配慮や特性を理解して、共に育ち合う保育を日々実践している。医療的ケア児の主治医への通院同行を行ったり、医療機関が実施したオンライン研修に参加したりしている。主治医の指示書に基づいたフローチャートを作成し、それに従って医療的ケアを実施している。区の指導医が実施する研修を園全体で受け、疾病についての理解を深めている。また定期的に巡回相談の場を設け経過を伝えている。 保護者と連携して、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 乳児クラスは連絡帳を活用し、健康状態の共有を図り、幼児クラスは登降園時に直接保護者に健康状態を確認して把握している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については、年度当初にチラシを配付して周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面接で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達や四肢を使った遊びやの様子を紹介し体づくりについて考える機会となるよう保護者へ具体的に伝え、家庭の理解と協力と連携を図っている。																		
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当																	
	評価項目8の講評 保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時の面接や、入園後の個人面談の情報から保護者の個々の事情を考慮し、園ができる範囲で必要な支援を行っている。送迎時には、連絡事項だけでなく日中の活動の様子や日々の姿を伝え子どもの姿を共有している。開示日誌は画像を入れ、わかりやすく示している。保護者会や個人面談では、家庭での姿を聞き取りながら、心配事や課題について一緒に考えている。送迎時に声をかけ、連絡帳からも保護者の悩みや困りごとをキャッチできるように努め、相談事には当日答えたり、面談の日程を確保したりできるだけ迅速な対応に努めている。 子どもの発達や育児などについて保護者と共通認識を持って保育に取り組んでいる 保護者会では年間の保育計画をもとに子どもの発達、園の保育について説明し、共通認識を持てるようにしている。保護者会では日常の様子を画像や動画を使って紹介し、子どもの成長の様子や、保育の大切にしているポイントなどを伝えている。また、保護者同士が懇談や交流ができる時間を設定して、保護者が共通して抱える問題について一緒に話し合う時間を設けたり、子どもが好きな園の遊びを紹介したりするなど工夫している。個別の支援が必要な家庭には、専門機関と連携しながらケース会議を開き情報を共有して個々の事情に配慮した対応を行っている。 保護者が安心して子育てができるよう成長発達を伝え共通認識が得られるようにしている 保護者の意向を丁寧に聴き取るよう全職員が心がけ、各家庭に寄り添い対応している。保護者が、自分の子どもだけでなく、どのクラスの保育にも関心を持ち子どもの成長に見通しを持って、楽しみや喜びを感じ共有してもらえるよう全クラスのクラスだよりを掲示するなど、園の保育を積極的に伝えられるよう取り組んでいる。保育参観、保育参加の機会を随時設け、時期を設定して知らせている。面談日に合わせてクラスからも保育参観や保育参加の声かけを行っている。保護者の心配事や悩み、気持ちをくみ取り一緒に考え共有できるようにしている。																		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当	
評価項目9の講評			
地域との連携からの取り組みが子どもの経験を広げる機会となっている 読み聞かせボランティア「リプリント」の方が毎月4、5歳児に絵本の読み聞かせを行っている。近隣図書館の団体利用を活用し、定期的に絵本や紙芝居の貸し出しも受けている。清掃事務所の協力を得て、環境学習「ごみばっくん」を実施している。消防署や警察署の職員を招いて避難訓練や交通安全教室や防犯学習を行ったことで、さらに子どもの意識が高まった。園の職員以外の人と触れ合い、改めて話を聴くことで良い刺激を受けている。公共施設の人との関わりの中で、社会への関心を広げ、ルールを知ることにもつながっている。 園庭開放など、地域の子どもと一緒に遊んだり交流したりする機会を確保している 園の豊かな自然環境を利用して地域や近隣保育園に園庭を開放し、自然な交流ができている。地域の方が来園しやすいように、ポスターを掲示したり園見学の方にチラシを配付している。中核園事業や地域支援活動で、園庭開放を行い5歳児交流では、地域施設の子ども達と交流する機会を持っている。夏まつりや園で開催されたクラシックコンサートに近隣のろう学校の子ども達の参加を呼びかけた。幼保小連携ネットワークにより、近隣小学校の学習発表会見学やどんぐり祭りに参加するなどして、小学校の児童や教職員と交流を行うことができた。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが自然に触れて遊び込める時間と空間を工夫し整え提供している	
内容①	広い園庭では、豊かな自然環境を活用して、ロープワークや築山・縄ブランコ・落ち葉プールなど、職員の工夫や設定により、子どもが四季を感じながらのびのびと戸外遊びを楽しめる環境を整えている。異年齢の交流が自然に生まれ、あこがれる気持ちややさしさなど豊かな感情が育まれている。マルチパーツなどの可動遊具をふんだんに揃え、職員は定期的に遊具のメンテナンスを行い、園庭や畑エリアで遊ぶ子どもを連携して見守る基盤がある。子どもが主体的に動いて遊びを見つけ、創造的に遊び、集中して遊び込む姿につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	互いを尊重し認め合える心を育むため、職員が連携して保育に関わっている	
内容②	特別な配慮や支援の必要性の有無、性別、国籍、人種の区別なく、全ての子どもを園児として受け入れ、一緒に過ごすことで、子ども自身も誰でも分け隔てなく接することや、友だちを慈しむ気持ちが育まれるような環境の充実を追求している。全ての子どもは、それぞれが尊重される存在として認められている。職員は研修や巡回相談・巡回指導、専門機関との連携などを通してより良い対応のあり方を学び、日々実践している。保育士・看護師・栄養士・用務・調理職員など、職種を超えた連携により、丁寧な情報共有が積み重ねられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	園内研修で学びを深め、保育の質の向上に向けて園全体で取り組んでいる	
内容③	保育の質の向上を目指し、年間を通して園内研修を実施している。人権・保護者対応・情報共有の手だて・実務研修の実演的な勉強会・保育のねらいが伝わりやすい日誌の書き方・不適切保育・杉並区保育実践方針からの振り返り等のテーマを設け、園長や主査、向上リーダーを柱として個々の職員のスキルの向上に結び付くように考えながら、実践的な研修を積み重ねている。園全体で前向きに継続して取り組んできた実践が日々の保育に直結し、活かされている。また、研修を通して討議、分析し、協力し合う中で、職員が自分の意見を発信する機会も増えている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの発信から豊かな保育を展開するため、様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どものアイデアや発信を最大限に尊重し、それを保育者がキャッチしてよく聞き取り、思いに寄り添いながら、「やりたい」という意欲や想いが実現するように日々の保育の中で考え、取り組んでいる。子どもの発想や気づきに注目して、一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援を工夫している。子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね、力を合わせてひとつのものを作り上げる経験や、やり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。
2	タイトル	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている
	内容	保護者が子どもの成長を知り大きくなった姿に見通しを持ったり、待ち遠しく思ったり子育てを楽しみにすることも親支援のひとつと考えている。入園時や年度初めの保護者会で園が大事にしている保育について伝え、保護者がわが子だけでなく、他クラスの保育を共有できるよう全クラスのクラスだよりを玄関横に掲示している。開示日誌にも画像を入れわかりやすくしている。できるだけ活動の様子を具体的に知らせ、子どもの成長発達に関する情報を積極的に発信している。子どもが園生活を楽しむ姿を知ることによって保護者の安心・安全と信頼につながっている。
3	タイトル	地域との関わりが子どもの経験を豊かにし、職員の学びにもつながっている
	内容	恵まれた環境を活かし、地域の子どもの受け入れ、地域の福祉ニーズに応えている。中核園事業を通じて近隣の保育施設との交流を続け、顔の見える良好な関係を築いている。近隣園の子どもと当園の年長児の交流や、小学校の交流事業への参加による児童や教員との交流も行っている。また、近隣のろう学校とも連絡を取り合い、行事への参加を呼びかけ交流を深めている。こうした地域との関わりを、職員も普段通りの保育を行う中で自然に受け止め行動している。交流を積み重ねることで、子どもの経験の幅が広がり、職員の学びにもつながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	特別な支援が必要な子どもの保育を学び、互いに認め合える保育について考えていく
	内容	医療的ケア児の受け入れや障害児指定園として一人ひとりの職員のスキルアップを目指し学び合いにより知識を共有し、現在も子どもの個々の発達に必要な支援に丁寧に取り組んでいる。日々の関わりの中で互いに理解を深め、存在を認め合い成長し合う子どもの姿が見られる。保護者の気持ちに寄り添いまた、成長する「人」として子どもの持っている良さを伸ばすために個々の特性を活かした行事や活動としていくため、さらに様々な支援について学びを深めていく必要がある。今後も、特別な配慮が必要な子どもの援助の充実を図っていくことを課題としている。
2	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の対応、また掲示の活用を通して、全クラスの保育の共有を進めている。保護者と共に子どもの健やかな成長を支え、子どもの姿を共有していくためには、発信の内容や方法の充実が必要となる。「子どもの遊びや活動にはどんなねらいがあるのか」「子どもが園生活からどんな学びを得ているのか」など、保育実践の意図や日々成長していく子どもの姿を、より明確に伝えていくことから、保育に対する保護者のさらなる理解を図っていくことを課題としている。
3	タイトル	子どもの遊びが豊かに展開される環境の改善に園全体で取り組んでいく
	内容	子どもの遊びが豊かに展開される環境の充実には、様々な取り組みが必要となる。子どもの興味や発信を的確に捉え、子どもの現状や背景、成長発達などを理解・共有して個々の子どもに適した保育を提供していく必要がある。引き続き「環境プロジェクト」を中心に環境を整えていく。対話的保育の実践から、さらに子どもが主体性を持って活動し、達成感を得られるよう選択肢を提示したり、時間をかけて思いを引き出したりしていくことも検討している。より良い環境の実現に向け園全体で取り組み、実践の積み重ねと検証を継続していくことを課題としている。

和
泉

2. 和泉保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				福祉、経営	H2301066
	②				福祉、経営	H2301094
	③				福祉、経営	H2201084
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	和泉保育園					
事業所連絡先	〒	168-0063				
	所在地	東京都杉並区和泉4丁目16番22号				
	Tel	03- 3323- 7249				
事業所代表者氏名	長嶺 吏恵					
契約日	2024 年 6 月 19 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 26 日					
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 7 日					
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 26 日					
自己評価結果報告日	2024 年 10 月 31 日					
訪問調査日	2024 年 11 月 14 日					
評価合議日	2024 年 12 月 19 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 長嶺 吏恵

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ①子どもの最善の利益を保障する。 ②地域の中で様々な人や自然と触れ合いながら、豊かな人間性を育てる。 ③保護者と共に子育てを行う「共育て」の実現。 ④地域との連携を密にし、共に危機管理対策を講じていく。 ⑤保育園での保育経験や知識を地域の親子に還元していく。 ⑥中核園として近隣園との繋がりを密にし、保育の向上に努めていく。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子ども主体の保育に取り組み、創意工夫ができる人材。 ・危機管理意識をもち、安心安全な保育を提供すること。 ・研修や中核園の保育士交流会に積極的に参加し、保育スキルの向上に繋げていける人材。 ・保護者の気持ちに寄り添いながら子育てを支えられる人材。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子どもの気持ちに寄り添いながら、保護者と共に子どもの成長を喜び、感じあえる職員。 ・自分がチームの一員であると意識して各々の役割を果たしながら園全体の利益も考えられる職員。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

56

利用者家族総数(世帯)

50

共通評価項目による調査対象者数

50

共通評価項目による調査の有効回答者数

32

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

64.0

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」84%、「まあまあ満足」16%、計100%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてののみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	32	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	32	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	29	3	0	0
回答者の91%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	28	4	0	0
回答者の88%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	23	2	1	6
回答者の72%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	30	2	0	0
回答者の94%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	24	8	0	0
回答者の75%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	29	3	0	0
回答者の91%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	2	0	0
回答者の94%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	32	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	1	0	0
回答者97%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	3	0	5
回答者の75%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	29	1	0	2
回答者の91%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	28	4	0	0
回答者の88%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	2	0	3
回答者の84%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	17	9	2	4
回答者の53%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知している 年間の目標を立案するにあたり、各クラスが園目標などの確認をして話し合う機会を設け、年度初めに児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針など全職員で確認している。年間指導計画を作成するにあたっては全体的な計画を基本としている。年間の各クラスの重点項目を会議の中で伝え、日常保育で大切にすべきことを共有している。理念や目標などは園内に常時掲示しており、すぐに目に触れることにより職員も基本に立ち返ることができる。新入園児説明会や各クラスの保護者会で保育目標など大切にしていることについて保護者に説明している。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度初めの職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づいて園長自身も具体的な年間計画を作成し要所において役割を共有し展開している。自らの役割と責任を職員に伝え、職員の意見を集約して方向性を示し、リーダーシップを発揮し目標実現のために園運営をリードしている。保育の質の向上に向けて園長・主査・向上リーダーで定期的に園が取り組むべき課題の洗い出しを行い、園内研修に取り入れ課題解決につながる学びを得ることを目指した計画策定と実践に取り組んでいる。 確立した手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 区の決定事項や園長会での連絡事項は経緯を説明し、資料の提示を行い職員会議の中で報告、周知している。事前に議題を提起する際の職員会議議題用紙を見直し、より効率良く効果的な会議の進行を目指している。毎日のミーティングでは連絡や確認事項など内容に応じ、できるだけ迅速に漏れのない周知に努めている。会計年度任用職員には、掲示や声かけのほかミーティングやヒアリングを行い個別に対応して必要な情報を伝えるようにしている。保護者には、園での決定事項や情報について園だより、すぐメール、園内掲示などを活用し伝えている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 園では、登降園時の会話や連絡帳などから保護者の要望・希望の把握に努めている。保護者会や個人面談でも、園への要望を聞く機会を設けており、そのほかに玄関入り口に意見箱も設置している。また、職員とのヒアリングにより意向を把握し、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させ進捗を確認している。福祉ニーズの現状把握については、中核園事業の取り組みである地域懇談会や職員交流や小学校区の地域ネットワーク事業へ参加し、地域福祉の現状についての情報を収集しニーズを把握し、園運営に反映している。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。中核園として近隣施設と連携しながら保育の向上を目指している。子どもの交流をきっかけに保育者同士の交流が広がることを実感しながら取り組みを進め、収集した地域ニーズなどの情報は回覧やミーティングで、できるだけ速やかに職員に周知している。さらに近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や各連絡会に参加して情報交換を行い、顔の見える付き合いが継続できている。 目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる 年度末反省をもとに、係の目標シートを職員と共に作成して園内の取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。園運営については、中間反省を行い課題を明らかにし後半へ向けて、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。月カリキュラムの報告の仕方をエピソード型に変えたことで、保育が共有しやすくなり、課題や気付きについて意見が言いやすくなった。各職員が発信しやすく風通しのよい会議が持てるようになったことで各クラスの課題を園全体で捉え、職員はそれぞれ自分事として考え積極的に発言している。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 社会人、また福祉サービスに従事する者として守るべき事項を周知するために保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設け、職員全体に向け公務員倫理や規範について繰り返し伝え話す機会を設けている。子どもの人権や不適切な保育についての園内研修を行い、「丁寧な保育とは何か」の視点から話している。会計年度任用職員には適切な保育や守秘義務についてクラスリーダーからも伝え確認をしている。虐待が疑われるような情報を聞き伝えた際は、速やかに園長に報告し必要に応じ関係機関に報告して連携を取るなど、迅速に対応できる体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向に対応できる体制を備えている 園の前の掲示板にふれあい保育、園庭開放、身体測定などのチラシを掲示して園の取り組みを見える化している。園見学時には園の概要資料を渡し、活動の様子を話すだけでなく、実際に子どもの姿や保育者の関わり方、ほかの職員と触れ合いなど普段通りの園の遊びや生活の様子を見てもらっている。子育て支援員研修・実習生など次世代を担う育成のため受け入れを積極的に行っている。また、利用者の意向に対し園長は、苦情受付、解決責任者として重要なお知らせに記載し、入園説明会でも伝え、いつでも相談対応できる体制を備えていることを明示している。 園が様々なネットワークに参画して地域の一員としての役割を果たしている 中核園の取り組みでは、保育士交流会の内容を検討し、子どもの交流の回数を増やしてきた。保育施設間の連携・情報共有という中核園の取り組みが地域園にも浸透してきた。看護師や栄養士など専門性を活かしてトイレトレーニングの話をし、各ネットワーク事業の行事（ひよこのえんにち等）にも参加したり、地域の課題を検討しながら子育て支援の活動に参加している。地域の子育て世帯や園庭のない保育園、小規模保育施設などに園庭開放や子育て相談・身体測定の実施など、身近な相談窓口として関わり地域のニーズを踏まえた取り組みを行っている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定して職員にも周知している。リスクに対する園内対応を、常に話し合い対策については職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して役割分担をし、リスク管理をしている。年間避難訓練計画を定め地震や火災、洪水、不審者対応など様々な想定でゆうゆう和泉館とも協力し訓練を実施している。朝夕保育の訓練では利用者にも声をかけている。訓練後は実施内容の反省や課題を抽出し対応策を検討確認している。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりなどで伝えている。保育園しおりには、安全・防犯についてや防犯対策、災害の場合などを記載し、緊急時の園の対応を知らせている。年度当初の保護者会でも、緊急時安全メールについての確認などを含め、災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに園全体へ周知している。ヒヤリハットを含めた怪我などについては、原因の分析、振り返り、対応策など職員全体で情報を共有し再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権などの設定をしている。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努めている。個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、区のルールに則り管理を徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認を必ず行っている。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園とで連携を取りながら人材確保を行っている。採用後にはOJTによる配置園での計画的な指導のほか、専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらスキルとキャリアを積み上げている。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組む意欲につながるように周知している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 保育課実務研修の受講計画や園内研修の計画を行い、正規職員、会計年度任用職員の育成を計画している。区の目標申告シートを活用しヒアリングを実施し、職員の状況を把握し育成を計画し実施している。新人育成者担当は担当者研修に参加し、主査は2、3年目育成担当者会議に参加している。新任育成担当者については、担当職員だけの責任において行うのではなく園全体で取り組み、育成する姿勢を明確にし全体に周知している。年度ごとに職員の仕事への取組みを把握し、経験や全体のバランスを考え次年度への職員配置に活かしている。 チームワークを活かし、保育の実現を目指す取り組みが組織力の向上につながっている ワーク・ライフ・バランスを意識し、時間外勤務軽減に向けて体制を組んでいる。休暇取得については全体のバランスを見ながら希望を受け入れている。また、職員の特性や特技を活かし保育のリーダーを任せたり、プロジェクトなどで役割を担うことで、職員のモチベーション向上につなげている。定期的に園内研修を実施し、園の課題や保育について少人数グループで一人ひとりの意見を出し合えるようにしながら園の目指す保育について連携している。クラスを超えて子どもの成長のエピソードなど共有できる職員間の良い雰囲気は保たれている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)				
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている				
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)				
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)				
経験年数の浅い職員の存在や職員の経験年数のばらつきなどの組織の現状を踏まえ、「学びの共有や保育の継承」を図ることを念頭に置きつつ、「個々の保育力の向上による園全体の保育力の向上」を目指し、職員育成に力を入れた。①保育実践方針や保育実践の手引きを基に、保育の振り返りや危機管理について職員会議で話し合い、ベテラン職員も保育を見直す機会となった。また、②講師を招いた実践研修や、研修を受けた職員が講師となる講習会などにより、保育実践に即した学びの機会を得られた。さらに、③中堅職員に向上リーダーや行事のプロジェクトリーダーを任せることで、園全体に目を向けられるようになり、積極的な意見が出るようになった。そして、④経験年数が3年目までの職員には育成担当者が付くことで、社会人・保育士として必要なスキルの習得・吸収を支援することができた。今後も、話し合いを深め、積み重ね、実践に結びつけながら、次につながる育成への見通しを持って取り組んでいく方針である。				
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった			
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である			
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である			
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 区の保育のガイドラインである杉並区立保育園保育実践方針や保育実践の手引きを基にした振り返り、研修、向上リーダー、若年層の育成など、確立した仕組みを有効に活用することで、コミュニケーションや共通認識を促進し、経験の積み重ねを通して自信を育むなど、職員一人ひとりが力を身に着け、発揮していけるような着実な取り組みが見て取れる。				

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

現在の職員の経験年数や捉え方の多様性を踏まえて、「一人ひとりの危険を察知する力を養う」ことを意識して様々な取り組みを行った。まず、①朝夕や延長の時間帯、土曜日など、職員数の少ない体制時に事故が起こった際の職員の連携や受診の判断についてシミュレーションを行ったことで、職員もより具体的な行動を知り、自分事として考え、また落ち着いて対応できる備えが生まれ、精神的にも安心につながった。また、②怪我やヒヤリハット事例についてはすぐに共有・振り返りを行い、安全に過ごせる環境整備を行った。散歩コースにおける危険箇所や配慮すべき点を確認したことや、園庭のチェックシートの見直しをしたことで、職員の危機管理意識が高まり、危険箇所への対応を迅速に行えるようになってきた。さらに、散歩時に地震が起きた想定で複数のルートを考えたり、もしの場合をイメージして備えたりする考え方が各々に行き渡った。今後も、こうした取り組みをもとに、子どもの命を守る取り組みの精度を高め、また安全な保育環境の維持に継続的に取り組んでいく方針である。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「危機管理の意識・能力の向上」をテーマとした取り組みにより、園としての対応力の向上を図るのみならず、職員個々の意識や判断力、対応力の向上を図るという意味で、育成にも功を奏している。施設環境や散歩ルートなどのハード面でのリスクの芽を摘むだけでなく、職員の意識や行動というソフト面にアプローチすることで、安全性の向上に向けた取り組みのさらなる充実と継続性が見込まれる。

No.	共通評価項目 サブカテゴリ-1	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
1	サービス情報の提供		
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評価点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○非該当
サブカテゴリ-1の講評			
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」や保育施設ガイドなどにて園情報を発信している。ホームページには園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標、主な行事など記載されている。地図も掲載して、駅から園へのルートや周辺情報のイメージがしやすいようになっている。媒体に掲載の画像は、園庭や室内で子ども遊ぶ様子が伝わりやすいものにしている。外国籍の方への情報提供は、ふりがな表記など選択できるように備え、実物を示し説明するなどできるだけわかりやすい方法で援助できるように対応している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課には中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについての報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。地域ネットワークの懇談会などに参加して情報交換すると共に、研修や行事などの取り組みへの参加を通じ、地域とのつながりや連携を図っている。児童館や保健センターなどに職員が出向き、専門的な立場から支援に関わりニーズを把握している。子育てプラザに園のチラシを置かせてもらい、お知らせにも掲載してもらうなど、園の取り組みについて情報を提供している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 園内見学は日時を設定して実施している。当日は30分～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。個別に希望があった場合は対応できる範囲で日程の調整に応じている。園内環境を見てもらいながら、入園時に準備が必要な持ち物や、保護者参加の行事や園として取り組んでいること、大切にしている点などを伝え、園の保育についての理解を図っている。園庭開放、ふれあい保育なども積極的に受け入れており、実施予定を伝えてお知らせのチラシを手渡し、気軽に参加できるよう誘っている。電話による子育て相談の体制も備えている。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活を安心できるようにしている 新入園児は、保育開始前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別に保護者と面接を行い子育ての意向などを聞いている。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など保育に必要な子どもに関する情報を把握して記録している。「和泉保育園のしおり」「重要なお知らせ」などを配付して、基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し、同意を得ている。乳児の食事の状況や食物アレルギーについては栄養士も確認している。健康上の問題など対応が必要な場合は特に丁寧に聞き取りを行っている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 園長は、家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や意向を相談して保育時間を決め、入園当初は短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。特に乳児の場合は入園第1日目は親子で過ごしてもらっている。慣れ保育は、子どもの状況や保護者の事情を考慮し、様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は支援に役立てる基礎資料としている。子どもの家庭の様子を把握し、保護者の不安を軽減して子どもが園の環境に慣れ安心して過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように次の生活へ向け声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行への支援のため、子どもの情報提供ができるように体制を備えている。就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。就学前には保育所児童保育要録を作成し、配慮事項などを小学校へ引き継いでいる。必要に応じて、就学支援シート「すばる」を作成して個人面談で保護者と子どもの様子を共有し、就学先の小学校へ提出して育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・育成歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項は、視診表に記載し、必要に応じてミーティングで伝達、園日誌に記載して全職員で共有し適切に対応している。毎月の指導計画で前月の姿を振り返り、良い点や改善点など気付きや意向を次月の計画策定に活かしている。 「全体的な計画」に基づいて、各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 全体的な計画に基づき、年齢ごとの発達を考慮しながら子どもの様子に合わせて検討し、年間指導計画、月間指導計画を作成している。週案では具体的な活動を計画して、保護者にも知らせている。毎月、各クラスからの課題提案を検討し、より良い保育へつながるようクラスや園全体で意見を交わし見直しを行っている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては、個別に指導計画を作成している。日々の記録は保育日誌・連絡帳・開示日誌に記載している。子どもの成長の過程は、各年齢ごとに定められた期間に児童票に記載している。 子どもの状況など職員間での共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 年度初めの保護者会では、園の全体的な計画や各クラスの保育について各年齢の発達や保育について書面をわかりやすく作成して配付し説明を行っている。乳児クラスはクラスだよりで、幼児クラスは毎月および毎週掲示でねらいや配慮などを知らせている。保育のねらいを踏まえ、全クラスのクラスだよりを掲示し園全体の子どもの現在の姿を伝え、保護者との共有に努めている。日々の子どもの様子は保育日誌や視診表に記録し、保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、怪我の報告など連絡事項を引継ぎ、確実に情報共有している。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いについても説明している。留意事項などについて区担当部署からの説明書類を提示している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の意思を確認した上で対応している。入園説明会で保護者に説明する内容が多いため、わからない点については、後日個別に丁寧に説明することを心がけている。個人情報の取り扱いについての職員の意識を高め、日々の保育の提供ができるように留意している。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 着替えの際にはカーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい、着替え方を指導し、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。4、5歳児クラスのシャワーは遮光ネットで目隠しをして個別のブースを作って行っている。トイレやズボン着脱の着替えのスペースには、ついたてを活用してプライバシーに配慮している。5歳児は健康教育でプライベートゾーンについて話を聞き、子ども自身が意識を持てるよう支援している。子どものプライバシー保護に関する意識を職員間で共有し、適切な対応を取っている。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 子どもの人権に配慮した保育や適切な保育について、園内研修を実施して職員全体で考えたり、研修報告で職員周知し保育に反映させたりしている。また、保護者の意見に耳を傾け、相談しながら、様々な園や家庭の価値観に配慮した個別の対応を行い、保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守るための課題について区関係機関が実施する研修への参加を促している。必要な研修を受講しそこで得た内容や知識を話し伝えることで全職員で学びを共有し、倫理意識を高め、理解を深めている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きなどを備えている。保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園独自の業務マニュアルを作成し、年度末には全職員で見直しを行っている。怪我の対応など緊急時に必要なマニュアルの内容については、シミュレーションを行い職員が取るべき行動を確認している。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人配付している。わからないことがあれば各自すぐに確認ができるよう備え、日々活用している。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 区立保育園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して見直している。園独自の「園マニュアル」は年度末に反省を行い、項目ごとに確認見直しをして更新している。人の入れ替わりや子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時など、必要な見直しは時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要な事項を周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる 園マニュアルを作成し、サービスの提供について職員間で統一した対応を行うよう注意している。子どもの様子を反映した保育ができるよう指導計画を立て、保護者から寄せられた意見についてはその都度検討し、丁寧に対応している。マニュアルを基本としつつ、「子どもや保護者にとってはどうなのか」を常に考え、必要に応じて個別配慮なども行っている。突発的に起きた緊急対応に対して一人ひとりの職員がどのように対応できるかの判断力を磨くことが求められており、今期は事故対応などについて具体的なケースを想定したシミュレーションを行った。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
子どもが主体的に周囲のものや人と関わりを持てる環境を工夫している 遊びの続きを楽しめるスペースを確保し、遊具を選択し、楽しみながら遊べる環境を工夫している。また、子どもが自分で遊びたい物を選び、じっくりと一人で遊んだり、友だちと関わりながら楽しんだりできるようにしている。1歳児室の前廊下に横断歩道を設定し、子どもが自ら気づき、走らず歩けるようにしている。遊具や玩具はファイリングして整え、環境整備において保育者が発達に沿って選択できるようにしている。自然に親しむ活動として、雑草を育てる、カブトムシを飼育する、蝶の孵化を観察するなど、環境プロジェクトを中心に継続している。 子どもの気持ちを尊重した対応を追求している 子ども同士のトラブルに対して、子どもの気持ちをくみ取り、代弁し、子ども自身が納得して解決するよう寄り添っている。年度当初の保護者会では年齢に応じた成長発達の過程で起きるトラブルについてあらかじめ保護者に伝えて、保育理解を図っている。双方の保護者にトラブルの内容や保育者の関わり、解決の経緯について伝えている。また、職員間で情報を共有し、日々の中で声をかけ合いながら、一人ひとりが安心して安全に過ごせるように見守り、子どもが共に成長できるような保育を実践している。 関係機関との連携や円滑な接続に配慮している 区立保育園の中核園として、地域の保育施設間の連携・交流や情報共有を進め、各保育施設の保育内容の向上に取り組んできた。また、幼保小連携事業に参画しており、小学校区の地域子育てネットワークにも参加している。小学校の行事に行ったり、園にも参観に来てもらったりするなど互いに連携している。近隣の児童館での行事(ひよこのえんにち)への参加では、他保育園児や小学生との交流も広がっている。後期保護者会では連携小学校の教諭を招いて話を聞き、入学当初の様子や見通しに触れ、就学に向けた保護者の不安を和らげる一助になっている。			

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
評価項目2の講評			
子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている 登園時に前日の様子、顔色や体の状態を観察し、体調や怪我について保護者に確認している。体調や、家庭での子どもの様子を聞きながら受け入れを行い、視診表に記録し、職員間で情報共有している。前日からの申し送りや受託時の保護者からの連絡事項は、当番職員が家庭の様子を保護者に確認し、それらを踏まえた対応につなげている。お迎えの際は、連絡帳や開示日誌で日中の様子を伝えるほか、怪我やトラブルの際には担任が保護者の帰りを待ち、直接伝えるよう配慮している。保護者会終了後には保護者会だよりを出し、欠席者にも内容を伝えている。 個々の発達の状態に応じて、基本的な生活習慣が身につくよう援助している 保護者会において年齢・発達に応じた基本的な生活習慣の目安を知らせ、家庭と園での共通認識となるように働きかけた上で、個別のケースに対応を行っている。また、爪のチェック曜日を決め、保護者にわが子の健康配慮への促しを図っている。保育者は子どもの状況を共有し、共通認識を持ち保育を行っている。午睡と休息は園で長時間過ごす生活において身体を休める時間として捉え、年齢毎の基本的な時間を決めつつ、活動や体調など、一人ひとりの状況を保護者に聞き取り、園での活動も踏まえて個別配慮を行っている。 生活の中での体験の積み重ねを通して、基本的な生活習慣の確立を援助している 身の回りのことが自分でできるようになるために、生活習慣の確立に関わる項目を年間・月間の各指導計画に位置づけ、年齢・発達に応じた援助を行うことで、生活を通じた習慣化を図っている。排泄の自立など、生活に関わる様々な事項を発達に応じて繰り返し援助し、見守り、意識向上と自立に努めている。子どもの意思表示をしっかりと受け止め、個々の状態に合わせた対応を職員間で共有している。また、食育活動や健康教育を実施し、子ども自身への意識づけを行っている。			

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)																					
<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当	評価項目3の講評 子どもの自主・自発性を尊重し豊かに遊び込める保育を実践している 子どもが自発的・意欲的に関われるような環境設定を心がけ、子どもが主体的に遊べるようにすることを大切にしている。室内・園庭の環境プロジェクトにより、園全体で取り組む意識を高めている。各クラスでは、子ども自身の遊びへの意欲から玩具を選びとれるように環境を設定しており、熱中して遊び込み、さらにその遊びを継続できるようコーナーを作っている。乳児・幼児の打合せだけでなく、園長・主査と向上リーダーによる「5本柱打合せ会議」をもち、組織制をもって、職員全体で子どもが遊ぶ環境の質の維持・向上を図っている。 大人との信頼関係のもと、子どもが安心して活動を楽しんでいる 年齢や発達に合わせた活動を取り入れ、幼児クラスはホワイトボードを活用し、予定や活動を子どもが視覚的に意識できるよう配慮している。乳児クラスでは自分がやりたい遊びを少人数でじっくりとでき、満足できるようにし、継続的に遊ぶことができるスペースの確保なども臨機応変に対応している。年齢・発達に応じた玩具類は玩具ファイルリストにより整理し、発達に沿ったものを随時選択・提供できる。大人との信頼関係をもとに、安心できる環境の中で、個々の状況を観察し、適宜援助し、子ども同士がやり取りを楽しめるように関わっている。 保育者の受容、応答的な姿勢により子どもの思いを尊重し、豊かな表現につなげている 保育者は場面に応じて必要なことを代弁しつつ、子どもがやり取りの楽しさや喜びを味わい、自分の気持ちや思いを表現することが楽しく、心地よく感じられるよう、肯定的な応答を心がけている。発語を促し、会話する心地良さを感じられるように一人ひとりの気持ちや伝えたいことをしっかりと受けとめて返している。見守りつつも、感情や言葉を先取りせず、子どもからの発信を待ち、話すことや表現することへの意欲につなげている。また、保育者自身が遊びを豊かに発展させられるような引き出しを増やすため、研修や実践で感性を磨いている。
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当																				
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当																				
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当																				
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当																				
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当																				
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)																					
<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	評価項目4の講評 子どもの発想を実現できるように保育の活動を考え、行事などに取り組んでいる 園生活の日常の中での子どもの発信を大事にし、子どもがやりたいと思ったことが膨らむような働きかけを心がけ、子どもが話し合う場を設けている。職員は、子どもの意見をくみ取りながらやりたいことを実現できるように一緒に考え、子どもが興味・関心や見通しを持って取り組めるよう配慮した計画を立てている。行事のための保育ではなく、日々の保育の積み重ねの中で、達成感を味わい楽しめるように年齢ごとの取り組みの過程を大事にしている。みんなで話し合いながら作り上げて行くことを大切にして、行事を実施している。 行事の取り組みを保護者に伝え、保育への理解や協力を得ている 年度始めに年間行事予定を保護者に配付している。行事の内容や取り組みなどは、開示日誌やクラスだよりなどにより保護者に発信している。活動により登園時間の協力を依頼したり、経緯を伝えたりすることで行事への理解と子どもの成長の共有を図っている。年間を通して計画している行事の他に、保育の中で子どもの発信により生まれた活動は子どもも主体で進めている。クラスから園全体に活動が広がりが共有できる展開もある。職員は行事ごとに担当を決め子どもの声を受けとめ、ねらいを設定して実施し、振り返り、次へとつなげている。 行事の実施にあたり何を大事にしていくかを考え、ねらいや内容について検討している 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、従来の行事についてもできることが増えてきている。園として改めて行事の持ち方について、今の子どもの発達段階や興味・関心に合っているか、経験させたいことやねらいなどについて職員間で話し合い、検討・共有している。これから経験を積んでいく職員に対しては、行事のねらいを確認し、見通しを持った取り組み方で継承していくことを目指して取り組んでいる。経験者による適切なサポートのもとで、行事リーダーを任せ、園全体を見ながら物事を進めて行く力や自信を養えるように取り組んでいる。									
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当																				
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当																				

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当	
評価項目5の講評				
保育時間の長い子どもが快適に過ごすことができるよう配慮している 長時間園で過ごす子どもの視点に立ち、空間的にも様々な配慮をしている。朝夕保育の時間では、年度初めは子どもが安心できるように、可能な限り担任が入るなど配慮している。朝夕の会計年度任用職員もできるだけ固定して同じ職員を配置している。保育時間が長くなると、気持ちが不安定になる子どももいるため、好きな遊びを楽しめるように、年齢に応じて使いたい遊具を子どもが選び取れる環境作りを心がけている。 提供する活動内容は静と動のバランスを考え、環境を整えている 一日の園生活の中でも活動の静と動のバランスを考え、思い思いの活動をしながらゆったりと過ごせるよう工夫している。家庭的な雰囲気の中、安心して自分のやりたい遊びができるようにコーナーを設けたり、身体を休めたり静かに過ごせたりする場を保障している。幼児クラスは用途に応じてパーテーションを開閉するなど、一人ひとりがゆっくりと過ごせるよう環境を整えている。季節や子どもの状態、人数に合わせて玩具の入れ替えをしたり、遊びごとに環境を分けたり、園全体で過ごし方を考え柔軟に対応しながら落ち着いて過ごせるよう援助している。 保育形態の変化がある中でも、落ち着いて過ごせるようにしている 子どもの様子を把握するため、しっかりと健康観察を行い様子に合わせた保育を行っている。保護者や担任からの連絡事項の引継ぎは、朝は視診表を使用し、夕方は当番の職員に担任から日中の様子を引継ぎ、必ず確認して漏れのないように注意して対応している。年齢発達を鑑み、1歳児クラスは、7時30分～18時30分までクラスで単独の保育を行っている。毎年、長時間保育に入る子どもの構成が変わるため、その集団に合わせた人員配置や環境設定を追求している。怪我やトラブルなくお迎えまで過ごせるよう配慮し、安心につなげている。				
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		☐ 非該当
評価項目6の講評				
子どもと保護者へ食に関する取り組みを発信し、安心して食べられる給食を提供している 子どもの成長に合わせて栄養バランスを考えた給食の提供を行い、落ち着いた雰囲気の中で食事ができるようにしている。乳児は食事介助の担当や座席を決めて、安定した環境で食事が摂れるよう配慮している。1歳児クラスは入園初日に保護者が一緒に過ごし給食介助にも関わり、実際に園の給食の様子を見てもらっている。春の保護者会ではひと口検査を行い、給食の味付けを知ってもらった。見やすい位置に給食サンプルを展示し、食材や献立を通して親子の会話につなげている。給食日よりでは栄養士より給食メニューレシピ紹介など保護者へ発信している。 年齢や発達に合わせた栄養バランスの良い食事を提供している 区の栄養士が各園の意見を参考にして作成した統一献立に基づき、栄養バランス、季節感などを考え園で調理した給食を提供している。子どもが育てた野菜を調理してもらうことで、食への関心が高まっている。喫食状況は毎回巡回し、昼のミーティング時に職員、栄養士、調理師で確認して固さ、大きさ、味、量、盛り付け方などの改良点を抽出し次の提供に反映させている。栽培活動やおにぎり作りや三色食品群の話など食育活動を通して食への興味関心が広がっている。苦手なものも食べてみようとする気持ちにつながり栄養についてさらに関心を深めている。 安心して楽しく食べることができる安全な食事を提供している 盛り付けの工夫や、行事の際には行事食を提供し楽しみが感じられるようにしている。また、食物アレルギーはアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いにより対応が必要な場合は、食物除去申込書により代替え食等を提供している。保護者と献立確認を毎月行い、チェックの後、アレルギー会議で確認、前日の打ち合わせで除去食についての確認を経てマニュアルに則り、トレーの色を変えて確実に提供している。提供直前には、担任と調理員で口頭で声を出し指差し確認をし、食事の間アレルギー児のそばに職員が必ずついて誤食のないように見守っている。				

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている ☐非該当
評価項目7の講評	
子どもが健康や安全に関心を持てるように情報発信や指導を行っている 年間保健計画を作成して、年齢に応じて子どもが病気や怪我に対する安全意識を高められるようにしている。応援看護師と連携して幼児クラスを中心に視力測定・手洗いの仕方・身体の様子や機能、プール前にはプライベートゾーンの話などを伝えている。看護師からの話だけで終わらせるのではなく、健康教育の内容はクラスでも取り上げ、自分の身体・健康・安全に興味を持てるように具体的な方法を計画に盛り込み、日頃から健康教育に取り組んでいる。また、職員も嘔吐処理や救命救急などについて定期的な研修により学び、速やかに対応できるようにしている。 子どもが罹患しやすい感染症などの情報を随時保護者に周知している 毎月保健だよりを発行し、園の保健行事を伝えたり、季節や時期に応じた健康に関する情報を掲載している。薬については、区立保育園共通の対応として原則預からないが、慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合には、保護者の代理として与薬することがあるため個別の相談に応じている。園児の健康管理として毎月の子供の身体測定、年2回の嘱託医による健康診断、年1回の歯科健診、幼児対象の眼科・耳鼻科健診を実施している。嘱託医には感染症や園児の健康に関する情報を共有して相談し、健康管理について様々なアドバイスをもらっている。 保護者に安心を与えられるように子どもの健康維持に向けた取り組みを行っている 体づくりを意識した保育を考え、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我の予防・防止ができるよう援助している。区の危機管理マニュアルに基づいて午睡チェックを実施している。乳児保護者会では、乳幼児突然死症候群を含む睡眠中の安全管理について保護者にも資料を以て注意喚起や情報提供を行っている。また、区内の傷病発生状況の動向を把握し、回覧や掲示により保護者に事前周知を図っている。病気やけがの対応には、園長や該当クラス職員で対応方法を共有し、保護者に安心感を与えられる誠実な対応を心がけている。	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している ☐非該当
評価項目8の講評	
保護者との信頼・協力関係作りを行っている 入園時に家庭連絡票を提出してもらい、就労や家庭の状況を職員間で把握している。保護者の就労や通勤時間などに合わせて、園長との面接により保育時間を決めている。家庭の事情によって急な変更の相談があった時は、可能な限り対応して支援している。子育てにおける個々の事情についても話をよく聴き、全職員で共有して支援を行っている。日頃の密な連携などを通して、子どもの成長の喜びの共有、保護者の思いへの共感、信頼関係を構築して保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している。 保護者と子育ての共通認識を持てるような取り組みを行っている 保護者とのコミュニケーションを大切に、子育ての協力関係を築き共通認識を深められるように取り組んでいる。各クラスは年に2回保護者会を実施し、保護者同士の交流として懇談の機会を設けている。また、園だよりによって保護者の書いた原稿を載せ、園内の保護者同士の親しみの深まりを図っている。また、職員も不定期に記事を寄せ紙面上で参加している。新たな一面を知り、保護者と職員の会話のきっかけにもなっている。個人面談では、園や家庭での子どもの様子について保護者と確認し、子どもの育ちを共に支えていくために今後の方針を共有している。 子どもの発達や成長について、保護者と共有できる取り組みを行っている 個人面談、保護者会、保育参観や行事への参加などを通して園を知ってもらい、子どもの姿を共有できるようにしている。保育の様子を保護者にわかりやすく伝える工夫として、開示日誌やクラスだよりにより写真や手書きのイラストを添えるようにしている。また、担任発信だけでなく、園長、主査の視点から見えてきた子どもや職員の姿、園の取り組みのねらいや活動の経緯などを発信する「事務所だより」の発行に向け準備を進めている。保護者からの要望や課題に対しては、職員全員で話し合い意思統一を図り、どの職員も同じ対応ができるようにしている。	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
中核園として園の取り組みに地域の人の参加を呼びかけ交流の機会を広げている 中核園として、地域の公立保育園だけでなく私立保育園も含めた保育施設間の連携・情報共有等の促進を図る事業に関わっている。職員の研修では、各園の取り組みを地域に発信するだけでなく、外部講師による研修も実施している。保育実践に関わる内容の要望が多く参加した職員同士のつながりから、子ども同士の交流が徐々に広がり一緒に遊ぶ計画や、自園が実施する事業に近隣園が共に体験できる機会を設け参加を呼びかけている。園庭開放や子どもの交流を通じて顔見知りの関係が見られるようになり関係が広がり親しみが増している。 地域との連携のもと子どもの経験を広げる取り組みを行っている 新型コロナウイルス感染症が5類となり様々な活動が再開している。学生の職場体験や実習生など次世代を担う育成のため受け入れており、子どもと関わる世代間交流では相互理解が深まり、在園児にとっても良い経験となっている。また、幼保小連携事業を通じ、連携小学校と交流し、学校行事の見学や年長児のプレ一年生体験などが実施されている。また、連携校だけでなく他の小学校ともつながりがあり連絡を取り合っている。小学校との交流・連携は小学校の雰囲気を知り、就学への不安軽減と卒園後の小学校生活にスムーズに慣れることに役立っている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもの生活や遊びが豊かな経験となるよう考え、工夫しながら環境を整えている	
内容①	子どもが主体的に遊べる保育を基本とし、環境プロジェクトで話し合い、室内外の環境について全体に投げかけている。安全点検表を活用し遊具の点検を定期的に行い、環境設定も工夫している。リズムや積み木遊びの研修を行う中で、保育者が刺激を受け実践につなげている。全職員が室内外の環境設定の大切さを理解しており、子どもの遊びが豊かになるよう年齢・発達に合った玩具を計画的に購入したり、時期を見て入れ替えを行っている。保育者自身が、遊びを豊かに展開できる引き出しを持てるよう学びを通して感性を磨き、個々の保育力を高めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	職員の危機管理能力を高め、安心・安全な保育の提供に努めている	
内容②	安全点検表を活用し、遊具の点検や危険箇所の確認をしている。ヒヤリハット事例をすぐに共有し、振り返りを行い、安全に過せる環境整備に注力して来た。散歩コース上の危険箇所や配慮点を園全体で確認することに加え、地震などの災害時に備えて第二ルートを想定するなど、これまでの対策からさらに一歩進めている。また、職員の人数が少ない時間帯における緊急事態の発生に備え、誰もが適切な判断や行動をできるように、具体的なリスクを想定したシミュレーションを行っている。園全体および職員個々の危機管理能力を高めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容③	園だよりのトピックスの内容に合わせた「ひと言」など、保護者にも原稿を依頼して掲載する企画を継続し、保護者が親しみを持てるよう紙面を活用したコミュニケーションのひとつとして働きかけている。職員も記事を掲載することで、日常会話のきっかけにもなっている。保護者には我が子の様子だけでなく、園全体の子どもの成長を共有できるよう、行事の参加の仕方を工夫し、保育参加や参観を積極的に呼びかけている。できるだけ具体的に活動の様子を知らせ、子どもが園生活を楽しむ姿を知ること、保護者の安心・安全と信頼につなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの発信から豊かな保育を展開するため様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どものアイデアや発信を最大限に尊重し、それを保育者がキャッチしてよく聞き取り、子どもの思いに寄り添いながら、子どもの「やりたい」という思いが実現するよう日々の保育の中で考え、保育環境を整えている。特に幼児の取り組みでは、子どもの発想や気づきに注目して一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援を工夫している。子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね、力を合わせてひとつのものを作り上げる経験や、やり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。
2	タイトル	園内研修で学びを深め、保育の質向上に向け園全体で取り組んでいる
	内容	保育の質の向上を目指し、園内研修として年間を通して学びを継続している。一人ひとりのスキルの向上に結び付けよう実践を積み重ね、子どもの体づくりや人権についてより深い話し合いを行うことができている。保育実践方針や保育実践の手引きを基に振り返りを行ったことで、保育者自身の経験に関わらず、自らの保育を見直す機会となった。園全体で前向きに継続して取り組んでいる実践が、日々の保育に直結し活かされている。経営層のリーダーシップのもと、職員各自が考え、ともに実行に移すなど、ひとつの目標に向かって協力し合っている。
3	タイトル	中核園事業の取り組みが子どもの活動の広がりや職員の学びにつながっている
	内容	中核園事業を通じて近隣保育園との交流を続け、顔の見える良好な関係を築いている。保育士交流会や子ども同士の交流、研修など、中核園事業に職員一人ひとりが積極的に関わることで、中核園の取り組みが浸透し、地域全体の保育の向上に貢献する意識が高まっている。近隣の施設との交流が子どもの経験の幅を広げている。また、職員の交流を重ねることで、地域と関わる機会を自然に受け止め行動することができている。中核園事業を通じた交流により、互いに刺激を受け、学びを得ている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの遊びが豊かに展開される環境の改善に園全体で取り組んでいく
	内容	保育環境の一層の充実を今後も図っていくためには、子どもからの発信を大切に、子どもの姿を共有し、その背景や成長発達を理解した上で個々の子どもに適した保育の提供をしていくことが必要となる。環境プロジェクトの取り組みや園内研修などの継続により、職員一人ひとりが課題意識を明確にし、また実践の積み重ねと検証を引き続き行っていくことを課題としている。
2	タイトル	地域のニーズに基づき、園としてできることを考え地域貢献に取り組む
	内容	中核園事業の取り組みについての職員の意識を持ち、コロナが5類になったことで再開したふれあい保育や地域の親子へ支援活動も積極的に進めている。これまでに培ってきた園の機能を活かし、職員が中核園職員である意識を高め、地域における保育の専門機関として近隣の他施設のニーズなどを上手く組み合わせた支援についてできることを考えながら工夫したいと考えている。特に今後は、子ども同士の交流を増やしながら、職員の交流を広げる取り組みに意欲を持っている。引き続き中核園として地域貢献の実践を進めていくことを今後の課題としている。
3	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示を活用して全クラスの保育の共有を進めている。保護者の話から子育ての悩みや保護者自身のことなどを職員が傾聴し、必要に応じて面談時間を設け、丁寧な対応を心がけ子育て支援につなげている。今後も、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有して行くことができるように、園生活から様々な学びを得ていることや子どもの遊びや活動のねらいを明確に伝えるなど、システムの活用も含め、さらに保育への理解を図る発信に取り組むことを課題としている。

上
荻

3. 上荻保育園

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				福祉、経営	H2301066
	②				福祉、経営	H2201085
	③				福祉、経営	H2201084
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	上荻保育園					
事業所連絡先	〒	167-0043				
	所在地	東京都杉並区上荻1丁目20番13号				
	Tel	03-3392-6742				
事業所代表者氏名	奥田 恵子					
契約日	2024 年 6 月 19 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 5 日					
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 4 日					
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 5 日					
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 27 日					
訪問調査日	2024 年 10 月 11 日					
評価合議日	2024 年 12 月 19 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 奥田 恵子

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 上荻保育園の保育理念は「言葉をつなぐ 心をつなぐ 丁寧で優しい保育を」です。この理念を基礎に置き、保育園に係わるすべての人たちを大事にしていきたいと思っています。言葉のもつ力を、職員一人ひとりが意識し、発していきたい、子どもが6年間過ごすこの環境が子どものこれからの育ちの中で、あたたかい心になる基礎の時間となるよう、保育園での毎日を大切にしていきたいと思っています。職員一人ひとりが、心身ともに健康で安定した生活のできる環境をつくり、いろいろな経験を通して意欲や思いやりを育て、自分も他者も大事にできる子どもに育つ保育をしていきたいと思っています。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 子どもの育ちが1年ごとに途切れるものではないように、保育も0才から5才までの連続性を持つことを意識することを期待しています。職員みんなが園のすべての子どもを保育しているという意識を持って、お互いの連携を深め合う関係性の中で仕事をしてほしい。わくわくする保育をみんなでしていきたい。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 保育園は、保護者の就労を支え、子どもの育ちを保障する役割がある。ルールや規則では支えきれないそれぞれの家庭の不安や迷いに寄り添えることが役割であり、保護者が私たちに子どもを託してくれてありがとう、という思いを持って保護者や子どもに接してほしいと思っています。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

105

利用者家族総数(世帯)

92

共通評価項目による調査対象者数

92

共通評価項目による調査の有効回答者数

51

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

55.4

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」68%、「まあまあ満足」22%、計90%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてののみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	48	2	1	0
回答者の94%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	46	4	0	1
回答者の90%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	43	5	1	2
回答者の84%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	43	6	0	2
回答者の84%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	36	5	2	8
回答者の71%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	46	2	2	1
回答者の90%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	31	14	3	3
回答者の61%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	43	5	2	1
回答者の84%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	47	2	1	1
回答者の92%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	42	7	1	1
回答者の82%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	44	4	1	2
回答者の86%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	7	1	10
回答者の65%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	42	6	1	2
回答者の82%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	37	4	2	8
回答者の73%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	44	5	1	1
回答者の86%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	34	5	3	9
回答者の67%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	36	7	4	4
回答者の71%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることについて保護者や職員に周知している 年間の目標を立案するにあたり、各クラスが園目標などの確認をして話し合う機会を設け、年度初めに児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を全職員で確認している。年間の各クラスの重点項目を発表する場を設け、日常保育で大切にすべきことを共有している。理念や目標などは園内に常時掲示しており、すぐに目に触れることにより職員も基本に立ち返ることができる。新入園児説明会や各クラスの保護者会でも理念などについて保護者に説明している。園だよりでは年度初めと後半(1月)にも記し、常に保護者に意識してもらえるように周知している。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度初めの職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝え、区の係の目標シートを作成している。園が目指すことについて前年度の取り組みを基盤として振り返りを精査し、まずは経営層がたたき台となる案を提示する。その際には、自らの役割と責任を職員に伝え、職員の意見を集約して方向性を示し、リーダーシップを発揮して目標実現のために園運営をリードしている。また、向上リーダーが保育の向上への取り組みにおいて力を発揮し、園内研修などの取り組みを実現できるように経営層が話し合いを行い、支えながら後押しをしている。 確立した手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 園マニュアルを作成し、会議の方法や構成員などを決めており、毎週定例打合せにおいて経過を共有する機会がある。また、毎日ミーティングを行い日々の連絡や確認事項など漏れのないように確認・周知している。会計年度任用職員に対しては、年度初めにミーティングやヒアリングを行い必要な情報を伝えるなど個別に対応している。事務室内に会計年度任用職員連絡コーナーを設け、情報を集約して掲示し随時更新している。用務・調理の委託事業者への連絡については、細かな勤務体制を意識し、漏れのないように特に注意して繰り返し伝えたいと考えている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 連絡帳の記述、送迎時の会話、保護者会でのやり取りなどから保護者の意見や意向をつかみ、すぐに対応できるようにしている。職員は経験に関わらず、日頃から疑問や思いなど互いに声をかけ合い相談したり、話したり活発に意見交換できる職場環境がある。職員から経営層に直接相談を持ちかけることもしばしばあり、対話を通して職員の意向を把握したり課題を抽出したりしている。会議の場を活用し意見を求めている。また、定期的にヒアリングを行い、職員の声を聞いている。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係機関との関係を深めている 福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。中核園事業に連携し、積極的に取り組みに関わり地域のニーズの把握を行っている。収集した情報を整理して回覧やミーティングでできるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参加して話し合い、情報交換を行い施設長や担当者が変わっても顔の見える付き合いが継続できている。直接話をする事で、関係が深まり互いに協力して地域の中で子どもを育む活動を共有することができている。 目標の達成に向け見直しを行いながら計画の実行に取り組んでいる 年度末反省をもとに係の目標シートを職員と共に作成して園内での取り組みを明確にし、新年度の役割分担を行っている。プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図り、令和4年度に全体的な計画を改正した。毎月のカリキュラム検討の時間を報告だけで終わらせず、課題を共有して各クラスの課題解決に取り組んでいる。職員会議を年間で計画し、園内研修や保育の話をする機会を意図的に積み重ねている。見直すべき課題も、皆で実現したい楽しい保育も全て自分たちのものと認識して、園全体で目標の実現を目指し取り組んでいる。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 年度初めに会計年度任用職員も含めて、公務員倫理などについて学びの機会を作っている。全職員に向けて、社会人としてまた福祉サービスに従事する者として、守るべき事を知らせるために保育課からの資料を活用して学び、公務員倫理の資料の確認テストを活用して振り返りを行い、守秘義務など確認する機会を設けている。日々のニュース情報にも問題意識を持ち、日頃の言動にも注意を払い、気付いたことは速やかにミーティングで振り返り、職員間で共有している。また、必要に応じ関係機関に報告し連携を取り迅速に対応できる体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている 保育園入口に園行事や子育て支援の取り組み、連絡先を掲示して近隣へ知らせる情報を見える化している。園見学時には、活動の様子を話すだけでなく、実際に子どもの姿を見てもらいながら保育者の関わり方やほかの職員と触れ合う様子など、普段の園の遊びや生活を見てもらう機会を設け、情報を開示している。また、利用者の意向に対して園長は、苦情受付、解決責任者として重要なお知らせ(冊子)に記載し、入園説明会でも伝えている。園はポスターにも記載して、いつでも相談対応できる体制を備えていることを明示している。 園が様々なネットワークに参画して地域の一員としての役割を果たしている 荻窪地域の中核園と連携して打合せを行い、地域の課題を検討するなど、地域の保育施設に向けた取り組みを行っている。園庭のない保育施設が安心して遊べるように時間を工夫して夕方や土曜日に園庭開放を行ったり、園内研修への参加を私立保育園に呼びかけたりするなど、声をかけ合える関係を築いている。保育施設以外の機関とも連携して様々な取り組みを活発に行っている。近隣の小学の地域子育てネットワーク連絡会へ参画し、行事(たのしさバクハツ天沼まつり)では他園と協力してブースを出店するなど、地域との交流を深めている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定しており、職員にも周知している。リスクに対する園内対応を常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して、役割分担をしてリスク管理を行っている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、不審者対応など様々な想定で訓練を実施している。消防や防犯の関係機関の協力を得た訓練を実施し、地域の保育施設の職員にも声をかけて参加を促し、計画的に取り組んでいる。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりで伝えている。保育園の利用開始前に説明する重要なおしらせ(冊子)にも区災害対策本部の指示に従い、安全確保の最優先を行う旨明記しており、「大地震発生！保育園はどうなるの？」を配付して詳しく説明している。また、併設の児童館と合同で訓練を行い、日頃から互いに連絡や連携を密にしている。ヒヤリハットについて報告があれば速やかに原因の分析と振り返り、対応策を検討し職員全体で情報を共有して再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努め、各記録は施錠の上、保管・管理している。各記録の使用時は管理簿への記入を徹底している。情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権などの設定をしている。リスク管理に対しての職員の意識が高く、タ保育当番が行う確認項目を明確にチェック表にしてセキュリティチェック体制を複数対応とし、日常的に行うことで園全体で意識付けができています。		

5 カテゴリー5			
5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		☐ 非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 区は、人材育成方針、職員人材育成事業実施計画を掲げ、職員一人ひとりの能力向上とチームワークの構成を推進している。園は区の人事課、保育課と連携を取りながら必要な人材の確保ができるようにしている。採用された職員にはOJTによる配置園での計画的な指導のほか、研修を実施して専門性の学びから個々の能力を活かせるようにするなど職員の適性を把握しながら育成を図っている。各職員が自らのキャリアを考え成長を望み、意欲を持って仕事ができるよう共に学ぶ機会が提供され、個々の目標確認ができるように必要な情報を提供している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 保育課実務研修の受講計画や園内研修の計画を行い、正規職員、会計年度任用職員の育成を計画している。区の目標申告シートを活用しヒアリングを実施し職員の状況を把握し育成を計画し実施している。新任育成担当者については、担当職員だけの責任において行うのではなく園全体で取り組み、育成する姿勢を明確にし周知している。休憩や休暇は全職員がバランスよく取得できるよう、園全体の体制に見える化して職員の意識を高める工夫をしている。年度ごとに職員の仕事への取組みを把握し、経験や全体のバランスを考え次年度への職員配置に活かしている。 チームワークを活かし、保育の実現を目指す取り組みが組織力の向上につながっている 保育の向上リーダーと共に会議の場で保育のアイデアを出し合い、その実現に向けて日々取り組んでいる。一人ひとりが思い描く保育を話し合い、それらの実現に向けて5本柱(園長・主査・向上リーダー)を中心に、フリーやプロジェクトリーダーとも連携し、各係に分かれて一人ひとりが力を発揮している。職員も子どももわくわくする保育(ジャングルの日、ばぶるの日、ホールで絵具)について園全体で取り組むことで、保育の質の向上にもつながっている。職員が話し合いを重ねて協力して一緒に活動を楽しむことで、チームワークも促進されている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 日々の保育を豊かにできる専門性を深めていくために、一人ひとりの保育をみんなの保育としてとらえ、目標シートを作成して園全体で取り組んでいくことを目標とした。その上で、①向上リーダーを中心に、職員の思いや悩みを出し合える取り組みを行った。豊富なアイデアや保育についての意見も出てきた。そこから課題を抽出し、職員会議や園内研修を充実させ、さらなる保育の質の向上を目指すという考えにつなげることができた。また、②「より良い保育環境」や活動内容、取り組みについて考え、ホールを環境としてとらえ、子どもの心を豊かにする活動を行事として行うことにした。ホールをジャングルに見立てて楽しむ「ジャングルの日」や、ブルーシートを広げて大きな紙に思い切り描いたり、絵の具の感触を味わったりする「絵具の日」などに取り組んだ。取り組み期間を一週間設定し、継続した行事として行うことで、子どもが存分に感性を働かせて遊びを発展させられる環境を提供することができた。こうした充実した取り組みをもとに、今後は、さらに保護者との保育の共有を活発に行うため、システムを活用した発信の方法を検討し、充実させることを目標のひとつとしている。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 個々の取り組みの推進を目標シートに位置づけ、組織目標を踏まえた計画的な取り組みとすることで、取り組み内容の充実を組織目標の追求・実現に結び付けている。また、その過程で、職員相互のコミュニケーションや理解を促進し、保育の質の向上に向けた取り組みの基盤をさらに強固なものとしている。より良い保育環境に向けた取り組みも、一過性のものでなく、継続性を持たせることで、子どもは存分に楽しむことができ、また職員もねらいに基づく保育の検証やその成果の活用により効果的につなげていくことができる。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

中核園と連携した交流事業や集団経験の少ない近隣の保育施設の年長児との交流、障害児保育園との交流をより活発にしていくことを目指して、様々な取り組みを進めた。職員交流、子どもの交流、地域懇談会、園庭開放に組み込み、近隣の障害児保育園在園児の保育体験、小学校交流への合同参加などを行ってきた。子どもの交流事業では、参加希望人数が多かったため、日程を増やして対応した。在籍の年長児が1名の保育施設にはできるだけ声をかけ、当園と一緒に行事や小学校交流事業へ参加するよう働きかけた。中核園の取り組みは浸透してきており、保育施設間の情報共有が活発になされ、連携が深まっている。地域懇談会や研修などを通じて関わるのが日常となり、互いに声をかけ合い協力できる関係性が構築されている。経験を積み重ねていることで、職員が自園だけでなく「同じ地域に住む子どもの育ちを支えるためにできることはなにか」という視点で考え、行動できるようになっている。今後は、コロナ禍で中止していた事業をより一層活発化させ、保育経験の還元の機会を増やし、近隣保育施設へ園内研修参加への呼びかけを行うことを目標としている。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

区としての事業・仕組みを有効に活用して、地域の子育て世帯のニーズに応えていく取り組みが見て取れる。非在園児の育ちにとっての有益な経験となるのみならず、保護者とのつながりを作るという意味で子育ての孤立化を防いでいく上で、園の専門性が活かされている。地域の他の保育施設との連携した取り組みとあいまって、どの子どもも「同じ地域に住まう子ども」として育ちを支えていくという、園としての役割を果たしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」などで園情報を発信している。杉並区の保育施設ガイドブックでも情報提供され、利用希望者がすぐに手に取れるようになっている。ホームページでは園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標など概要を伝えている。保育施設ガイドには遊具の種類、主な散歩コースや園独自の活動も記載してより園の特徴がわかる情報を紹介している。外国籍の方への情報提供は、ふりがなやカタカナ表記などそれぞれ選択できるように備えてわかりやすい援助方法で対応している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供と共有に努めている 保育課へ中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについて報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。地域の懇談会に参加して情報交換すると共に、研修や行事など取り組みへの参加を通じ、地域とのつながりと連携を図っている。児童館や保健センターなどとの様々な連携を通じて、園の取り組みや情報を提供している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学については、曜日を決めて午前中に受け、主に園長が対応している。事前の受付や見学日を設定している。個別に希望があった場合、対応できる範囲で日程の調整に応じている。見学者の人数によっては受け付ける組数や回数を調整している。見学時には園概要や保育の通信文書などのほかに、入園したら準備が必要な持ち物や保護者参加の行事、発熱時の対応についてなど、見学者からよく質問がある事項をまとめた資料を配付し、実際の園生活がわかるような発信に努めている。電話による子育て相談も体制を備えている。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、安心して入園できるようにしている 新入園児は保育開始前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、入園までの生活状況や健康状態、食事の状態などについて個別に保護者と面談して、保育に必要な子どもに関する情報を確認している。園長は家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や子育ての意向などを聞いている。乳児や食物アレルギー、健康上の問題など対応が必要な場合は、栄養士や看護師も面談に加わっている。説明会では、入園までに準備するものや個人情報に関する事項、入園後のルール、緊急時の取り決めなどを丁寧に伝えている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園当初は保護者と相談して、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育はおおむね一週間をめどに子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立つ基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらっている。保護者の不安を軽減し子どもが園の人的、物的環境に慣れて過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、子どもの作品をまとめて渡し、保護者や子どもの不安を軽減できるように次の生活へ向け声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行への支援のため子どもの情報提供ができるように体制を備えている。就学へ向けて小学校から提供される情報を保護者に伝えている。卒園時には、保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。年長児は近隣の小学校見学を行うなど、小学校への期待を膨らませている。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	☐ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	☐ 非該当

サブカテゴリ-3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に提出した家庭連絡票や児童健康調査表から、入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。指導計画の作成、保護者会、個人面談日程などはできるだけ柔軟な対応を行い保護者のニーズや課題の収集をする機会を設けている。各指導計画は月ごとにクラスや園全体で振り返りを行い、向上リーダーや主査を中心に反省、評価し会議で必要な見直しを行っている。 子どもの個別の発達や状況を踏まえた計画を作成し共通理解に努めている 全体的な計画を基に、年齢別に年間指導計画、月間指導計画を作成している。週案では具体的な活動を計画して貼り出し、保護者にも知らせている。保護者には年度初めの保護者会で年間指導計画を示し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては、個別に指導計画を作成している。障害を持つ子どもの受け入れにあたり職員は、医師と心理の巡回指導で専門家とも連携し、子どもの特性に合わせた計画を作成して実践している。全職員が子どもの育ちを理解し必要な情報の共有に努めている。 職員間で子どもの状況などの共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 年度初めの保護者会では、全体的な計画や各クラスの保育について各年齢の発達や保育について資料をわかりやすく作成して配付し、説明を行っている。子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、毎月のカリキュラム検討時に各クラスの課題を重点的に伝え、全体で話をする機会を設けている。日々の子どもの様子は受託簿や保育日誌に記録し、毎日のミーティングで保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、怪我の報告など連絡事項の情報共有を定例化している。内容によっては会計年度任用職員へ連絡コーナーを活用して周知を図っている。			
サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。また、療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の意思を確認して対応している。園では入園時に、「重要なお知らせ」として、入園後のルールを伝える冊子を配付し、個人情報の取り扱いについて触れ説明している。園のおしりの中でビデオ撮影等及び画像データ提供について明記しており、その理由や取り扱い、留意事項などについての区担当部署からの書類も添付している。職員の意識を高め、個人情報の取り扱いに留意して保育が提供できるように努めている。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている おむつ替えや着替えの場所にはついたてを置き、他からの視線を避けたスペースを確保できるよう工夫している。看護師は子どもにプライバシーゾーンについて話し、子ども自身が自分の体を大切に守ることを意識できるよう支援している。水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい着替えを指導し、子どもの羞恥心に配慮し保育を行っている。3歳以上では扉のあるトイレを利用している。扉の外側に色分けされた両面カラーの丸い札を下げ、裏表に返すことで使用中かどうかを子どもでも簡単に示すことができるように工夫している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 子ども一人ひとりの気持ちを大切に保育に取り組み、思いを代弁したり気持ちを受けとめたりして子どもの人権に配慮した保育を行っている。また、様々な国や家庭の価値観に配慮した保育や個別の対応を行い、保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守るための課題について、区関係機関が実施する研修への参加を促している。必要な研修を受講し、そこで得た内容や知識を話し伝え、会議の中で学びを共有し、倫理意識を高め、会計年度任用職員も含め全職員が理解を深められるようにしている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きを備えている。保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園マニュアルのファイルを事務所と各クラスに備えている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人配付している。各自、会議の時に必ず持参手元に置いて、わからないことがあれば直ぐに確認できるようにしている。保育実践方針は保育を高めるために必要な事項が記され、社会状況の変化など必要に応じ変更・改訂する仕組みを備えている。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 区立保育園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して見直している。園独自の「園マニュアル」は年度末に反省を行い、項目ごとに確認して、見直しをしている。人の入れ替わりや子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時など必要な見直しは時期を待たずに打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。新人職員の育成のためにOJTを実施し、わからないことは育成担当者に直ぐに確認できる環境を整えている。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認し、誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる 園マニュアルを作成し、サービスの提供について職員間で統一した対応を行うよう注意し整えている。子どもの様子や職員の提案を反映して保育環境の改善を図り、遊具を選択して設定や提供について検討し、日々園運営を行っている。保護者会や連絡帳、保護者参加行事後の反響など、送迎時や普段のやり取りからも保護者の意見を把握して、クラス運営に反映している。緊急時の対応について安全計画を基に訓練計画を定めている。日常保育の中で突発的に起きた事象に対して、マニュアルを踏まえ職員がどのように対応できるか、判断力を磨くことが求められる。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 子どもが主体的に周囲の人やものに関わり楽しめる環境づくりを最優先に考え、室内・室外環境プロジェクトを立ち上げ、定期的に環境の改善に取り組んでいる。日常の保育で幼児クラスが交流する機会を設け発達に応じ設定を変えたり、乳児クラスが園庭などで他クラスとの関わりが自然に持てるようにしたり、室内環境でも子どもの興味関心を広げるような遊びの工夫をしている。子どもが手に取り扱いやすいように遊具を配置し、積み木遊びなどは翌日も続きができるようにホールや園庭の空間を継続使用できるように園全体で協力して取り組んでいる。 配慮を要する子どもに対し、職員が共通認識を持ち必要な対応ができるようにしている 保育方針である、「いろいろな経験を通して意欲や思いやりを育て、自分も他者も大事にできる心豊かな子どもに育成していきます」ということを取り入れ障害児保育を実践している。安全面に十分な配慮を行いながら、一人ひとりの特性を理解し他児との交流ができるような環境や援助の仕方を考え、障害を持つ子どもも他の子どもと同じ年齢のクラスで仲間として一緒に過ごしている。保育者は子どもへの対応の仕方について研修などで学び、日々研鑽に努めている。園として全ての職員が配慮を要する子どもに共通認識を持って対応できるように取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を行い、より良い援助ができるよう努めている 子ども同士のトラブルについては、危険のないように注意して、状況を見極めながら子どもの気持ちを尊重した対応をしている。「子どものサインには全て意味がある」ととらえ、気持ちをくんだ言葉かけを心がけている。年齢によって子どもにわかる言葉で話したり、場合により互いの気持ちを代弁したりしている。施設見学や入園説明会、保護者会では、成長の過程で子ども同士のトラブルが起こりうることを説明し、理解を得られるように努めている。保護者に対しても子どもの心を伝えることを意識し、保護者の視点を踏まえて状況を説明している。	

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当		
評価	標準項目																	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当																
	評価項目2の講評																	
	基本的な生活習慣の確立の大切さを保護者に知らせ理解を得られるように努めている 朝の登園時には挨拶を交わし、子どもの顔色や表情、機嫌など健康状態を観察をして、保護者に家庭での子どもの様子を聞いている。乳児クラスは連絡帳を活用し、幼児クラスは口頭で子どもの様子などを聴き取り保護者に確認している。また、クラス内で共有できるように、視診表を活用して連絡や引継ぎ事項を確かめ、確実に伝えている。園では、指導計画をもとに基本的な生活習慣の確立に向け家庭と連携して同じ対応ができるよう保護者会やクラスだよりで取り組みの時期などを伝え、子ども一人ひとりの身体機能の発達に合わせた取り組みを行っている。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息が取れるようにしている 長時間保育で過ごす子どもの生活に必要な休息時間を保障できる環境を整えた上で、午睡時間は個々の状況に配慮している。0歳児などはまだ生活リズムが定まっていないため、連絡帳や保護者の伝言を参考にして、午前寝や午後寝の時間を配慮し個別対応をしている。なかなか寝付けない場合には少し横になり体を休め、早く目覚めてしまった場合には、起きて静かに過ごせるように、必要に応じてスペースを分けるなど対応している。年長児は、クラスの状況や個々の子どもの様子に配慮しながら就学前に少しずつ午睡時間を減らしていくようにしている。 降園時にはその日の保育の様子やエピソードなどを保護者に伝えている 乳児クラスは、個別の連絡帳を活用して、保護者からの家庭での様子に返事をするとともに、園での日中の様子を伝えている。幼児クラスは、開示日誌を活用して、その日の子どもの状況がわかるようにしている。降園時には、子どもの様子をひと言でも口答で伝えるよう心がけている。怪我による通院や日中の様子などを担任が直接伝える必要がある場合は、担任や園長が対応している。特に伝達漏れがないよう注意を払い対応している。今後は、保育ICTシステムの運用が本格的に始まるため、報告や連絡について改めて取り組んでいく方針である。																	

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		
	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付く、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		
評価項目3の講評				
子どもが遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 園の環境を活かし、生活空間を維持しながら遊びの空間を保障している。ホールや園庭を含め、継続して使用できるように園全体で協力体制を取っている。幼児の保育室では、積み木の継続した取り組みなど、遊びの継続ができるようにしている。個々の特性を共有し、集団活動へ主体的に関わることができるよう、担任だけでなく会計年度任用職員も含め、遊びへの参加の促し方を共通理解している。保育の質の向上を図るため、全体的な計画プロジェクトを中心に、子どもの発達と保育の継続性を踏まえた保育の実践に力を入れている。 素材や自然物に実際に触れ合い体験的に楽しめる園内環境を工夫した遊びの機会がある 外環境プロジェクトを中心に、子どもの「やってみたい」という希望を実現できるよう、環境の充実に取り組んでいる。泥んこになって遊ぶ、泡を使ってダイナミックに感触を楽しむなど、豊かな経験を保障している。ダンゴムシが集まる空間や遊びに使える草花が生える空間を整備している。プランターでは季節の野菜を栽培し、収穫している。事務所前のビオトープでは、「水の中にはどんな生き物がいるのか」がわかるよう、メダカなどの紹介写真付きの「びおとぶのなかまたち」を掲示している。子どもも益々興味・関心を持ってのぞき込んでいる。 子どもがきまりの大切さについて考え、自分の気持ちを調整できるよう援助している 園では、子どもとの応答的な関わりを大事にし、丁寧な言葉で関わっていくことを実践している。安心できる関わりを重ねながら、生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付いて自分の気持ちを調整する力を育んでいけるように働きかけている。子どもの年齢や発達を捉えたカリキュラムを作成し、毎日の生活や遊びを経験する中で子ども自身が「なぜきまりを守らなければいけないのか」を考えられるようにしている。乳児・幼児共に「ルールを守って遊ぶと楽しい」という経験を積み重ねられるよう、保育者は見守り、援助している。				
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		
評価項目4の講評				
行事は楽しく取り組める内容となるよう子どものアイデアを取り入れ工夫している 常に子どもの視点に立って行事のあり方を検討し、子どもの姿や発達をとらえ、子どもの声を的確に受け止め、行事計画に活かしている。遊んでいる姿や興味・関心を持っていることをよく見て、なにげない会話からヒントを得て活動に取り入れ、上手に展開させている。どうすれば楽しいことを実現できるか、保育者も子どもも楽しみながら行事を作り上げる取り組みのプロセスを大事にしている。その様子は子どもの姿を通して保護者にも伝わり、理解を得ることができている。楽しみにしながら協力してもらっており、園の取り組みの共有につながっている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 目標に向けて子どもが自分の意見やアイデアを出し合い話し合う場を持ち、みんなで協力し達成感を味わえるよう取り組んでいる。保育者は子どもの意見を引き出し、子どもは共感や葛藤を経験しながら運動会や表現遊びなどの行事に取り組んでいる。特に年長児は、ただやりたいと言うだけでなく、やりたいことを実現するためには何をするのかまでを考え、必要なものを自分たちの経験から順序立てて求める姿も見られ成長を感じている。伝承行事のほかに藤見会食、かみおぎこどもまつりなどの園独自の行事もあり、豊かな経験を重ねている。 行事の様子は、ドキュメンテーションで保護者に伝え取り組みの全体を共有している 園では活動の様子をクラスだよりや開示日誌で保護者に伝えている。写真を活用して行事の様子をドキュメンテーションでも伝えている。保護者に対して、わが子だけに目を向けるだけでなく、他のクラスの子どもにも関心を持てるように考え、積極的に発信している。送迎時にできるだけ子どもの活動の様子を口頭でも伝え、子どもにとって大切なことや、なぜそれに取り組んでいるのかについてわかりやすく伝えている。それにより、園の保育に対する理解を促進し、子どもの成長を共有し、子育てに見通しや期待を持てるようにしている。				

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当																	
評価項目5の講評 保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように配慮している。静と動の活動を考え、保育室の環境を配慮するとともに、園内の遊戯室や特別室の空間を有効に活用して、一日の活動にメリハリがつくようにしている。子ども自身が使ってみたい遊具ややってみたい遊びの設定をし、職員は一人ひとりの遊びや関係性を継続的に見守っている。早朝・夕方の延長時間には、日中の活動からの興味の継続なども保障できるように、クラス担任と連携を取って遊びの設定などの工夫や配慮をしている。 夕方の子どもの部屋移動を少なくして、落ち着いて過ごせるような工夫をしている 夕方の保育では、できるだけ自分のクラスで過ごすようにし、合流の時間は子どもの年齢、人数や状況に合わせ、年度ごとに確認し体制を決めている。年度途中であっても状況の変化に合わせて随時確認・検討し、子どもにとって負担が少なくゆったり過ごせるように体制を考え、早運用の遊具を用意して提供している。保育時間の長い子どもが寂しい気持ちで迎えを待つ時間とならないようにしている。個々に配慮が必要な子どもがくつろげる環境を提供し、どの子どもも安心して休息が取れるように工夫している。 早夕の保育は異年齢児がゆったり関わり自然な形で子ども同士の良い関係ができています 日々同じような顔ぶれで、朝夕の時間を過ごしている子ども同士が、日中の保育の中でも自然な形で触れ合うことができています。保育時間の長い子どもは自然な形で異年齢児保育を体験し、日中も互いの存在を気にかけて、挨拶や声をかけたり、姿を見つければ嬉しそうなお表情を交わしたりするなど、兄弟姉妹のようなつながりができている。また、当番の保育者や職員と絵本を呼んだり、好きな遊びを楽しんだりしてゆっくりと穏やかに過ごす中で、優しさと思いやりの心が育まれている。																			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当																	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当																	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当																	
評価項目6の講評 落ち着いた食事環境の中子どもが楽しく食べられるよう工夫している 給食は、栄養バランスを考え季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理し提供している。ミーティングで当日の献立について喫食状況や形態などの意見交換をしている。食事テーブルの配置や大人の動線を整理し、椅子やテーブルは子どもの年齢や発達に合ったものを用意し、体格に合わせ足置きやマットなどを使って調整して、子どもが楽しく落ち着いた雰囲気の中で食べられるように配慮している。また、特に乳児期は味覚が過敏であるため家庭の形態と給食の形態に差がないように注意して、保護者との連携しながら進めている。 アレルギー児の食事については、誤食のないよう細心の注意を払い提供している アレルギー児はアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いなどにより個別の食事対応が必要な場合は、食物除去申込書を保護者から提出してもらい、マニュアルに則り、除去または代替食で対応をする。前月に保護者と献立表及び成分表のチェック項目を確認し食材の確認をしている。アレルギー児の給食は、前日に全体のミーティングで除去食についての確認をして個別トレイで用意し、提供直前に担任と調理員とで原因食材の除去食または代替食を目視し、口頭で確認してから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解して対応している。 地域の協力を得ながら野菜の栽培や調理体験など食育の取り組みを行っている 子どもの興味を引き出し、栄養士と共に食育を実施している。お茶屋さんから頂いた茶葉から実際にお茶を入れ香りを知るなど、地域の商店街から情報提供を受けて食育に反映してきた。給食の残量が多いクラスに向けて、サラダのドレッシングの作り方を見せる取り組みや、ポップコーンができる品種のとうもろこし苗を選んで、園で育て収穫して実際に作って食べるなどの体験もしている。食の知識や食材の変化などに気づき、自分たちで作った物を味わう感動を実感できる機会を通し、食が身近なものになるよう取り組んでいる。																			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている ☐非該当
評価項目7の講評	
子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 子ども自身が自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守ることや、病気や怪我に対する意識を高められるよう、年齢に合わせて活動を計画に盛り込み実践している。体の使い方や身のこなしを身につけることにも力を入れ、乳児期から各年齢通してリズム運動を取り入れ楽しみながら取り組んでいる。プライベートゾーンなどについて、看護師が健康教育の中で話している。子どもがわかる言葉で、生活や遊びの場面で体験を通じてわかりやすく伝えることを心がけている。 専門機関との連携のもと、適切な対応ができるように体制を整え備えている 医療的ケアが必要な子どもは現在、在園していないが、障害児指定園として在籍する支援が必要な子どもへの配慮や特性を理解して、共に育ちあう保育を日々実践している。区立保育園における医療的ケア実施ガイドラインに基づき、実務研修を受講して学び、受け入れに必要な知識を得て常に情報を更新、職員間で共有し、受け入れられるよう体制を備えている。また、園では毎月の身体測定、年2回の嘔吐園による健康診断、年1回の歯科健診、幼児対象の眼科・耳鼻科健診を実施している。嘔吐医と連携しながら園児の健康維持に取り組んでいる。 保護者と連携して、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 乳児クラスは連絡帳を活用し、保護者と健康状態の共有を図っている。幼児クラスは登降園時に保護者より健康状態を確認して把握している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については年度当初にチラシを配付して周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面接で個々の健康状況を把握し、乳幼児期に必要な体の発達や幼児クラスが運動会でリズムを発表して活動を紹介するなど、家庭による理解と協力、連携を図っている。	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している ☐非該当
評価項目8の講評	
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時の面接や、入園後の個人面談の情報から保護者の個々の事情を考慮し、園ができる範囲で必要な支援を行っている。送迎時に声をかけ、連絡帳からも保護者の悩みや困りごとをキャッチできるように努めている。子育ての悩みなどを担任や園長、主査が聴き取り、まずは困っている状況を受け止め、一緒に考えながら保育時間の変更や必要な手立てを講じ支援している。クラス担任だけでなく園全体で見守り、送迎時には、当番保育士や園長、主査などからも園でのエピソードを伝え、保護者が安心して子どもを園に預けられるような対応を行っている。 子どもの発達や育児などについて保護者と共通認識を持って保育に取り組んでいる 保護者会では年間の保育計画をもとに子どもの発達、園の保育について説明し、共通認識を持てるようにしている。また、保護者同士が懇談や交流をできる時間を設定し、保護者が共通して抱える問題について一緒に話し合えるよう、工夫している。子どもの発達についての心配事、園から個別に伝えたいこと、保護者の悩みの相談などは、必要に応じて個人面談により対応している。保育体制などは園全体でカバーし、保護者の都合を優先して、時間を空けずに心配事などを共有できるように配慮している。 保護者が安心して子育てができるよう成長発達を伝え共通認識が得られるようにしている 保護者が子どもの成長に見通しを持ち、楽しみや喜びを感じるられることを大切にしている。わが子だけでなくどのクラスの保育にも関心を持ち、共有してもらえるよう、全クラスのクラスだよりを掲示するなど、保育の伝え方を工夫している。保育参観、保育参加の機会を随時設け、時期を設定して知らせている。保護者が希望した場合はその都度応じている。保護者からの発信を見逃さないようにし、連絡帳や、幼児クラスではクラスだよりにより、子どもの様子を伝えている。保護者からの発信を記録するメモの書式を作り、必要に応じて活用している。	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
近隣の児童施設や保育園との交流が、子どもの経験が広がる機会となっている 中学校の生徒会のペットボトル回収の際に中学生とやり取りする場面や、ボランティアのおはなしの会の方が4、5歳児クラスに読み聞かせのため毎月訪れる機会があり、子どもも楽しみにしている。園と同じ建物の中に児童館が併設されているため、普段から子どもは児童館との交流を体験している。栽培する苗を近隣の商店で購入することで、買い物の際に声をかけたり、挨拶を交わしたり、様々な大人との関わりを広げる機会となっている。公共施設の人との関わりの中で、社会への関心を広げ、ルールを知ることにもつながっている。 園庭開放など、地域の子どもと一緒に遊んだり交流する機会を確保している 中核園事業で行われる園庭開放などの交流事業や小学校区の連携事業に積極的に参加している。夏まつりでは近隣の保育施設を、お神輿の応援や見学に誘っている。近くの障害児保育園との交流や園庭開放では、地域の小規模保育施設を招いて、子ども同士が安心して互いに遊びを楽しんだり、小学校の就学児に向けた交流事業に誘って一緒に参加し仲間づくりを体験している。地域ネットワークの取り組みが盛んに行われている地域性もあり、近隣の見守りのもと、子どもも地域の人と触れ合う経験から、自然に関わり方を意識できるようになっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもからの発信から豊かな保育を展開するため様々な工夫をして取り組んでいる	
内容①	子どものアイデアや発信を最大限に尊重し、それを保育者がキャッチしてよく聞き取り、思いに寄り添いながら、子どもの「やりたい」という気持ちが実現するように日々の保育の中で考え取り組んでいる。特に幼児の取り組みでは、子どもの発想や気づきに注目して一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援を工夫している。子どもが主体的に集団活動に関われるように援助し、活動を積み重ね、やり遂げる喜びや楽しさを味わうことができている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	楽しいことを見つけ、まずやってみようとする職員の意欲が組織を活性化している	
内容②	良好なチームワークを活かし、「子どものために良い保育をしたい」という思いの実現に、一丸となって取り組んでいる。保育向上リーダーと主査が全体を牽引して、皆で同じ方向を向いて協力している。困った事があれば抱え込まず、いつでも相談できる風通しのよさがある。課題や問題には、組織全体で対応を考え、解決に向けて取り組んでいる。職員一人ひとりが、アイデアややりたいことを豊富に持ち、新たなこと、変化、楽しいことなどに積極的に挑戦している。意欲に満ちた大人が実践する豊かな保育が子どもの意欲にもつながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域との関わりが子どもの経験を豊かにし、職員の学びにもつながっている	
内容③	併設の児童館とは日常的に連携し合える関係がある。近くの小学校との関係も良好で、就学に向けた交流にも参加している。中核園事業を通じて近隣の園と交流を続け、顔の見える良好な関係ができています。集団経験の少ない園とは、年長児の交流や小学校交流事業へ合同で参加している。近くの障害児保育園とは、在園児の保育体験、職員交流なども受け入れている。地域との関わる様々な機会を、職員も構えることなく普段通りの保育を行う中で自然に受け止め、行動している。交流を重ねることが子どもの経験を広げ、職員も学びを得る良い機会となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	身近な自然との触れ合いができる園庭環境づくりを工夫して、豊かな経験を育んでいる
	内容	プロジェクトを中心に、魅力ある園庭環境の充実に取り組んでいる。だんご虫が育つ場を設け、プランターを活用して子どもが自由に摘める草を育生し、メダカや小さな生き物が泳ぐビオトープを用意している。様々な工夫により自然物に触れて遊べる環境をつくり、子どもの想像力や体験を豊かにする取り組みを継続している。園庭の藤棚や、木々や土の感触なども保育に活かし、子どもが自分で興味を持って関わろうとしたり、自分が見つけた遊びの楽しさを十分味わったり、それを続けたいと思うようなきっかけとなるヒントを豊富に提供している。
2	タイトル	保護者との信頼関係を作り、子どもの成長を共有する取り組みを行っている
	内容	入園時や年度初めの保護者会で保育について説明している。また、一月の園だよりにより再掲載し、取り組みを含め園の保育について再度理解を図っている。保護者がわが子の成長だけでなく、どのクラスの保育も共有して楽しめる園となるよう、保育を伝える工夫に力を入れている。全クラスのクラスだよりを掲示板に貼り出し、ホールでの行事を乳児保護者へ開放して、幼児クラスの取り組みを見てもらおうとしている。子どもの成長を知り、大きくなった姿に見通しを待ち遠しく思ったり、子育てを楽しんだりすることも親支援のひとつと考え、実践している。
3	タイトル	職種を超えて連携をとり、それぞれの専門性を活かした支援に取り組んでいる
	内容	職員一人ひとりが自分の役割に責任を持ち、最後までやり遂げることにより、組織としての運営や日々の業務を円滑に進めている。保育士、看護師、栄養士、調理、用務などの専門性を保育に活かし、日々の丁寧な支援を行っている。生活や遊びの様々な場面で関わりながら、支援が必要な子どもや保護者に丁寧にに関わり、安心・安全の保育の実践につなげている。職種を超えた協力体制のもと、皆で園の子どもを見守り、子どもの意欲や想像力を高める保育を提供することができている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し、保育を伝えていく
	内容	保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示などを活用して保育の共有を進めている。職員は保護者の話を傾聴し、必要に応じて面談時間を設け、迅速かつ丁寧な対応を心がけて子育て支援を行っている。園としては、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有していくことができることを、今後も追求していく方針である。園生活から様々な学びを得ていることや、子どもの遊びや活動のねらいなどを明確に伝え、保護者による保育への一層の理解を図るため、発信の工夫に取り組んでいくことを課題としている。
2	タイトル	地域のニーズに基づき、園としてできることを組織全体で考えていく
	内容	中核園事業の取り組みや近隣園との交流に対する職員の意識は高く、自園でできる活動を積極的に進めている。職員の専門性や園の機能を活かし、地域の親子や近隣の他施設のニーズをうまく組み合わせることで、もっと貢献できる余地があるのではないかと園では考えている。園の役割には、在園児への保育の提供だけではなく、地域における保育の専門機関として、地域の子育て世帯への支援や他の保育施設への保育の還元を行うことなどがある。こうしたことを職員の共有認識とし、さらに意識を高めていくことを今後の課題としている。
3	タイトル	職員一人ひとりが意識を持ち、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んで行く
	内容	時間内での業務の終了や休憩時間の保障を確実なものにしていくことは、ワーク・ライフ・バランスの実現だけでなく、より良い保育の継続にも不可欠である。その意味で、経営層だけでなく個々の職員も意識して取り組んでいくことが求められる。各自の業務の現状や見通しを組織全体で共有することは、相互のフォローを容易にする。新たな取り組みの導入に伴う課題が生じた場合も、皆で意見を出し合い解決していくことで、課題への対応を通じた職員の成長＝力量の向上にもつながる。今後も、無理なく働き続けられる環境を維持していくことを課題としている。

4. 荻窪南保育園

荻
窪
南

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				福祉、経営	H2301066
	②				福祉、経営	H2201085
	③				福祉、経営	H2201084
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	荻窪南保育園					
事業所連絡先	〒	167-0051				
	所在地	東京都杉並区荻窪1丁目1番6号				
	Tel	03- 3398- 9168				
事業所代表者氏名	入村 良子					
契約日	2024 年 6 月 19 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 5 日					
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 9 日					
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 5 日					
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 26 日					
訪問調査日	2024 年 10 月 16 日					
評価合議日	2024 年 12 月 19 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 入村 良子

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 傾聴・対話 様々な職種の方々と対話し、良い点、改善点を見出します。職員全員と共に考えながら、園運営を行います。 2) 熟考～迅速に或いは熟考して～ 現場の声に根差し、「子どもたちの最善の利益」になるような選択をします。決断事項については、①決断理由②全体への投げかけ時期、方法（保護者からのご意見であれば保護者に対しても同様に説明をする）を明確にし、途中経過も伝えます。 3) 連携 園運営を行うためには、様々な職種の職員同士の連携が不可欠です。各専門職の職務内容及び思いを尊重し、互いにリスペクトし合う関係を築いていきます。 4) 効率化 業務の効率化を図るように努めます。例えば、会議では事前資料を配布し、重要な点のみ説明し、討議時間の確保に努めます。 5) 臨機応変 子ども、保護者、職員、地域、区など様々な方面から日々ご意見を伺い、「子どもの最善の利益の尊重」を根底にした対応していきます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子ども一人ひとりと向かい合い、気持ちを十分に受け止め、子どもに優しくあたたかく接する。 ・経験年数や職種に関わらず対話を通して認め合い、保育を継承する。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子どもの最善の利益の尊重を念頭に、子どもの気持ちを十分に受け止め、優しくあたたかく関わる。 ・保護者の思いを傾聴し、子どもの成長を保護者と共に喜び合い、「共育て」を推進する。 ・地域に親しみやすい保育園として、近隣園や地域の方々と交流する意識を持つ。 ・よりよい保育をするために、様々な観点から保育実践を振り返る。 ・安全に配慮する。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

71

利用者家族総数(世帯)

64

共通評価項目による調査対象者数

64

共通評価項目による調査の有効回答者数

34

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

53.1

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」 76%、「まあまあ満足」 12%、計88%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	28	5	1	0
回答者の82%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	28	3	2	1
回答者の82%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	26	7	0	1
回答者の76%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	25	8	0	1
回答者の74%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	25	4	0	5
回答者の74%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	27	6	0	1
回答者の79%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	13	0	1
回答者の59%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	29	4	0	1
回答者の85%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	25	7	1	1
回答者の74%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	30	3	0	1
回答者の88%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	28	4	1	1
回答者の82%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	7	1	2
回答者の71%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	29	4	0	1
回答者の85%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	26	5	0	3
回答者の76%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	29	4	0	1
回答者の85%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	25	5	0	4
回答者の74%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	15	13	4	2
回答者の44%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知している 年度末反省において書式の見直しや保育理念、保育方針などの再確認を行い、それぞれが話し合う機会を設け園目標などの確認を行っている。年度初めには児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を全職員で確認し、全体的な計画を基本として各クラスが年間指導計画を作成している。新入園児の入園説明会では園のしおりを用いて全体に向け説明をし、4月の園だよりには理念などを掲載して改めて周知している。前期保護者会では、各クラスの年間指導計画を示し、園が大切にしている保育について保護者に詳しく伝え理解が深まるようにしている。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度当初の会議の場で今年度の年間計画を職員に向け、経営層としての役割や責務について説明している。組織目標から係の目標シートを作成し、その内容に基づき園長自身も具体的な年間計画を作成して要所において役割を共有、展開し、自らの役割と責任を職員に伝えている。園長・主査・向上リーダーの4本柱で定期的に意見を出し合い、園が取り組むべき課題の洗い出しを行っている。保育の質の向上に向けタイムリーに検討し、園内研修などに取り入れ課題解決につながる学びが得られるような計画策定と実践に取り組んでいる。 必要な情報が必要な人に届くように最善な方法で周知に努めている 会議ですぐに意見交換ができるようにするため、事前に議題を収集して優先順位をつけ、提案内容を知らせ討議に必要な資料を配付し前もって目を通すなど、会議時間の短縮化を図っている。毎日のミーティングでは、連絡や確認事項など漏れのないようにできるだけ迅速に行い確実な伝達と周知に努めている。会計年度任用職員には、掲示や声かけのほかミーティングや個別にヒアリングを行い必要な情報を伝えるようにしている。重要な案件や情報について保護者には、園だより、すぐメール、掲示などを活用し決定事項とその経緯を伝えるようにしている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 登降園時のやり取りや連絡帳などから、日々保護者の思いを収集して要望・希望の把握に努め、対応に役立てている。保護者会や個人面談の実施の際には、事前にアンケートで質問事項や懇談したい内容を尋ね、園への要望など直接保護者から話を聞く機会を設けている。会計年度任用職員は、ヒアリングシートを正規職員は、目標申告シートを作成している。それぞれ園長がヒアリングを行い話を傾聴し個人の意向を把握している。改善点については係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させ進捗を確認している。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については区立園長会、区内メール、区内広報などで随時確認している。収集した地域ニーズなどの情報は回覧やミーティングなどで、できるだけ速やかに職員に周知している。中核園事業に参画し、近隣施設と連携しながら保育の向上を目指している。また、地域懇談会、地域ネットワーク事業への参加を通して、地域福祉の現状についての情報を把握している。引き続き情報交換や連絡など、近隣の関係機関と顔の見える付き合いを継続して関係を深めたい。 目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる 年度末反省をもとに、係の目標シートを職員と共に作成して園内の取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。目標シートの各項目に取り組み内容を記載することで、達成度合いを図る指標となっている。園運営については、中間反省を行い、課題を明らかにし、後半へ向けて各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を最大限効果的に使い目標達成に向けた実践に取り組んでいる。各クラスの課題を園全体で捉え、互いに助け合うことができている。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 社会人、また福祉サービスに従事する者として守るべき事項を周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設け、職員全体に向け公務員倫理や規範について繰り返し伝える機会を設けている。会計年度任用職員に対しては、ヒアリングシートを活用してヒアリング時に聞き取りをしている。また、研修報告や冊子の閲覧を通し、子どもの人権や虐待防止などについて各自で理解を深めている。なお、虐待が疑われるような情報を聞き伝えた際は速やかに園長に報告し、必要に応じ関係機関に報告して連携を取るなど、迅速に対応できる体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し、様々な意向に対応できる体制を備えている 園の前の掲示板にふれあい保育、園庭開放、身体測定などの案内を掲示して園の取り組みを見える化している。園見学者には、子どもの姿や保育者との関わりや触れ合いなど普段の園の様子を見てもらっている。毎年、近隣の中学校の職場体験、実習生、東京都子育て支援員研修など、次世代を担う育成のため受け入れを積極的に行っている。また、苦情調整委員制度について入園説明会でも伝え、利用者の意向に対し園長は、苦情受付、解決責任者であることを園のしおりにも記載し、いつでも相談対応できる体制を備えていることを明示している。 園が様々なネットワークに参画して地域の一員としての役割を果たしている 保育施設間の連携・情報共有という中核園事業の積み重ねが地域に浸透し、継続的に近隣保育所が園庭開放に参加するようになってきた。看護師や栄養士など専門性を活かした学びの場を設けたり、担当年齢別の職員交流を行ったり主任交流、地域懇談会など様々な機会により交流を深め、良好な関係を築いている。また「保育を語る」ことで保育を見つめる目を深め、振り返ることが気付きにつながった。毎年地域ネットワーク事業のおまつりには日頃の保育活動を活かして参加し、ブースを担当するなどネットワーク事業の一旦を担っている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 区として業務継続計画を策定して職員に周知している。リスクに対する園内対応を常に話し合い、対応策について職員間で共有し判断している。毎月各クラスの室内、施設内・園庭などの安全点検を実施し、危険個所の洗い出しや改善を実施している。危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して役割分担をし、年間避難訓練計画に基づき、地震や火災、暴風雨、不審者対応など様々な想定で避難訓練を実施している。訓練後は実施内容の反省や課題の抽出を行い、対応策を検討・確認している。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりなどで伝えている。保育園のしおりには、安全対策、個人情報についてや災害時の対応を記載し、緊急時の園の対応を知らせている。「大地震発生！保育園はどうなるの？」の手引き書を配付して、年度当初の保護者会でも災害時の対応について改めて説明している。感染症の罹患については速やかに保護者に周知している。ヒヤリハットを含めた怪我などの原因分析、振り返り、対応策など職員全体で情報を共有し、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権などを設定している。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努めている。個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には必ず毎回、持ち出し管理簿に記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、区のルールに則り管理を徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認を必ず行っている。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園とで連携を取りながら人材確保を行い、採用後にはOJTによる配置園での計画的な指導のほか、専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員自身が専門的な知識を高めながら、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組んでいる。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、年度ごとに各々の仕事への取組みを把握し、経験や全体のバランスを考え次年度への職員配置に活かしている。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課人材育成担当による職層研修により、ライフプランや業務改善計画の立案を行い、中・長期を見据えた人材育成計画を策定し、区の目標申告シートを活用しヒアリングを実施して職員の状況を把握しながら育成を計画し実施している。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など勤務形態に関わらず研修を受講している。新人育成者担当は担当者研修に参加し、2、3年目育成担当者会議に主査が参加している。新人育成担当者については、担当職員だけの責任で行われるのではなく、園全体で支援および育成をする方針・姿勢を明確にして取り組んでいる。 チームワークを活かし、保育の実現を目指す取り組みが組織力の向上につながっている ワーク・ライフ・バランスを意識し、その中でも「事務の効率化」や「休憩時間の保障」に向けて体制を組み取り組んでいる。会議の前に気付きや提案したいことを周知し、一人ひとりがその提案について考えることができる時間を確保した上で、会議で検討するようにしている。園内研修の取り組みを通して、園の課題や保育についてクラスで話す時間を確保し、園の目指す保育について連携し個々の意見を出し合えるようにしている。職員は園全体を意識して、ミーティングや日々の話し合いの中で互いに気付きを出し合い、組織力向上につなげている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
		サブカテゴリー1(7-1)	
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
		評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 組織全体の力の向上を図るため、全体を見る視点を持ち、互いに認め合い協力し合える保育を目指してきた。その中で、『事務の効率化』、『休憩時間保障』を進め、保育の質の向上につなげる』を含むいくつかの目標を定めた。そして、ミーティング時間を短縮するため、ポイントを押さえた情報共有を図ったことで、各クラスの状況がわかりやすくなった。こうした成果を得た上で、子どもの理解と関わり方や保育の工夫を学び合う時間の必要性が浮かび上がった。今後は、会議などを含む日々のコミュニケーションをより有効に活用していくことで、相互の学び合いを深めていく方針である。	
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
		評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 「事務の効率化」「休憩時間保障」などは、業務の質の向上や働きやすさにつながる取り組みである。これらを追求する過程を通じて、情報共有の精度を高め、クラス間の相互理解を深めている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

組織全体の力の向上を図るため、全体を見る視点を持ち、互いに認め合い協力し合うことのできる保育を目指してきた。その中で、「保護者との『共育で』を行い、安心・安全な保育を目指し、一人ひとりが危機管理意識を持つ」を含む目標を定めた。そして、ICTを活用することにより、開示日誌をいつでも携帯端末で見ることができるようになり、保育内容への保護者の理解につながった。ICTの先行導入園として、いかにして有効に活用していくか、実践と検証を積み重ねている。今後は、よりタイムリーな発信により、保護者にとってさらに分かりやすい情報提供を行っていく方針である。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

情報の提供はコミュニケーションの一つであり、その意図が重要となる。この点で、「共育で」を念頭に置いて、保育内容を知ってもらうことを意図して発信内容を工夫し、かつ、情報の受け手がアクセスしやすい環境を整えたことは、保護者側の「知りたい」というニーズにうまく応えられた実践であったと言える。

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評		
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページや区の公式アプリケーション「すざぼよ(保幼)」、保育施設ガイドなどにより、園情報を発信している。ホームページには園の概要として、住所、電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標、理念、方針、主な行事など記載されている。地図も掲載し、アクセスルートや周辺情報をイメージしやすくしている。媒体に掲載の画像は、園庭や室内で子どもが遊ぶ普段の様子が伝わりやすいものを載せている。外国籍の方への情報提供はふりがな表記など選択できるように備え、わかりやすく伝えるようにしている。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課へ子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについての報告や必要な連絡を常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。また、地域ネットワークの懇談会などに参加して情報交換すると共に、研修や行事などの取り組みへの参加を通じ、地域とのつながりや連携を図っている。中核園事業への参画により職員もより意識を持ち、専門的な立場から地域のニーズを把握し、園庭開放、ふれあい保育や育児相談など、自園の取り組みや情報を広く発信している。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に合わせ園としてできる限り対応している 園内見学は、日時を設定して実施している。別途希望があった場合はできる範囲で日程の調整に応じている。当日は30～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。園内や保育を実際に見て回り、入園時に準備が必要な持ち物や保護者参加の行事、園が大切にしている点や取り組みなどを、対話しながら丁寧に伝え、園の保育について理解を図っている。また、園庭開放、ふれあい保育なども積極的に受け入れており、実施予定を伝えるお知らせのチラシを手渡し、気軽に参加できるよう誘っている。電話による子育て相談の体制も備えている。		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活を安心できるようにしている 新入園児は、保育開始前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別に保護者と面接を行い、子育ての意向などを聴いている。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態などの保育に必要な子どもに関する情報を把握し記録している。「荻窪南保育園のしおり」「重要なお知らせ」などを配付して、園利用の基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し同意を得ている。乳児の食事の状況や食物アレルギーについては栄養士も確認している。健康上の問題など対応が必要な場合は、特に丁寧に聞き取りを行っている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類を、支援に役立てる基礎資料としている。園長は、家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や意向を相談し、保育時間を決めている。入園当初は短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。保護者の不安を軽減するため家庭状況を把握し、子どもが園の環境に慣れ安心して過ごせるよう、特に乳児の場合は、入園第一日目は親子で過ごしてもらうなど配慮している。そして、子どもの状況や保護者の事情を考慮し、様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者の思いを傾聴し、次の生活へ向けた声をかけ、いつでも相談できることを伝えて不安の軽減を図っている。就学へ向けて、小学校から提供される情報を掲示などで保護者に伝えている。就学前には保育要録を作成し、配慮事項を小学校へ引き継いでいる。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行への支援のため、就学支援シート「すばる」を作成して子どもの情報提供ができるように体制を備えている。子どもの様子を個人面談で保護者と共有し、就学先の小学校へ提出して育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項などは視診表に記載し、必要に応じてミーティングで伝達し、園日誌に記載して全職員で共有を図り、適切に対応している。子どもの課題などは指導計画に記載し、保護者の要望や意向については児童票の面談記録に記録している。 「全体的な計画」に基づき各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 全体的な計画に基づき、年齢ごとの発達や子どもの姿に合わせ、養護・教育の各領域を考慮した年間・月間指導計画を作成している。週案では具体的な活動を計画して保護者にも知らせている。毎月、各クラスからの課題提案を検討し、より良い保育へつなげるためクラスや園全体で意見を交わし見直しを行っている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては、個別に指導計画を作成している。日々の記録は保育日誌・連絡帳に記録し、保護者にもシステムで配信している。子どもの成長の過程は、年齢ごとに定められた期間に児童票に記載している。 子どもの状況など保護者との共有に努め、職員は伝え方の向上に取り組んでいる 年度初めの保護者会では、園の全体的な計画や各クラスの年間指導計画について各年齢の発達や保育のねらいをわかりやすく作成した資料を配付して説明を行っている。保育のねらいを踏まえ、クラスだよりなどの配信や掲示によりできるだけタイムリーな情報提供を行っている。子どもの成長を感じられるような場面や現在の姿をとらえ、保護者との共有に努めている。保護者会前に職員同士で実際の進め方に則りロールプレイを実施し、互いに助言を得ている。職員の対応力やスキルの向上、保護者会の充実にも効果的な学びが得られる良い機会となっている。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いについても説明している。留意事項などについては区担当部署からの説明書類も提示している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の意思を確認して対応している。入園説明会で保護者に説明する内容量が多いため、わからない点については、後日個別に対応し丁寧に説明することを心がけている。また、個人情報の取り扱いについての職員の意識を高め、保育の提供ができるように留意している。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 子どものプライバシー保護について職員間で共有し、適切に対応し、日頃から子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。着替えの際にはカーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい着替え方を指導している。トイレでの排泄やズボンの着脱などの際は、衝立を活用してスペースを確保するなど対応している。健康教育では看護師からプライベートゾーンについて話をしている。日常生活の中でも、絵本などを通じて必要なことを伝え、子どもが自分を大切に守る意識を持てるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 子どもの人権に配慮した保育や適切な保育について、園内研修を行い職員全体で考え、研修報告で職員に周知し保育に反映している。また、保護者の意見に耳を傾け、相談しながら様々な園や家庭の価値観に配慮した個別の対応をすることで、保護者との信頼関係を築いている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援、子どもの権利を守るための課題などについて、区関係機関が実施する研修への参加を促している。必要な研修を受講しそこで得た知識を伝えることで、全職員で学びを共有し、倫理意識を高め理解を深めている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 区立保育園マニュアル、危機管理マニュアルなど園に備えられている。手引き書として杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人にも配付されている。保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園独自の業務マニュアルを作成し、年度末には全職員で見直しを行っている。特に、判断に迷うことが多い感染症の症状や気になる状態が見られた際の対応で、確認すべき事項や取るべき行動について具体的にケース別で洗い出し作成している。誰でも同じ対応ができるように活用してわからないことがあればすぐに確認している。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 区立保育園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して見直している。園独自の「園マニュアル」は年度末に反省を行い、項目ごとに確認見直しをして更新している。人の入れ替わりや子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時などの必要な見直しは、時期を待たず都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要な項目を周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる 園マニュアルを作成し、サービスの提供について職員間で統一した対応が行えるよう注意している。子どもの様子を反映した保育ができるように指導計画を立て、保護者から寄せられた意見については、その都度検討し丁寧に対応している。マニュアルを基本としているが、子どもや保護者にとってどうかを基本として常に考え、必要に応じて個別配慮など対応をしている。突発的に起きた緊急対応に対して一人ひとりの職員がどのように対応できるかの判断力を磨くことが求められており、具体的なケースを想定した訓練などを重ね対応力をつけて行きたい。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
子どもが主体的に周囲のものや人と関わりを持てる環境を工夫している 一人ひとりの子どもの人権を尊重する保育を行っている。子どもの興味・関心に応じ、子ども自身が周囲に働きかけることができるような環境の整備について、カリキュラム会議で話し合いながら取り組んでいる。遊具を選択し、楽しみながら遊べる環境を創意工夫し、子どもが自分で遊びたい物を選び、じっくりと一人で遊んだり、友だちと関わりながら楽しんだりできるようにしている。積み木や造形遊具などを触る、重ねる、崩すを、一人でまたは友だちと一緒に繰り返し、夢中になれる時間と空間やその続きを楽しめるスペースを、工夫して確保している。 子どもの気持ちを尊重した対応を追求している 子ども同士のトラブルについては、子どもの気持ちをくみ取り、代弁し、子ども自身が納得して解決するよう寄り添っている。年度当初の保護者会では年齢に応じた成長・発達の過程で起きるトラブルについて、あらかじめ伝えて、しおりにも園の考えや対応について記載し、保育の理解を図っている。双方の保護者にトラブルの内容や保育者の関わり、解決の経緯について丁寧に伝えている。また、職員間で情報を共有し、日々の中で声をかけ合いながら一人ひとりが安心して安全に過ごせるように見守り、子どもが共に成長できるような保育を実践している。 関係機関との連携や円滑な接続に配慮している 区立保育園における中核園事業の取り組みを通じて、地域の保育施設間の連携・交流や情報共有、各保育施設の保育内容の向上に努めてきた。また、幼保小連携事業への参画、小学校区の地域子育てネットワークへの参加などにより、他保育園児や小学生との交流も少しずつ広げ、小学校見学や交流をするなど連携を図っている。小学校教育への円滑な接続に向け、保育所保育児童要録を作成し、就学先へ持参する際は個別に様子を伝えている。近隣小学校からの情報提供の提供は、就学に向けた保護者の不安を和らげる一助になっている。			

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当		
評価	標準項目																	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当																
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当																
評価項目2の講評																		
子どもの生活が安定するよう保護者や職員間での情報共有を図っている 登園時に前日の様子、顔色や体の状態を観察し、体調や怪我について保護者に確認している。体調や家庭での子どもの様子を聞きながら受け入れ、視診表に記録し、職員間で情報を共有している。前日からの申し送りや受託時の保護者からの連絡事項は、当番職員が家庭の様子を保護者に確認し、それらを踏まえた対応につなげている。降園時には、できるだけ挨拶のほかに一言声をかけるように心がけている。連絡帳や開示日誌の配信で日中の様子を伝えるほか、怪我やトラブルの際には担任が保護者の帰りを待ち、直接伝えるよう配慮している。 個々の発達の状態に応じて、基本的な生活習慣が身につくよう援助している 保護者会において年齢・発達に応じた基本的な生活習慣の目安を知らせている。家庭と園で共通認識を持てるよう働きかけた上で、保護者にはわが子の健康配慮への促しを図り、個別のケースに合わせた対応を行っている。保護者会終了後には保護者会だよりを出し、欠席者にも内容を伝えている。また、午睡と休息は園で長時間過ごす生活において身体を休める時間として捉え、年齢ごとの基本的な時間を決めている。一人ひとりの状況を保護者に聞き取り、日々の活動や体調などを把握し、園での活動内容も踏まえて必要に応じた個別配慮を行っている。 生活の中での体験の積み重ねを通して、基本的な生活習慣の確立を援助している 身の回りのことが自分でできるようになるために、生活習慣の確立に関わる項目を年間・月間の各指導計画に位置づけ、年齢や発達に応じた援助を行うことで、毎日の生活を通じた習慣化を図っている。排泄の自立など、生活に関わる様々な事項は、発達状況を把握して繰り返し援助し、見守り、意識向上と自立に努めている。保育者は一人ひとりの子どもの意思表示をしっかりと受け止め、状況を共有し、共通認識を持って保育を行い、個々の状態に合わせた対応をしている。また、食育活動や健康教育を実施し、子ども自身への意識づけを図っている。																		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当																				
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当																				
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当																				
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当																				
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当																				
評価項目3の講評 子どもの自主・自発性を尊重し豊かに遊び込める保育を実践している 子どもが自発的・意欲的に関われるような環境設定を心がけ、子どもが主体的に遊べるようにすることを大切にしている。室内・園庭の環境整備については、園全体で意識を高め取り組んでいる。各クラスでは、子どもが自身の遊びへの意欲から玩具を選びとれるような環境設定をしており、集中して遊び込み、さらにその遊びを継続できるようにしている。乳児・幼児の打合せだけでなく、園長・主査と向上リーダーを中心に全体の課題として話し合い、組織として職員全体で子どもの遊びの環境を維持し、その日の子どもの様子を共有し明日の保育につなげている。 子どもが活動に主体的に関わりながら楽しめるよう宣言ボードを活用している 子どもの興味・関心を引き出すような遊具の設定を検討し用意したり、年齢・発達に合わせて遊び込めるようにしている。幼児クラスでは、ホワイトボードを活用して1日の流れの見通しを持てるようにしている。子どもの「やりたい」という意欲を見える化するために「宣言ボード」を活用している。時計は時間を掴めるように数字を見分けられる色の表示を付けて、子どもが視覚で予定や活動を意識して行動できるよう配慮している。乳児クラスでは、自分が遊びたいことを少人数でじっくり楽しみ、満足できるようにスペースの確保など臨機応変に対応している。 保育者の受容、応答的な姿勢に子どもの思いが尊重され、豊かな表現につながっている 保育者は必要なことを代弁しながら、子どもがやり取りの楽しさや喜びを味わい、自分の気持ちや思いを表現することが楽しく、心地よく感じられるよう、肯定的な応答を心がけている。発語を促し、会話する心地良さを感じられるように、一人ひとりの気持ちや伝えたいことをしっかりと受けとめて活かしている。感情や言葉を取捨選択することのないよう見守り、子どもからの発信を待つよう寄り添っている。子どもの発見や思いに共感し、対話を通して決まりを守る大切さや気持ちを調整する力を育み、話すことや表現することへの意欲につなげている。																						
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当									
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当																				
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当																				
評価項目4の講評 子どもの発想を実現できるように保育の活動を考え、行事に取り組んでいる 園生活の中での子どもの発信を大事にしている。職員は、子どもの意見をくみ取りながら、やりたいことが実現できるように一緒に考え、興味・関心や見通しを持って取り組めるように配慮した計画を立てている。行事を実施する前から少しずつイメージを持てるように働きかけたり、他クラスの活動を見たり昨年度の様子を思い出したり、子どもの気持ちを引き出しみんなで話し合いながら作り上げる事を大切にしている。行事のための保育ではなく、日々の保育の積み重ねの中で年齢ごとに達成感を味わえるように、取り組みの過程を大事にしている。 行事の取り組みを保護者に伝え、保育への理解や協力を得ている 年度当初に年間行事予定を保護者に配付している。行事の内容、活動や子どもの姿を開示日誌やクラスだより等で伝え、取り組みの様子を送迎時に話して保護者に伝えている。活動の経緯を伝えることで、行事への理解と子どもの成長の共有を図っている。職員は、行事ごとに担当を決め、子どもの声を受けとめ、ねらいを設定して実施し、その振り返りを次へとつなげている。保育の中での子どもの発信により生まれた活動は、保育者も関わりながら少しずつ形になって行くうちに、クラスから園全体に活動が広がり、全体で共有できる展開の楽しさがある。 行事の実施にあたり何を大事にしていくかを考え、ねらいや内容について検討している 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、従来の行事もできることが増えてきている。園として改めて行事の持ち方について話し合い、今の子どもの発達段階や興味・関心に合っているか、何を体験させたいかなどを職員間で検討・共有している。また、伝承行事や保護者参加の行事のねらいを再確認し、見通しを持った取り組み方で行事を継承できるようにしていく必要性を感じている。行事リーダーの役割を担うことは園全体を見渡ししながら物事を進めて行く力を養える機会として、職員も協力して達成感を味わえるよう業務向上を目指して取り組んでいる。																						

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇) <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当																	
評価項目5の講評 保育時間の長い子どもが快適に過ごすことができるよう配慮している 長時間園で過ごす子どもの視点に立ち、空間的にも様々な配慮をしている。朝夕保育の時間では、年度当初は子どもが安心できるように、乳児、幼児それぞれ体制を組み、可能な限り担任が入るなど配慮している。朝夕の会計年度任用職員もできるだけ同じ職員が入れるように配置を固定して、安心につなげている。保育時間が長くなると、気持ちが不安定になる子どももいるため、好きな遊びを楽しめるように年齢に応じて使いたい遊具を子どもが選べる環境作りを心がけている。 提供する活動内容は静と動のバランスを考え、環境を整えている 一日の中での活動の静と動のバランスを考え、思い思いの活動をしながゆったりと過ごせるよう工夫している。家庭的な雰囲気の中、安心して自分のやりたい遊びができるようにコーナーを設け、身体を休めたり静かに過ごせたりする場を保障している。用途に応じてスペースを工夫したり、その時間帯だけ使える遊具を用意したりするなど、状況に合わせて環境を整えている。季節や子どもの状態、人数に合わせて玩具を入れ替え、遊びごとに環境を分けるなど、園全体で朝夕保育の過ごし方を考え、柔軟に対応しながら落ち着いて過ごせるよう援助している。 保育形態の変化がある中でも、落ち着いて過ごせるようにしている 子どもの様子を把握するため、しっかりと健康観察を行い、状況に合わせた保育を行っている。保護者や担任からの連絡事項の引継ぎは、朝は視診表を使用し、夕方は担任から当番の職員に日中の様子を引継ぎ、必ず確認して漏れのないように注意して対応している。クラス保育からの異年齢が合流する流れや時間については、長時間保育に入る子どもの構成が毎年変わるので、その集団に合わせた人員配置や環境設定をしている。怪我やトラブルなくお迎えまで過ごせるよう配慮し、保護者の安心につなげている。																			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当																	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当																	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当																	
評価項目6の講評 子どもと保護者へ食に関する取り組みを発信し、安心して食べられる給食を提供している 子どもの成長に合わせて、栄養バランスを考えた給食の提供を行い、落ち着いた雰囲気の中で食事ができるようにしている。乳児は食事介助の担当や座席を決めて、安定した環境で食事を行えるよう配慮している。1歳児クラスは入園一日目に保護者が一緒に過ごし、給食介助にも関わり、実際に園の給食の様子を見てもらっている。見やすい位置に給食サンプルを展示し、食材や献立を通して親子の会話につなげている。給食日よりでは栄養士より季節にちなんだ食材やメニューの紹介、体づくりに必要な栄養について毎月豊富な話題を提供している。 年齢や発達に合わせた栄養バランスの良い食事を提供している 区の栄養士が各園の意見を参考に作成した統一献立に基づき、栄養バランス、季節感などを考え、園で調理した給食を提供している。子どもが育てた野菜を調理してもらうことで、食への関心が高まっている。喫食状況を確認して昼のミーティング時に職員、栄養士、調理職員で確認して固さ、大きさ、味、量、盛り付け方などの改良点を抽出し、次回の提供に反映させている。栽培活動や三色食品群の話など、食育活動を通して食への興味・関心が広がっている。苦手なものも食べてみようとする気持ちにつながり、栄養についてさらに関心を深めている。 安心して楽しく食べることができる安全な食事を提供している 食物アレルギーはアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いにより対応が必要な場合は、食物除去申込書により代替食などを提供している。保護者との献立確認を毎月行い、アレルギー会議でも確認している。そしてマニュアルに則り、別トレーにて確実に提供している。提供直前には、担任と調理員とで声を出し指差し確認をし、食事の間アレルギー児のそばに必ず職員がついて誤食のないように見守っている。また、食への関心を深め、楽しく食べられるように行事の際には行事食を提供したり、日々の献立でも盛り付けを工夫し会食を取り入れたりしている。																			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目7の講評 子どもが健康や安全に関心を持てるように情報発信や指導を行っている 年間保健計画に基づき、定期健診など園児の健康管理を行うとともに、年齢に応じて病気や怪我に対する意識を高められるようにしている。看護師による健康教育では、手洗いの仕方、病気の予防や体の仕組み、プライベートゾーンの話などを伝えている。日頃から子どもと一緒に対話しながら、子どもが自らの健康や安全に過ごすことに関心を持てるようにかかわっている。室内外を定期的に点検し、散歩先の安全確認を行うとともに、安全な歩き方を知らせている。職員は、嘔吐処理や救命救急などを定期的に学び、速やかに対応できるようにしている。 子どもが罹患しやすい感染症などの情報を随時保護者に周知している 毎月保健だよりを発行し、園の保健行事を伝え、季節や時期に応じた健康に関する情報を掲載している。園のしおりでも健康管理の取り組みを説明し、保育中に発生した怪我や病気について園ができる応急処置について明記している。また、家庭での怪我や体調を崩した場合の対応についてわかりやすく記載し、保護者へ周知している。薬については、区立保育園共通の対応として預からないことを原則とし、慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合には、保護者の代理として与薬することがあるため、個別の相談に応じている。 保護者に安心を与えられるように子どもの健康維持に向けた取り組みを行っている 体づくりを意識した保育を考え、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるよう援助している。区の危機管理マニュアルに基づいて午睡チェックを実施している。乳児の保護者会では、乳幼児突然死症候群を含む睡眠中の安全管理について保護者にも資料を用いて注意喚起や情報提供を行っている。病気や怪我の対応では、感染症などの症状の特徴や具体的な初期の対応、基本的な処置の目安となる資料を作成し、全職員で共有して、子どもや保護者に安心感を与えられる誠実な対応を心がけている。	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当						
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当																	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目8の講評 保護者との信頼・協力関係を作り子育てを支援している 入園時に家庭連絡票を提出してもらい、就労や家庭の状況を職員間で把握している。保護者の就労や通勤時間などに合わせて、園長との面談により保育時間を決めている。家庭の事情によって急な変更の相談があった時は、可能な限り対応して支援している。子育てにおける個々の事情については話をよく聴き、全職員で共有して支援を行っている。日頃から細やかな対応や連携を心がけ、子どもの成長の喜びの共有、保護者の思いへの共感、信頼関係を構築して協力し合う関係づくりに努め、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している。 保護者と子育ての共通認識を持てるような取り組みを行っている 保護者とのコミュニケーションを大切に、子育ての協力関係を築き、共通認識を深めている。各クラスでは年に2回保護者会を実施し、懇談により保護者同士の交流を図っている。保護者会の内容や進め方は各クラスで工夫している。保護者会をより有意義な時間とするために、職員間で当日の進め方のロールプレイを実施し、互いのスキルアップを目指し、スムーズな進行や内容の充実などを学び合っている。個人面談では、園や家庭での子どもの様子について保護者と確認し、子どもの育ちを共に支えていくために今後の方針を共有している。 子どもの発達や成長について、保護者と共有できる取り組みを行っている 保護者の要望や意向について、職員全員で話し合い、意思統一を図り、どの職員も同じ対応ができるようにしている。個人面談、保護者会、保育参観や行事への参加などを通し、気軽に話せる関係を心がけ、園を知ってもらい子どもの姿を共有できるように努めている。家庭と園と共に育てる「共育て」を意識した保育を実践し、保護者の養育力の向上を支援している。区立保育園として保育ICTシステムを先行導入してきた。今後は、よりタイムリーな情報発信により、園の保育の様子を保護者にさらにわかりやすく伝える工夫をしていく意欲を持っている。	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当																	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域との連携のもとに地域の人参加を呼びかけ交流の機会を広げている 中核園事業を通じて、地域の公立保育園だけでなく私立保育園も含めた保育施設間の連携・情報共有などの促進を図る事業に関わっている。職員の研修では、各園の取り組みを地域に発信するだけでなく、外部講師による研修も実施している。保育実践に関わる研修には参加希望者も多く、参加した職員同士のつながりから、他園の子どもとの交流も徐々に広がっている。見学者には資料を配り、自園が実施する子育て支援事業への参加も呼びかけている。園庭開放などの交流を通じて顔見知りの関係が見られるようになり、親しみが増している。 地域との連携のもと子どもの経験を広げる取り組みを行っている 学生の職場体験や実習生、東京都子育て支援員研修など、次世代を担う人材を育成すべく受け入れている。子どもと関わってもらう世代間交流では相互理解が深まり、在園児にとっても良い経験となっている。地域ネットワーク事業ではおまつりに参加してブースを担当し協働している。幼保小連携事業との関連では、連携小学校の行事の見学など、コロナ以前のような交流が少しずつ再開している。小学校との交流・連携は、小学校の雰囲気を知り、就学への不安軽減と卒園後の小学校生活にスムーズに慣れることに役立つ体験となっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	全ての子どもが互いを尊重し、認め合える心を育む保育環境を大事にしている	
内容①	特別な配慮や支援の必要性の有無や、性別、国籍、人種の区別なく、全ての在園児を受け入れ一緒に過ごすことで、子ども自身も互いに認め合い、友だちを慈しむ気持ちが育まれる、こうした環境を大事にしたいと園では考えている。全ての子どもが尊重される存在として認められており、職員は研修や巡回相談、専門機関との連携を通して対応を学び、日々実践している。保育士・看護師・栄養士・用務・調理職員など、様々な職種や立場を超えた連携により、丁寧な情報共有と対応を積み重ねている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容②	保護者が子どもの成長を知り、大きくなった姿に見通しを持ち、子育てを楽しみにすることも親支援のひとつであると園では考えている。そこで、入園時や年度当初の保護者会で、園が大事にしている保育について丁寧に伝え、子どもを中心に家庭と園が子育てをしていけるよう取り組んでいる。システム配信を活用したアンケートにより意向を把握し、活動の様子を具体的に知らせ、子どもの成長・発達に関する情報を積極的に発信している。子どもが園生活を楽しむ姿を知らせることで、保護者の安心・安全と信頼につなげるよう努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	職員全体で見いだした課題について考え個人の意欲と組織力の向上のため取り組んでいる	
内容③	向上リーダーやプロジェクトを中心に、働き方改革について園全体で取り組んでいる。限られた時間を最大限活用したより有効な会議の持ち方について再確認した。そして、議題を事前集約して時間配分や進行を決め、気づきや提案したいことを事前に周知して、職員一人ひとりがその内容について考える時間を確保した上で参加するようにした。それらが討議内容の活発化や会議の効率化につながることに加え、保育の語り合いや振り返りなどが保育の質を高め、話ができる時間の確保や職員のモチベーションの向上にもつながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが安全に安心して友だちと関わり遊ぶことができる環境づくりを心がけている
	内容	静(室内でのあそび)と動(園庭、散歩あそびなど)の遊びを大切に、安全に配慮してじっくり遊べる環境づくりを心がけ、子どもが四季を感じながらのびのびと戸外遊びを楽しめる環境を整えている。異年齢の交流が自然に生まれ、あこがれる気持ちや優しさなどの感情が育まれている。マルチパーツなどの可動遊具を揃え、職員は定期的にメンテナンスや安全点検を行っている。クラスの枠を越えて自然に関わる遊びの様子を、職員が連携して見守る基盤がある。子どもが主体的に遊びを見つけ、創造的に遊び、集中して遊び込む姿につながっている。
2	タイトル	子どもの発信から豊かな保育を展開するため様々な工夫をして取り組んでいる
	内容	子どものアイデアや発信を最大限に尊重し、それを保育者がとらえてよく聞き取り、思いに寄り添い、「やりたい」という思いが実現するように日々の保育の中で考え、取り組んでいる。子どもの発想や気づきに注目し、対話を重ねながら、子ども同士が思いを伝え合い、一緒に考えながら展開させることができるよう、プロセスを大事にして働きかけや支援をしている。子どもが主体的に集団活動に関われるよう援助し、活動を積み重ね、力を合わせてやり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるようにしている。
3	タイトル	子ども中心の豊かな保育を実践するため向上リーダーを中心に改革に取り組んでいる
	内容	限られた時間の中で、いかに子どもへの思いを語り合い、互いに理解し認め合い、協力し合うことができるかを追求している。互いに事務や保育の補填の必要性を「見える化」して声をかけ合い、クラスだけでなく全体をとらえる視点から協力体制が取れるようになっている。また、業務改善にも積極的に取り組み、会議の持ち方の工夫のほか、カリキュラムのペーパーレス化、意識改革などを行っている。職員一人ひとりが意識してアイデアを発信し、検討したことを明日の保育につなげる取り組みを実践している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	互いを認め合う保育について学び、一人ひとりの子どもに合わせた支援について考えていく
	内容	障害児指定園として、現在も個々の発達に必要な支援に丁寧に取り組んでいる。遊びや生活の中で関わり合うことにより、互いの理解を深め存在を認め合い、成長し合う子どもの姿が見られている。園としては、さらに様々な支援について学びを深め、保護者の気持ちに寄り添い、全ての子どもが持つ「らしさ」を伸ばし、一人ひとりの特性を活かした活動について考えていく意欲を持っている。職員それぞれのスキルアップを目指し、学び合い、知識を共有し、全ての子どもへの援助の充実を図っていくことを課題としている。
2	タイトル	職員一人ひとりが積極的に発信して意見交換をさらに活発にして、組織力を向上させていく
	内容	園が目指す「組織力の向上」には、運営に対する一人ひとりの参画意識や共通目的に基づく課題意識、コミュニケーションを通じた相互理解などが必要となる。会議や研修などにおける積極的な意見交換、相互の考え方の尊重、簡潔に報告しうるための事前の準備など、様々な工夫を重ねながら、一人ひとりの職員が全体の課題を自分事としてとらえ、個々の力を発揮し、保育を工夫し展開できるような職員集団を作っていくことを課題としている。
3	タイトル	日頃から保護者との信頼関係構築に努め、子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示を活用して全クラスの保育の共有を進めている。子育ての悩みや保護者自身のことなどを職員が傾聴し、必要に応じて面談時間を設け、丁寧な対応を心がけ支援につなげている。子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有している。今後はさらに、子どもが園生活から様々な学びを得ていることを示したり、遊びや活動のねらいをより明確に伝えたりするなど、システムの活用も含め、保育への理解を図る発信に取り組んでいくことを課題としている。

5. 高井戸東保育園

高
井
戸
東

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		福祉、経営	H2301066
	②		福祉、経営	H2101111
	③		福祉、経営	H2201084
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	高井戸東保育園			
事業所連絡先	〒	168-0072		
	所在地	東京都杉並区高井戸東3丁目14番9号		
	Tel	03-3304-9572		
事業所代表者氏名	新川 珠美			
契約日	2024 年 6 月 19 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 5 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 27 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 5 日			
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 26 日			
訪問調査日	2024 年 10 月 4 日			
評価合議日	2024 年 10 月 4 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 新川 珠美

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ◎子どもの最善の利益 ◎子どもの福祉の増進 ①私たちは一人ひとりのお子さんを大切に、最善の利益を尊重した保育を心がけています。 ②子どもを育てることの楽しさを保護者と共有し、こどものこころをりかいするように努め、保護者の子育てを支えます。 ③地域の人に愛される保育園を目指し、地域の子育てに役立つ拠点になります。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・保育の専門職としての知識と、子ども一人ひとりに合った的確な保育を提供する。 ・保護者に寄り添いともに子育てをしていく伴走者としての意識をもって保育にあたる。 ・保育士である前に社会人として必要なマナーを身につけ、組織の一員であることを自覚する。 ・職員一人ひとりがお互いを認め、互いを補い合う中で人として、保育士として高めあえる職員集団である。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 子どもの最善の利益を念頭に置いて、保育のプロとして保育にあたること。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

95

利用者家族総数(世帯)

73

共通評価項目による調査対象者数

73

共通評価項目による調査の有効回答者数

55

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

75.3

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」 75%、「まあまあ満足」 25%、計100%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	55	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	51	2	0	2
回答者の92%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	5	0	2
回答者の87%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	7	0	3
回答者の82%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	41	3	0	11
回答者の75%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	46	7	0	2
回答者の84%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	32	18	1	4
回答者の58%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	7	0	3
回答者の82%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	44	9	0	2
回答者の80%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	52	1	0	2
回答者の95%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	49	2	0	4
回答者の89%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	38	11	0	6
回答者の69%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	48	5	0	2
回答者の87%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	48	1	0	6
回答者の87%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	45	8	0	2
回答者の82%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	32	7	0	16
回答者の58%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	21	15	6	13
回答者の38%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知している 年間の目標を立案するにあたり、各クラスが園目標などの確認をして話し合う機会を設け、年度初めに児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を全職員で確認している。年間の各クラスの重点項目を発表する場を設け、日常保育で大切にすべきことを共有している。理念や目標などは園内に常時掲示しており、職員も目にすることや基本に立ち返ることができる。年間指導計画を作成するにあたっては全体的な計画を基本としている。新入園児説明会や各クラスの保護者会でも保育目標や理念などについて保護者に説明している。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度初めの職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づいて園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝え、要所においてリーダーシップを発揮して園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーを保育の質の向上を図る4本柱として位置づけている。重要な案件・課題については、経営層が話し合い、明確な方向性を示し取り組んでいる。職員の意見を集約してそれぞれの役割を共有し、目標実現に向けて一致して展開することができている。 決められた手順に則り必要な情報が必要な人に届くように最善な方法で周知に努めている 重要な案件については、事前に職員全体にその経緯を説明し、資料の提示を行い周知している。案件によっては職員会議で討議・検討後に決定している。職員の意見をできるだけ吸い上げ、トップダウンにならなようにしている。連絡や確認事項など内容に応じてミーティングやホワイトボードを活用し、できるだけ迅速に漏れのないよう周知に努めている。会計年度任用職員に対しては、掲示や個別に声をかけるなど対応し、必要な情報を伝えている。保護者にも園での決定事項や情報について、経緯や内容を園だよりや園内掲示などで伝えている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 登降園時の日頃の会話や連絡帳などから保護者の要望・希望の把握に努めている。保護者会や個人面談でも園への要望を聞くほか、保護者会・行事後のアンケートも実施している。職員からの意見、提案、疑問については、定例会議や昼のミーティングなどで検討し、園運営に活かしている。また、職員とのヒアリングにより個々の意向を把握し、園の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。そのほか、中核園事業に参加し、担当年齢別担任交流により地域の保育所間の情報共有を行い、園運営に活かしている。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。中核園事業に参画して、職員の情報交換や近隣施設に園庭を利用してもらうなど取り組んでいる。近隣施設との交流も積極的に計画・実施し、地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングなどにより、できるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参加して、情報交換を行い、顔の見える付き合いを継続している。 目標の達成に向け見直しを行いながら計画の実行に取り組んでいる 全体的な計画を基に年間計画などの各保育計画を作成している。毎月の指導計画会議や、年度末反省などで保育の振り返りをし目標の達成や反省を職員全体で話し合い、共有している。年度末反省をもとに、係の目標シートを職員と共に作成して園内での取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。園運営について中間反省を行い、後半へ向けて課題を明らかにし計画内容のさらなる充実を図っている。職員も目的意識を持ち会議に臨んでいるが、参加した代表者から他者への共有に時間がかかってしまうので、より良い周知方法について思考している。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 社会人としてまた福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。公務員倫理や規範についても繰り返し伝えている。年度初めに会計年度任用職員とヒアリングを行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育について振り返りを行うとともに、守秘義務などについて事例を伝えながら確認している。虐待が疑われるような情報を得た際は速やかに園長に報告し、必要に応じ関係機関に報告し連携を取り、迅速に対応できる体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている 苦情・要望などの相談窓口について「重要なお知らせ」に記載し、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長は、利用者の意向に対して苦情受付・解決責任者として、いつでも相談対応できる体制を備え、担任・主査・栄養士・看護師など相談を受けた職員は必ず園長に報告し、ミーティングや会議などで情報を共有している。また、園庭開放など自園の子育て支援の取り組みや日々の活動を知らせている。次世代育成につながる実習生や体験、子育て支援の研修などを積極的に受け入れている。 様々なネットワークに参画し地域の一員として園の役割を果たしている 中核園事業の中で、担当年齢別担任交流や、看護師・栄養士などの専門性を活かした交流、園児の交流などに取り組み、また地域の課題を検討している。地域の子育て世帯や近隣の小規模保育施設などに参加を促し、園庭開放や子育て相談・身体測定を実施している。身近な相談窓口として関わり、地域のニーズに向けて園ができることに取り組んでいる。地域で行われているネットワーク会議や講演会、児童館縁日やゆうゆう館祭りなどの行事への参加など、地域との交流を続けてきたことで、地域で子どもを見守るお互いの顔が見える体制ができています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定し、職員に周知している。リスクに対する園内対応について常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して役割分担をし、リスク管理をしている。年間避難訓練計画に基づき、地震や火災、不審者対応、併設施設との協力など様々な想定で非常時に備えた訓練を実施している。その時その場の状況に応じ、臨機応変に対応できるように、訓練後は反省と課題の抽出を行っている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりで伝え、「災害時子ども安全連絡網」の登録についても説明している。入園の際には、「大地震発生！保育園はどうなるの？」を配付して災害時の園の対応を知らせている。感染症発生の際は速やかに園全体へ周知し、保護者にも園の対応について園のしおりで詳しく説明している。また、ヒヤリハットを含めた怪我などについては、原因の分析、振り返り、対応策を検討し、職員全体で情報を共有して、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権などの設定をしている。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努め、個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、職員のダブルチェックを徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認者は機器類の数の確認を行い、戸締りチェック表に記入している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園と連携を取りながら人材確保を行っている。採用後にはOJTによる配置園での計画的な指導のほか、専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらスキルとキャリアを積み上げている。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組む意欲につながるように周知している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課人材育成担当による職層研修により、ライフプランや業務改善計画の立案を行い、中・長期を見据えた人材育成計画を策定している。そして区の目標申告シートを活用してヒアリングを行い、職員の状況を踏まえ育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など勤務形態に関わらずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員は長期的人材育成計画に基づいて育成を行っている。育成担当が適切な指導ができるよう、担当者研修などの仕組みを整えている。育成は、担当職員だけではなく園全体で行っていく方針・姿勢を実践している。 保育の質の向上を目指す取り組みが組織力の向上につながっている 会議での討議が効果的に行えるようクラス別会議で話し合い、振り返りや気付きを保育の質の向上につなげる取り組みを進めている。コロナ禍から状況が変わったことにより、改めて職員関係を見直し、コミュニケーション力の向上を考え、全体で「偏愛マップ」に取り組んだ。話すこと、聞くこと、伝えることを体験し、互いの新たな一面を知り、距離感が縮まり、保育を語る良い機会となった。目的を持った話し合いが互いの理解と信頼を深め、職員一人ひとりの特性や特技を活かした保育、モチベーションの向上、より良い保育の実践につながっている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
		サブカテゴリー1(7-1)	
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
		評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) コロナ禍の状況下での種々の制約が組織に与えた影響を踏まえ、職員間のコミュニケーションの強化を目標として掲げた。その上で、様々な取り組みを行った。園内研修では、目的を持った話し合いを意識して行うことで、保育や仕事のことについて語り合える時間を持つことができた。また、職員会議に学びの場を設けることで、「もっと知りたい」という意識や自発的な学びの姿勢につながった。さらに、各クラスや乳幼児の各部門、各プロジェクトでの打ち合わせなども、時間を有効に活用して話し合いができるようになってきた。こうした成果を得たと同時に、充実した話し合いをより良い保育につなげ、子どもに還元していくことを課題として明確化した。今後も、職員同士の横のつながりを強め、各自が全体への意識を持ち、そして発信力を強化していくことを目指していく方針である。	
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
		評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 コロナ禍での数年間は様々な形で自粛を余儀なくされ、その影響は職員同士のコミュニケーションのあり方にも及んだ。こうした現状を踏まえて、的確に課題として整理し、より良い組織づくりにつなげている。職員同士の相互理解にもつながり、今後の保育実践を支える基盤が強化されていくプロセスが進行している。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「働きやすい職場環境」「働きがいを感じながら安心して業務に携わる」ことが、保育の質の向上につながると考え、現状の検証と改善への取り組みを行った。特に時間管理のあり方を見直し、事前準備の工夫による会議時間の短縮、「伝わる記録」を意識した情報共有などを通して、業務の効率性を向上させた。その上で、業務のさらなる効率化と共有を目指し、「仕事の見える化」を今後も進めていくことにした。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

時間の有効な活用は、園の課題意識の通り、本来集中したい「より良い保育」に注力できるゆとりを生む。また、休憩や残業など、働き手の心身の負担を減らし、職務により一層邁進できることにつながる。欠かすことのできない人材を大切にしたい取り組みが成果を生んでいる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページ「保幼(ぼよ)ナビ」や区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」、保育施設ガイドなどで園の情報を発信している。ホームページには園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標などが記載されている。地図も掲載して、駅から園へのアクセスルートや周辺情報のイメージがしやすいものとなっている。媒体に掲載の画像は、活動の紹介や行事の様子、園舎や園庭など環境がわかるものを載せて園の特徴が伝わりやすいものになっている。地域の子育て世帯に向けたサービスも掲載し、問い合わせ連絡先を明記している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課には、中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについて、報告や必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。子ども発達センターや民間療育機関との情報交換や、地域の児童館主催の地域子育てネットワーク、地域の懇談会などに参加して情報交換すると共に、研修や行事など取り組みへの参加を通じ、互いの現況を共有した上で、連携を図っている。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 園内見学の希望者については、見学日程表に合わせて随時受け付けている。当日は30～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。個別に希望があった場合は、できる範囲で日程の調整に応じている。園内環境を見てもらいながら、入園時に準備が必要な持ち物や、保護者参加の行事や園として取り組んでいること、大切にしている点などを丁寧に伝え、理解を図っている。身体測定や園庭開放、ふれあい保育など、気軽に参加できるよう紹介している。看護師、保育士による育児相談の体制も備えている。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活を安心できるようにしている 新入園児は保育開始前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別に保護者と面接を行い、子育ての意向などを確認している。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を把握して記録している。「高井戸東保育園のしおり」「重要なお知らせ」などを配付して、基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し、同意を得ている。乳児の食事の状況や食物アレルギーについては栄養士も確認している。健康上の問題など、対応が必要な場合は、特に丁寧に聞き取りを行っている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。園長は、家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や意向を確認して、入園当初は短時間の保育から始める慣れ保育を実施している。子どもの状況や必要な情報を共有し、保護者との相談により、無理なく予定の保育時間まで延ばしている。また、保護者から家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応や好きな遊びなどを職員に伝えてもらい、保護者と子どもの不安を軽減し、園の環境に早く慣れ、安心して過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように、次の生活へ向けて声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。連携している小学校から提供される情報などは随時保護者に伝え、小学校や学童クラブなどとのつながりにも配慮している。必要に応じて、保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するために、子どもの情報提供ができるよう体制を備えている。就学に向けて、子どもの姿を個人面談で保護者と共有し、就学前に保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握している。個別面接時には、家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項は、朝夕受託簿に記載し、必要に応じてミーティングで伝達し、園日誌に記載して全職員で共有している。アセスメントなどの情報は年に二回程度、前期・年間反省などで職員と話し合い見直しをして共有し、記録している。 「全体的な計画」に基づき、各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 園では全体的な計画に基づき、年齢別に年間指導計画、月間指導計画を作成している。年間指導計画は養護・教育の領域を考慮し、週案では具体的な活動を計画して保護者にも知らせている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては、個別に指導計画を作成している。各指導計画は、毎月子どもの姿についてクラスや園全体で意見を交わし、月ごとに前月の姿を振り返り見直しを行い、杉並区の保育実践方針も参照して作成している。子どもの成長の過程は、指導計画、個人記録のほか、年齢ごとに定められた期間に児童票へ記載している。 子どもの状況など職員間での共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 年度当初の保護者会では、園の全体的な計画や年間指導計画など資料を配付し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。月や週の指導計画を示し、保護者に知らせている。日々の記録は保育日誌・連絡帳・開示日誌に記載している。子どもの現在の姿を伝えながら保育のねらいを踏まえた対応を記載し、保護者との共有に努めている。日々の子どもの様子は朝夕受託簿や保育日誌に記載し、毎日のミーティングで保育体制、午前中の活動、保護者対応、健康状態、怪我の報告などの連絡事項を確認し、確実に情報共有している。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いについて説明している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の意思を確認して対応している。職員の意識を高め、個人情報の取り扱いに留意して保育を提供できるようにしている。個人情報保護を含め、保護者に説明する内容の量が多いため、説明内容の確認がしやすく一目瞭然になるよう、わかりやすくする仕組みの検討が必要だと考えている。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 子どものプライバシー保護について、職員間で共有し、適切な対応を取っている。着替えの時にはカーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい着替えを指導するなど、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。シャワーは、つい立てやカーテンで仕切りを作って実施している。トイレでは、おむつやズボンなどの着脱用につい立てを設置して配慮している。看護師による健康教育では、プライベートゾーンについて話をし、子ども自身が自分を大事にして守ることを意識できるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 「子どもの最善の利益」をもとに、子どもが尊重される保育を行っている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守るための課題について、区関係機関が実施する研修への参加を促している。不適切な保育について園内研修を行い、職員はたくさんの話し合いを重ねてきた。会議の中で学びを共有し、倫理意識を高め、会計年度任用職員も含め全職員が理解を深めている。また、保護者の意見に耳を傾け、様々な文化や家庭の価値観に配慮した個別の対応を行い、保護者の子育てを支え信頼関係を深めている。			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きなどを備えている。保育理念・目標、保育方針、役割分担表などの事項をまとめた園独自の業務マニュアルを作成し、年度末には全職員で見直しを行っている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人に配付して、業務でわからないことがあれば各自すぐに確認できるようにしている。緊急時に必要な事項を抜粋して事務室に掲示するなど、誰でも確認できるように備えている。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 区立保育園共通のマニュアルは、各検討会などで検討して見直している。園独自の「園マニュアル」は年度末に反省を行い、項目ごとに確認見直しをして更新している。体制や人員配置、子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時など、必要な見直しは時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要なことを周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる サービスの提供について園マニュアルを作成し、職員間で統一した対応を行えるよう注意している。子どもの様子を反映した保育ができるように指導計画を立て、保育環境の改善を図り、保護者から寄せられた意見や要望を真摯に受け止め、都度検討し丁寧に対応している。また、緊急時の対応については、安全計画を基に基本的な行動について訓練を実施している。日常の保育の中で突発的に起きた事象に対して、一人ひとりの職員が自分事として考え、マニュアルを踏まえ、実際にどのように対応できるか、判断力を磨いていく方針である。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 年齢や発達に合わせて玩具や教材などを用意し、安全面への配慮しながら子どもが主体的に興味を持って「自分で考えて行動できる」環境を考えている。子どもが手に取り使いやすいように遊具を配置し、子どもの興味・関心を広げ、自分で選択できるようにしている。会議での保育の振り返りを通して、子どもへの働きかけを共有し、園の環境整備係(園庭・室内)を中心に、翌日も遊びの続きをできるように工夫するなど、職員全員で取り組んでいる。また、行事のほか、園庭やホールでの日常の保育活動で、異年齢同士の交流を持てるようにしている。 配慮を要する子どもに対し、職員が共通認識を持ち必要な対応ができるようにしている 必要に応じた人員を配置した上で、特別な配慮を要する子どもに寄り添い、一人ひとりを尊重した保育を行っている。巡回相談や巡回指導で、園での生活に必要な個別配慮や環境について考え方、実際の対応などについてアドバイスを受け、保育に活かしている。職員は安全面に十分配慮しつつ、支援が必要な子どもも同じクラスの仲間として一緒に過ごしながら、子ども同士が互いを認め合い、共に成長できるような環境を整えている。子どもの特性や個性を理解して共通認識を持ち、全職員が子どもの最善の利益を考え、必要な対応ができるように取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を考え、より良い援助ができるよう努めている 自然な関わりの中で、世話をしたりされたりすることの心地よさを知り、思いやる心が育つよう、保育者が仲立ちとなっている。トラブルの際には職員は子どもから話をしっかりと聞き取り、原因やことのいきさつについて子ども気持ちを汲み取りながら理解し、寄り添う対応をしている。場合によっては、子どもの気持ちを尊重し、子ども同士で解決策を探れるような言葉がけをし、危険のないように注意して状況を見極めながら見守っている。保護者にも、子どもの気持ちや心の動きを伝えることを意識し、保護者の視点に立ち状況を説明するよう努めている。			

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
評価項目2の講評		
基本的な生活習慣の確立の大切さを保護者に知らせ理解を得るように努めている 朝の登園時には挨拶を交わし、視診を行い、体調や体温・機嫌などについて保護者に聞き取りをし、朝夕保育表に記載している。乳児クラスでは連絡帳を活用し、幼児クラスでは口頭で子どもの様子などを聴き取り、連絡や引継ぎ事項を確かめ、確実に伝えている。園では、指導計画をもとに基本的な生活習慣の確立に向け、子ども一人ひとりの身体機能の成長・発達に合わせた援助を行っている。家庭と連携して同じ対応ができるように、保護者会や保健だより・クラスだよりなどで情報発信して、生活習慣の大切さをわかりやすく知らせている。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息を取れるようにしている 園で長時間過ごす子どもの生活に必要な休息時間を保障できる環境を整えた上で、午睡時間は個々の状況に配慮している。乳児はまだ生活リズムが定まっていないため、連絡帳や保護者の伝言を参考にして、午前寝や午後寝など時間を配慮し個別対応をしている。なかなか寝付けなかった場合には、少し横になり体を休ませ休息を取るなど、体調に合わせて園での生活や遊びを行っていきけるよう配慮している。年長児は、クラスの状況や個々の子どもの様子に応じて配慮しながら、就学前に少しずつ午睡時間を減らしていくようにしている。 降園時にはその日の保育の様子やエピソードなどを保護者に伝えている 保護者との保育の共有については、視覚化してわかりやすくするなど工夫し、大事なことは時差が生まれないようすぐに伝えるなど、共有に努めている。乳児クラスでは、個別の連絡帳を活用して保護者からの家庭での様子に返事をすると共に、園での日中の様子を記し伝えている。幼児クラスでは、開示日誌を活用してその日の子どもの状況がわかるようにしている。降園時には、できるだけ子どもの様子をひと言でも口答で伝えるよう心がけている。怪我による通院や日中の様子などを担任が直接伝える必要がある場合は、担任や園長が対応している。		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当																				
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当																				
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当																				
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当																				
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当																				
評価項目3の講評 子どもが遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 室内の環境は、子どものやりたいという気持ちを尊重し、すぐに手に取って遊べるようにしている。それぞれ室内のレイアウトを工夫し、子どもが遊び込めるコーナーづくりなどを行っている。また、戸外遊びの時間を十分に取し、遊びを自発的に見つけ、子ども自身が展開する時間を確保するようにしている。個々の子どもの気持ちに寄り添いながら、無理をせず、少しずつやりたい気持ちを持てるように、援助や言葉かけをしている。子どもの言葉や思いをくみ取り、遊びを展開させながら全体の活動に広げ、集団活動に関わり、楽しめるようにしている。 園庭や室内の環境整備と遊具の充実が子どもの活動を広げている 園の環境整備係が中心となり、子どもの興味・関心が広がるような室内外の環境や遊具を整えている。自由に表現や制作をできるような素材や、ごっこ遊びに使えるような材料を準備して、楽しめる環境を作っている。ホールではリズム遊びや運動遊びで体を動かしたり表現遊びをしたり、園庭では鉄棒やすべり台のほか、タイヤ、スーパーネットやマルチパーツを組み合わせたり、縄ブランコなどを設定したりすることで、子どもの「やりたい」を体験できるようにしている。子どもの発想を大切にしつつ、職員は安全に遊べるように見守り助け合う保育を行っている。 子どもがきまりの大切さについて考え、自分の気持ちを調整できるよう援助している 園庭では子どもが自主的に草花あそびや虫取りをして、散歩先では木の実や自然物に触れるなど、季節の移り変わりなどを感じる機会を大事にしている。手洗いや片づけなど、遊びや生活の習慣から守るべききまりの必要性を知らせ、子どもがその大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育めるように働きかけている。気持ちの切り替えが難しい時には、落ち着くまで気持ちに寄り添ったり、子どもが選べるような選択肢を提案したりしている。安心して様々な事象に関われるようにし、様々な経験から子どもの感じ方や理解が深まるように援助している。																						
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当									
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当																				
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当																				
評価項目4の講評 行事は楽しく取り組める内容となるよう子どものアイデアを取り入れ工夫している 子どもの姿や発達を捉え興味・関心を持っていることを取り入れながら、子どもの声が行事につながるような働きかけをしている。行事へ取り組む過程では、子ども自身が見通しを持ち、達成感につながる活動となるよう、自主性を尊重した工夫をしている。どうすれば話し合ったことを実現できるか、子どものアイデアをもとに保育者も一緒に考え、楽しみながら行事を作り上げるプロセスを大事にしている。七夕、焼き芋、節分やひなまつりなどの季節行事や伝承行事の持ち方も案出して、保護者にもその様子を伝えて共有している。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 行事に取り組む際には、プロジェクトを立ち上げ、係を中心に話し合いを重ね、ねらいや経験させたいことを職員間で確認しながら進めている。全体で作り上げるために協力し合う風土が根付き、横のつながりやコミュニケーションが向上している。「うんどう会」や「なつまつり」では、子どもが話し合ったりやりたいことや目標を決め、皆で協力しやり遂げられる取り組みとなった。子どもがイメージを共有して表現を楽しみ、力を合わせひとつのものを作り上げる経験をして、達成感を味わえるような行事を実施することができている。 行事の様子は、保護者にも伝えて取り組み全体を共有し理解を得ている 行事の持ち方について、現在関わっている子どもの興味・関心や発達段階に合っているか、何を経験させたいのか、ねらいについても話し合い、職員間で共有している。行事に向けた取り組みの様子を、園だよりやクラスだより、開示日誌で保護者に伝えている。保護者会では、年間行事予定や行事のねらい・見通しを伝えて、理解や協力を得るようにしている。他クラスの様子などに関心を持つことは、子どもの成長・発達に見通しを持つ、育児支援につながる。今後も積極的な発信により、保護者により保育の理解や保育の共有を図っていく方針である。																						

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当																	
評価項目5の講評 保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが、落ち着いて過ごせるように配慮し、早遅の時間常用の遊具を用意して提供している。また、横になって体を休められるスペースを設けるなど、少人数でゆったりと過ごす時間を持てるようにしている。朝夕保育時間では、子どもが安心できるよう、なるべく同じ職員が保育に入るようにしている。クラスリーダーがそれぞれのクラスの特性や子どもとの関わりで大切にしたいことなどを伝え、職員間で共有し、個々の子どもに合わせた必要な配慮をできるようにしている。 子どもの部屋移動を少なくして、落ち着いて過ごせるような工夫をしている 夕方の保育では、クラス保育から合流する時間を、無理のないように配慮している。合流の時間は、子どもの年齢、人数や状況に合わせ、年度ごとに確認し体制を決めている。幼児クラスでは、保育室ではなくホールを活用して保育環境の工夫をしている。年度途中であっても状況の変化に合わせて随時確認して検討し、子どもにとって負担が少なくゆったり過ごせるように考え、個別配慮が必要な子どももくつろげる環境を提供している。様々な工夫により、保育時間の長い子どもが寂しい気持ちで迎えを待つ時間とならないようにしている。 朝夕の保育は異年齢児がゆったり関わり自然な形で子ども同士の良い関係ができています 限られた環境の中で、子どもが安心して楽しく過ごせるよう、おもちゃや棚の設定など、工夫している。入れ替えや見直しも定期的に行っている。日々同じような顔ぶれで、朝夕の時間を過ごしている子ども同士が日中の保育の中でも自然な形で触れ合う姿が見られている。保育時間の長い子どもは、自然な形で異年齢児保育を体験し、日中も互いの存在を気かけ、挨拶をしたり声をかけたり、姿を見つければ嬉しそう表情を交わしたりするなど、兄弟姉妹のようなつながりができています。																			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当																	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当																	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当																	
評価項目6の講評 落ち着いた食事環境の中子どもが楽しく食べられるよう工夫している 給食は、栄養バランスを考え、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理し提供している。子どもの成長に合わせて調整したテーブルと椅子を使い、決まった場所で安心して食事ができるようにしている。必要に応じて食形態の進捗会議を行い、子どもの発達に合わせた形態の食事を提供している。食事量は、子どもの様子や意欲を見ながら決め、無理なく進めている。特に乳児期は味覚が過敏であるため、家庭と給食との形態に差がないように注意して、保護者との連携しながら進めている。 アレルギーや体調に応じた食事については誤食のないよう細心の注意を払い提供している アレルギー児はアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いなどにより個別の食事対応が必要な場合は、食物除去申込書を保護者から提出してもらい、マニュアルに則り、除去または代替食で対応をしている。前月に保護者と献立表及び成分表のチェック項目を確認し食材の確認をしている。アレルギー児などの給食は、前日に全体のミーティングで除去食についての確認をし、個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員とで原因食材の除去食または代替食を目視・口頭で確認し、配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解して対応している。 野菜の栽培や調理体験など食育の取り組みを通じ、食への興味・関心を深めている 給食日よりでは、季節に応じた食材やメニュー、食にまつわるトピックス、給食の簡単なレシピなども紹介している。幼児クラスでは、プランターで種や苗から野菜などを育て、収穫の喜びとともに食についての関心が深められる食育活動を行っている。地域と連携して近隣の畑で芋ほりも行っている。収穫したものに実際に触れ、作って食べるなど、食の知識や食材の変化などに気づき、自分たちで作った物を味わう感動を実感している。食が身近なものになるよう関心を高める取り組みを通じて、子どもの興味・関心が深まっている。																			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている ☐非該当
評価項目7の講評	
子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 「心身ともに健康で元気にあそべる子ども」を園目標に掲げ、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守ることや、病気や怪我に対する意識を高められるよう、年齢に合わせた健康教育を計画的に実践している。緊急対応や嘔吐処理などのマニュアルも、手に取りやすい場所に置いて、職員が速やかに対応できるよう備えている。生活やあそびの各場面での体験を通じ、健康について子どもがわかる言葉でわかりやすく伝えている。また、体の不調や困っていることを子どもが自分で言えるように伝え、体調に合わせて活動を配慮している。 専門機関等との連携のもと、適切な対応ができる体制を整えている 職員は研修などで専門知識を学び、常に更新・共有している。そして、支援の必要な子どもへの配慮や特性を理解し、育ち合う保育を実践している。園のしおりでも健康管理の取り組みや、保育中に発生した怪我や病気について園ができる応急処置について、明記している。薬については、区立保育園共通の対応として預からないことを原則としている。慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合は、保護者の代理として与えることがあるため、個別の相談に応じている。嘱託医とは感染症や健康に関する情報を共有し、健康管理についてアドバイスを受けている。 保護者と連携して、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 乳児クラスは連絡帳を活用し、健康状態の共有を図り、幼児クラスは登降園時に直接保護者に健康状態を確認している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については、保護者会やお知らせの配付などで周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して、季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。入園前の個人面談では個々の健康状況を把握している。乳幼児期に必要な体の発達や、四肢を使った遊びの様子を普段の活動と通じて具体的に伝え、家庭と共に体づくりについて考えられるように取り組んでいる。	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している ☐非該当
評価項目8の講評	
保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時の面接や入園後の個人面談の情報から、保護者の個々の事情を考慮し、園ができる範囲で必要な支援を行っている。送迎時には、連絡事項だけでなく日中の活動の様子や日々の姿を伝えている。開示日誌では活動の様子をわかりやすく記し、子どもの姿を共有している。保護者会や個人面談では、家庭での姿を聞き取りながら、心配事や課題について一緒に考えている。保護者に寄り添い、日頃から声をかけ、連絡帳からも悩みや困りごとをキャッチできるように努めている。相談事には当日答え、面談の日程を確保し、できるだけ迅速に対応している。 安心して子育てができるよう保護者同士の交流や職員との共通認識を深めている 保護者会では、年間の保育計画をもとに、子どもの発達、園の保育について説明し、共通認識を持てるようにしている。日常生活や遊びの様子を紹介し、子どもの成長・発達や、保育で大切にしているポイントなどを伝えている。また、保護者同士が懇談や交流をできる時間を設定している。保護者が共通して抱える問題について一緒に話し合うことで、コミュニケーションが深まるよう工夫している。個別の支援が必要な家庭には、専門機関と連携しながらケース会議を開き、情報を共有して個々の事情に配慮した対応を行っている。 保護者が安心して子育てができるよう成長発達を伝え共通認識が得られるようにしている 保護者の意向を丁寧に聴き取るよう全職員が心がけ、各家庭に寄り添い対応している。保護者が、自分の子どもだけでなく、どのクラスの保育にも関心を持ち、子どもの成長に見通しを持ち、楽しみや喜びを感じ共有してもらえるよう園の保育を積極的に伝えている。個人面談や保育参観、保育参加の機会を随時設け、時期を設定して知らせている。個人面談では、子どもの発達について話し、保護者の気持ちをくみ取り、心配事や悩みを一緒に考え、解決を支援している。	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域との連携からの取り組みが子どもの経験を広げる機会となっている 読み聞かせボランティアと連携し、毎月絵本の読み聞かせを行っている。併設の高齢者活動施設(ゆうゆう館)との交流も、少しずつ再開している。園のお話の会に来てもらい、年長児がソーラン節や南京玉すだれなどの出し物を披露し、とても喜ばれた。世代間交流は、子どもにとっても経験の幅が広がる良い機会となっている。園の職員以外の大人と触れ合いや、改めて話を聴くことで、子どもは良い刺激を受けている。人との関わりの中で、社会とつながり、子どもの生活の幅を広げることにもつながっている。 園庭開放など、地域の子どもと一緒に遊んだり交流したりする機会を確保している 中核園事業を通して地域とのつながりが広がっている。地域支援活動として園庭開放を行う中で、自然な交流ができています。地域幼保小連携ネットワークにより、小学校との交流を持ち、学校行事やプレ1年体験に参加し、小学校の児童や教職員と交流でき、就学後の小学校生活にスムーズに慣れることに役立っている。また、中学校の職場体験などの受け入れでは、次世代育成の役割を果たすと共に、中学生と園児が触れ合うことにより、互いの「生きる力」の育成にもつながっている。今後も、地域全体で連携して子育てを深めていく方針である。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら、やりたいことが実現できるよう必要な支援をしている	
内容①	子どもは様々な活動を通して表現を楽しむことを経験し、自分で考え、アイデアを出し、やってみたいことを見つけ発信している。保育者は子どもの思いに寄り添い、気持ちを尊重し、「やりたい」という思いを実現できるよう、日々の保育に取り組んでいる。子どもの発想や気づきを展開させることができるように、働きかけや支援を工夫している。保育者が主となるのではなく、子ども同士で意見を出し合い話し合うなど、主体的に集団活動に関わっていく活動を積み重ね、やり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるよう、工夫している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容②	保護者が子どもの成長を知り、大きくなった姿に見通しを持ったり、待ち遠しく思ったり、子育てを楽しみにすることも親支援のひとつと園では考えている。入園時や年度当初の保護者会では、園が大事にしている保育について伝え、クラスだよりや開示日誌でも、活動の様子をできるだけ具体的に知らせ、子どもの成長・発達に関する情報を積極的に発信し共有に努めている。保護者の意向や相談にはできる限り速やかに対応し、真摯に向き合い丁寧に対応している。子どもが園生活を楽しむ姿を知ること、保護者の安心・安全と信頼につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	職員間のチームワークを円滑にし、保育の質と組織力の向上につなげている	
内容③	職員間のコミュニケーションをより円滑にするためのきっかけとして、「偏愛マップ」に取り組んできた。自分が好きだったものなどを思い出し、主体的に整理することで改めて自分を理解し、また、作成したものを他の人と共有することで、楽しみながら自己理解や他己理解を進め、打ち解けることができた。普段から互いに言葉を交わすことが増え、気づきや声のかけ合いなどコミュニケーションも深まり、チームワークがより強まっている。一人ひとりの人間力の高まりが保育の質の向上につながり、保育の厳しい状況でも協力して助け合うことができている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの生活や遊びが豊かな経験となるよう考え、工夫しながら環境を整えている
	内容	園の環境整備係を中心に、室内外の環境についてより良くなるよう工夫している。園庭環境の整備も行い、むしやむしやの森で探索や虫探し、飼育や観察など、自然に触れる機会を多く取り入れ、子どもの遊びが広がるようになった。また、日常の活動を通して異年齢児の交流が自然にできる環境があり、子ども同士の成長に広がりを与えている。全職員が室内外の環境設定の大切さを理解し、年齢・発達に合った玩具を計画的に購入し、工夫して作成している。職員は人的環境も大切と考え、全園児の成長に関わり、共有し、互いに助け合う保育を行っている。
2	タイトル	地域との関わりが子どもの経験を豊かにし、職員の学びにもつながっている
	内容	近隣保育園との交流、保育士交流会や研修など、職員一人ひとりが中核園事業に積極的に関わっている。これにより中核園の取り組みが浸透し、地域全体の保育の向上に貢献する意識が高まり、顔の見える良好な関係ができています。子育て支援事業では園庭開放などに取り組み、併設のゆうゆう館との交流、読み聞かせボランティアや職場体験の学生の受け入れ、児童館の行事や小学校の交流事業への参加による児童や教員との交流なども行っている。こうした地域との関わりと交流を積み重ねることで、子どもの経験の幅が広がり、職員の学びにもつながっている。
3	タイトル	職員一人ひとりが園全体を見て動けるよう意識を高め、園運営に関わり力を発揮している
	内容	職員は「子どものために良い保育をしたい」という思いを持っている。リーダー層が中心となり、横のつながりがさらに深まるよう、会議の持ち方や仕組みを工夫している。職員体制ボードの記入を当番制にし、職員が計画と確認を行うようにしたことで、個々が園運営について関心を持ち、連携しようとする意識が見られている。職員はクラスを超えて、体制を整えるために協力してアイデアを出し合い、向上リーダーも発信力を高め、力を発揮している。クラスのつながりだけでなく、他クラスの運営をも支えていこうと、園全体で考え取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃から保護者との信頼関係の構築に努め、子どもの育ちを共有し保育を伝えていく
	内容	保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示などを活用して保育の共有を進めている。職員は保護者の話を傾聴し、必要に応じて面談時間を設け、迅速かつ丁寧な対応を心がけて子育て支援を行っている。これまでも、子どもの遊びや活動のねらいを明確に伝え、子ども自身が園生活から得ている学びや、育ちを伝える発信の工夫に取り組んできた。今後は、それぞれの職員が、学びや情報を報告し合う園内研修の取り組みを保護者とも共有し、保育への一層の理解を図ることを課題としている。
2	タイトル	専門性を高める学びを通じて知識と技能の共有と向上を目指していく
	内容	職員一人ひとりの得意なことを活かし、また園内や外部の研修での学びを継続して知識を共有し、知識と技能の向上を図りたいと考えている。障害児指定園として、これまでも子どもの状況に合わせた支援を全職員で実践してきた。障害の有無に関わらず一緒に過ごすことで、子どもは互いの違いを認め合い、社会性や共感力を育んできた。今後も、多様性を受け入れ、全ての子どもに公平な機会を提供するため、職員は専門性を高める学びを継続し、環境構成や援助の方法など、子どもに寄り添う支援に園全体で取り組んでいくことを課題としている。
3	タイトル	リスクに対する必要な対策を再確認しより安全な行動や対応ができるようにしていく
	内容	災害発生などに備えた避難訓練を行い、リスクに対してはその時その場の状況に応じ、臨機応変に対応できるように備えている。職員全体でマニュアルをもとに確認し、会議などで職員と話し合い、周知するなど事故や感染症などの対策には常に取り組んでいる。その上で、今後は現況を改めて確認し、机上でのすり合わせだけでなく安全な経路を実際に確認し、実情に合わせた最善の対策について職員間で共有したい考えである。場合によっては区の担当課に確認や相談をしながら子どもの安全を確立し、保護者の安心につなげることを課題としている。

6. 松ノ木保育園

松ノ木

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号	
	①				福祉、経営	H2301066
	②				福祉、経営	H2201085
	③				福祉、経営	H2201084
	④					
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	松ノ木保育園					
事業所連絡先	〒	166-0014				
	所在地	東京都杉並区松ノ木2丁目33番6号				
	Tel	03- 3315- 4534				
事業所代表者氏名	白井 稔					
契約日	2024 年 6 月 19 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 26 日					
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 15 日					
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 26 日					
自己評価結果報告日	2024 年 10 月 8 日					
訪問調査日	2024 年 10 月 21 日					
評価合議日	2024 年 10 月 21 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 白井 稔

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1、子どもの様々な興味、関心を広げ自ら遊びを選択し遊びに熱中できる安全で安心できる環境づくりに努める。また遊びの中で五感 や学びの力を育んでいく。 2、園全体で子どもとの信頼関係を大切にし、一人ひとりの思いを汲み、共感し、姿を受け止めていく。それによって思いやりの気持ちが育まれるようにする。 3、個々の家庭状況を理解した上で、保護者の気持ちに寄り添い子育ての方法を探りながら、24時間を見据えた子どもの育ちを踏まえ「共育で」をしていく。 4、中核園と連携して近隣の保育施設との交流や園庭開放や育児相談等を通し、地域の子育て家庭を支援する。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・保護者との信頼関係を築き、円滑な保育運営を行う ・個人一人ひとりが、考え的確な判断が出来るような意識向上 ・家庭それぞれに対する丁寧な家庭支援 ・職員間の連携を図り、園全体の事としてとらえる （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・一人ひとりが保育のプロとして、子ども達一人ひとりに対して的確な対応が出来る事 ・手立てが必要なお子さんに対し、多角的な面での柔軟なアプローチが出来る専門性を身に付ける事 ・保育の内容に対し、今できる最善な方法を見出し、担当クラスに見合った環境、玩具、行事の提供が出来る柔軟性を持った考え方 ・保護者のタイプを見極め、個々に合った対応が速やかに出来る事

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

61

利用者家族総数(世帯)

56

共通評価項目による調査対象者数

56

共通評価項目による調査の有効回答者数

38

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

67.9

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」 84%、「まあまあ満足」 16%、計100%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	38	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	37	0	0	1
回答者の97%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	37	0	0	1
回答者の97%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	35	2	0	1
回答者の92%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	3	0	2
回答者の87%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	31	5	1	1
回答者の82%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	25	9	2	2
回答者の66%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	35	2	0	1
回答者の92%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	35	1	1	1
回答者の92%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	35	1	1	1
回答者の92%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	1	1	2
回答者の89%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	7	0	6
回答者の66%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	1	0	1
回答者の95%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	1	1	4
回答者の84%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	1	0	2
回答者の92%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	32	2	0	4
回答者の84%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	26	8	1	3
回答者の68%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知している 年間の目標を立案するにあたり、各クラスが園目標などの確認をして話し合う機会を設け、年度初めに児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を全職員で確認している。各クラスの年間の目標を明確にして、日常保育で大切にすべきことを共有している。理念や目標などは園内に常時掲示しており、すぐに目に触れることにより職員も基本に立ち返ることができる。年間指導計画を作成するにあたっては全体的な計画を基本としている。新入園児説明会や各クラスの保護者会でも保育目標や理念などについて保護者に説明している。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき、園長自身も具体的な年間計画を作成し自らの役割と責任を職員に伝え、要所においてリーダーシップを発揮し園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となっている。保育情勢の変化に対応できるように重要な案件・課題については、明確な方向性を示し決定事項について分かりやすく伝えるよう配慮している。職員の意見を集約してそれぞれの役割を共有し、目標実現に向けて一致して展開している。 確立した手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 職員会議では誰でも意見が出しやすい雰囲気と、話がしやすい環境づくりを心がけている。職員の意見をできるだけ吸い上げ、トップダウンにならうにしている。重要な案件については事前にその経緯を説明し、資料の提示や周知をしている。連絡や確認事項は内容に応じてミーティングやホワイトボードを活用し、できるだけ迅速に伝え漏れのないように努めている。保護者にも園での決定事項やその経緯、内容などの情報を園だよりや園内掲示などで伝えている。会計年度任用職員に対しては、掲示や個別に声をかけるなど必要な情報を共有している。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 登降園時の日頃の会話や連絡帳などから保護者の要望・希望の把握に努めている。保護者会や個人面談でも、園への要望を聞く機会を設けている。システムを活用してデジタル化に対するアンケートを行い課題を把握している。職員からの意見、提案、疑問については、定例会議や昼のミーティングなどで検討し、園運営に活かしている。また、職員とのヒアリングを行い個々の意向を把握し、園の目標シートや個人の目標申告シートに反映させている。また、中核園事業に参加し、担当年齢別の担任交流で地域の保育施設間の情報共有をして園運営に活かしている。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。中核園事業に参画して職員の情報交換や近隣施設に園庭を利用してもらうなど取り組みに関わり、近隣施設との交流も積極的に計画しながら地域のニーズを把握している。収集した情報は、回覧やミーティングでできるだけ速やかに職員に周知している。近隣の関係機関との地域ネットワーク会議や連絡会に参加して、情報交換を行い、顔の見える付き合いが継続できている。 目標の達成に向け見直しを行いながら計画の実行に取り組んでいる 全体的な計画に基づき年間計画などの各保育計画を作成している。毎月の指導計画会議や、年度末反省などで保育の振り返りをし、目標の達成や反省を職員全体で話し合い共有している。年度末反省をもとに、係の目標シートを職員と共に作成して園内での取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。園運営について中間反省を行い、後半へ向けて課題を明らかにし計画内容のさらなる充実を図っている。仕事の見える化のための掲示板を事務所に設け、役割や進捗状況などを明示している。職員も目的意識を持ち、計画推進に臨んでいる。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 社会人としてまた福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため、保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設けている。公務員倫理や規範についても繰り返し伝えている。年度初めに会計年度任用職員とヒアリングを行い、子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育について振り返りを行うとともに、守秘義務などについて事例を伝えながら確認している。虐待が疑われるような情報を得た際は速やかに園長に報告し、必要に応じ関係機関に報告し連携を取り、迅速に対応できる体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている 苦情・要望などの相談窓口について「重要なお知らせ」に記載し、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長は、利用者の意向に対して苦情受付・解決責任者としていつでも相談対応できる体制を備え、担任・主査・栄養士・看護師など相談を受けた職員は必ず園長に報告し、ミーティングや会議などで情報を共有している。また、次世代育成につながる実習生や体験学習、子育て支援の研修など積極的に受け入れ、園庭開放など自園の子育て支援の取り組みや日々の活動など園の情報を開示している。 様々なネットワークに参画し地域の一員として園の役割を果たしている 中核園事業の中で担当年齢別担任や看護師や栄養士など交流、専門性を活かした内容を盛り込んだ学び、園児の交流に取り組みながら地域の課題を検討している。地域の子育て世帯や近隣の小規模保育施設などに参加を促している。園庭開放、身体測定など地域のニーズに向けて園ができることに取り組んでいる。保育相談も随時行っている。併設の児童館で育児に関する話しをする際に看護師が参加しサポートしている。小学校との連携、地域ネットワーク会議や講演会などへ参加し交流を続けている。地域で子どもを見守る、互いの顔が見える関わりがある。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定し、職員に周知している。リスクに対する園内対応について常に話し合い、具体的な行動について職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに、事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して役割分担をし、リスク管理をしている。年間避難訓練計画に基づき、地震や火災、併設施設との協力など様々な想定で非常時に備えた訓練を実施している。その時その場の状況に応じ、臨機応変に対応できるように、訓練後は反省と課題の抽出を行っている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりで伝え、「災害時子ども安全連絡網」の登録についても説明している。入園の際には、「大地震発生！保育園はどうなるの？」を配付して災害時の園の対応を知らせている。感染症発生の際は速やかに園全体へ周知し、保護者にも園の対応について園のしおりで詳しく説明している。また、ヒヤリハットを含めた怪我などについては、原因の分析、振り返り、対応策を検討し、職員全体で情報を共有して、再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権などの設定をしている。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努め個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、職員のダブルチェックを徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認者は機器類の数の確認を行い戸締りチェック表に記入している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園と連携を取りながら人材確保を行っている。採用後にはOJTによる配置園での計画的な指導のほか、専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらスキルとキャリアを積み上げている。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組む意欲につながるように周知している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課人材育成担当による職層研修でライフプランや業務改善計画の立案を行い、中・長期を見据えた人材育成計画を策定している。それにより、区の目標申告シートを活用してヒアリングを行い、職員の状況を踏まえて育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など勤務形態に関わらずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には長期的人材育成計画に基づき育成を行っている。育成担当が適切な指導ができるよう、担当者研修などの仕組みを整えている。育成は、担当職員だけでなく園全体で行っていく方針・姿勢を実践している。 保育の質の向上を目指す取り組みが組織力の向上につながっている 会議での討議を効果的に行えるよう、クラス別会議で話し合い、活動の振り返りや気づきが保育の質の向上につながるよう取り組みを進めている。毎月のカリキュラム検討は向上リーダーが進め、行事などはプロジェクトリーダー中心に取り組み、意見を出し合いながら進めるなど、個々の職員の声が園全体に周知できるようにしている。目的を持った話し合いが、互いの理解と信頼を深め、一人ひとりの職員の特性や特技を活かした保育につながり、モチベーション向上とより良い保育の実践につながっている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 事務的な業務が増加する中で、より良い保育を行うために、職員間の話し合いや学び合いを行っていくことを目指し、様々な取り組みを行った。ホワイトボードを活用して各自の仕事の現状を可視化することで、全体状況の把握を容易にした。これにより、指示の重複を防ぎ、またフォローしやすい環境を整えた。また、事務の簡略化や会議などの効率化を図ることで、職員自身の意識も変化し、話し合いの時間を創出することにもつながった。今後も、保育を深めていくために、職員同士で話す時間を十分に設け、保育の実践と検証を積み重ね、保育の質の向上につなげていくべく、職員全体で意識して取り組んでいく方針である。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 仕事の抱え込みを防ぎ、職員一人ひとりに全体状況への意識を促し、組織全体で資源＝持てる力を最適な形で活かしていく取り組みが行われている。効率化がなじむ分野での業務の効率化は、職員の心理的・時間的ゆとりを生み、より力を発揮できる環境をつくり、ひいてはより良い保育という形で子どもの利益につながっていく。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

ICTシステムの導入により、連絡帳やお知らせの配信をアプリケーションソフトで行うことになった。保護者との信頼関係の重要性を踏まえ、改めて保育の共有や関係の構築に注力していくこととした。特に当園は、区内の公立園の中でも先駆的にICTを取り入れた園として、紙媒体とデジタルのそれぞれの良さを踏まえて併用してきた。デジタル配信の園だよりに保護者のコメントを紹介するコーナーを取り入れるなど、一方的な発信ではなく、相互のコミュニケーションのツールとして工夫してきた。そして、デジタル化の定着状況を踏まえて、より積極的な活用に進んでいる。今後は、デジタルに移行できる部分ではより積極的にシステムを活用し、保育の記録業務の面でも効率化を進めていく方針である。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

一気呵成なICT化ではなく、アナログで行ってきたことの良さや保護者の受け止め方などを十分に踏まえながら、慎重にICT化を進めてきた。移行期にあって、保護者が情報発信に参加する仕掛けを設けるなど、ねらいに基づく着実な取り組みが見て取れる。「誰のための情報発信か」を踏まえた的確な取り組み、着実な足取りが見て取れる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページ「保幼(ぼよ)ナビ」や区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」や保育施設ガイドなどで園の情報を発信している。ホームページには園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標など記載されている。地図も掲載して、駅から園へのアクセスルートや周辺情報をイメージしやすいものとなっている。掲載している画像は、遊具紹介や遊びの様子、園舎や園庭など環境がわかるものを載せて、園の特徴が伝わりやすいものになっている。地域の子育て家庭に向けたサービスも掲載し、問い合わせ連絡先を明記している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課には、中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、近隣の関係機関との交流実施などについての報告や、必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。園長は園長会で定期的に行政から情報提供を受け、課題の検討や共有を行っている。小学校区域の小学校、児童館、保健センター、民生委員など公的施設関係者が集まる地域ネットワークも開催され、情報交換している。行政連絡会など、関係機関との連携、近隣小学校との交流や併設児童館との協力のもと情報提供を行っている。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 見学の希望者には、個々に応じて希望を確認しながら随時受け付けている。当日は30～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。できる範囲で日程変更などの調整にも応じている。園内環境を見てもらいながら、園として取り組んでいること、大切にしている点などを丁寧に伝え、入園時に準備が必要な持ち物や、保護者参加の行事など見学者からの質問にも答える時間を設け理解を図っている。身体測定や園庭開放、ふれあい保育など気軽に参加できるよう紹介している。保育相談の体制も備え、随時行っている。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活を安心できるようにしている 新入園児は入園前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別面接では子育ての意向などを聞いている。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など、保育に必要な子どもに関する情報を記録している。「松ノ木保育園のしおり」「重要なお知らせ」などを配付して、基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し、同意確認書にて同意を得ている。乳児の食事の状況や食物アレルギーについては栄養士も確認している。健康上の問題など、対応が必要な場合は特に丁寧に聞き取りを行っている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は、支援に役立てる基礎資料としている。園長は、家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や意向を確認して、入園当初は短時間の保育から始める慣れ保育を実施している。子どもの状況や必要な情報を共有し、保護者との相談により、無理なく予定の保育時間まで延ばしている。また、保護者から家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応や好きな遊びなどを職員に伝えてもらい、保護者と子どもの不安を軽減し、園の環境に早く慣れ、安心して過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように、次の生活へ向けて声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。連携している小学校から提供される情報などは随時保護者に伝え、小学校や学童クラブなどとのつながりにも配慮している。必要に応じて、保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するために、子どもの情報提供ができるよう体制を備えている。就学に向けて、子どもの姿を個人面談で保護者と共有し、就学前に保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握している。個別面接時には、家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど、保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項は、朝夕受託簿に記載し、必要に応じてミーティングで伝達し、園日誌に記載して全職員で共有している。アセスメントなどの情報は年に二回程度、前期・年間反省などで職員と話し合い見直しをして共有し、記録している。 「全体的な計画」に基づき、各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 園では全体的な計画に基づき、年齢別に年間指導計画、月間指導計画を作成している。年間指導計画は養護・教育の領域を考慮し、週案では具体的な活動を計画して保護者にも知らせている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては、個別に指導計画を作成している。各指導計画は、毎月子どもの姿についてクラスや園全体で意見を交わし、毎月の会議にて各クラスの現状と課題を検討し作成している。子どもの成長の過程は、指導計画、個人記録のほか、年齢ごとに定められた期間に児童票に記載している。 子どもの状況など職員間での共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 年度当初の保護者会では、園の全体的な計画や年間指導計画など資料を配付し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。日々の記録は保育日誌・連絡帳・開示日誌に記録している。月指導計画はいつでも見ることができるよう休憩室に掲示し、クラスごとに課題、質問、アドバイスなどを分かりやすく書き出したホワイトボードで示して、全職員の共有が容易になるよう工夫をしている。日々の子どもの様子、体調などの連絡事項は、朝夕連絡ノートや保育日誌に記録し、毎日のミーティングで確実に情報共有し伝達している。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いについて説明している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の意思を確認して対応している。職員の意識を高め、個人情報の取り扱いに留意して保育を提供できるようにしている。個人情報保護を含め、保護者に説明する内容の量が多いため、説明内容の確認がしやすく一目瞭然になるよう、わかりやすくする仕組みの検討が必要だと考えている。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 子どものプライバシー保護について、職員間で共有し、適切な対応を取っている。着替えの時にはカーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい着替えを指導するなど、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。シャワーは、つい立てやカーテンで仕切りを作って実施している。トイレでは、ズボンなどの着脱などについて立てを設置して配慮している。看護師による健康教育ではプライベートゾーンについて話をし、子ども自身が自分を大事にして守ることを意識できるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 「子どもの最善の利益」をもとに、子ども一人ひとりを尊重した保育を行っている。職員には、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守る課題について区関係機関が実施する研修への参加を促している。職員は、チェックリストやアンケートの取りまとめを共有して、不適切な保育についてたくさん話し、振り返りを行ってきた。学びを共有し倫理意識を高め、会計年度任用職員も含め全職員が理解を深めている。また、家庭支援が必要な家庭の対応や職員への周知に関する窓口の一本化を徹底し、不信感につながらないようにし情報の共有を図っている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアルなど区が定めているもののほかに園独自の業務マニュアルを作成し、松ノ木保育園の約束、概要、職員関連、保育関連、危機管理マニュアル、係分担、衛生管理などそれぞれの事項をまとめ、年度末には全職員で確認と見直しを行っている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人配付して、業務でわからないことがあれば各自すぐに確認ができるようわかりやすい所定の場所に備え活用している。緊急時に必要な事項を抜粋して事務室に掲示するなど、誰でも確認できるように備えている。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 園独自の業務マニュアルは年度末に反省を行い、項目ごとに確認見直しをして職員の合議のもと、子どもや保護者の現況に照らし合わせ保育に活かせるように更新している。体制や人員配置、子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時など、必要な見直しは時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要な内容を周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる サービスの提供について園独自の業務マニュアルを作成し、職員間で統一した対応を行えるよう注意している。子どもの様子を反映した保育ができるように指導計画を立て、保育環境の改善を図り、保護者から寄せられた意見や要望を真摯に受け止め、都度検討し丁寧に対応している。また、緊急時の対応については、安全計画をもとに基本的な行動について共有し訓練を実施している。日常保育の中で突発的に起きた事象に対して一人ひとりの職員が自分事として考え、マニュアルを踏まえ実際にどのように対応できるか判断力を磨くことが求められる。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 年齢や発達に合わせて玩具や素材などを用意し、安全面への配慮しながら子どもが主体的に興味を持って「自分で考えて行動できる」環境を整えている。子どもが手に取り使いやすいように遊具を配置し、子どもの興味・関心を広げ、自分で選択できるようにしている。会議での保育の振り返りを通して、子どもへの働きかけを共有し、園の環境整備係(園庭・室内)を中心に、翌日も遊びの続きができるように工夫するなど、職員全員で取り組んでいる。また、行事での交流のほか、園庭やホールでの日常の活動で、異年齢同士の交流を持てるようにしている。 配慮を要する子どもに対し、職員が共通認識を持ち必要な対応ができるようにしている 必要に応じた人員を配置した上で、特別な配慮を要する子どもに寄り添い、一人ひとりを尊重した保育を行っている。巡回相談や巡回指導で、園での生活に必要な個別配慮や環境について考え方、実際の対応などについてアドバイスを受け、保育に活かしている。職員は安全面に十分配慮しつつ、支援が必要な子どもも同じクラスの仲間として一緒に過ごしながら、子ども同士が互いを認め合い、共に成長できるような環境を整えている。子どもの特性や個性を理解して共通認識を持ち、全職員が子どもの最善の利益を考え、必要な対応ができるように取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を考え、より良い援助ができるよう努めている 自然な関わりの中で、世話をしたりされたりすることの心地よさを知り、思いやる心が育つよう、保育者が仲立ちとなっている。トラブルの際には職員は子どもから話をしっかりと聞き取り、原因やことのいきさつについて子どもの気持ちを汲み取りながら理解し、寄り添う対応をしている。場合によっては、子どもの気持ちを尊重し、子ども同士で解決策を探るような言葉がけをし、危険のないように注意して状況を見極めながら見守っている。保護者にも、子どもの気持ちや心の動きを伝えることを意識し、保護者の視点に立ち状況を説明するよう努めている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当

評価項目2の講評

基本的な生活習慣の確立の大切さを保護者に知らせ理解を得るように努めている

アプリ入力確認後、登園時に体調や体温・機嫌などについて口頭で確認を行っている。子どもの様子などを聴き取り、必要な連絡や引継ぎ事項を確認して、クラス担任に確実に伝えている。年齢別に作成した各指導計画をもとに、基本的な生活習慣の確立に向け、子ども一人ひとりの身体機能の成長・発達に合わせた援助を行っている。保護者の意向や家での子どもの様子を聞き取り、園での様子を伝え、家庭と連携して同じ対応ができるようにしている。保護者会や保健だよりやクラスだよりなどでも、生活習慣の大切さをわかりやすく知らせている。

子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息が取れるようにしている

園で長時間過ごす子どもの生活に必要な休息時間を保障できる環境を整えた上で、午睡時間は個々の状況に配慮している。乳児はまだ生活リズムが定まっていないため、連絡帳や保護者の伝言を参考にして、午前寝や午後寝など時間を配慮し個別対応をしている。なかなか寝付けなかった場合には、少し横になり体を休ませ休息を取るなど、体調に合わせて園での生活や遊びを行っていくよう配慮している。年長児は、クラスの状況や個々の子どもの様子に応じて配慮しながら、就学前に少しずつ午睡時間を減らしていくようにしている。

降園時にはその日の保育の様子やエピソードなどを保護者に伝えている

保護者へ伝えるべきことについては、時差が生まれないようにその日のうちに状況説明をするなど、対応している。担任が対応できない時間の送迎の保護者に対しては、朝夕連絡ノートを活用して夕保育当番の職員に詳細を伝え、体調面、怪我の状況などを細かく伝え、伝言漏れのないようにしている。必要に応じて、担任から電話連絡を入れて直接伝えている。経緯や状況を担任が直接伝える必要がある場合は、担任や園長が対応するようにしている。降園時にはできるだけ子どもの様子をひと言でも口頭で伝えるよう心がけている。

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(○○○○○○)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当	
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当	
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当	
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当		
評価項目3の講評				
子どもが遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 季節に応じ、子どもが遊び込めるよう、カリキュラムを計画し、製作や遊びのバリエーションが自然と広がるように、遊び込める環境を適宜変えている。子どものやりたいという気持ちを尊重し、玩具などもすぐに手に取って遊べるようにしている。室内のレイアウトを工夫し、コーナーなどの環境設定をしている。また、戸外遊びの時間を十分取り、遊びを自発的に見つけ、子ども自身が展開できる遊具を用意して、遊ぶ時間も確保している。個々の子どもの気持ちに寄り添いながら、無理をせず少しずつやりたい気持ちを持てるように援助をしている。 園庭や室内の環境整備と遊具の充実が子どもの活動を広げている 園の環境整備係が中心となり、子どもの興味・関心が広がるような室内外の環境や遊具を整えている。自由に表現したり制作できるような素材や、ごっこ遊びに使えるような材料を準備して、子どもが楽しめる環境を作っている。ホールでのリズム遊びや運動遊びで体を動かし表現遊びをしたり、園庭では鉄棒やすべり台のほか、タイヤや、マルチパーツを組み合わせて、子どもがやりたいと思うことを体験できるようにしている。自然な形で集団の活動に関われるようになることを意識して、日頃の遊びの中で色々な経験ができるよう個々に応じた選択肢を広げている。 異年齢の交流を通じ子どもの関わりや経験が広がり自信につながっている 異年齢の交流を通じ、子ども同士の関わりが増え、自分たちで考えて行動できる力が育っている。無理のない範囲の自然な関わりが大きな力になってきているのを実感できている。季節に応じ、散歩先での遊び方や行き先を決め、戸外遊びを楽しんでいる。また、毎日の遊びや生活を通じて、子どもがきまりや約束ごとの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育くめるように働きかけている。気持ちの切り替えが難しい時には落ち着くまで寄り添い、子どもが安心して関われるように見守り、思いに応えるよう援助している。				
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(○○○)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当		
評価項目4の講評				
行事は楽しく取り組める内容となるよう、子どものアイデアを取り入れ工夫している 行事に取り組む際は、子どもの姿や発達をとらえ、興味や関心を持っていることを取り入れ、子どもの声が行事につながるよう働きかけている。事前に子どもと話し合う機会を設け、意欲を高めている。自分たちがしたい事を考える良いきっかけとなり、楽しんで行事に向き合う姿勢につながっている。クラスの状況に合わせて検討しているため、年齢や子どもの姿によって色々な工夫がなされている。どうすれば話し合ったことが実現できるか、子どものアイデアをもとに保育者も一緒に考え、楽しみながら行事を作り上げるプロセスを大事にしている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように、行事に取り組んでいる 行事は、前年度の評価・反省や保護者からの意見などを反映させ、より良い取り組みとなるよう会議で検討して進めている。係担当者を中心に話し合いを重ね、ねらいや経験させたいことを職員間で確認している。子どもがイメージを共有して表現を楽しみ、力を合わせてひとつのものを作りあげる経験をして、達成感を味わえるような行事を実施することができている。自分たちで考えたことで、楽しみが広がり、園全体への活動にもつながっている。終わった後の達成感もひときわ高く、次への期待につながっている。 行事の様子は、保護者にも伝えて取り組み全体を共有し理解を得ている 行事の内容によっては保護者の協力を得ることも必要になるため、年度当初の保護者会で年間の行事の予定について説明し、ねらいや見通しを伝えて理解や協力を得るようにしている。行事に向けた取り組みは、随時クラスだよりで発信するほか、園だよりや日々の開示日誌などを利用して発信している。保護者が他クラスの様子などに関心を持つことで、子どもの成長・発達の見通しや楽しみを持つなど、育児支援につながっている。また、節分、七夕などの日本の伝統文化の継承や子どもの成長につながる季節の行事も大切に考え、取り組んでいる。				

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当																	
評価項目5の講評 保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 保育時間の長い子どもが、落ち着いて過ごせるように配慮している。朝夕保育時は、ゆっくり過ごせる環境を設定し、適宜玩具の入れ替えを行っている。また、体を休めるように横になれるスペースを設けるなど、配慮している。朝夕保育時間では、子どもが安心できるよう、なるべく同じ職員が保育に入るようにして、安心して過ごせるようにしている。クラスリーダーがそれぞれのクラスの特性や子どもとの関わりで大切にしたいことなどを伝え、職員間で共有して、個々の子どもに合わせて必要な配慮ができるようにしている。 保育体制を整え子どもが落ち着いて過ごせるようにしている クラス保育からの移動や合流など、保育形態の変化については無理のないよう配慮している。合流の時間は、子どもの年齢、人数や状況に合わせて年度ごとに確認し、体制を決めている。年度途中であっても状況の変化に合わせて随時確認して検討している。子どもにとって負担が少なく、ゆったり過ごせるように考え、個別配慮が必要な子どももくつろげるよう環境を考えている。また、保育補助を担当する会計年度任用職員の仕事内容と動きを細かくマニュアルに明示して、急な対応が必要な場合も声をかけ合い、全職員が共有し協力できるよう備えている。 朝夕の保育は異年齢児がゆったり関わり自然な形で子ども同士の良い関係ができています 限られた環境の中で、子どもが安心して楽しく過ごせるよう、おもちゃや棚の設定など、工夫している。入れ替えや見直しも定期的に行っている。日々同じような顔ぶれで、朝夕の時間を過ごしている子ども同士が、日中の保育の中でも自然な形で触れ合う姿が見られている。保育時間の長い子どもは、自然な形で異年齢児保育を体験し、日中も互いの存在を気にかけて、挨拶をしたり声をかけたり、姿を見つければ嬉しそうな表情を交わしたりするなど、兄弟姉妹のようなつながりができている。																			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当																	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当																	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当																	
評価項目6の講評 落ち着いた食事環境の中子どもが楽しく食べられるよう工夫している 給食は、栄養バランスを考え、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理し提供している。子どもの成長に合わせて調整したテーブルと椅子を使い、決まった場所で安心して食事ができるようにしている。必要に応じて食形態の進捗を確認し、子どもの発達に合わせた形態の食事を提供している。食事量は、子どもの様子や意欲を見ながら決め、無理なく進めている。特に乳児期は味覚が過敏であるため、家庭と給食との形態に差がないように注意して、保護者との連携しながら進めている。 アレルギーや体調に応じた食事については誤食のないよう細心の注意を払い提供している アレルギーはアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いなどにより食事提供について対応が必要な場合は、食物除去申込書を保護者から提出してもらい、マニュアルに則り、除去または代替食で対応をしている。前月に保護者と献立表及び成分表のチェック項目を確認し、食材の確認をしている。アレルギー児などの給食は、前日に全体のミーティングで除去食について確認し、個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理員で原因食材の除去食または代替食を目視・口頭で確認し、配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解して対応している。 野菜の栽培や調理体験など食育の取り組みを通じ食への興味・関心を深めている 給食だけでなく、季節に応じた食材やメニュー、食にまつわるトピックス、給食の簡単なレシピなども紹介している。栄養士による食育教育を行い、食に関心を持てるようにしている。育てる野菜や果物を子どもが決め、収穫したものを調理してもらい、実際に味わう感動を実感している。保護者には、子どもが食べている料理や量を展示食で見てもらい、保護者会での試食会で実際に子どもと同じものを食べてもらうことで、子どもや保護者の関心を高め、食が身近なものになるように取り組んでいる。																			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当						
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当																	
	評価項目7の講評 子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 「心身ともに健やかな子ども」を保育目標に掲げ、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守ることや、病気や怪我に対する意識を高められるよう、年齢に合わせた健康教育を計画的に実践している。生活や遊びの体験を通じ、健康について子どもがわかる言葉で伝えている。また、体の不調や困っていることを子どもが自分で言えるように伝え、体調に合わせて活動を配慮している。職員は、緊急対応や嘔吐処理法などのマニュアルを手に取りやすい場所に置いて、速やかに対応できるよう常に備えている。 職員は専門知識を学び、適切な対応ができる体制を整えている 当園には医療的ケアの該当児は在籍していないが、区は医療的ケアガイドライン、医療的ケア児対応マニュアルに基づいた対応をしている。職員は研修などで専門知識を学び、常に知識を更新し支援の必要な子どもへの配慮や特性の理解を深めている。園のしおりでも感染症や健康管理、保育中に発生した怪我や病気の場合に園ができる応急処置について明記している。薬は、区立保育園共通の対応として預からないことを原則としている。慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合は、保護者の代理として与薬することがあるため、個別の相談に応じている。 保護者と連携して、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 入園前の個人面接で個々の健康状況を把握している。乳児クラスは連絡帳を活用し、健康状態の共有を図り、幼児クラスは登降園時に直接保護者に健康状態を確認している。健康に関する情報は園内に掲示しており、乳幼児突然死症候群(SIDS)については、保護者会やお知らせの配付などで周知を図っている。また、毎月保健だよりを発行して、季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。嘱託医には感染症や園児の健康に関する情報を共有し、健康管理についてアドバイスをもらっている。																		
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当																	
	評価項目8の講評 保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 入園時の面接や入園後の個人面談の情報から、保護者の個々の事情を考慮し、園ができる範囲で必要な支援を行っている。送迎時には、連絡事項だけでなく日中の活動の様子や日々の姿を伝えている。開示日誌では活動の様子をわかりやすく記し、子どもの姿を共有している。保護者会や個人面談では、家庭での姿を聞き取りながら、心配事や課題について一緒に考えている。保護者に寄り添い、日頃から声をかけ、連絡帳からも悩みや困りごとをキャッチできるように努めている。相談事には当日答え、面談の日程を確保し、できるだけ迅速に対応している。 安心して子育てができるよう、保護者同士の交流や職員との共通認識を深めている 保護者会では、年間の保育計画をもとに、子どもの発達、園の保育について説明し、共通認識を持てるようにしている。日常生活や遊びの様子を紹介し、子どもの成長・発達や、保育で大切にしているポイントなどを伝えている。また、保護者同士が懇談や交流をできる時間を設定している。保護者が共通して抱える問題について一緒に話し合うことで、コミュニケーションが深まるよう工夫している。こうした取り組みは、保護者の安心につながっている。 保護者が安心して子育てをできるよう、共通認識を得られるようにしている 保育参観や保育参加には、子どもの様子や成長を感じてもらったり、保育者との関わりを見てもらったりすることで、保護者の養育力の向上を支援する役割もある。そこで、子どもの成長に見通しを持ち、楽しみや喜びを共有してもらえよう、園の保育を積極的に保護者に伝えている。今後も、年齢により保育参観や保育参加の方法を検討し、保護者の意向を聞きながら柔軟に対応していく方針である。個人面談についても、保護者の気持ちをくみ取り、心配事や悩みを一緒に考えながら各家庭に寄り添い対応できるようにしていく方針である。																		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域との連携からの取り組みが子どもの経験を広げる機会となっている 地域幼保小連携ネットワークにより、近隣の小学校と連携し、学校行事の見学や小学校体験を経験できる交流の機会があり、5歳児は就学への期待感を膨らませている。併設の児童館の行事に参加したり、遊びに行ったりする機会を定期的に設けている。給食の食材の関係でつながりのある近隣商店へ子どもと一緒に買い物に行く、散歩で顔を合わせた時に近隣の方と自然に挨拶を交わすなど、交流している。園の職員以外の大人と触れ合いや、人との関わりの中で社会とつながり、子どもの生活の幅を広げることにもつながっている。 園庭開放など、地域の子どもと一緒に遊んだり交流したりする機会を確保している 中核園事業を通して地域とのつながりが広がっている。近隣の他施設と交流の機会を持っている。地域支援活動として園庭開放を行う中で、自然な交流ができています。身体測定や育児相談などで、近隣の子育て世帯など乳幼児への参加の呼びかけを行っている。また、中学校の職場体験などの受け入れでは、次世代育成の役割を果たすと共に中学生と園児が触れ合うことにより、互いの「生きる力」の育成にもつながり、園児にとっても良い経験となっている。今後も、地域との連携を深めるため園ができることに取り組んでいく方針である。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら、やりたいことを実現できるよう必要な支援をしている	
内容①	保育者は、子どもの思いに寄り添いながら、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの主体的な行動をサポートしている。子どもの気持ちを尊重し、「やりたい」という思いを実現できるよう日々の保育に取り組んでいる。一人ひとりの子どもに対し真摯に向き合い、子どもの発想や気づきを展開させることができる環境を整えたり、働きかけや支援を工夫したりするなど、丁寧に対応している。子どもの意見を取り入れるなど、主体的に集団活動に関われるよう援助しながら活動を積み重ね、やり遂げる喜びや楽しさを味わうことができるよう工夫している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容②	子どもの成長や子育てに見通しを持つことが保護者の養育力を高めることにつながるの考えに立ち、成長・発達に関する情報を積極的に発信し共有に努めている。入園時や年度初めの保護者会では、園が大事にしている保育について伝えている。クラスだよりや日々の公開日誌では、活動の様子を具体的に知らせている。支援が必要な家庭に対しては、多角的な視点から様々な側面に対し丁寧にアプローチを行っている。保護者からの意向や相談には速やかに対応している。子どもが園生活を楽しむ姿を知らせ、保護者の安心・安全と信頼につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	保育の質の向上を目指し、職員全体で業務の見える化に取り組んでいる	
内容③	保育の質の向上を目指し、職員間で保育の話をする時間を確保するため事務の改善に取り組んだ。各自がどのような業務をどのくらい抱えているかをホワイトボードにより「見える化」した。これにより、各職員が業務分担や進捗などをより意識するようになった。業務の優先順位がつけやすくなり、判断できることが増え、業務の効率化にもつながった。また、子どもについて話し合う時間が増え、各々の気づき、振り返りなど「保育について話す」時間を確保できるようになった。保育の話や情報共有、学びの時間が増え、円滑な園運営と保育に反映されている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの生活や遊びが豊かな経験となるよう考え、工夫しながら環境を整えている
	内容	園の環境整備係を中心に、より良い環境づくりに取り組んでいる。園庭環境は定期的に見直しを行い、危険箇所や遊具などを点検している。室内遊具や玩具は、質の良い物を選び提供している。全職員が室内外の環境設定の大切さを理解して、園児の成長に関わっている。室内環境の見直しを随時行い、年齢や発達に合った玩具を計画的に購入したり、工夫して作成したりして、子どもの興味や関心を満たせるような環境を整えている。また、日常の活動で異年齢児の交流が自然にできる環境があり、子どもの成長に広がりを与える経験となっている。
2	タイトル	職員間の円滑なチームワークが保育の質と組織力の向上につながっている
	内容	職員には同僚性があり、保育について語り合える風通しの良い雰囲気が職場全体にある。情報共有が早く、職員同士の協力体制もスムーズで、園全体で全クラスの子どもの成長を援助していくという意識が高い。普段から互いに言葉を交わし、気づきや声のかけ合いなどコミュニケーションを取り合っている。役割分担を明確にして共同作業することを通して職員のチームワークがより強まり、業務を効率的に進めることができている。一人ひとりの人間力の高まりが保育の質の向上につながり、保育の厳しい状況でも気持ち良く協力して助け合うことができています。
3	タイトル	子どもは地域や保護者の協力と見守りの中で豊かな経験ができている
	内容	善福寺緑地に近いという恵まれた環境があり、園庭での遊びや散歩などで自然に触れ楽しむことができる。少人数保育や異年齢保育交流を行うなど、園全体が家族のような雰囲気があり、一人ひとりを大切にしたい保育を実施している。近隣住民による理解と見守りがあり、七夕の笹をもらったり、園庭で焼き芋を実施したりするなど、季節ならではの体験をしている。保護者同士にも温かい自然な交流があり、父母の会で園運営をサポートしてくれる体制もあるなど、色々な活動や行事にも協力的である。子どもが様々な経験をしながら成長できる活動や環境がある。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの育ちを共有し保育を伝え、保護者との信頼関係をさらに深めていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示なども活用して全クラスの保育の共有を進めている。職員は保護者の話を傾聴し、必要に応じて面談時間を設け、迅速かつ丁寧な対応により子育て支援を行っている。今後も、子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの姿を共有ができるように、子どもが園生活から様々な学びを得ていること、子どもの遊びや行事の取り組みなど、活動の経緯やねらいの見える化を心がけ、引き続き園運営への理解を図る発信の工夫に取り組んでいくことを課題としている。
2	タイトル	専門性を高める学びを通じて知識と技能の共有と向上を目指していく
	内容	職員一人ひとりの得意なことを活かし、園内研修や外部研修での学びにより知識を共有し、モチベーションの向上を図りたいと園では考えている。障害児保育指定園として、これまでも子どもの状況に合わせた支援を全職員で実践してきた。障がいの有無に関わらず一緒に過ごすことで子どもは、互いの違いを認め合い社会性や共感力を育んできた。今後も引き続き、多様性を受け入れ、全ての子どもに公平な機会を提供するため、学びを継続して専門性を高め、環境構成や援助の方法などの子どもに寄り添う支援に園全体で取り組んでいくことを課題としている。
3	タイトル	職員一人ひとりが意識を持ち、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んで行く
	内容	時間内での業務の終了や休憩時間の保障を確実なものにしていくことは、ワーク・ライフ・バランスの実現だけでなく、より良い保育の継続にも不可欠である。その意味で、経営層だけでなく個々の職員も意識して取り組んでいくことが求められる。各自の業務の現状や見通しを組織全体で共有することは、相互のフォローを容易にする。新たな取り組みの導入に伴う課題が生じた場合も、皆で意見を出し合い解決していくことで、課題への対応を通じた職員の成長＝力量の向上にもつながる。今後も、無理なく働き続けられる環境を維持していくことを課題としている。

7. 阿佐谷北保育園

阿
佐
谷
北

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①			福祉、経営	H2301066
	②			経営	H2101100
	③			福祉	H2201084
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	阿佐谷北保育園				
事業所連絡先	〒	167-0022			
	所在地	東京都杉並区下井草1丁目25番9号			
	Tel	03- 3396- 0051			
事業所代表者氏名	森野 久美				
契約日	2024 年 6 月 19 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 5 日				
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 21 日				
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 5 日				
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 26 日				
訪問調査日	2024 年 10 月 28 日				
評価合議日	2025 年 2 月 9 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 森野 久美

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・子どもも大人も安心できる保育園、「明日も来たい」と思える保育園を目指す ・楽しく笑顔で過ごし、自分らしい表現のできる子どもを育む ・保護者に寄り添い、子どもについて語り合い、「共育で」をしていく ・子どもの個性や持っている力を大切にし、主体的な保育を行う ・いろいろな経験や活動を通して、一人ひとりの育ちを援助していく
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・研修等を積極的に受講し、保育の専門性を高める意識を持つ職員 ・職員皆で協力し、常に支え合って仕事に取り組む職員 ・常に子ども主体の保育を意識する職員 ・子どもや保護者の心に寄り添い、安心して過ごせる環境づくりを心がける職員 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 保育のプロとして、常に学ぶ意識を持ち保育の質の向上を目指してほしい 子どもの命を預かる責任ある立場であることを忘れず、安全安心な保育を心がけること 人間形成の中で最も大切な乳幼児期の保育に携わっているという責任感と使命感を持つ

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

94

利用者家族総数(世帯)

80

共通評価項目による調査対象者数

80

共通評価項目による調査の有効回答者数

54

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

67.5

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」 78%、「まあまあ満足」 18%、計96%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてののみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	52	1	0	1
回答者の96%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	44	6	1	3
回答者の81%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	3	0	3
回答者の89%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	38	11	2	3
回答者の70%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	45	1	1	7
回答者の83%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	44	6	1	3
回答者の81%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	40	8	1	5
回答者の74%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	44	6	1	3
回答者の81%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	1	0	3
回答者の93%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	47	3	1	3
回答者の87%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	44	5	1	4
回答者の81%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	38	6	2	8
回答者の70%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	45	5	1	3
回答者の83%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	45	2	1	6
回答者の83%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	44	6	1	3
回答者の81%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	40	6	1	7
回答者の74%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	29	11	6	8
回答者の54%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知を図っている 年間の目標を立案するにあたり、各クラスが園目標などの確認をして話し合う機会を設け、年度初めに児童憲章・保育理念・保育目標・保育方針を全職員で確認している。年間の各クラスの重点項目を発表する場を設け、日常保育で大切にすべきことを共有している。理念や目標などは園内に常時掲示しており、すぐに目に触れることにより職員も基本に立ち返ることができる。年間指導計画を作成するにあたっては全体的な計画を基本としている。新入園児説明会や各クラスの保護者会でも保育目標や理念などについて保護者に説明している。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝え要所においてリーダーシップを発揮し、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育実現のために方向性を共有している。園運営に関わる変更、改善事項などが生じた際には、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。また個々の意見については個別に丁寧に対応している。 確立した手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 重要な案件については、事前にその経緯を説明し、資料の提示や周知をしている。職員一人ひとりが熟考し、自分の意見を反映できるようクラス単位での話し合い、それを全体で共有し、決定する過程を大事にし十分時間をかけている。誰もが意見を出しやすい環境づくりを心がけ、職員の意見をできるだけ吸い上げ、トップダウンにならぬようにしている。連絡事項は、昼ミーティングで共有し可能な限り迅速な周知を徹底している。会計年度任用職員に対しては、掲示や個別に声をかけるなどで、必要な情報をタイムリーに共有できるよう努めている。		

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(000000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当
サブカテゴリー2(2-2)				
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている			○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(00)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している			○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる			○非該当
カテゴリー2の講評				
様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 保護者からは、保護者会や個人面談で園への要望など直接話を聞く機会を設けている。また、登降園時のやり取りや連絡帳等から、日々保護者の思いを収集して要望・希望の把握に努め、対応に役立てている。職員は会計年度任用職員も含め、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、個人の意見を聴いて意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させ進捗を確認している。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。収集した地域ニーズ等の情報は回覧やミーティングで、できるだけ速やかに職員に周知している。中核園事業に参画し近隣施設と連携しながら保育の向上を目指している。また、地域懇談会、地域ネットワーク事業への参加を通じて、地域福祉の現状について情報を把握している。引き続き、情報交換や連絡など近隣の関係機関と顔の見える付き合いを継続して関係を深めていく方針である。 目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる 区の中・長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区立保育園保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。目標シートの各項目に取り組み内容を記載することで、達成度合いを図る目安となっている。園運営については、様々な課題に全体で取り組めるよう検討会議の担当を決め充実を図っている。議題を事前に集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を最大限効果的に使い目標達成に向けた実践に取り組んでいる。				

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 社会人としてまた福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設け、園長会の情報、公務員倫理や規範について繰り返し伝え意識向上に努めている。年度当初に、会計年度任用職員にも資料を提供したり、声をかけたりして子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有に努めている。虐待が疑われるような情報を聞き伝えた際は、速やかに園長に報告し、必要に応じ関係機関と連携を取り、迅速に対応できる情報共有の体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている 苦情・要望などの相談窓口について「重要なお知らせ」に記載し、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長は、利用者の意向に対して苦情受付・解決責任者としていつでも相談対応できる体制を備え、担任・主査・看護師など相談を受けた職員は必ず園長に報告し、ミーティングや会議などで情報を共有している。また、次世代育成につながる実習生や体験学習、子育て支援の研修を積極的に受け入れ、園庭開放など自園の子育て支援の取り組みや園での日々の活動などの情報も開示している。 中核園事業に積極的に参加し、地域の保育向上に取り組んでいる 中核園事業では、地域の課題を検討しながら、担当年齢別の担任や看護師や栄養士などの職員間で交流や研修を行い、保育園の持つ専門的分野の知識を活かし地域還元ができるよう努め、園児の交流にも取り組んでいる。地域の子育て親子や園庭のない保育園、小規模保育施設などに、園庭開放や子育て相談・身体測定の実施など身近な相談窓口として関わり、地域のニーズに向けた取り組みを行っている。近隣の保育園と交流を持ち一緒に遊ぶ経験を通じて、子ども自身が地域を意識して地域とのつながりに気づく機会になっている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定しており、職員にも周知している。リスクに対する対策を、常に話し合い、具体的な行動については職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策等の対応を確認し、予防管理組織図等を明記し役割分担を明確にしてリスク管理をしている。年間避難訓練計画を定め地震や火災のほか様々な想定で非常時に備え訓練を実施している。訓練後は反省と課題の抽出を行い、その時その場の状況に応じ、臨機応変に対応できるようにしている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりで伝え「災害時子ども安全連絡網」の登録についても説明している。入園の際には、「大地震発生！保育園はどうなるの？」を配付して災害時の園の対応を知らせている。感染症発生の際は、速やかに全体へ周知し、緊急時の対応についても園のしおりや重要なお知らせで詳しく説明している。また、ヒヤリハットを含めた怪我(事故)などは適切に記録し、原因の分析、振り返り、対応策を検討し職員全体で情報を共有して再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権等の設定をしている。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努め個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、職員のダブルチェックを徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認者は機器類の数の確認を行い戸締りチェック表に記入している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園と連携を取りながら人材確保を行っている。採用後には、OJTによる配置園での計画的な指導のほか専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらスキルとキャリアを積み上げている。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組む意欲につながるように周知している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課人材育成担当による職層研修でライフプランや業務改善計画の立案を行い、中・長期を見据えた人材育成計画を策定し、区の目標申告シートを活用してヒアリングを実施し職員の状況を把握しながら育成を計画し実施している。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など勤務形態に関わらずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には長期的人材育成計画を策定し、育成者担当は適切な指導ができるように担当者研修や会議など支援の仕組みがある。担当職員の責任だけでなく、園全体で支援、育成をする方針姿勢を明確にして取り組んでいる。 保育の質の向上を目指す取り組みが組織力の向上につながっている 職員一人ひとりが報・連・相・確認を意識し、情報を迅速に報告する職場集団であるため、素早い共有と解決に向けての話し合いを行うことができています。情報や意見の伝達が漏れないよう努めており、気づきを書き込むメモ欄を活用して日常の気になることを職員間で共有している。園長、各主査を含め向上リーダーも相談しやすい職場環境づくりを意識している。係の目標については中間で見直しを行い、目的を持ち話し合うことができています。一人ひとりの職員は自分の特性や特技を保育に活かし前向きに取り組み、より良い保育の実践につながっている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
子どもだけでなく、園に関わる保護者や職員など全ての人にとって園が安心・安全な場であることを課題とし、そのため、子どもも保護者も職員もみんなが安心して過ごし、認め合える園にしていくこと、子どもが主体的に遊び、気付きや学びにつながる保育を提供していくことを目標とした。その上で、①一人ひとりが自己発揮できるように子どもを大切に受け止め、②子どもの姿やクラスの様子を共有できる職場風土を作り、③子どもの姿や興味・関心から遊びを広げていけるような保育を実践し、④子どもが「遊びたい」と思える環境づくりに取り組み、⑤保育のねらいを確認し合い、子どもの姿や園の課題を出し合い高め合える職場環境を作ってきた。こうした取り組みにより、園全体で丁寧な保育を積み重ねていくことができた。また、クラス間の連携や活発な意見交換により、より良い保育につなげることができた。さらに、室内・園庭の環境の充実のみならず職員全体の意識の向上にもつながった。今後も引き続き、人の入れ替わりがあっても、より良い保育の実践、より良い保育環境の実現を継続していける組織づくりに取り組んでいく方針である。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 課題の解決に向けた取り組みを通して、課題の解決だけでなく、職員一人ひとりが「自分事」として考えて行動することで組織力の向上につなげることができている。また、人事異動という不可避の要素に対し、「園として取り組みを継続していく、積み重ねていくためには何ができるか」を考え、異動によってもたらされる新たな目線や刺激をうまく活用して、取り組みの質の向上を実現している。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

より良い保育を行っていくことを課題とし、そのために職員の保育力や対応力のスキルアップ、保護者との信頼関係を深め目指していくことを目標とした。その上で、保育の質の向上を目指して職員全体で学び合い、ねらいに基づいて活動一つひとつを連続して実施し、そのことが子どもの成長につながることを確認し、保育内容の検討をしてきた。また、異動に伴う職員の入れ替わりにより、保護者に不安が生じることが考えられるため、日頃からコミュニケーションを大切に、丁寧な対応を心がけ、小さなことも職員間で共有し、各自が同じように対応することを意識して実践してきた。こうした取り組みにより、職員の意識や対応水準の向上など、一定の成果を得ることができた。より良い保育の実践には、職員一人ひとりが心身ともに健康であることが重要である。そのため、今後は、ワーク・ライフ・バランスの面も考慮し、支え合う環境づくりを心がけ、残業の少ない職場づくりを目指すことにも、改めて意識を向け、取り組んでいく方針である。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

より良い保育実践の実現のために、職員の意識や力量の向上といった面に注力するのみならず、「働きやすさ」の面にも意識を向けることは、職員が安心して、また継続して力を発揮していくことができる環境を作っていくという意味で、職員の心身の健康の維持に資する。またそれは、最終的には子どもの利益の増進につながる。安定的な保育を継続的にやっていくという園の責務にも資する取り組みである。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページ「保幼(ぼよ)ナビ」や区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」や保育施設ガイドなどで園の情報を発信している。ホームページには園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標など記載されている。地図も掲載して、駅から園へのアクセスルートや周辺情報のイメージがしやすいものとなっている。掲載している画像は、室内や園庭での遊びの様子、園舎や園庭など環境がわかる場面を載せて園の特徴が伝わりやすいものになっている。地域の子育て家庭に向けたサービスも掲載し、問い合わせ連絡先を明記している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課には、中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、関係機関との連携や交流実施等についての報告や、必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。園長は、園長会で定期的に行政から情報提供を受け、課題の検討や共有を行っている。小学校区域の小学校、児童館、保健センター、民生委員など公的施設関係者が集まる地域ネットワークも開催され、情報交換している。行政連絡会など、関係機関との連携、近隣小学校との交流や併設施設との協力のもと情報提供を行っている。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 園内の見学会は日にちを設けて実施している。日程調整が必要な場合は、できる範囲で個別に変更に応じる等柔軟に対応している。見学会では、同年齢のお子さんの保護者同士が交流できるよう、玄関ホールに椅子を置いて、座って話ができるようにしている。当日は30分～40分ほど園内を案内しながら概要を伝え、園内環境や子どもの様子を見てもらいながら園として取り組んでいること、大切にしている点などを丁寧に伝えている。見学者からの質問にも答える時間を設け、理解を図っている。また、園庭開放、育児相談など支援事業についても案内している。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活に安心できるようにしている 新入園児には、入園前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別面接では子育ての意向などを聞いている。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など保育に必要な子どもに関する情報を把握して記録している。園のしおりと重要なお知らせを配付して、基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し、同意確認書にて同意を得ている。乳児の食事の状況や食物アレルギーについての確認や健康上の問題など対応が必要な場合は特に丁寧に聞き取りを行っている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 園長は、家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や意向を相談して、入園当初は短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。慣れ保育は、子どもの状況や保護者の事情を考慮し、子どもの様子を見ながら無理なく予定の保育時間まで延ばしている。入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は支援に役立てる基礎資料としている。保護者からは家庭での保育の状況や、子どもが落ち着く対応・好きな遊びなどを職員に伝えてもらい、保護者の不安を軽減し子どもが園の環境に慣れて過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように次の生活へ向け声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。連携している小学校から提供される情報などは随時保護者に伝え、小学校や学童クラブ等とのつながりにも配慮している。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するために、子どもの情報の提供ができるよう体制を備えている。就学に向けて、子どもの姿を個人面談で保護者と共有し、就学前に保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。入園後の子どもの様子は、保育日誌や保健日誌、児童票に記載している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項は、朝夕保育簿と視診表を一括した形式に記載し、必要に応じてミーティングで伝達し園日誌に記載して全職員で共有している。 「全体的な計画」に基づき、各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 園では、全体的な計画に基づき、年齢別に年間指導計画、月間指導計画を作成している。年間指導計画は養護・教育の領域を考慮し、週案では具体的な活動を計画して保護者にも知らせている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては個別に指導計画を作成している。各指導計画は、毎月子どもの姿について振り返りクラスや園全体で意見を交わし、毎月指導計画は振り返りを行い各クラスの現状と課題を確認し共有している。子どもの成長の過程は、指導計画、個人記録のほか、年齢ごとに定められた期間に児童票に記載している。 子どもの状況など職員間での共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 情報共有や発信については少しでも改善の必要があれば、園長、各主査、向上リーダーが主体となり実行に移している。職員も柔軟な姿勢で前向きに受け止めている。年度当初の保護者会では、園の全体的な計画や年間指導計画など資料を配付し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。日々起こる子どもや保護者の情報を漏れなく共有できるようにするため、朝夕保育簿と視診表を一括した形式に変更し共有に努めている。形式を変更したことにより、子どもの様子、体調など連絡事項や前後日の様子が把握しやすくなり、連絡漏れが減少している。			
サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いや保護については、園のおしり等にも詳しく記載して説明している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の同意を確認して対応している。個人情報保護について職員の意識を高め、その取り扱いには十分留意して保育が提供できるようにしている。また、個人情報の取り扱いを含め、保護者に周知する内容量が多いため、入園後も必要に応じて丁寧に説明するなど誠意を持った対応に努めている。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 子どものプライバシー保護については職員間で共有されており、適切な対応が守られている。身体測定や着替える時にはスペースを仕切る等、視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタールを用意してもらい使い方や着替え方を指導している。おねしょやおもらしの時には、他児の前で声をかけたりせず個別に対応するなど、場面や年齢に応じ、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。また、看護師から健康教育でプライベートゾーンや健康を維持するための様々な話を聞き、子ども自身が自分を大事にして守ることを意識できるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 全職員が倫理意識を高めて理解を深め、誠実な対応ができるようにしている。職員は、「児童虐待対応マニュアル」に則った対応をしている。虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守る課題について様々な研修へ参加して学ぶ機会がある。日常の保育の中で、子ども一人ひとりを尊重した保育ができていくかについて、月間指導計画の検討等、保育の見直しの機会を捉え継続的な確認や振り返りをし注意喚起を行っている。保護者の様々な価値観や文化、要望などに配慮しながら必要な支援を行い、子どもを取り巻く環境を支えている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引き等が備えられている。保育理念・目標、保育方針、役割分担など各事項をまとめた園独自のマニュアルを作成し、年度末には全職員で見直しを行っている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人配付して、業務でわからないことがあれば各自すぐに確認ができるよう、わかりやすい所定の場所に備え活用している。緊急時に必要な事項を抜粋して事務室に掲示するなど、誰でも確認できるように備えている。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 園マニュアルは年度末に反省を行い、項目ごとに確認し見直しをして職員の合議のもと、子どもや保護者の現況に照らし合わせ保育に活かせるように更新している。体制や人員配置、子どもの遊びの様子の变化、仕事の手順を変更した時など、必要な見直しは時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要な内容を周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる 子どもの様子を反映した保育を実行できるよう指導計画を立て、保育環境の改善を図っている。保護者から寄せられた意見や要望を真摯に受け止め都度検討し対応している。職員は、わからないことや互いに気づいたことをそのままにせず発し、必ず全体で意思統一している。また、緊急時の対応について、安全計画をもとに基本的な行動を共有して訓練等を実施している。突発的に起きた事態への対応には、判断力が必要となる。一人ひとりの職員が自分事として考えられるよう、具体的なケースを想定した訓練などを重ね、対応力の向上を図っていく方針である。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもが主体的に関わり、遊びを継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 年齢や発達に合わせて玩具や素材などを用意し、安全面への配慮しながら子どもが主体的に興味を持ち、「自分で考えて行動できる」環境を整えている。玩具等は子どもの年齢や時期、活動に合う内容を選び、子どもが手に取り使いやすいように配置し、子どもへの働きかけを共有し、翌日も遊びの続きができるように工夫している。また、乳児クラスは大きい集団ではなく、小グループで大人との落ち着いた関わりの中で主体的活動を援助するよう意識している。子どもの興味や関心をキャッチして意欲を尊重し、子ども自身が選択できるようにしている。 配慮を要する子どもに対し、職員が共通認識を持ち必要な対応ができるようにしている 特別な配慮を要する子どもに寄り添い、一人ひとりを尊重し、必要に応じた人員を配置して保育を行っている。巡回相談や巡回指導で、園生活に必要な個別配慮や環境についての考え方、実際の対応などについて助言を受け、保育に活かしている。職員は、それぞれの違いを認め合うことを日々の保育の中で意識できるよう働きかけ、仲間として一緒に過ごしなが、共に成長できるような環境を整え援助している。全職員が子どもの最善の利益を考え、子どもの特性や個性を理解して共通認識を持ち、必要な対応ができるように取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を考え、より良い援助ができるよう努めている 職員は、日常の様々な場面で子どもの気持ちや思いをじっくり聴き、気持ちをくみ取り、必要に応じて代弁し、言葉を引き出している。特に小さい年齢は発達の過程に配慮し、行動をよく見て、怪我につながるようなトラブルを未然に防ぐように心がけている。また、子どもの成長・発達に従い、場合によっては気持ちを尊重し、子ども同士で解決策を探れるよう声をかけ、安全に十分配慮しながら見届ける対応もしている。援助すべきところは全職員で確認し支えながらも、子ども同士の関わりを見守り互いの主張や活動が保障できるように仲立ちしている。	

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
評価項目2の講評		
基本的な生活習慣の確立の大切さを保護者に知らせ理解を得るように努めている 朝の登園時には挨拶を交わし、視診を行い、体調や機嫌等について保護者に聞き取り、朝夕名簿に記載している。乳児クラスは連絡帳を手渡しで受け取り、確認している。幼児クラスは口頭で子どもの様子等を聞き取り、連絡や引継ぎ事項を確認し、確実に伝えている。園では、指導計画に基づき基本的な生活習慣の確立に向け、一人ひとりの身体機能の成長・発達に合わせた援助を行っている。家庭と連携して同じ対応ができるように保護者会や保健だより、クラスだより、日頃のコミュニケーションの中で共有し、生活習慣の大切さをわかりやすく知らせている。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息が取れるようにしている 長時間保育で過ごす子どもの生活に必要な休息時間を保障できる環境を整えた上で、午睡時間は個々の状況に配慮している。乳児はまだ生活リズムが定まっていないため、連絡帳や保護者の伝言を参考にして、午前寝や午後寝など時間を配慮し個別に対応している。なかなか寝付けなない場合には、少し横になり体を休ませて休息を取るなど、体調に合わせて対応し、遊びや生活など、安全で健康に過せるように配慮している。年長児は、クラスの状況や個々の子どもの様子に応じて配慮しながら、就学前に少しずつ午睡時間を減らしていくようにしている。 降園時にはその日の保育の様子やエピソードなどを保護者に伝えている 保護者へ伝えるべき必要があることについては、時差が生まれないようにその日のうちに状況説明をするなど対応している。降園時にはできるだけ子どもの様子をひと言でも口頭で伝えるよう心がけている。担任が対応できない時間の送迎の保護者に対しては、朝夕保育簿と視診表を一括した形式を活用して当番保育者に詳細を伝え、体調面、怪我など細かく伝え、伝言漏れのないようにしている。必要に応じて担任から電話連絡を入れて伝えている。経緯や状況を担任が直接伝える必要がある場合は、担任や園長が対応するようにしている。		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(○○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評 子どもが遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 基本的な生活の流れや物の置き場所などは一定にし、子ども自身が見通しを持って生活できるように確認し、実践している。子どもの遊びや要求に合わせた環境づくり、玩具の提供などを状況に応じ行っている。子どもが、使いたいものをすぐに手に取って遊べるようにレイアウトを工夫し、遊びのバリエーションが自然に広がるようにしている。また、活動時間が細切れにならないよう配慮し、十分な遊び時間を確保するようにしている。子どもの気づきや興味・関心を日々の遊びにつなげていく視点や援助の仕方を意識して保育を展開している。 園庭や室内の環境整備と遊具の充実が子どもの活動を広げている 子どもの興味・関心が広がるような室内外の環境や遊具を整えている。リズムあそび・体操などの身体表現、泥んこ遊び、造形活動(絵画、粘土、はさみ、空き箱製作等)ことば遊び、ふれあい遊び等、様々な活動の機会を提供している。幼児合同でたてわりグループを作り活動をするなど異年齢児の交流も大切にしている。自然な形で無理なく集団の活動に関われるように、日頃の遊びの中で、色々な経験ができるよう個々に応じた選択肢を広げている。子どもの「やりたい」という思いを実現できるよう、実際の体験を通じ五感を大切にする保育を行っている。 日常の生活や遊びを通して様々なことを感じ、豊かな経験ができるようにしている 植物の栽培、収穫したものを調理してもらい味わう経験や散歩先で自然に触れ季節ごとに楽しんでいる。散歩のコースが豊富にあり、年齢やねらいに合わせて散歩先を選んで出かけている。自然物を使った製作活動も楽しんでいる。園庭は、路地をはさんで2カ所に分かれている。可動の遊具を配置し、自由に遊べるようにしている。どこで何をするか、自分で遊びを選んで楽しめる環境を大切にしている。また、日々の生活の中で、約束事について知らせ、それを守ることやその大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てるように働きかけている。			
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評 行事は楽しく取り組める内容となるよう子どものアイデアを取り入れ工夫している 子どもの興味・関心や遊びの中での発見等を行事に結び付け、主体的に取り組めるよう援助している。子どもの姿や発達をとらえ、子どもと話し合い、アイデアを出し合い、子どもの声が行事につながるよう働きかけている。そのことが、自分たちがしたいことを考えるきっかけとなり、意欲を高め、楽しい気持ちで行事に取り組む姿勢につながっている。年齢やクラスの状況に合わせて内容を検討し、子どもの発想や思いをもとに保育士も共に考え、楽しみながら行事を作り上げる過程を大事にしている。様々な工夫により活動が展開し楽しみが継続している。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 行事は、日頃から楽しんでいることをもとに、経験させたいことを職員間で確認しながら取り組んでいる。前年度の評価・反省や保護者からの意見等を反映させ、係担当者を中心に話し合いを重ね、より良い取り組みとなるように考え進めている。ルンルンフェスティバル(運動会)、ミックスデー(幼児異年齢交流保育)では、イメージを共有して皆で力を合わせひとつのものを作り上げ、自分が楽しむ経験から、自分たちが楽しませるように工夫し展開している活動もある。子ども自身がやり遂げたことで達成感も高く、園全体への活動にもつながっている。 行事の様子は、保護者にも伝えて取り組み全体を共有し理解を得ている 行事については、年度当初の保護者会で年間の行事の取り組みの予定について説明し、ねらいや見通しを伝えて理解や協力を得るようにしている。行事に向けた取り組みや準備過程等は、園だよりやクラスだよりのほか、日々の開示日誌で発信している。保護者が他クラスの様子などに関心を持つことで、子どもの成長・発達に見通しや楽しみを持てるようにし、育児支援につなげている。また、園では節分、七夕など日本の伝統文化の継承や子どもの成長につながる季節の行事も大切に考え取り組んでいる。			

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当	
評価項目5の講評				
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 日中の活動や環境にも工夫して、保育時間の長い子どもが、落ち着いて過ごせるようにしている。朝夕保育時は、適宜玩具の入れ替えを行い、カーテンや仕切りなどを活用したり、ゆったり過ごせる環境を工夫している。体を休めるように横になれるようなスペースを設けるなどの配慮をしている。乳児は少人数保育を行っている。クラスリーダーがそれぞれのクラスの特性や子どもとの関わりで大切にしたいことなどを伝え、職員間で共有して柔軟に対応している。個々の子どもに合わせて必要な配慮ができるようにして子どもが安心して過ごせるようにしている。 保育体制を整え子どもが落ち着いて過ごせるようにしている クラス保育からの移動や合流等、保育形態の変化については無理のないよう配慮している。それぞれ合流の時間は、子どもの年齢、人数や状況に合わせて年度ごとに確認し、体制を決めている。年度途中であっても状況の変化に合わせて随時確認して検討している。子どもにとって負担が少なく、ゆったり過ごせるように考え、個別配慮が必要な子どももくつろげるよう環境を考えている。また、保育補助を担当する会計年度任用職員の仕事内容と動きも共有して、急な対応が必要な場合も声をかけ合い全職員が協力できるような体制を備えている。 朝夕の保育は異年齢児がゆったり関わり自然な形で子ども同士の良い関係ができています クラスの単位に拘らず自然な関わりを大切に、職員は全体を見る目を持ち、全ての子どもの状況を把握して関わり、保育する意識を持っている。朝夕の時間帯は日々同じような顔ぶれで、一緒に過ごしている子ども同士が、日中の保育の中でも自然な形で触れ合う姿が見られる。保育時間の長い子どもは、自然な形で異年齢児保育を体験し日中も互いの存在を気にかけて挨拶や声をかけたり、姿を見つければ嬉しそう表情を交わしたり兄弟姉妹のようなつながりができている。				
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		☐ 非該当
評価項目6の講評				
落ち着いた食事環境の中で子どもが楽しく食べられるよう工夫している 給食は、食事を「楽しむこと」を大きなねらいとし、一人ひとりが無理なく楽しく食べられるようにしている。栄養バランスを考え、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理し提供している。喫食状況は巡回して様子を把握して、0歳児の進捗会議や献立反省で共有している。食事は、子どもの様子や意欲を見ながら決めている。特に乳児期は味覚が過敏であるため、家庭の形態と給食の形態に差がないように注意して保護者と連携しながら進めている。介助にはできるだけ同じ大人が付き、テーブルといすを調節するなど環境を整えている。 アレルギーや体調に応じた食事については誤食のないよう細心の注意を払い提供している アレルギー児はアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いなどにより食事提供について対応が必要な場合は、食物除去申込書を保護者から提出してもらい、マニュアルに則り、除去または代替食で対応している。前月に保護者と献立表および成分表のチェック項目を確認し、食材も確認している。アレルギー児などの給食は、前日に全体のミーティングで除去食について確認し個別トレーで用意し、提供直前に担任と調理職員で原因食材の除去または代替食を目視し、口頭で確認してから配膳している。必要な手順や対応は、全職員が共通理解して対応している。 野菜の栽培や食育の取り組みを通じ食への興味・関心を深めている 食育年間計画に基づき、栄養指導などの食育を行い、食に関心を持てるよう工夫して取り組んでいる。栽培物は子どもが収穫した時に調理室へ持参し、調理職員との顔の見える関係の中で食育活動が行われている。収穫した野菜の色や形、味などの違い等、実際に味わう感動を実感している。毎月の給食だよりでは、季節に応じた食材や献立の紹介、食にまつわるトピックスを保護者向けに発信している。子どもが食べている料理や量を展示食で見てもらい、子どもや保護者の関心を高め、食が身近なものになるように取り組んでいる。				

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づき対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目7の講評 子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守るように働きかけている 心身ともに健やかな子どもの成長を目指して、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守ることや、病気や怪我に対する意識を高められるよう、年齢に合わせた健康教育を計画的に実践している。生活や遊びの体験を通じ、健康について子どもがわかる言葉で伝えるよう心がけている。日々の保育の中では、散歩時の歩き方、信号の渡り方など、その時々に必要なことを伝え、安全への意識が持てるようにしている。職員は、緊急対応や嘔吐処理法などのマニュアルを手に取りやすい場所に置いて、速やかに対応できるよう常に備えている。 職員は専門知識を学び、適切な対応ができる体制を常に整えている 看護師の常駐により、必要に応じて適切な判断や対応ができています。職員は研修で健康・衛生等に関する専門知識を学び、常に更新・共有している。子どもの特性を理解し育ち合う保育を実践している。園のしおりでは「元気に楽しく過ごすために」として健康・衛生管理や保育中に発生した怪我や病気について園ができる応急処置等を明記し、保護者に伝えている。薬については、区立保育園共通の対応として預からないことを原則としている。慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合は、保護者の代理として与薬することがあるため、個別の相談に応じている。 保護者と連携して、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 入園前の個人面接で個々の健康状況を把握し、日々健康状態を確認している。健康に関する情報は園内に掲示している。乳幼児突然死症候群(SIDS)については、保護者会やお知らせの配付などで周知を図っている。乳児のうつぶせ寝はさせないことを全員が意識し、午睡時のチェックを徹底している。感染症発生時には、全職員、保護者へ速やかに情報を提供し注意喚起を行っている。また、保健だよりでは、季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。嘱託医には感染症や園児の健康に関する情報を共有し健康管理についてアドバイスをもらっている。	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づき対応をしている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当						
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づき対応をしている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当																	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目8の講評 保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 保護者の就労や個々の事情を考慮し、全職員で共有し園ができる範囲で必要な支援を行っている。送迎時には、連絡事項だけでなく日中の活動の様子をひと言でも伝えるように心がけ、開示日誌では活動の様子をわかりやすく記して子どもの姿を共有している。保護者会や個人面談では、家庭での姿を聞き取りながら、心配事や課題について一緒に考えている。保護者に寄り添い、日頃から声をかけ、連絡帳からも悩みや困りごとをキャッチできるように努め、相談事には当日答えたり、面談の日程を確保したりするなどできるだけ迅速な対応に努めている。 安心して子育てができるよう保護者同士の交流や職員との共通認識を深めている 保護者会では、年間の保育計画をもとに子どもの発達や園の保育についてわかりやすく説明し、保護者と共通認識を持てるようにしている。日常生活や遊びの様子を紹介し、子どもの成長や発達に共感できるよう、保育で大切にしているポイントなどを伝えている。各クラスで会の内容や持ち方を工夫して、保育者との交流だけでなく、保護者同士が懇談や交流をできる時間を設定している。テーマ選びはアンケート内容も参考にしている。懇談では、互いのコミュニケーションが深まるようにし、保護者の安心につながっている。 保護者が安心して子育てができるよう成長発達を伝え共通認識が得られるようにしている 保育参観や保育参加には、子どもの様子や成長を感じてもらったり、保育者との関わりを見てもらったりすることで、保護者の養育力の向上を支援する役割もある。職員が聞き取った各保護者の情報を全職員間で共有し、同一の配慮や対応ができるようにして、保護者との対話に努めている。保護者会不参加の方も情報を共有できるよう、個別に伝えるほか、クラスだよりも作成・配付している。引き続き、保護者の気持ちくみ取り、心配事や悩みを一緒に考えながら各家庭に寄り添った対応ができるようにしていく方針である。	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当																	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当																	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当	
評価項目9の講評			
地域との連携からの取り組みが子どもの経験を広げる機会となっている 地域幼保小連携ネットワークにより、近隣の小学校と連携し交流の機会があり、5歳児は就学への期待感を膨らませている。また、学童クラブとのつながりから、5歳児の保護者会で学童クラブの所長に話を聴く機会や、学童クラブの実際の過ごし方や子どもの様子について質問を文書でやり取りする等行い保護者の安心につながっている。近隣住民に散歩等で顔を合わせた時には自然に挨拶を交わし、園の職員以外の大人と触れ合いや、人との関わりの中で社会とつながりを感じ、子どもの生活の幅を広げることに結びついている。 園庭開放など、地域の子どもと一緒に遊んだり交流したりする機会を確保している 中核園事業に積極的に取り組み、地域とのつながりが広がっている。近隣の施設との交流や中核園の行事にも参加している。コロナ禍の落ち着いたによりできることが少しずつ増えてきたため、今後も活動を精査しながらより一層進めていきたいと考えている。また、学生の職場体験や実習生、東京都子育て支援員研修など、次世代を担う人材を育成すべく受け入れている。子どもと関わってもらう世代間交流では相互理解が深まり、在園児にとっても良い経験となっている。今後も、継続して地域との連携を深め、園ができることに取り組んでいく方針である。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもが主体的に関わりながら、やりたいことが実現できるよう必要な支援をしている	
内容①	保育者は子どもの思いに寄り添いながら、子どもの最善の利益を考慮してサポートしている。子どもの気持ちを尊重し「やりたい」という思いを実現できるよう日々の保育に取り組んでいる。子ども一人ひとりに真摯に向き合い、発想や気づきを展開させることができるよう、子どもの遊びや要求に合わせた環境づくりを行っている。そこから活動を積み重ね、皆でやり遂げる喜びを味わうことができるように援助し、園全体の取り組みへと展開させて楽しんでいる。子どもが主体的に集団活動に関わり、それぞれが輝けるような保育実践を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容②	保護者と共に子どもの成長を喜び、家庭と保育園の「共育」を目指し継続して取り組んでいる。入園時や年度初めの保護者会で園が大事にしている保育について伝え、クラスだよりや開示日誌、送迎時の対話等などでできるだけ活動の様子を具体的に知らせ、成長・発達に関する情報を積極的に発信している。支援が必要な家庭に対しては、多角的な視点を持ちながら様々な側面から丁寧にアプローチを行っている。保護者の思いを肯定的に受け止め、相談にはできる限り速やかに対応している。子どもが園生活を楽しむ姿を知らせ、安心・安全と信頼につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域との関わりが子どもの経験を豊かにし、職員の学びにもつながっている	
内容③	近隣園との交流、職員の交流会や研修など、中核園事業の取り組みが浸透し、職員一人ひとりが積極的に関わっている。園の専門性を活かして地域全体の保育の向上に貢献する意識を持って、顔の見える関係づくりに取り組んでいる。地域の保育施設との情報交換で、保育についての課題や悩みを共有し、子どもへの思いを新たにしている。また、園庭開放、身体測定、ふれあい保育などを通して、地域の子育て世帯を対象に支援事業を行っている。在園児との交流を積み重ねることにより、参加者である子どもの経験の幅の広がりにつなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの生活や遊びが豊かな経験となるよう考え、工夫しながら環境を整えている
	内容	子どもの発達に合わせ、より良い環境づくりに取り組んでいる。園庭環境を定期的に見直し、危険箇所や遊具等の点検・確認をしている。室内遊具や玩具は、質の良い物を選び提供している。全職員が室内外の環境設定の大切さを理解して、園児の成長に関わっている。子どもの興味や関心をキャッチしながら、園全体の保育環境の見直しを随時行っている。遊びの続きができるようにコーナーを設定し、手作り遊具の導入や絵本の入れ替えを行っている。子どもが「もっと遊びたい」と思えるよう、生活や遊びが豊かに展開できる環境を工夫して提供している。
2	タイトル	情報の管理、共有や適切な活用ができる職場環境づくりに職員全体で取り組んでいる
	内容	職員一人ひとりが、担当クラスや担当分野を超えて広い視野で職場内を見ている。それぞれ気付いたことを迅速に報告・連絡・相談している。園長、主査を含め向上リーダーも相談しやすい職場環境作りを意識して取り組んでいる。風通しの良い職員関係のもと、クラスを超えた横のつながりがあることにより、各々の取り組みや気付きや提案を互いに認め合い、改善してより良くなるようとする職場の風土につながっている。また、個々が発信したアイデアや情報を認め合い、検討して実現に結び付けられるよう皆で協力して取り組むことができている。
3	タイトル	職員間の円滑なチームワークが保育の質と組織力の向上につながっている
	内容	職員には同僚性があり、保育を語り合える風通しの良い雰囲気が職場全体にある。情報共有が早く、職種を超えた職員同士の協力体制もスムーズで、園全体で全クラスの子どもの成長を援助していくという意識が高い。普段から互いに言葉で交わし、気づきや声のかけ合いなどコミュニケーションを取り合い、共同作業などを通じて役割分担を明確にして職員のチームワークがより強まり、業務を効率的に進めることができている。一人ひとりの人間力の高まりが保育の質の向上につながり、保育の厳しい状況でも気持ち良く協力して助け合うことができている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの遊びが豊かに展開される全ての環境の再考と改善に園全体で取り組んでいく
	内容	子どもの遊びが豊かに展開されるためには、子どもからの発信を大切に、子どもの姿や背景・成長・発達を職員間で理解することが必要となる。現在も、子どもの最善の利益を考え、全職員が職種を超えて協力し合い取り組んでいる。そして、子どもを取り巻く人、もの、行事や活動、室内や園庭等、全ての環境を再考し、より良いものとなるように整え、安全を確保していきたいと考えている。今後も、保育の質の向上を目指して各職員が課題意識を明確にした上で、環境の改善や充実に向けて、園全体で実践と検証を積み重ねていくことを課題としている。
2	タイトル	専門性を高める学びを通じて知識と技能の共有と向上を目指していく
	内容	職員一人ひとりの得意なことを活かし、また園内や外部の研修での学びを継続し、知識を共有し、知識と技能の向上を図りたいと考えている。障害児保育指定園として、これまでも子どもの状況に合わせた支援を全職員で実践してきた。障害の有無に関わらず一緒に過ごすことで、子どもは互いの違いを認め合い、社会性や共感力を育くんできた。今後も、多様性を受け入れ、全ての子どもに公平な機会を提供するため、職員は専門性を高める学びを継続し、環境構成や援助の方法など、子どもに寄り添う支援に園全体で取り組んでいくことを課題としている。
3	タイトル	地域のニーズに基づき、園としてできることを考え、地域貢献に取り組む
	内容	職員は、中核園事業の取り組みや近隣園との交流に意識を持ち取り組んでいる。ふれあい保育も再開し、自園でできる地域の子へ支援活動を積極的に進めている。地域における保育の専門機関として近隣の他施設のニーズ等を上手く組み合わせ、職員の専門性や、これまで培ってきた園の機能を活かした支援を行う点では、さらに工夫できる余地があると考えている。地域の中核園と協力して区の保育の質の向上に向け、地域保育施設へ保育の還元等、子どもや職員と一緒に園ができる地域交流のあり方について考え、地域貢献を実践していくことを課題としている。

8. 今川保育園

今
川

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社 にほんの福祉ネット

認証評価機関番号 機構 06 - 168
電話番号 03-6379-5156
代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①			経営	H0802010
	②			福祉、経営	H2301066
	③			福祉	H2201084
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	今川保育園				
事業所連絡先	〒	167-0035			
	所在地	東京都杉並区今川3丁目3番18号			
	Tel	03-3394-2831			
事業所代表者氏名	西大條 秀美				
契約日	2024 年 6 月 19 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 8 月 5 日				
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 26 日				
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 5 日				
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 26 日				
訪問調査日	2024 年 10 月 3 日				
評価合議日	2025 年 1 月 14 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名 西大條 秀美 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 保育理念のもと、全職員が同じ目的を持ち、実践していくこと。 2) 子どもたちが心身共に健康で自分らしさを発揮できるよう、一人ひとりの発達に合った援助をしていくこと。 3) それぞれの家庭や保護者の状況、背景に配慮した支援を行い、「共育」をすすめていくこと。 4) 職員一人ひとりが健全で自己発揮できる環境の推進、維持に努めること。 5) 子ども、保護者、職員一人ひとりが安心安全に過ごせる環境の充実を図っていくこと。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・自分の保育観を持ち、保育のプロとして、専門性を追求し、より良い保育を目指して自己研鑽していくこと。 ・保育の仕事にやりがいを感じ、保育を楽しみ、子どもたちのために日々の保育を向上させていくこと。 ・子どもたちのために、互いに協力、連携し保育を行うこと。 ・子どもや保護者の気持ちに寄り添い、相手の立場に立って保育をしていくこと。 ・どのようなことにもすべて意味があると考え、主語は誰なのかをはき違えない保育をしていくこと。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子ども、保護者、仲間を尊重し、心から保育を楽しみ、保護者や仲間と共に、子どもの成長を共感し合える職員。 ・ともに働く仲間に敬意を持ち、感謝の心やお互い様の気持ちを持ち続けあえる職員。 ・この仕事を心から楽しいと感じ、やりがいを持ち、楽しいを探究する心を持ち続ける職員。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

88

利用者家族総数(世帯)

76

共通評価項目による調査対象者数

76

共通評価項目による調査の有効回答者数

51

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

67.1

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」 78%、「まあまあ満足」 22%、計100%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	50	1	0	0
回答者の98%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	48	1	0	2
回答者の94%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	50	0	0	1
回答者の98%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	42	7	0	2
回答者の82%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	37	4	0	10
回答者の73%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	46	4	0	1
回答者の90%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	33	10	0	8
回答者の65%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	48	1	0	2
回答者の94%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	48	2	0	1
回答者の94%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	48	2	0	1
回答者の94%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	49	1	0	1
回答者の96%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	37	7	1	6
回答者の73%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	48	1	0	2
回答者の94%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	40	2	0	9
回答者の78%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	42	7	0	2
回答者の82%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	4	0	10
回答者の73%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	26	12	7	6
回答者の51%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	園が目指していることを明確に示し、保護者や職員に周知を図っている 区立の保育施設として、児童福祉法や関連法令を事業の根拠とし、区の基本理念やビジョンなどを運営や保育の根底に据えている。年度初めには保育目標を達成する大枠となる全体的な計画を通して児童憲章、園の保育理念・保育方針・保育目標を皆で確認している。これらを園内の各所に掲示することで職員の意識化や保護者への周知を図り、基本に立ち返る働きかけを行っている。また、係の目標申告を作成し職員に周知し、一年間の目標を明確に認識している。保護者に対しては、入園前の面接、年度当初の保護者会や園だより、クラスだよりでも説明している。 職員と共に取り組む中で方向性を提示し園運営の役割と責任を果たしている 年度当初の職員会議の場で、経営層の年間目標を職員に伝えている。組織目標から係の目標シートを作成し、これに基づき園長自身も具体的な年間計画を作成し、自らの役割と責任を職員に伝え要所においてリーダーシップを発揮し、園運営をリードしている。園長・主査・向上リーダーが、保育の質の向上を図る中心となり、大切にしたい保育の実現のために方向性を共有している。園運営に関わる変更、改善事項などが生じた際には、園だよりや保護者会などで園長より速やかに保護者に説明している。また個々の意見については個別に丁寧に対応している。 確立した手順に沿って、検討・決定・周知・実行を着実にやっている 重要な案件については、事前にその経緯を説明し、資料の提示や周知をしている。職員一人ひとりが熟考し、自分の意見を反映できるようクラス単位での話し合いを重視している。それを全体で共有し、決定する過程を大事にしている。誰もが意見を出しやすい環境づくりを心がけ、職員の意見をできるだけ吸い上げ、トップダウンにならようにしている。連絡事項は、昼ミーティングで共有し可能な限り迅速な周知を徹底している。会計年度任用職員に対しては、掲示や個別に声をかけるなどで、必要な情報をタイムリーに共有できるよう努めている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 様々な機会を捉えて収集した情報を検討・活用して園運営に活かしている 保護者からは、保護者会や個人面談で園への要望など直接話を聞く機会を設けている。また、登降園時のやり取りや連絡帳等から、日々保護者の思いを収集して要望・希望の把握に努め、対応に役立てている。職員は会計年度任用職員も含め、個人の目標申告シートなどをもとに園長とのヒアリングを行っている。個別に話を傾聴し、個人の意見を聴いて意向を把握している。会議等の打ち合わせでは、活発な意見交換により、園運営の課題解決につなげている。改善点については、係の目標シートや個人の目標申告シートに反映させ進捗を確認している。 地域の福祉の現状について情報収集やニーズを把握し関係各所との関係を深めている 区や保育課の方針を受け、様々な事業を展開している。福祉事業や区の施策に関する情報の現状や動向については、区立園長会、庁内メール、区内広報などで随時確認している。収集した地域ニーズ等の情報は回覧やミーティングで、できるだけ速やかに職員に周知している。中核園事業に参画し、近隣施設と連携しながら保育の向上を目指している。また、地域懇談会、地域ネットワーク事業への参加を通じて、地域福祉の現状についての情報を把握している。引き続き、情報交換や連絡など近隣の関係機関と顔の見える付き合いを継続して関係を深めたい。 目標の達成に向けた意見交換を行い計画の実行に取り組んでいる 区の中長期計画、課の組織目標を受け、係の目標申告を作成している。杉並区立保育園保育実践方針等をもとに全体的な計画を作成し、年度末反省をもとに職員と共に係の目標シートを作成して園内の取り組みを明確にし、園の指標として取り組んでいる。目標シートの各項目に取り組み内容を記載することで、達成度合いを図る目安となっている。園運営については、各プロジェクトを中心にして計画内容のさらなる充実を図っている。議題を事前に集約し検討して会議に臨むなど、限られた時間を最大限効果的に使い目標達成に向けた実践に取り組んでいる。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

	カテゴリー3の講評
	社会人として適切な行動ができるよう取り組み、組織としての責務を果たしている 社会人としてまた福祉サービスに従事する者として、守るべき事項を全体に周知するため保育課からの資料を活用して学ぶ機会を設け、園長会の情報、公務員倫理や規範について繰り返し伝え、意識の向上に努めている。年度当初には、会計年度任用職員にも資料を提供したり、声をかけたりして子どもに対する行動や言葉の選択など、適切な保育や守秘義務について確認し共有している。虐待が疑われるような情報をつかんだ際は、速やかに園長に報告し、必要に応じ関係機関と連携を取り、迅速に対応できる情報共有の体制を備えている。 地域へ向けて園の取り組みを開示し様々な意向を把握して対応できる体制を備えている 苦情・要望などの相談窓口について「重要なお知らせ」に記載し、入園説明会で園の概要と共に保護者に説明し、相談の仕組みについて案内している。園長は、利用者の意向に対して苦情受付・解決責任者として、いつでも相談対応できる体制を備えている。担任・主査・栄養士・看護師など相談を受けた職員は必ず園長に報告し、ミーティングや会議などで情報を共有している。また、次世代育成につながる実習生や体験学習、子育て支援の研修など積極的に受け入れ、園庭開放など自園の子育て支援の取り組みや日々の活動など園の情報も開示している。 様々なネットワークに参画し地域の一員として園の役割を果たしている 地域や保育施設に園庭を開放している。児童館での子育て支援行事に保育士や看護師を派遣している。中核園事業では、担当年齢別の担任や看護師や栄養士など職員が交流や研修を行い、保育園の持つ専門分野の知識を活かし地域への還元ができるよう努め、園児の交流にも取り組んでいる。地域の子育て世帯や近隣の小規模保育施設などに参加を促し、子育てサポートセンターと共に地域のニーズに対し、園ができることに取り組んでいる。保育相談も随時行っている。近隣小学校との連携による行事や地域ネットワーク会議などへ参加し、職員の意識も高まっている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
想定される様々なリスクについて、マニュアルを定め訓練を実施している 杉並区として業務継続計画を策定しており、職員にも周知している。リスクに対する対策を、常に話し合い、具体的な行動については職員間で共有し判断している。災害などに備え危機管理マニュアル、園マニュアルをもとに事故、感染症、災害、情報セキュリティ、防犯対策などの対応を確認して役割分担をし、リスク管理をしている。年間避難訓練計画を定め、地震や火災、併設施設との協力など様々な事態を想定して、非常時に備えた訓練を実施している。その時その場の状況に応じ、臨機応変に対応できるようにして、訓練後は反省と課題の抽出を行っている。 リスクに対して危機意識を持ち必要な対策を取り、危険回避と再発防止に努めている 保護者には、リスクに対する対策について新入園児説明会や各クラス保護者会、園だよりで伝え、「災害時子ども安全連絡網」の登録についても説明している。入園の際には、「大地震発生！保育園はどうなるの？」を配付して災害時の園の対応を知らせている。感染症発生の際は、速やかに全体へ周知し、緊急時の対応についても園のしおりや重要なお知らせで詳しく説明している。また、ヒヤリハットを含めた怪我(事故)などは適切に記録し、原因の分析、振り返り、対応策を検討し、職員全体で情報を共有して再発防止や深刻な事故の防止に取り組んでいる。 情報管理を適切に行い必要な時に必要な情報を活用できるようにしている 情報セキュリティマネジメントにより情報セキュリティ基本方針、情報セキュリティ対策基準によりアクセス権等の設定をしている。保育課内については、情報セキュリティマネジメントにより情報の管理を行っている。園では杉並区の「情報セキュリティ基本方針」に基づき個人情報保護に努め個人情報は施錠管理し、持ち出しと返却時には持ち出し管理簿に毎回記入している。画像保存機器類の持ち出しと返却は、職員のダブルチェックを徹底している。管理方法は職員全体で周知徹底し、最終確認者は機器類の数の確認を行い、戸締りチェック表に記入している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	目指す職員像の実現のため、長期的な展望で人材の確保や育成に取り組んでいる 杉並区の人事課、保育課ならびに保育園と連携を取りながら人材確保を行っている。採用後には、OJTによる配置園での計画的な指導のほか専門性を学び、個々の能力を活かせるように区の人材育成方針、職員人材育成事業実施計画に基づいた研修を実施し育成に努めている。職員一人ひとりの適性を把握しながら育成を図り、専門的な知識を高めながらスキルとキャリアを積み上げている。職員自身が具体的に自分の職責や果たすべき役割への筋道を見据え、個人と組織の目標達成に向けて意識して取り組む意欲につながるように周知している。 一人ひとりの職員の意欲向上を支援した育成に取り組んでいる 人事課人材育成担当による職層研修でライフプランや業務改善計画の立案を行い、中・長期を見据えた人材育成計画を策定している。区の目標申告シートを活用してヒアリングを行い、職員の状況を把握しながら計画的な育成を行っている。職層研修、会計年度任用職員研修、実務研修など勤務形態に関わらずキャリアに合わせた研修を実施している。新任職員には、長期的人材育成計画に基づく育成を行っている。育成担当者には、担当者研修や会議など適切な指導を行うための支援の仕組みがある。園全体で支援・育成する方針・姿勢を明確にして取り組んでいる。 保育の質の向上を目指す取り組みが組織力の向上につながっている 職員一人ひとりが報・連・相・確認を意識し、情報や意見の伝達が漏れないよう意識改革をしている。園長、各主査を含め向上リーダーも相談しやすい職場環境づくりを意識している。係の目標については中間で見直しを行い、日々の課題については時間をかけても解決に向かうよう話し合いを重ねている。活動の振り返りや気づきが保育の質の向上につながるよう、取り組みを進めている。目的を持った話し合いが、互いの理解と信頼を深め、職員一人ひとりの特性や特技を活かした保育につながり、モチベーションの向上と、より良い保育実践に活かされている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 園内環境の整備を目指して、様々な取り組みを行った。壊れた玩具の修理や処分を定期的に行うとともに、子どもの姿に合わせて必要なものを準備し、固定遊具には安全対策カバーをつけ、収納の見直しを行った。また、玩具の数や種類を増やしたことにより、子どもの発想や創造性が広がり、遊びが充実した。ポプラ室(特別室)については、玩具の入れ替え、床の転倒保護マットの敷き詰め、環境整理などを行った。これにより、遊べる環境が整い、乳児が落ち着いて過ごせる場となった。視覚的な環境づくりとしては、当番表や宣言ボードを取り入れることで、子どもが自分たちでボードを見ながら意欲をもって生活を楽しめるようになった。そのほか、室内の安全点検を各クラスで毎月実施した。これにより、リスクの芽を摘むだけでなく、職員の危機管理意識も高まっている。今後も、安全な保育環境を維持しつつ、その中で遊びが豊かに展開されていくように取り組んでいく方針である。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 整理された環境＝秩序だった環境にしていくことは、子どもにとって使いやすく、動きやすく、また遊びやすい場の実現につながる。また、「安全な保育環境の実現」を目指す取り組みは、実際に危険を予防するだけでなく、それに携わる職員の意識の向上にもつながるという意味で、育成にもなっている。環境を切り口として、保育内容の充実と職員の育成をともに図る取り組みといえる。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員間で語り合う機会を持つことに課題意識を持ち、互いのことを知り、様々な保育観に触れる中で、自分なりの考えに自信を持って発信や、実践をしながら保育力を高めていくことを目指して、様々な取り組みを行った。7月から2月にかけて毎月座談会の時間を設け、保育とは離れた自由なテーマで懇談を行った。これにより、相互の人となりなどの理解が進んだ。また、毎月1回、各クラスでの振り返りの時間を設けた。さらに、月1回、保育の振り返り記録を書き、自由に閲覧できるようにするとともに、年4回の職員会議の中で振り返り討議の時間を設けた。こうした取り組みを通して、自分の考え方や取り組んだことについて語る力が身についてきた。今後も、組織内での相互理解やコミュニケーションを深め、より良い保育実践につなげていく方針である。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

相互理解や語り合いを進めることを通して、職員間のつながりや相互フォローの関係も強まっている。また、「自分の考え方や取り組んだことについて語る力」が身についてきたことは、職員間のコミュニケーションをより一層実のあるものにし、職員にも自信や「根拠に基づく思考や実践」をもたらすものである。より良い保育実践を支える職員間の共通認識やチームワークの向上にもつながる取り組みである。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページや冊子などで園の情報をわかりやすく提供している 区のホームページ「保幼(ぼよ)ナビ」や区の公式アプリケーション「すぎぼよ(保幼)」や保育施設ガイドなどで園の情報を発信している。ホームページには園の住所や電話番号、対象年齢、定員、保育時間、保育目標など記載されている。地図も掲載して、駅から園へのアクセスルートや周辺情報のイメージがしやすいものとなっている。掲載している画像は、室内や園庭での遊びの様子、園舎や園庭など環境がわかる場面を載せて園の特徴が伝わりやすいものになっている。地域の子育て世帯に向けたサービスも掲載し、問い合わせ連絡先を明記している。 行政や関係機関と連携を取りながら情報の提供に努めている 保育課には、中核園事業、子育て支援事業の取り組みや感染症の状況、関係機関との連携や交流実施などについての報告や、必要なやり取りを常に行い、園の現況を発信して共有に努めている。園長は、園長会で定期的に行政から情報提供を受け、課題の検討や共有を行っている。小学校区域の小学校、児童館、保健センター、民生委員など公的施設関係者が集まる地域ネットワークも開催され、情報交換している。行政連絡会など、関係機関との連携、近隣小学校との交流や併設施設との協力のもと情報提供を行っている。 問い合わせや見学の要望には、個別の状況に応じ園としてできる限り対応している 園内見学は、日にちを設定し年12回実施している。日程調整が必要な場合は、できる範囲で個別に変更に応じるなど柔軟に対応している。当日は30～40分ほど園内を案内しながら概要を伝えている。園内環境や子どもの様子を見てもらいながら、園として取り組んでいること、大切にしている点などを丁寧に伝え、見学者からの質問にも答える時間を設け、理解を図っている。また、園庭開放、育児相談などの支援事業についても案内している。ふれあい保育にも気軽に参加できるよう紹介している。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
個別面接と説明会を行い、入園後の園生活に安心できるようにしている 新入園児には、入園前に面接と説明会を行っている。身体測定や嘱託医による健康診断を実施し、個別面接では子育ての意向などを聞いている。入園までの生活状況や健康状態、食事の状態など保育に必要な子どもに関する情報を把握して記録している。園のしおりと重要なお知らせを配付して、基本的なルールや緊急時の対応、重要事項について説明し、同意確認書にて同意を得ている。乳児の食事の状況や食物アレルギーについては栄養士も確認している。健康上の問題など対応が必要な場合は特に丁寧に聞き取りを行っている。 子どもの様子を見ながら、無理なく新しい環境へ適応できるように支援している 入園時に提出された家庭連絡票や入園までの生活状況、健康調査票、食事調査などの書類は支援に役立てる基礎資料としている。園長は、家庭連絡票をもとに保護者の就労状況や意向を相談している。入園当初は、短時間の保育から始める慣れ保育を行っている。子どもの状況や必要な情報を共有し、保護者との相談により、無理なく予定の保育時間まで延ばしている。また、保護者から家庭での保育の状況や子どもが落ち着く対応や好きな遊びなどを職員に伝えてもらうことで保護者と子どもの不安を軽減し、園の環境に早く慣れ安心して過ごせるよう配慮している。 支援の継続性に配慮した支援や関わりを大切にしている 転園や退園する際には、保護者や子どもの不安を軽減できるように次の生活へ向け声をかけ、いつでも相談できることを伝えている。連携している小学校から提供される情報などは随時保護者に伝え、小学校や学童クラブ等とのつながりにも配慮している。必要に応じて保護者の承諾の上、スムーズな移行を支援するために、子どもの情報の提供ができるよう体制を備えている。就学に向けて、子どもの姿を個人面談で保護者と共有し、就学前に保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校へ提出し、育ちの連続性を保障している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
保育に必要な情報を収集し適切に記録して共有している 入園時には健康診断を実施して健康状態を把握し、個別面接時に家庭連絡票や児童健康調査票から入園までの生活状況と家族構成や出生・成育歴、予防接種歴、発育状況、食事、排泄、睡眠、好きな遊びなど保育に必要な子どもの心身や生活の状況を把握し記録している。入園後の子どもの様子は、保育日誌や保健日誌、児童票に記載している。連絡帳や登降園時に聞き取った日々の体調や連絡事項は、朝夕名簿に記載し、必要に応じてミーティングで伝達し園日誌に記載して全職員で共有している。 「全体的な計画」に基づき、各指導計画を作成し保護者との共有に努めている 園では、全体的な計画に基づき、年齢別に年間指導計画、月間指導計画を作成している。年間指導計画は養護・教育の領域を考慮し、週案では具体的な活動を計画して保護者にも知らせている。乳児クラスおよび特別な配慮が必要な子どもについては個別に指導計画を作成している。各指導計画は、毎月子どもの姿について振り返りクラスや園全体で意見を交わし、毎月指導計画は2日間検討会を設け、各クラスの現状と課題を確認し共有している。子どもの成長の過程は、指導計画、個人記録のほか、各年齢ごとに定められた期間に児童票に記載している。 子どもの状況など職員間での共有に努め、保護者にもわかりやすく伝えている 年度初めの保護者会では、園の全体的な計画や年間指導計画など資料を配付し、各年齢の発達や保育についてわかりやすく説明している。日々起こる子どもや保護者の情報を全職員に伝え、漏れなく共有できるよう、園日誌や体制ボード等の見直しを行った。少しでも改善の必要があれば、園長、各主査、向上リーダーが主体となり実行に移している。職員も柔軟な姿勢で前向きに受け止めている。子どもの様子、体調など連絡や引継ぎ事項は、朝夕名簿に記入し、クラス間で共有している。全体に関わる事項はミーティングや定例会議で都度全体に周知している。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて保護者に説明して同意を得ている 保育課の規定のもと、情報提供について保護者の同意を得ている。入園時に園生活に必要な様々な決まり事を伝え、個人情報の取り扱いや保護については、園のしおりなどにも詳しく記載して説明している。療育などの関係で外部から依頼があった場合には、改めて保護者の意思を確認して対応している。個人情報保護について職員の意識を高め、その取り扱いには十分留意して保育が提供できるようにしている。また、個人情報の取り扱いを含め、保護者に周知する内容量が多いため、入園後も必要に応じて丁寧に説明するなど誠意を持った対応に努めている。 子どものプライバシーを保護し子どもの羞恥心に配慮した環境整備を行っている 子どものプライバシー保護については職員間で共有しており、適切な対応を行っている。身体測定や着替えの際は、カーテンで他からの視線を遮断し、水遊びやシャワー時の着替えはラップタオルを用意してもらい使い方や着替え方を指導している。おねしょやおもらしの時には、他児の前で声をかけたりせず個別に対応するなど、場面や年齢に応じ、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。また、看護師から健康教育でプライベートゾーンや健康を維持するための様々な話を聞き、子ども自身が自分を大事にして守ることを意識できるよう支援している。 子どもの権利を守り、一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っている 子ども一人ひとりを尊重した保育を行っている。職員は、虐待防止や育児困難家庭への支援や子どもの権利を守る課題について区関係機関が実施する研修への参加している。職員は、「児童虐待対応マニュアル」に則った対応をしている。折に触れて園長から、定例会議やミーティングで、職員自らの言動が虐待にあたることはないかを振り返る注意喚起を行っている。保護者の様々な価値観や文化、要望などに配慮しながら必要な支援を行い、子どもを取り巻く環境を支えている。誠実な対応ができるように学びを共有し、倫理意識を高め全職員が理解を深めている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
園マニュアルが備えられ、必要なことがいつでも確認できるようにしている 手引き書として区立保育園マニュアル、危機管理マニュアル、杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きなどを備えている。保育理念・目標、保育方針、役割分担など各事項をまとめた園独自のマニュアルを作成し、年度末には全職員で見直しを行っている。杉並区立保育園保育実践方針、保育実践の手引きは個人配付している。業務でわからないことがあれば各自すぐに確認ができるよう、わかりやすい所定の場所に備え活用している。緊急時に必要な事項を抜粋して事務室に掲示するなど、誰でも確認できるように備えている。 各マニュアルや業務の基本事項は見直しの基準が定められ職員が共有している 園マニュアルは年度末に反省を行い、項目ごと確認して見直しをして、職員の合議のもと、子どもや保護者の現況に照らし合わせて保育に活かせるように更新している。体制や人員配置、子どもの遊びの様子の変化、仕事の手順を変更した時など、必要な見直しは時期を待たずに都度打ち合わせを行い改定し、職員間で認識にばらつきが生じないように注意している。特に保育に関わる内容については、会計年度任用職員にも必要な内容を周知している。決定事項は園日誌や会議録に記載し、必ず確認して誰に尋ねても同じ説明ができるようにしている。 サービスの提供について職員間で統一した対応を行えるよう取り組んでいる 子どもの様子を反映した保育を実行できるよう指導計画を立て、環境の改善を図っている。保護者から寄せられた意見や要望を真摯に受け止め、都度検討し対応している。職員は、わからないことや互いに気づいたことをそのままにせず発信し、必ず全体で確認し、統一してから進むようにしている。また、緊急時の対応について、安全計画をもとに基本的な行動を共有して訓練などを実施している。日常の保育の中で突発的に起きた事象に対し、一人ひとりの職員が自分事として考え、マニュアルを踏まえ臨機応変に対応ができる判断力を磨くことを目指している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
子どもが主体的に関わり遊び、継続して楽しめるような環境づくりに配慮している 年齢や発達に合わせて玩具や素材などを用意し、安全面への配慮しながら子どもが主体的に興味を持って「自分で考えて行動できる」環境を整えている。子どもが手に取り使いやすいように遊具を配置し、子どもの意欲を尊重し、自分で選択できるようにしている。子どもの興味や関心をキャッチしながら環境を変えたり、飼育物、栽培物を身近に感じられるような環境を設定している。会議での保育の振り返りを通して、子どもへの働きかけを共有し、翌日も遊びの続きをできるようにする工夫など、職員全員で取り組んでいる。 配慮を要する子どもに対し、職員が共通認識を持ち必要な対応ができるようにしている 特別な配慮を要する子どもに寄り添い、一人ひとりを尊重し、必要に応じた人員を配置して保育を行っている。巡回相談や巡回指導で、園生活に必要な個別配慮や環境についての考え方、実際の対応などについて助言を受け、保育に活かしている。職員は、それぞれの違いを認め合うことを日々の保育の中で意識できるよう働きかけ、仲間として一緒に過ごしなが、共に成長できるような環境を整え援助している。全職員が子どもの最善の利益を考え、子どもの特性や個性を理解して共通認識を持ち、必要な対応ができるように取り組んでいる。 子どもの気持ちを尊重した対応を考え、より良い援助ができるよう努めている トラブルの際は、まず職員は互いの子どもの気持ちや思いをじっくり聴いている。そこから、子どもが自分の思いを伝え、相手の思いを聞き、互いを認め合う力や気持ちが育つように援助している。子どもの話にしっかり向き合い、場合によっては子どもの気持ちを尊重し、子ども同士で解決策を探れるよう声をかけ、安全に十分配慮しながら見届けている。子どもの行動には必ず意味があることを保護者に伝え、怪我などにつながった場合は謝罪をし、その時の子どもの気持ちや心の動きについて、保護者の視点に立ち状況を説明するよう努めている。			

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
基本的な生活習慣の確立の大切さを保護者に知らせ理解を得るように努めている 朝の登園時には挨拶を交わし、視診を行い、体調や機嫌などについて保護者に聞き取りをし、朝夕名簿に記載している。乳児クラスは連絡帳を活用し、幼児クラスは口頭で子どもの様子などを聴き取り、連絡や引継ぎ事項を確かめ、確実に伝えている。園では、指導計画に基づき基本的な生活習慣の確立に向け、子ども一人ひとりの身体機能の成長・発達に合わせた援助を行っている。家庭と連携して同じ対応ができるように保護者会や保健だより、クラスだよりや日頃のコミュニケーションの中で共有し、生活習慣の大切さをわかりやすく知らせている。 子どもの年齢や状況に合わせて、必要な休息が取れるようにしている 長時間保育で過ごす子どもの生活に必要な休息時間を保障できる環境を整えた上で、午睡時間は個々の状況に配慮している。乳児はまだ生活リズムが定まっていないため、連絡帳や保護者の伝言を参考にして、午前寝や午後寝など時間を配慮し個別に対応している。なかなか寝付けなない場合には、少し横になり体を休ませて休息を取るなど、体調に合わせて対応し、遊びや生活など、安全で健康に過ごせるように配慮している。年長児は、クラスの状況や個々の子どもの様子に応じて配慮しながら、就学前に少しずつ午睡時間を減らしていくようにしている。 降園時にはその日の保育の様子やエピソードなどを保護者に伝えている 保護者へ伝える必要があることについては、時差が生まれないようにその日のうちに状況説明をするなど対応している。降園時にはできるだけ子どもの様子をひと言でも口頭で伝えるよう心がけている。担任が対応できない時間の送迎の保護者に対しては、朝夕名簿を活用して当番保育者に詳細を伝え、体調面、怪我など細かく伝え、伝言漏れのないようにしている。また、担任から電話連絡を入れて直接伝えるなど対応している。経緯や状況を担任が直接伝える必要がある場合は、担任や園長が対応するようにしている。		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評			
子どもが遊び込める時間と空間の保障に取り組んでいる 室内にはコーナー設定し、人数に合った空間を設置し、個々がじっくり遊べる環境を心がけている。使いたいものをすぐに手に取って遊べるようにレイアウトを工夫し、遊びのバリエーションが自然に広がるようにしている。また、子ども自身が自発的に遊びを見つけて展開できるような遊具を用意し、十分な遊び時間を確保するようにしている。個々の子どもの気持ちに寄り添いながら、無理をせず少しずつやりたい気持ちを持てるようにしている。子どもの気づきや興味、関心を日々の遊びにつなげていく視点や援助の仕方を意識して保育を展開している。 園庭や室内の環境整備と遊具の充実が子どもの活動を広げている 子どもの興味・関心が広がるような室内外の環境や遊具を整えている。自由に表現したり製作ができるような素材や、ごっこ遊びに使えそうな材料を準備して、子どもが楽しめる環境を作っている。ホールではリズム遊びや運動遊びで体を動かし表現遊びをしたり、園庭では鉄棒やすべり台のほか、タイヤやマルチパーツなどの可動遊具を組み合わせ、子どもの「やりたい」が体験できるようにしている。自然な形で無理なく集団の活動に関われるように、日頃の遊びの中で、色々な経験ができるよう個々に応じた選択肢を広げている。 日常の生活や遊びを通して様々なことを感じ、豊かな経験ができるようにしている 裏庭ではサツマイモやトモロコシ、プランターで季節の野菜を育て、調理してもらったりしている。裏の畑では、周囲の自然を活かし身近に虫に触れられる環境を作っている。散歩先も季節を感じられる目的地を選ぶなど、年齢に合わせた取り組みを行っている。また、日々の生活の中で、しても良いこと、良くないこと、守ることや必要なことを伝え、その大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育めるように働きかけている。気持ちの切り替えが難しい時には落ち着くまで寄り添い、安心して関われるように見守り、思いに応えるよう援助している。			
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評			
行事は楽しく取り組める内容となるよう子どものアイデアを取り入れ工夫している 子どもの興味・関心や遊びの中の発見などを行事に結び付け、主体的に取り組めるよう援助している。子どもの姿や発達をとらえて、子どもと話し合ったり、アイデアを出し合ったり、子どもの声が行事につながるような働きかけをしている。そのことが、自分たちがしたい事を考える良いきっかけとなり、意欲を高め、楽しい気持ちで行事に取り組む姿勢につながっている。年齢やクラスの状況に合わせ検討し、様々な工夫をしている。子どもの発想や思いをもとに保育者と一緒に考え、楽しみながら行事を作り上げるプロセスを大事にしている。 みんなでやり遂げる楽しさや喜びを味わえるように取り組んでいる 行事は、日頃の保育で楽しんでいることをもとに、経験させたいことを職員間で確認しながら取り組んでいる。前年度の評価・反省や保護者からの意見などを反映させ、係担当者を中心に話し合いを重ね、より良い取り組みとなるよう会議で意見交換を行いながら進めている。なつまつりや運動会では、イメージを共有して表現を楽しみ、皆で力を合わせひとつのものを作りあげる経験をしている。担任や担当者中心に、子どもの「やりたい」を実現できるよう知恵を出し工夫している。自分たちでやり遂げたことで達成感も高く、園全体への活動にもつながっている。 行事の様子は、保護者にも伝えて取り組み全体を共有し理解を得ている 行事については、年度初めの保護者会で年間の行事の取り組みの予定について説明し、ねらいや見通しを伝えて理解や協力を得るようにしている。行事に向けた取り組みや準備過程等は、園だよりや日々の開示日誌のほか、視覚でも伝わるよう全体の様子を写真で掲示板に掲示して発信している。保護者が他クラスの様子などに関心を持つことで、子どもの成長・発達に見通しや楽しみを持てるようにして育児支援につなげている。また、園では節分、七夕など日本の伝統文化の継承や子どもの成長につながる季節の行事も大切に考え取り組んでいる。			

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて好きな遊びを楽しめるように配慮している 乳児クラスは、なるべく少人数で過ごせるよう特別室を使用するなど、日中の活動や環境にも工夫して、保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるようにしている。朝夕保育時は、ゆったり過ごせる環境を設定し、適宜玩具の入れ替えを行い、体を休めるように横になれるようなスペースを設けるなど配慮している。朝夕の保育時間の職員配置も連携を取りながら柔軟に対応し、子どもが安心して過ごせるようにしている。個別配慮が必要な子どもの情報について職員間で共有し、個々の子どもに合わせた遊びの提供や対応ができるようにしている。 保育体制を整え子どもが落ち着いて過ごせるようにしている クラス保育からの移動や合流など、保育形態の変化については無理のないよう配慮している。それぞれ合流の時間は、子どもの年齢、人数や状況に合わせて年度ごとに確認し、体制を決めている。年度途中であっても状況の変化に合わせて随時確認して検討している。子どもにとって負担が少なく、ゆったり過ごせるように考え、全ての子どもが落ち着いてくつろげるよう環境を考えている。また、保育補助を担当する会計年度任用職員の仕事内容と動きも共有して、急な対応が必要な場合も声をかけ合い、全職員が協力できるような体制を備えている。 朝夕の保育は異年齢児がゆったり関わり自然な形で子ども同士の良い関係ができています 限られた空間・環境の中で、子どもが安心して楽しく過ごせるよう、おもちゃや棚の設定、遊び方の工夫をしている。入れ替えや見直しも随時行っている。今後は環境の係を中心に計画的に行うようにしていく方針である。日々同じような顔ぶれで朝夕の時間を過ごしている子ども同士が、日中の保育の中でも自然な形で触れ合う姿が見られる。保育時間の長い子どもは、自然な形で異年齢児保育を体験し、日中も互いの存在を気にかけて、挨拶をしたり声をかけたり、姿を見つければ嬉しそう表情を交わしたりするなど、兄弟姉妹のようなつながりができている。			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当
評価項目6の講評			
落ち着いた食事環境の中子どもが楽しく食べられるよう工夫している 給食は、食事を「楽しむこと」を大きなねらいとし、行事食や5歳児の誕生日プレートなども取り入れ、一人ひとりが無理なく楽しく食べられるようにしている。栄養バランスを考え、季節の食材を取り入れた区の統一献立を使用して自園で調理し提供している。子どもの成長や嗜好に配慮し、必要に応じて食形態の進捗を確認し、子どもの発達に合わせた形態の食事を提供している。食事量は、子どもの様子や意欲を見ながら決めている。特に乳児期は味覚が過敏であるため、家庭と給食との形態に差がないように注意して、保護者と連携しながら進めている。 アレルギーや体調に応じた食事については誤食のないよう細心の注意を払い提供している アレルギー児はアレルギー疾患生活管理指導表、文化の違いなどにより食事提供の対応が必要な場合は、食物除去申込書を保護者から提出してもらい、マニュアルに則り、除去または代替食で対応している。前月に保護者と献立表および成分表のチェック項目を確認し食材も確認している。アレルギー児などの給食は、前日に全体のミーティングで除去食について確認し、個別トレーで用意し提供直前に担任と調理職員で原因食材の除去食または代替食を目視し口頭での確認をしてから配膳している。必要な手順や対応については、全職員が共通理解して対応している。 野菜の栽培や食育の取り組みを通じ食への興味関心を深めている 栄養士による食育を行い、食に関心が持てるよう工夫し取り組んでいる。収穫したものを調理してもらい食べる経験をするなど、実際に味わう感動を実感している。収穫した野菜の色や形、味などの違いなど、感じたことを発信し、その声を担任が丁寧につかんで保護者にも伝えている。給食のおすすめレシピを配付し、毎月の給食日よりでは、季節に応じた食材や献立や食にまつわるトピックスを保護者向けに発信している。子どもが食べている料理や量を展示食で見てもらい、子どもや保護者の関心を高め、食が身近なものになるように取り組んでいる。			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目7の講評 子どもが健康や安全に関心を持ち、自分自身の身を守れるように働きかけている 心身ともに健やかな子どもの成長を目指して、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、危険なことから身を守ることや、病気や怪我に対する意識を高められるよう、年齢に合わせた健康教育を計画的に実践している。生活や遊びの体験を通じ、健康について子どもがわかる言葉で伝えるよう心がけている。日々の保育の中では、散歩時の歩き方、信号の渡り方など、その時々に必要なことを伝え、安全への意識が持てるようにしている。職員は、緊急対応や嘔吐処理法などのマニュアルを手に取りやすい場所に置いて、速やかに対応できるよう常に備えている。 職員は専門知識を学び、適切な対応ができる体制を常に整えている 医療的ケアや医療的ケア児への対応については、区として対応の手順を確立している。職員は研修などで専門知識を学び、常に知識を更新し、支援の必要な子どもへの配慮や特性の理解を深めている。園のしおりでも感染症や健康管理や、保育中に発生した怪我や病気の場合に園ができる応急処置について明記している。薬については、区立保育園共通の対応として預からないことを原則とし、慢性疾患などのために薬の使用が必要な場合には保護者の代理として与薬することがあるため、個別の相談に応じている。 保護者と連携して、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 入園前の個人面接で個々の健康状況を把握し、日々健康状態を確認している。健康に関する情報は園内に掲示している。乳幼児突然死症候群(SIDS)については、保護者会やお知らせの配付などで周知を図っている。乳児のうつぶせ寝はさせないことを全員が意識し、午睡時のチェックを徹底している。感染症発生時には、全職員、保護者へ速やかに情報を提供し注意を喚起している。また、保健だよりでは、季節に応じた健康維持に関する情報を提供している。嘱託医には感染症や園児の健康に関する情報を共有し健康管理についてアドバイスをもらっている。	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当						
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当																	
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目8の講評 保護者の相談に丁寧に対応し、個々の事情に応じて必要な支援を行っている 保護者の就労や個々の事情を考慮し、全職員で共有し園ができる範囲で必要な支援を行っている。送迎時には、連絡事項だけでなく日中の活動の様子や日々の姿を伝え、開示日誌では活動の様子をわかりやすく記して子どもの姿を共有している。保護者会や個人面談では、家庭での姿を聞き取りながら、心配事や課題について一緒に考えている。保護者に寄り添い、日頃から声をかけ、連絡帳からも悩みや困りごとをキャッチできるように努め、相談時には当日答えたり、面談の日程を確保したりするなどできるだけ迅速な対応に努めている。 安心して子育てができるよう保護者同士の交流や職員との共通認識を深めている 保護者会では年間の保育計画をもとに子どもの発達、園の保育について説明し、共通認識を持てるようにしている。保護者会の中で、日常生活や遊びの様子を紹介し、子どもの成長や発達に共感できるよう、保育で大切にしているポイントなどを伝えている。各クラスで会の内容や持ち方を工夫して、保育者との交流だけでなく、保護者同士が懇談や交流ができる時間を設定している。自己紹介や保護者が共通して抱える問題について一緒に話し合う時間を設け、互いのコミュニケーションが深まるよう努めており、保護者の安心につながっている。 保護者が安心して子育てができるよう成長・発達を伝え、共通認識を図っている 保育参観や保育参加では、実際に子どもの様子や成長を感じてもらい、保育者の対応や言葉がけなどを通し保育の意図を知らせたり、関わりを見てもらったりすることで、保護者の養育力の向上を支援する役割もあると園では考えている。子どもの成長に見通しを持ち、楽しみや喜びを感じ共有してもらえるように保育を積極的に伝えている。タイムリーな情報や子育ての悩みは、クラスだよりや園だよりなども活用して共有している。引き続き、保護者の気持ちをくみ取り、心配事や悩みを一緒に考え、各家庭に寄り添った対応ができるようになっていく方針である。	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当																	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当																	

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域との連携からの取り組みが子どもの経験を広げる機会となっている 地域幼保小連携ネットワークにより、近隣の小学校と連携し学校行事の見学や、小学校体験を経験できる交流の機会があり、5歳児は就学への期待感を膨らませている。併設の児童館の行事に参加したり、ボランティアの読み聞かせサークルの方と定期的に触れ合ったりすることができている。防犯訓練や避難訓練では消防士と関わる機会がある。散歩で顔を合わせた近隣の方と自然に挨拶を交わす関係がある。園の職員以外の人々と触れ合い、人との関わりの中で社会とつながり、子どもの生活の幅を広げることに結びついている。 園庭開放など、地域の子どもと一緒に遊んだり交流したりする機会を確保している 中核園事業を通して地域とのつながりが広がっている。近隣の施設との交流や中核園の行事にも参加している。地域支援活動として毎月身体測定、育児相談など実施している。近隣の子育て世帯などへも参加を呼びかけている。また、中学校の職場体験などの受け入れを行い、園児との世代間交流が行われている。実際に触れ合うことで互いの「生きる力」の育成にもつながり、園児にとっても良い経験となっている。今後も、継続して地域との連携を深め、園ができることに取り組んでいく方針である。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが主体的に関わりながらやりたいことが実現できるよう必要な支援をしている	
内容①	子どもの発達に合わせ、より良い環境づくりに取り組んでいる。園庭環境は定期的に見直しを行い、危険箇所や遊具等の点検、確認をしている。室内遊具や玩具は、質の良い物を選び提供している。全職員が室内外の環境設定の大切さを理解して、園児の成長に関わっている。子どもの興味関心をキャッチしながら飼育物、栽培物を身近に感じられる環境を整えたり、手作り遊具や絵本の入れ替え、コーナー設定をしたり「もっと遊びたい」と思えるような保育環境の見直しを随時行い、子どもの生活や遊びが豊かに展開できる環境の提供をしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との信頼関係を深め、子どもの成長を共有する取り組みを行っている	
内容②	子どもの成長や子育てに見通しを持つことが、保護者の養育力を高めることにつながると考えている。入園時や年度当初の保護者会で園が大事にしている保育について伝え、クラスだよりや開示日誌等で、できるだけ活動の様子を具体的に知らせ成長発達に関する情報を積極的に発信し共有に努めている。支援が必要な家庭に対しては、多角的な視点を持ちながら様々な側面から丁寧にアプローチを行っている。保護者の思いを肯定的に受け止め、相談にはできる限り速やかに対応している。子どもが園生活を楽しむ姿を知らせ、安心安全と信頼につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	職員間の円滑なチームワークが保育の質と組織力の向上につながっている	
内容③	職員は同僚性があり、保育を語り合える風通しの良い雰囲気が職場全体に感じられる。情報共有が早く、職種を超えた職員同士の協力体制もスムーズで園全体で全クラスの子どもの成長を援助していくという意識が高い。普段から互いに言葉を交わし、気づきや声のかけ合いなどコミュニケーションを取り合い、共同作業などを通じ役割分担を明確にして職員のチームワークがより強まり、業務を効率的に進めることができている。一人ひとりの人間力の高まりが保育の質の向上につながり、保育の厳しい状況でも気持ち良く協力して助け合うことができている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育の向上を目指し、保育を語る時間を設け職員の保育力向上に取り組んでいる
	内容	保育の質の向上には、良好なコミュニケーションが取れる関係づくりが大切であると考え、毎月座談会を設けて自由なテーマで懇談を行い、また、各クラスで保育の振り返りができるように、毎月1回時間を設け「保育を語る」ことに取り組んできた。職員同士が、互いの良さを知り、自分の考えに自信を持って発信できるようになり、子どもについて話し合う時間が増えたことで、各々の気づき、振り返りなど保育力の向上にもつながった。日常的に会話が増え、職員間のつながりが深まり、話し合ったことを実践に移すことができている。
2	タイトル	良好な人間関係のもと、良い情報共有を行い保育に活かせるようにしている
	内容	保育に必要な情報の共有化のために少しでも改善の必要があれば、園長、各主査からの発信を、向上リーダーが主体となり実行に移している。日々の子どもや保護者の情報を全職員が漏れなく共有するために、園日誌や体制ボード等の見直しを行った。まずは、提案したことをやってみる。それが良ければすぐに取り入れ、改善が必要なら再考する等、伝える側も受け止める側も、柔軟な姿勢で取り組むことができる職場の雰囲気がある。全職員が何事も一生懸命に向き合い互いを支え合う人間関係がある。
3	タイトル	情報の管理、共有や適切な活用ができる職場環境づくりに努めている
	内容	職員一人ひとりが報・連・相・確認を意識し、情報や意見の伝達が漏れないようにと意識改革している。園長、各主査を含め向上リーダーも相談しやすい職場環境づくりを意識している。各々の取り組みや気づき、提案を互いに認め合い、改善してより良くなる職場の風土がある。会計年度任用職員への情報共有では、土曜日にクラスリーダーから都度、声をかけるようにしている。特に共有が必要な事項等は確実に伝え同じ対応ができるようにしている。また、個々の気づきや提案については、実現に結び付けられるよう皆で協力して取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの育ちを共有し保育を伝え、保護者との信頼関係をさらに深めていく
	内容	日頃より保護者とのコミュニケーションに努め、送迎時の声かけや掲示なども活用して保育の発信と共有を進めている。職員は保護者の話を傾聴し、必要に応じて面談時間設け、スピード感を持ち、迅速且つ丁寧な対応を心がけ子育て支援につなげている。子どもの健やかな成長を支え、保護者と共に育みながら子どもの成長を共有できるようにし、子どもが園生活から様々な学びを得ていることや、子どもの遊びや行事の取り組み等、活動の経緯やねらいの見える化を心がけ、引き続き園運営への理解を図る発信の工夫に取り組むことを課題と考えている。
2	タイトル	一人ひとりの発信力、受信力を向上して様々な事象を自分事として考える意識を高めていく
	内容	職員一人ひとりの保育実践力、保育を語る力を高め、互いの理解を深める取り組みを進めてきた。その経験から少しずつ他クラスや全体にも視野を広げ、声をかけ、助け合うことができる関係性が強固になっている。その現状に満足するのではなく、引き続き一人ひとりが、様々な場面で疑問や課題を「自分事」として考えられるようにする。自信を持ち、必要な行動が取れるようになることで職場の活性化にもつながっていく。気づきや疑問を自ら発信し、情報を受信する意識を高め合う職場風土を構築することを課題としている。
3	タイトル	地域のニーズに基づき、園としてできることを考え、地域貢献に取り組む
	内容	中核園事業の取り組みや近隣園との交流について職員の意識は高い。ふれあい保育も再開し、自園でできる地域の親子へ支援活動を積極的に進めている。地域における保育の専門機関として、近隣の他施設のニーズなどを上手く組み合わせ、職員の専門性や培ってきた園の機能を活かした支援を行う点については、さらに工夫できる余地があると園では考えている。地域の中核園と協力して区の保育の質の向上に向け、地域保育施設へ保育の還元等、子どもや職員と一緒に園ができる地域交流のあり方について考え、地域貢献を実践していくことを課題としている。

巻末 付属資料

付属資料1 事業プロフィール

付属資料2 組織マネジメント分析シート

付属資料3 サービス分析シート

付属資料4 職員アンケート

付属資料5 利用者調査

付属資料1 事業プロフィール

事業プロフィールⅠ

1 事業所名：

2 園長について

氏名：

園長歴：年目 当園での園長歴：年目

園長としての評価受審回数：回 副園長時代の評価受審回数：回
※当園に限らない

3 副園長について

氏名：

副園長歴：年目 当園での副園長歴：年目

副園長としての評価受審回数：回
※当園に限らない

氏名：

主任歴：年目 当園での主任歴：年目

主任としての評価受審回数：回
※当園に限らない

4 職員の状況

1 前年度3月当園からの異動・退職、今年度4月当園への赴任

	計	常勤	非常勤
異動・退職			
赴任			

2 常勤職員の平均年齢 歳

3 常勤職員の現在の園での平均在職年数 年 ※今年度からの方は「1年」とする

5 利用者の状況（保護者アンケート配布時点現在）

在園児の人数 人 世帯数 世帯

6 最寄りの駅： 駅からの所要時間：

事業プロフィールⅡ

1 理念・方針 ※報告書と共にインターネット上に公表されます※

→別紙

2 サービス提供の考え方について記述

日々の業務の考え方、利用者ニーズに合わせた事業者独自の取組、利用者や家族との関係、地域との関係を含む

--

3 期待する職員像（関連 カテゴリー５職員と組織の能力向上）
※報告書と共にインターネット上に公表されます※

→別紙（シート②）にて記入

4 現在のサービス提供能力と利用者数 (一つに○)

- 1) サービスを希望しながら待っている人（事業所に登録している待機者）がかなりいる
- 2) ほぼサービス提供能力に見合った利用者数で、待機者はほとんどいない（ほぼ定員を満たしている）
- 3) サービス提供能力に余力があり、希望者があれば受け入れたい

5 3年後の見通し（一つに○）

- 1) 施設規模の拡大または新たなサービス提供を行う計画がある
- 2) 現在の施設規模、サービス提供能力を維持する方向で考えている
- 3) 現在のサービス提供能力を維持するのは、経営改善・サービス改善をしていかないとかなり難しい情勢になっているのではないと思う
- 4) その他 ()

6-1 人的サービス面で、力を入れて取り組んでいる点

1)	
2)	
3)	

6-2 設備・環境面で、力を入れて取り組んでいる点

1)	
2)	
3)	

7 当該事業の開始時から現在までの重要な変遷（制度改正に基づくもの含む）

1)開始時期 年 月

2)重要な変遷

--

8 経営に影響を与えていると考えている事業環境の変化を記述（制度改正を含む）

--

- 9 評価対象としているサービス事業を維持・向上させていくためにこれから何をしていかなければならないかについて、重要な順に3つ以内で記述

1)

2)

3)

- 10 ○第三者評価を受けることや評価機関について
今回受けるにあたり、期待したいこと。

- 11 評価を実施するにあたり、評価機関に知っていて欲しいこと（経営層が考えていること、利用者の状況、職員の状況など）

※公表されます

入力の際は、文字の大きさやフォントは変更しないでください。

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割
	(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）

付属資料2 組織マネジメント分析シート

組織マネジメント分析シート 【経営層合議用】

・記入手順

・カテゴリー

1.リーダーシップと意思決定

2.事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

3. 経営における社会的責任

4.リスクマネジメント

5.職員と組織の能力向上

7.事業所の重要課題に対する組織的な活動

作成日 (完成日)	令和 年 月 日		
事業所名			
	(役職)	(氏名)	

記入手順

1 「評価項目」に対する事業所の取り組み状況を確認するために、「標準項目」の実施状況をチェックします。「標準項目」にはどんな事象が該当するのか、「評価項目」の「ねらい」を確認のうえ「カテゴリー」及び「サブカテゴリー」の趣旨から外れないように合議します。

2 「標準項目」に該当するあなたの事業所における実践例を「実践例」欄に、その取り組みの記録等にあたるものを「記録」欄にそれぞれ記入します。記録と実践例が同じである場合、「記録」欄は省略できます。

3 「標準項目」ができていると確認するための要件は、次の1、2、3をすべてを満たした場合です。

1. 事業者が当該事項を実施していること
2. その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
⇒「実践例」欄に記入する内容です。
3. その根拠が示せること
⇒「記録」欄に記入する内容です。

4 標準項目について確認した後、サブカテゴリーごとに「良い点」「改善点・課題点」を記述します。

5. カテゴリー7においては、前年度に行った、事業所の重要課題（サービス提供のプロセスに関するものも含む）に対する組織的な活動を記載します。

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題についての、前年度の目標設定、目標に対する取り組み、取り組みの結果を踏まえた今年度の事業活動への反映事項を記入します。

そして、前年度に事業所の重要課題に対する活動がPDCAサイクルに基づいて行われたかどうか、評価機関が客観的に判断し、①目標の設定と取り組み、②取り組みの検証、③検証結果の反映を評語を用いて評価します。

カテゴリー１ リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー１ 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

評価項目 １－１－１

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している

[ねらい]

- ・理念・ビジョン、基本方針を達成するためにそれを職員や利用者等の関係者がわかるように周知しているか
- ・それを職員の日頃の行動に結びつけるための取り組みを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		
2 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		

評価項目 １－１－２

経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

[ねらい]

- ・経営層は、理念等を実現するため、自らの役割と責任を職員にわかりやすく伝えているか
- ・経営層は、理念等を実現するために、方向性を示しリーダーシップを発揮しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている		
2 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している		

評価項目 1-1-3

重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

- [ねらい]・重要な案件については、組織として決定する手順をあらかじめ定めているか
・職員や利用者等に意思決定過程の透明性を図っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		
2 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		
3 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		

カテゴリー1 について リーダーシップと意思決定

【良い点】 重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】 今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー 2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー 1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評価項目 2-1-1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

[ねらい]

・利用者や職員の意向、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向、事業所の経営状況などを、様々な機会をとらえて積極的に把握・検討し、対応すべき課題を抽出しているか

	標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
2	事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
3	地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
4	福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
5	事業所の経営状況を把握・検討している		
6	把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		

サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる

評価項目 2-2-1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

[ねらい]

- ・事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた事業計画や予算が策定されているか
- ・その計画や予算は現場や利用者の意向、地域福祉のニーズや事業所の課題等を踏まえたものとなっているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
2 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
3 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		

評価項目 2-2-2

着実な計画の実行に取り組んでいる

[ねらい]

・策定した計画に基づいて、進捗状況に応じ見直しを行いながら、目標達成に向けて取り組んでいるか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
¹ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
² 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

カテゴリ2 について 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

【良い点】 重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】 今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目 3-1-1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

[ねらい]

・事業所が社会的な役割を果たすために、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを、職員に対して周知・徹底しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		
2 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		

サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

評価項目 3-2-1

利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

[ねらい]

・事業所内外の苦情解決制度や相談窓口を機能させるとともに、様々な機会をとらえて利用者の意向を把握し、組織全体で迅速に対応する体制を整えているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
2 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		

評価項目 3-2-2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

[ねらい]・虐待の防止と早期発見、早期対応を行う体制を、組織として整えているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
2 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		

サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目 3-3-1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

[ねらい]・地域社会への情報開示などにより透明性を高め、地域社会に開かれた組織となつて、地域との関係づくりに取り組んでいるか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
2 ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		

評価項目 3-3-2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

[ねらい]・事業所が有している機能や福祉の専門性を活かしながら、関係機関と連携して地域の一員としての役割を果たすための取り組みを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
2 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
3 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

カテゴリー3 について 経営における社会的責任

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

評価項目 4-1-1

事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

[ねらい]

・事業所が目指していることの実現を阻害するリスクを洗い出し、必要なリスクマネジメントの対策をとっているか

	標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		

サブカテゴリ2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評価項目 4-2-1

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

[ねらい]

- ・事業所に必要な情報を適切に収集、整理した上で、組織的に管理・保護し、活用を図っているか
- ・事業所で扱っている個人情報の取り扱いについて、規程・体制を整備し、必要な対策を講じているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
2 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
3 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
4 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		

カテゴリ4 について リスクマネジメント

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリー 5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

評価項目 5-1-1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

[ねらい]・理念・ビジョン、基本方針の実現に必要な人材確保や配置を行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
2 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		

評価項目 5-1-2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

[ねらい]

- ・事業所として求める人材像を具体的に定め、それに基づくキャリアパスを職員へ周知しているか
- ・事業所のキャリアパスと事業所の人材育成計画が整合しており、職員のキャリアアップを支援しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
2 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		

評価項目 5-1-3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

[ねらい]

- ・事業所が目指していることの実現に適した人材の育成に向けて、個人の意向、理解度、到達状況、就業状況に合わせ、きめ細かい指導を行っているか
- ・指導者の支援に取り組んでいるか

	標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		

評価項目 5-1-4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

[ねらい]・職員の定着により組織力を発揮するために、事業所として職員の意識を把握して、意欲向上に向けた働きかけを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
2 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
3 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
4 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		

サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる

評価項目 5-2-1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

[ねらい]・組織力の向上に向け、職員一人ひとりの学びや気づきの共有化を図るなど、チーム力を発揮できるようどのように取り組んでいるか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
2 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
3 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

カテゴリー5 について 職員と組織の能力向上

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

カテゴリ7 事業所の重要課題に対する組織的な活動 ※前年度の取り組みについて記述する
①前年度の事業計画における目標設定、②前年度の取り組み、③前年度の取り組みの総括（前年度の事業報告）、④今年度の事業計画への反映

サブカテゴリ1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目 1

・事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、**前年度**具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

【課題・目標】

事業所の理念・基本方針の実現を図るための**重要課題**（事業計画に掲げた事項等）、そしてその**課題に対して前年度に設定した目標**を記載します。（重要課題の中で、**前年度中に**達成すべきとしていた短期的な目標を記載する。）

①

○上記の課題を抽出した理由・背景

【取り組み】

上記の目標を達成するために、**前年度**に行った具体的な取り組み（体制・期間・内容等）を記載します。

②

【取り組みの結果】

前年度末までの取り組みの状況や目標達成の度合いを具体的に記載します。

③

【振り返り(検証)・今後の方向性】

【取り組みの結果】について検証した内容と、どのように**今年度**の目標設定や取り組みに反映したかを記載します。

④

評価項目 2

・事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、**前年度**具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

【課題・目標】

事業所の理念・基本方針の実現を図るための**重要課題**（事業計画に掲げた事項等）、そしてその**課題**に対して**前年度**に設定した**目標**を記載します。（重要課題の中で、**前年度中に**達成すべきとしていた短期的な目標を記載する。）

①

○上記の課題を抽出した理由・背景

【取り組み】

上記の目標を達成するために、**前年度**に行った具体的な取り組み（体制・期間・内容等）を記載します。

②

【取り組みの結果】

前年度末までの取り組みの状況や目標達成の度合いを具体的に記載します。

③

【振り返り(検証)・今後の方向性】

【取り組みの結果】について検証した内容と、どのように**今年度**の目標設定や取り組みに反映したかを記載します。

④

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと①

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと②

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと①

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと②

付属資料3 サービス分析シート

サ ー ビ ス 分 析 シ ー ト

（6. サービス提供のプロセス）

ー認可保育所ー

【経営層合議用】

- ・ 記入手順
- ・ カテゴリー

6. サービス提供のプロセス

サブカテゴリー1 サービス情報の提供

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー4 サービスの実施

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

総括

作成日 (完成日)	令和 年 月 日		
事業所名			
	(役職)	(氏名)	

記入手順

1 評価項目に対する事業所の取り組み状況を確認するために、「標準項目」の実施状況をチェックします。「標準項目」にはどんな事象が該当するのか、「評価項目」の〔ねらい〕を確認のうえ「カテゴリー」及び「サブカテゴリー」の趣旨から外れないように合議します。

2 「標準項目」に該当するあなたの事業所における実践例を「実践例」欄に、その取り組みの記録等にあたるものを「記録」欄にそれぞれ記入します。記録と実践例が同じである場合、「記録」欄は省略できます。

※実践例が思い当たらない場合（取り組みが行われていないと思う場合）、「今後どのようにしたいか」を記入します。

3 「標準項目」ができていると確認するための要件は、次の1、2、3をすべてを満たした場合です。

1. 事業者が当該事項を実施していること
2. その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
⇒「実践例」欄に記入する内容です。
3. その根拠が示せること
⇒「記録」欄に記入する内容です。

4 標準項目について確認した後、サブカテゴリーごとに「良い点」「改善したい点」を記述します。

※サブカテゴリー4「サービスの実施」は、評価項目ごとに記述します。

⇒「良い点」

重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと など

⇒「改善点・課題点」

今後力を入れて取り組んでいきたいこと など

5 最後に、全体の総括を記入します。

ここに記述された良い点や課題点、訪問調査での成果が、報告書に記載される「良い点」「改善点」の参考情報となります。

カテゴリー6 サービス提供のプロセス

サブカテゴリー1 サービス情報の提供

※在園時保護者ではなく、潜在的な利用者に向けた情報提供

評価項目 6-1-1

利用希望者等に対してサービスの情報を提供している

- [ねらい] ・サービスを選択するための情報が、利用者に届くように工夫して提供しているか
・パンフレットやホームページ等の存在のみを評価するものではない

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
2 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		
3 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
4 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		

サブカテゴリー1 サービス情報の提供 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目 6-2-1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

- [ねらい] ・サービス開始時に、保護者の状況に応じたサービス内容の説明をしているか
 ・十分な説明をしたうえで、保護者の意向を確認し、納得を得ているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
2 サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
3 サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		

評価項目 6-2-2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

- [ねらい] ・サービス開始時の環境変化による影響を緩和する取り組みをしているか
・子どもがサービスを終了する場合、子どもや保護者の不安を軽減するための取り組みをしているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
2 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
3 サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
-----------------------------------	-----------------------------

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定

評価項目 6-3-1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

- [ねらい] ・保育をするうえで必要な子ども個人の情報をどのように把握しているか
・子どもの状況に応じたアセスメントの手順や改訂基準が確立しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
2 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
3 アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		

評価項目 6-3-2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

[ねらい]

- ・全体的な計画や子どもの実態、子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)をどのように取り入れ、指導計画を作成しているか
- ・個別的な計画を作成するしくみがあり、子どもの状況に応じて作成、見直しをしているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
2 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている		
3 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
4 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
5 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている		

評価項目 6-3-3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

- [ねらい] ・職員が、子どもの状況の変化等をどのように記録しているか
・具体的な保育内容や子どもの変化等が適切に記録されているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
¹ 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載する しくみがある		
² 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果 子どもの状態がどのように推移したのかについて 具体的に記録している		

評価項目 6-3-4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

- [ねらい] ・子どもに関わる情報を職員間でどのように共有化しているか
・日々の子どもの変化等をどのような方策で共有化しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		
2 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		
3 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
-----------------------------------	-----------------------------

サブカテゴリー4 サービスの実施

評価項目 6-4-1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

- [ねらい] ・一人ひとりの子どもの発達の過程をどのように把握しているか
・集団での生活の中で子ども一人ひとりを尊重した援助をしているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		
2 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		
3 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		
4 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		
5 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		

	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 6 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		
--	---	--	--

評価項目 6-4-1 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
--	------------------------------------

評価項目 6-4-2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

- [ねらい] ・子どもの生活の連続性に配慮した保育を行っているか
・子どもの状態を保護者と保育所で共有することができているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		
2 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		
3 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		
4 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		

評価項目 6-4-2 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
-----------------------------------	-----------------------------

評価項目 6-4-3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

- [ねらい] ・子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう、環境や取り組みにどのような工夫をしているか
・教育の5領域に即した取り組みを、子どもの年齢や発達の状態に応じて行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		
2 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		
3 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		
4 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		
5 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		

生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに ⁶ 気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられる よう、配慮している		
---	--	--

評価項目 6-4-3 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
--	------------------------------------

評価項目 6-4-4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

- [ねらい] ・子どもが興味を持ち、協力して進められる行事をどのように実施しているか
・行事の実施に対する保育所の考え・目的は何か

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
¹ 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		
² みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		
³ 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		

評価項目 6-4-4 について

【良い点】 重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】 今後力を入れて取り組んでいきたいこと
---	-------------------------------------

評価項目 6-4-5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

「ねらい」・保育時間の長い子どもがくつろげるような工夫をしているか

・保育時間が長くなることにより保育形態や担当職員が変わっても、子どもが楽しく過ごせるようにしているか

	標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		
2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		

評価項目 6-4-5 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

- [ねらい] ・年齢等にあった調理方法や食習慣に応じた食事を提供しているか
・食育の推進にむけた取り組みを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		
2 メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		
3 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		
4 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		
5 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		

評価項目 6-4-6 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
-----------------------------------	-----------------------------

評価項目 6-4-7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

- [ねらい] ・子どもを病気や怪我から守る取り組みを行っているか
・専門機関や保護者との連携をどのように行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		
2 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		
3 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		

評価項目 6-4-7 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
-----------------------------------	-----------------------------

評価項目 6-4-8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

- [ねらい] ・保護者の個々の事情に応じた子育て支援を行っているか
・園で実施する保育活動に対し、保護者の理解や参加を促しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		
2 保護者同士が交流できる機会を設けている		
3 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		
4 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		
5 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		

評価項目 6-4-8 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと

【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

評価項目 6-4-9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

- [ねらい] ・子どもの生活の幅を広げる視点から、地域とのかかわりをどのように考えているか
 ・子どもが地域とかかわる機会をどのように設けているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		
2 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		

評価項目 6-4-9 について

【良い点】 重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】 今後力を入れて取り組んでいきたいこと
---	-------------------------------------

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目 6-5-1

子どものプライバシー保護を徹底している

- [ねらい] ・日常の中で、どのように子どものプライバシーの保護をしているのか
 ・組織としての規定やしぐみに則って行動しており、属人的な対応になっていないか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする 必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		
2 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		

評価項目 6-5-2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

- [ねらい] ・サービス提供の中で、子どもの権利を擁護し、意思を尊重しているか
・子どもと保護者の価値観等を考慮し、その人らしい生活を尊重しているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
2 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
3 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと
-----------------------------------	-----------------------------

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

評価項目 6-6-1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

- [ねらい] ・業務の一定水準を確保するための手引書等を整備し、実施しているか
・業務の標準化は、対人援助の単純化や画一化をめざすものではない

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
2 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
3 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		

評価項目 6-6-2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

- [ねらい] ・業務の標準レベルを見直す仕組みを確立しているか
・よりよいサービスをめざし、職員や保護者等の意見を反映して見直しを行っているか

標準項目	私たちの実践例	その実践の記録等
1 提供しているサービスの基本事項や手順等は 変の時期や見直しの基準が定められている		
2 提供しているサービスの基本事項や手順等の見 直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提 案、子どもの様子を反映するようにしている		

サブカテゴリ6 事業所業務の標準化 について

【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと	【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと

良い点・課題点について

- ①事業所の良い点や課題点について、最大3点まで記述する。
 ②ここに記述された良い点や課題点、訪問調査での成果が、報告書に記載される「良い点」「改善点」の参考情報となる。

保育面から見た、事業所の

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと①

--

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと②

--

○【良い点】重視していること、工夫していること、その他良いと思うこと③

--

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと①

--

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと②

--

●【改善点・課題点】今後力を入れて取り組んでいきたいこと③

--

付属資料4 職員アンケート

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

1-1-1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している

ア	①事業所は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない

1-1-2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

ア	①事業所では、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、経営層が自らの役割と責任を職員に伝えている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、経営層の役割と責任を理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所では、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、経営層が自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	そう思う	そう思わない	分からない

1-1-3 重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

ア	事業所では、重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	①事業所では、経営層が重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	②私は、経営層から、重要な意思決定に関して、その内容と決定経緯を知らされている	そう思う	そう思わない	分からない

エ	事業所では、利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	そう思う	そう思わない	分からない
---	---	------	--------	-------

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

2-1-1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

ア	事業所は、利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	事業所は、福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	そう思う	そう思わない	分からない
オ	事業所は、事業所の経営状況を把握・検討している	そう思う	そう思わない	分からない
カ	事業所は、把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる

2-2-1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

ア	事業所は、課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、策定している計画に合わせた予算編成を行っている	そう思う	そう思わない	分からない

2-2-2 着実な計画の実行に取り組んでいる

ア	事業所は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリー3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

3-1-1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

ア	①事業所は、全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	そう思う	そう思わない	分からない

エ	②私は、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを遵守している	そう思う	そう思わない	分からない
---	------------------------------------	------	--------	-------

サブカテゴリー2

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

3-2-1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

ア	事業所は、苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所には、利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	そう思う	そう思わない	分からない

3-2-2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

ア	事業所は、利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

3-3-1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

ア	事業所は、透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	そう思う	そう思わない	分からない

3-3-2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

ア	事業所は、地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリ４ リスクマネジメント

サブカテゴリ１ リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

4-1-1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

ア	事業所は、事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	①事業所は、リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
オ	②私は、リスクに対する必要な対策や事業継続計画について理解できており、自分の役割に応じて対応できる	そう思う	そう思わない	分からない
カ	事業所は、事故、感染症、侵入、災害などが発生した時は、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

4-1-2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

ア	①事業所は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを理解し遵守している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	事業所は、情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	そう思う	そう思わない	分からない
オ	事業所は、事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	そう思う	そう思わない	分からない

カテゴリー5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

5-1-1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

ア	事業所は、事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

5-1-2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

ア	①事業所では、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私は、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）を理解できている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所は、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない

5-1-3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

ア	①事業所は、勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私には、事業所から様々な研修等の機会が与えられている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私の育成（研修）計画は、私の意向や経験等に基づいて策定されている	そう思う	そう思わない	分からない
オ	①事業所は、職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	そう思う	そう思わない	分からない
カ	②私の育成（研修）計画には、事業所が私の育成の成果を確認した内容が反映されている	そう思う	そう思わない	分からない

キ	事業所では、指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	そう思う	そう思わない	分からない
---	--	------	--------	-------

5-1-4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

ア	事業所は、事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	そう思う	そう思わない	分からない
イ	事業所は、就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私はこの事業所の仕事について、意欲と働きがいを持つことができている	そう思う	そう思わない	分からない
オ	①事業所は、職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	分からない
カ	②私の職場では、良好な人間関係が構築されている	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる

5-2-1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

ア	①事業所は、職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	②私が学んだ研修内容は、レポートや発表等で報告し、職員間で共有化している	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	①事業所は、職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	そう思う	そう思わない	分からない
エ	②私の日頃の気づきや工夫について、他の職員と互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす機会がある	そう思う	そう思わない	分からない
オ	事業所は、目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー１ サービス情報の提供

6-1-1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している

ア	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	そう思う	そう思わない	分からない
イ	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	そう思う	そう思わない	分からない
ウ	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	そう思う	そう思わない	分からない
エ	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	そう思う	そう思わない	分からない

サブカテゴリー２ サービスの開始・終了時の対応

6-2-1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

ア	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	そう思う	そう思わない	わからない

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

ア	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー 3 個別状況に応じた計画策定・記録

6-3-1 定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

ア	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	そう思う	そう思わない	わからない

6-3-2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

ア	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない
エ	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	そう思う	そう思わない	わからない
オ	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、たうえで、必要に応じて見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない

6-3-3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

ア	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	そう思う	そう思わない	わからない
イ	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	そう思う	そう思わない	わからない

6-3-4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

ア	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー４ サービスの実施

6-4-1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

ア	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	そう思う	そう思わない	わからない
オ	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつきの等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	そう思う	そう思わない	わからない
カ	【５歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

ア	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

ア	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	そう思う	そう思わない	わからない
オ	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	そう思う	そう思わない	わからない
カ	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

ア	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

ア	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

ア	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	そう思う	そう思わない	わからない
エ	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
オ	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

ア	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

ア	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	保護者同士が交流できる機会を設けている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	そう思う	そう思わない	わからない
エ	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	そう思う	そう思わない	わからない
オ	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	そう思う	そう思わない	わからない

6-4-9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

ア	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

6-5-1 子どものプライバシー保護を徹底している

ア	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	そう思う	そう思わない	わからない

6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

ア	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	そう思う	そう思わない	わからない
イ	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	そう思う	そう思わない	わからない

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

6-6-1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

ア	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	そう思う	そう思わない	わからない
ウ	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	そう思う	そう思わない	わからない

6-6-2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

ア	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	そう思う	そう思わない	わからない
イ	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	そう思う	そう思わない	わからない

○あなたの働く事業所が行った前年度の取り組みにより、良くなったと思う点は、どんなことがありますか。

1

○良い点・強み（これまでの取り組みを振り返ってみて）
あなたの働く事業所の良い点は、どんなところですか。

2

・【良い点・強み】組織の理念や方針、運営や人材育成の仕組みなどの運営面

3

・【良い点・強み】現場での援助・教育・保育の面

4

・【良い点・強み】地域との関係面

5

・【良い点・強み】働く場として

○今後に向けた取り組み

①【課題点】より良い事業所にしていくために、組織の一員として、あなたができること、やるべきだと思うこと、やりたいと思うことは、どんなことですか。

6

②【課題点】より良い事業所にしていくために、組織（法人・事業所）としてできること、組織（法人・事業所）としてやってほしいことは、どんなことですか。

7

事業所名：

付属資料5 利用者調査

園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っている

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっている

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっている

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されている

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれている

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

安全対策が十分取られている

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされている

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて、職員と話したり相談することができるような信頼関係がある

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

園内は清潔で整理された空間になっている

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

職員の言葉遣いや態度、服装などは適切である

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できる

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できる

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれている

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれている

☐ はい

☐ どちらともいえない

☐ いいえ

☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすい

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれている

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

困ったときに役所や第三者委員などにも相談できることを、職員はわかりやすく伝えてくれた（入園時の説明など）

- ☐ はい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ いいえ
- ☐ 非該当

自由意見

0 / 5000

当園を総合的にみて、どのように感じていますか

- ☐ 満足
- ☐ まあまあ満足
- ☐ どちらともいえない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

【良い点について】当園で良かったと思える点、嬉しかった出来事などについて、ご自由にお書き下さい

0 / 5000

【ご期待・ご要望について】今後も当園を利用するにあたり、期待したいことなどについて、ご自由にお書き下さい

送信

0 / 5000

保護者の方とお子さんについて①：調査票記入者

- ☐ 父
- ☐ 母
- ☐ 父母一緒に
- ☐ その他（具体的にご記入ください）

保護者の方とお子さんについて②：調査票記入者の年齢（主に中心になって回答した方）

- ☐ 20歳未満
- ☐ 20～25歳未満
- ☐ 25～30歳未満
- ☐ 30～35歳未
- ☐ 35～40歳未満
- ☐ 40～50歳未満
- ☐ 50歳以上

保護者の方とお子さんについて③：保護者の勤務形態 ①父

- ☐ 常勤（フルタイム
- ☐ パート、アルバイト
- ☐ 自営業
- ☐ 無職
- ☐ その他（具体的にご記入ください）

保護者の方とお子さんについて③：保護者の勤務形態 ②母

- ☐ 常勤（フルタイム
- ☐ パート、アルバイト
- ☐ 自営業
- ☐ 無職
- ☐ その他（具体的にご記入ください）

保護者の方とお子さんについて③：保護者の勤務形態 ③その他の保護者(主にお迎えに行かれる方)

- ☐ 常勤（フルタイム
- ☐ パート、アルバイト
- ☐ 自営業
- ☐ 無職
- ☐ その他（具体的にご記入ください）

最後に保護者の方とお子さんについて④：お子さんが通うクラス（複数のお子さんがいらっしゃる場合は、該当するすべてを選択）

- ☐ 0歳児クラス
- ☐ 1歳児クラス
- ☐ 2歳児クラス
- ☐ 3歳児クラス
- ☐ 4歳児クラス
- ☐ 5歳児クラス

今回の調査についてお気づきになった点など、ご自由にお書き下さい

0 / 5000

ありがとうございました。

回答を終えましたら、送信ボタンを教えてください。

令和6年度
保育園サービス第三者評価事業
報告書

登録印刷物番号

06-0068

編集・発行
杉並区子ども家庭部保育課
〒166-8570
東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号
電話:03-3312-2111(代表)

調査・評価機関 株式会社ほんの福祉ネット
(東京都福祉サービス第三者評価機関 認証番号06-168)
〒156-0043
東京都世田谷区松原3丁目38番16-107号
電話:03-6379-5156

☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp>